

2013 Syllabus

情報メディア学科

理工学部

Faculty of Science and Technology

学部・学科英文名

龍 谷 大 学	Ryukoku University
理 工 学 部	Faculty of Science and Technology
数理情報学科	Department of Applied Mathematics and Informatics
電子情報学科	Department of Electronics and Informatics
機械システム工学科	Department of Mechanical and Systems Engineering
物 質 化 学 科	Department of Materials Chemistry
情報メディア学科	Department of Media Informatics
環境ソリューション工学科	Department of Environmental Solution Technology

2013年度
理工学部 情報メディア学科 Syllabus

2013年4月1日発行

編集発行 龍谷大学理工学部

〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5

印 刷 アインズ株式会社

シラバス

教養教育科目
(共同開講科目)
(基礎科目)

教養教育科目
(共同開講科目)
(総合科目)

学部内共通科目

学科固有科目
＜情報メディア学科＞

教職課程科目

本願寺派教師資格課程科目

博物館学芸員課程科目

基
礎
科
目
講
義
教
養
教
育
科
目

総
合
科
目
講
義
教
養
教
育
科
目

学
部
内
共
通

学
科
固
有

教
職
課
程

教
本
師
願
寺
派
課
程

学
博
芸
員
物
館
課
程

最新の情報や、詳細情報は Web シラバスをご確認ください。

教養教育科目(共同開講科目)

(基礎科目)

カナ	科目名	担当者	開講曜講時	ページ	カナ	科目名	担当者	開講曜講時	ページ
エ	英語ⅠA	クラス・開講曜講時による		5	チ	中国語ⅠA	韓 正愛	前期 水3	41
	英語ⅠB	クラス・開講曜講時による		5		中国語ⅠB	張 健同	後期 月1	41
	英語ⅡA	クラス・開講曜講時による		6		中国語ⅠB	韓 正愛	後期 水3	42
	英語ⅡB	クラス・開講曜講時による		6		中国語ⅠC	張 健同	前期 水3	42
	英語Ⅲ	クラス・開講曜講時による		7		中国語ⅠC	韓 正愛	前期 水4	43
	英語Ⅳ	クラス・開講曜講時による		7		中国語ⅠC	張 健同	前期 水4	43
	英語セミナーA1	宇野 誠一	前期 月1	8		中国語ⅠD	張 健同	後期 水3	44
	英語セミナーA1	宇野 誠一	前期 月2	8		中国語ⅠD	韓 正愛	後期 水4	44
	英語セミナーA1	ワード ジョン	前期 水3	9		中国語ⅠD	張 健同	後期 水4	45
	英語セミナーA1	ワード ジョン	前期 金5	9		中国語セミナーA	李 愛華	前期 水3	45
	英語セミナーA2	宇野 誠一	後期 月1	10		中国語セミナーB	李 愛華	後期 水3	46
	英語セミナーA2	宇野 誠一	後期 月2	10	テ	哲学入門	渡邊 華月	前期 月3	46
	英語セミナーA2	ワード ジョン	後期 水3	11		哲学入門	渡邊 華月	後期 月3	47
	英語セミナーA2	ワード ジョン	後期 金5	11		哲学入門	渡邊 華月	前期 水3	47
	英語セミナーB1	五十嵐 海理	前期 金2	12		哲学入門	渡邊 華月	後期 水3	48
	英語セミナーB2	五十嵐 海理	後期 金2	13	ド	ドイツ語ⅠA	青山 豊	前期 月2	48
	英語セミナーC1	音羽 レベッカ	前期 水2	14		ドイツ語ⅠA	呉 春吉	前期 月3	49
	英語セミナーC1	ワード ジョン	前期 水2	14		ドイツ語ⅠB	青山 豊	後期 月2	49
	英語セミナーC1	音羽 レベッカ	前期 水3	15		ドイツ語ⅠB	呉 春吉	後期 月3	50
	英語セミナーC1	イエニク・S・C	前期 金2	15		ドイツ語ⅠC	青山 豊	前期 月3	50
	英語セミナーC2	音羽 レベッカ	後期 水2	16		ドイツ語ⅠC	永井 達夫	前期 水3	51
	英語セミナーC2	ワード ジョン	後期 水2	16		ドイツ語ⅠD	青山 豊	後期 月3	51
	英語セミナーC2	音羽 レベッカ	後期 水3	17		ドイツ語ⅠD	永井 達夫	後期 水3	52
	英語セミナーC2	イエニク・S・C	後期 水3	17		ドイツ語セミナーA	青山 豊	前期 月4	52
	英語セミナーD1	大槻 志郎	前期 水2	18		ドイツ語セミナーB	青山 豊	後期 月4	53
キ	英語セミナーD2	大槻 志郎	後期 水2	19		統計入門	李 復屏	前期 月1	53
	英語セミナーE1	里井 久輝	前期 水3	20		統計入門	長命 洋佑	後期 金5	54
	英語セミナーE2	里井 久輝	後期 水3	20	ニ	日本国憲法	時本 義昭	前期 水3	55
	教育原論A	藤井 奈津子	前期 月1	21		日本国憲法	時本 義昭	後期 月1	55
	教育原論A	広川 義哲	前期 月2	21		日本国憲法	時本 義昭	後期 月3	56
	教育原論B	大野 僚	後期 月1	22		日本国憲法	時本 義昭	後期 水3	56
ケ	教育原論B	広川 義哲	後期 月2	22	ハ	発達と教育A	松島 恵介	前期 水1	57
	経済学入門	藤田 和孝	前期 水4	23		発達と教育A	松島 恵介	前期 水2	57
	経済学入門	長命 洋佑	前期 金5	24		発達と教育B	松島 恵介	後期 水1	58
	経済学入門	李 復屏	後期 月1	25		発達と教育B	松島 恵介	後期 水2	58
	経済学入門	李 復屏	後期 月3	25	フ	仏教の思想A	佐々木 大悟	前期 火2	62
	言語学入門	泉 文明	前期 月2	26		仏教の思想A	北岑 大至	前期 火2	62
コ	言語学入門	磯江 源	前期 水3	26		仏教の思想B	佐々木 大悟	後期 火2	64
	コリア語ⅠA	孫 才喜	前期 水3	27		仏教の思想B	北岑 大至	後期 火2	64
	コリア語ⅠB	孫 才喜	後期 水3	27		フランス語ⅠA	佐々木 香理	前期 水3	65
	コリア語ⅠC	朴 炫国	前期 水3	28		フランス語ⅠB	瓜生 濃世	後期 水3	65
	コリア語ⅠD	朴 炫国	後期 水3	28		フランス語ⅠC	森部 卓	前期 月2	66
	コリア語セミナーA	柳 綏美	前期 水3	29		フランス語ⅠC	嶋崎 陽一	前期 月3	66
	コリア語セミナーB	柳 綏美	後期 水3	29		フランス語ⅠC	森部 卓	前期 水3	67
シ	社会学入門	渡辺 めぐみ	前期 水3	30		フランス語ⅠD	森部 卓	後期 月2	67
	社会学入門	渡辺 めぐみ	後期 水3	30		フランス語ⅠD	嶋崎 陽一	後期 月3	68
	社会思想史入門	村澤 真保呂	前期 水2	31		フランス語ⅠD	森部 卓	後期 水3	68
	社会思想史入門	森 元斎	後期 水2	31		フランス語セミナーA	嶋崎 陽一	前期 水4	69
	心理学入門	松島 恵介	前期 月1	32		フランス語セミナーB	嶋崎 陽一	後期 水4	69
	心理学入門	松島 恵介	後期 月1	32		文学入門	大槻 志郎	前期 水3	70
	心理学入門	破田野 智美	前期 月1	33		文学入門	嶋崎 陽一	前期 水3	71
ス	スポーツ技術学A	種目・開講曜講時による	学科により異なる	33		文学入門	坂本 輝世	後期 水4	71
	スポーツ技術学B	種目・開講曜講時による	学科により異なる	34		文学入門	嶋崎 陽一	後期 水3	72
セ	生活の中の化学	中沖 隆彦/糟野 潤	後期 水3	34	ホ	法学入門	時本 義昭	前期 月1	72
	生活の中の数学	國府 宏枝/山岸 義和	前期 水3	35		法学入門	時本 義昭	前期 月3	73
	生活の中の統計技術	樋口 三郎	後期 水3	35	リ	倫理学入門	菊地 建至	前期 水3	74
	生活の中の統計技術	香川 文庸	前期 水3	36		倫理学入門	菊地 建至	後期 水5	75
	生活の中の物理	石崎 俊雄	後期 月2	37	レ	歴史入門	西村 昌洋	前期 水3	76
	政治学入門	山崎 充彦	前期 水3	38		歴史入門	佐野 東生	後期 金2	76
	政治学入門	山崎 充彦	後期 水3	39	ロ	論理学入門	中谷 隆雄	前期 月3	77
	生命と科学	宮武 智弘	前期 金1	40		論理学入門	中谷 隆雄	後期 月3	77
チ	中国語ⅠA	張 健同	前期 月1	40					

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト

担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

【担当】 クラス・開講曜講時による

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト

担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎力をもとに四技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文など）を習得する。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとる。授業によってはCALL教室を使って語学ソフトやインターネットなどを利用することもある。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト

担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

【担当】 クラス・開講曜講時による

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎力をもとに四技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文など）を習得する。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとり、授業によっては、CALL教室を使って語学ソフトやインターネットなどを利用することもある。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。
学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み
入れる。

■テキスト

担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

配布された『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配布予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

■サブタイトル

TOEIC対策セミナー

■講義概要

この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。

■到達目標

1年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。

■講義方法

毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。
TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎週授業でおこなったUnitの復習をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (70%) Participationが含まれる
定期試験 (30%) 最終授業日に行う (In Class Test)

■テキスト

Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝
日出版 2,000円

参考文献

宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかには負けるな』
化学同人 2,200円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②Text 1
- ③Text 2
- ④Text 3
- ⑤Text 4
- ⑥Text 5
- ⑦Text 6
- ⑧Text 7
- ⑨Text 8
- ⑩Text 9
- ⑪Text 10
- ⑫Text 11
- ⑬Text 12
- ⑭In class Final Exam
- ⑮Feedback

英語セミナーA 1

【担当】 宇野 誠一
【開講】 前期 月2

■サブタイトル

TOEIC対策セミナー

■講義概要

この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。

■到達目標

1年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。

■講義方法

毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。
TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎週授業でおこなったUnitの復習をすること。

■成績評価の方法

平常点 (70%) Participationが含まれる
定期試験 (30%) 最終授業日に行う (In Class Test)

■テキスト

Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝
日出版 2,000円

参考文献

宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかには負けるな』
化学同人 2,200円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②Text 1
- ③Text 2
- ④Text 3
- ⑤Text 4
- ⑥Text 5
- ⑦Text 6
- ⑧Text 7
- ⑨Text 8
- ⑩Text 9
- ⑪Text 10
- ⑫Text 11
- ⑬Text 12
- ⑭In class Final Exam
- ⑮Feedback

英語セミナーA 1

【担当】ワード ジョン

【開講】前期 水3

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies.

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%) Class Performance

小テスト (25%) Small Test

その他 (25%) Homework

Vocabulary Notebook

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』 ETS TOEIC

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

特になし

■講義計画

- ①Introduction to TOEIC
- ②Describing Photographs
- ③Tactics: Aspects of Photos
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound-alike Words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Sound/Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Conversations
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

英語セミナーA 1

【担当】ワード ジョン

【開講】前期 金5

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies.

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%) Active Participation

小テスト (25%) Results

その他 (25%) Homework

Vocabulary Notebook

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』 ETS TOEIC

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①Introduction to TOEIC
- ②Describing Photographs
- ③Aspects of pictures
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound-alike Words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Sound/Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Conversations
- ⑬Incomplete Questions
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

英語セミナーA2

【担当】ワード ジョン

【開講】後期 水3

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies.

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and give them the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%) Active Participation

小テスト (25%) Results

その他 (25%) Homework

Vocabulary Notebook

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』 ETS TOEIC

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①Intro to TOEIC
- ②Describing Photographs
- ③Aspects of Photographs
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound-alike Words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Sound/Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Conversations
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

英語セミナーA2

【担当】ワード ジョン

【開講】後期 金5

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies.

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1=4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from "The Language Connection" section of the Yomiuri Newspaper to read, and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%) Class Performance

小テスト (25%) Small Test

その他 (25%) Homework

Vocabulary Notebook

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』 ETS TOEIC

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①Introduction to TOEIC
- ②Describing Photographs
- ③Aspects of Photos
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound-alike Words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Sound Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Questions
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

■サブタイトル

時事英語

■講義概要

時事英語とは、マスコミの英語のこと。主にアメリカやイギリスの新聞記事、雑誌記事、テレビ番組、ラジオ番組で使われる英語を指します。この授業では、英米の新聞やテレビでふつうに流れる英語に慣れていきます。

マスコミは万人向けです。したがって、アメリカやイギリスの普通の人たちの今の関心・興味が、彼らが容易に理解できる英語で、書かれています。

日本人学習者にとっては、時事英語は語彙レベルが高いと感じられるかもしれませんが、逆にいえば、英語母語話者の日常の書き言葉としての英語はこのくらいのレベルなので、そこまでの語彙が十分理解できるようにになれば、他の英語で書かれた文章も理解できる部分が広がることでしょう。

テキストはニューヨークタイムズの記事を集めたものを使います。また、テキスト以外に、ふつうの英字新聞やビデオクリップなどを利用することもあります。

■到達目標

時事英語に慣れることを目標とします。とくに語彙をたくさん覚えてもらうことを目標とします。

■講義方法

ふつうの英語の授業と同じように、次のように考えています。

- (1) 本文の精読 (ときに速読も)
- (2) テストなど
- (3) リスニングテスト

■授業時間外における予・復習等の指示

進度にそって精読してきてください。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 授業中の受け答えです。

小テスト (20%) リスニングの小テストを行います。

定期試験（60％）学期末試験を行います。

成績評価の方法については変更することがあります。

■テキスト

Kita, R., and K. Adams 『Trends in Transition』 英宝社
2,000円

このほかにもオンラインで無料で利用できる教材を用意します。具体的にはTEDの講演です。

<http://www.ted.com/>

参考文献

『The Daily Yomiuri』

『The Japan Times』

日本で発行されている英字新聞を利用しない手はありません。とくに、The Daily Yomiuriは、読売新聞と社説を共有していますから、日本語と英語で対照しながら読めます。そのほか、教室で指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

予習をしてください。予習ができないときは、せめて復習してください。また、講義計画は変更される場合があります。また5回欠席で期末テストはゼロ点になります。

■ オフィスアワー・教員への連絡方法

授業中にお知らせします。

■講義計画

- ①時事英語の特徴について確認しながら、精読していきます。
- ②環境についての記事 1
- ③同上
- ④同上
- ⑤環境についての記事 2
- ⑥同上
- ⑦同上
- ⑧社会における価値観についての記事 1
- ⑨同上
- ⑩同上
- ⑪社会における価値観についての記事 2
- ⑫同上
- ⑬同上
- ⑭社会における価値観についての記事 3
- ⑮同上
- ⑯前期末試験

■サブタイトル

時事英語

■講義概要

時事英語とは、要するにマスコミの英語のこと。主にアメリカやイギリスの新聞記事、雑誌記事、テレビ番組、ラジオ番組で使われる英語を指します。この授業では時事英語に慣れていきます。

マスコミは万人向けです。したがって、アメリカやイギリスの普通の人たちの今の関心・興味が、彼らが容易に理解できる英語で、書かれています。

日本人学習者にとっては、時事英語は語彙レベルが高いと感じられるかもしれませんが、逆にいえば、英語母語話者の日常の書き言葉としての英語はこのくらいのレベルなので、そこまでの語彙が十分理解できるようになれば、他の英語で書かれた文章も理解できる部分が広がることでしょう。

テキストはニューヨークタイムズの記事を集めたものを使います。また、テキスト以外に、ふつうの英字新聞やビデオクリップなどを利用することもあります。

■到達目標

時事英語に慣れること、とくに語彙をたくさん覚えてもらうことを目標とします。

■講義方法

ふつうの英語の授業と同じように、次のように考えています。

- (1) 本文の精読（ときに速読も）
- (2) テストなど
- (3) リスニングテスト

■授業時間外における予・復習等の指示

進度に沿って精読してきてください。

また、次の講演サイトからリスニングテストを出します。

<http://www.ted.com/>

■成績評価の方法

平常点（20％）授業中の受け答えです。

小テスト（20％）リスニングテストを行います。

定期試験（60％）定期試験です。

成績評価の方法は変更することがあります。

■テキスト

Kita, R. and K. Adams 『Trends in Transition』 英宝社 2,000円

テキストは前期からの継続使用です。講義計画は変更される可能性があることをご理解ください。

また、途中でテキストを読み終わってしまった場合は、ネットで記事を手当てして読んでいきます。TIMEやNEWSWEEKのような報道系の雑誌の記事を読んだり、BBCの放送を見たりしたい、と思います。

■参考文献

『The Wall Street Journal』

『The Guardian』

『The Independent』

アメリカの高級紙の中でも経済よりの記事が多いウォールストリートジャーナルを図書館などで見てみてください。世界の金融の中心地でどんなことを知りたがっているか、知ることができます。イギリスの新聞、ガーディアンとインディペンデントは政治的態度が異なるので、比べてみてください。その他、授業中に指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

予習をしてきてください。予習が出来なかったときは、せめて復習してください。また、5回欠席で期末試験の成績がゼロ点になりますので、気をつけてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

必要があれば指示します。

■講義計画

- ① テキストを前提とせずに、英語の新聞記事を使って、時事英語の特徴などをお話しします。また、授業のやり方を説明します。この回に欠席すると、皆さんには不利益になります。
- ② 食糧問題の記事1（これ以降、すべてに言えることですが、前期での進捗状況によって、開始すべきユニットが変更になる場合がありますので、ご了承ください。）
- ③ 同上
- ④ 同上
- ⑤ 食糧問題の記事2
- ⑥ 同上
- ⑦ 同上
- ⑧ 教育についての記事1
- ⑨ 同上
- ⑩ 同上
- ⑪ 教育についての記事2
- ⑫ 同上
- ⑬ 同上
- ⑭ 教育についての記事3
- ⑮ 同上
- ⑯ 期末試験

英語セミナーC 1

【担当】音羽 レベッカ
【開講】前期 水2

■サブタイトル

Thinking about Human Life 人生を考える

■講義概要

簡単な英語を使って、個人の生活・自分と周りの人々との関係を考える

■到達目標

人間として大事なことを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ

■講義方法

教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises

■授業時間外における予・復習等の指示

- (1) 毎回の単語を次回に復習する
- (2) 宿題を3回出す
- (3) 15回目にテストを行う

■成績評価の方法

その他(100%) 下記のとおり
平常点10・参加45(1回につき3点×15回)・宿題30(1回につき10点×3回)・テスト15
合計100

■テキスト

教師がコピーを渡す

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Let's think about our lives in English. It is important to be serious and attend the class regularly.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

palantir55@yahoo.com (必要な時だけ使うこと)

■講義計画

- ①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
- ②Movie: "The Apartment" Part I & discussion
映画:「アパートの鍵を貸します」パート1
- ③Movie: "The Apartment" Part II & discussion Assign HW 1
映画:「アパートの鍵を貸します」パート2
- ④Me & Myself I: Personal History - Who am I?
私自身I: パーソナルヒストリー わたしって誰?
- ⑤Me & Myself II: Taking Care of Myself - What do I need? Hand in HW 1
私自身II: 自分を大切にすること私に何が必要か?
- ⑥Me & Myself III: Choices - What should I do?
私自身III: 選択 私はなにをすればいい?
- ⑦Me & Myself IV: Self-control - How can I manage myself?
私自身IV: 自己管理 私をどうやって管理する?
- ⑧Me & Myself V: The Future - How can I realize my dreams? Assign HW 2
私自身V: 将来 私はどうやって夢を実現する?
- ⑨Me & Others I: Differences - What makes me me?
私と人I: 違い 私と他の人との違い
- ⑩Me & Others II: Groups - Where do I belong? Hand in HW 2
私と人II: グループ 私はどこに属する?
- ⑪Me & Others III: Friends & Family - How should I relate?
私と人III: 友達と家族 私はどうやって関係をつくる?
- ⑫Me & Others IV: Emotions - How should I handle my feelings?
私と人IV: 感情 私はどうやって感情を管理すればいい?
- ⑬Me & Others V: Civility - How should I behave? Assign HW 3
私と人V: 社会の中の私のふるまい 私はどう振舞うべきか?
- ⑭Me & Others VI: Judgment - How should I evaluate myself and others?
私と人VI: 判断 自分と他の人をどうやって判断すればいい?
- ⑮TEST & Wrap up Hand in HW 3

英語セミナーC 1

【担当】ワード ジョン
【開講】前期 水2

■サブタイトル

Language Acquisition Through Interaction.

■講義概要

The objective of this course is to prepare the students to use English in a variety of natural contexts. Throughout the course we will develop the learners listening and speaking skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give the students the opportunity to personalize the language they learn, and make use of their own experience and knowledge. We will be working in pairs and small groups, providing a maximum amount of student-generated communication.

■到達目標

After completing this course, students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.

■講義方法

Students will be divided into pairs or small groups at the beginning of each class, thus providing many opportunities for student interaction. Throughout the course, students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions in English with greater confidence.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students are required to download the Self-study audio at >www.fifty-fifty-series.com and submit the results to me weekly.

■成績評価の方法

平常点(50%) Active Participation
小テスト(25%) Results
その他(25%) Homework

■テキスト

Warren Wilson 『Fifty-Fifty Book 2』 Longman

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①Explanation of course
- ②Asking for Information
- ③Describing Things
- ④Making Requests
- ⑤Giving Instructions
- ⑥Reviewing
- ⑦Making Excuses-Giving Reasons
- ⑧Giving Opinions
- ⑨Comparing Things
- ⑩Reviewing
- ⑪Giving advice-Suggestions
- ⑫Talking about Experiences
- ⑬Inviting
- ⑭Predictions
- ⑮Reviewing

英語セミナーC 1

【担当】音羽 レベッカ

【開講】前期 水3

■サブタイトル

Thinking about Human Life 人生を考える

■講義概要

簡単な英語を使って、個人の生活・自分と周りの人々との関係を考える

■到達目標

人間として大事なことを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ

■講義方法

教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises

■授業時間外における予・復習等の指示

- (1) 毎回の単語を次回に復習する
- (2) 宿題を3回出す
- (3) 15回目にテストを行う

■成績評価の方法

その他(100%) 下記のとおり
平常点10・参加45(1回につき3点×15回)・宿題30(1回につき10点×3回)・テスト15
合計100

■テキスト

教師がコピーを渡す

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Let's think about our lives in English. It is important to be serious and attend the class regularly.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

palantir55@yahoo.com (必要な時だけ使うこと)

■講義計画

- ①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
- ②Movie: "The Apartment" Part I & discussion
映画:「アパートの鍵を貸します」パート1
- ③Movie: "The Apartment" Part II & discussion Assign HW 1
映画:「アパートの鍵を貸します」パート2
- ④Me & Myself I: Personal History - Who am I?
私自身I: パーソナルヒストリー わたしって誰?
- ⑤Me & Myself II: Taking Care of Myself - What do I need? Hand in HW 1
私自身II: 自分を大切にすること私に何が必要か?
- ⑥Me & Myself III: Choices - What should I do?
私自身III: 選択 私はなにをすればいい?
- ⑦Me & Myself IV: Self-control - How can I manage myself?
私自身IV: 自己管理 私をどうやって管理する?
- ⑧Me & Myself V: The Future - How can I realize my dreams? Assign HW 2
私自身V: 将来 私はどうやって夢を実現する?
- ⑨Me & Others I: Differences - What makes me me?
私と人I: 違い 私と他の人との違い
- ⑩Me & Others II: Groups - Where do I belong? Hand in HW 2
私と人II: グループ 私はどこに属する?
- ⑪Me & Others III: Friends & Family - How should I relate?
私と人III: 友達と家族 私はどうやって関係をつくる?
- ⑫Me & Others IV: Emotions - How should I handle my feelings?
私と人IV: 感情 私はどうやって感情を管理すればいい?
- ⑬Me & Others V: Civility - How should I behave? Assign HW 3
私と人V: 社会の中の私のふるまい 私はどう振舞うべきか?
- ⑭Me & Others VI: Judgment - How should I evaluate myself and others?
私と人VI: 判断 自分と他の人をどうやって判断すればいい?
- ⑮TEST & Wrap up Hand in HW 3

英語セミナーC 1

【担当】イエニク・S・C

【開講】前期 金2

■サブタイトル

Active English

■講義概要

The aim of this course is to improve students ability to use English by dividing the class into groups and having them create their own extended dialogues or short plays. This places emphasis on the active skills: writing and speaking. The students create the concrete contents of the course themselves.

■到達目標

Relative to students abilities

■講義方法

Individual students each write dialogues or short plays and then perform them in groups.

■授業時間外における予・復習等の指示

Homework and preparatory exercises will be assigned to be done outside of class.

■成績評価の方法

平常点(100%) Homework. Class Performance.

■テキスト

特になし

■参考文献

Any good dictionary.

■履修上の注意・担当者からの一言

Do not miss the first class.

■講義計画

- ①Introduction and Video Exercise
- ②Creative Stimulus Exercise
- ③Creative Stimulus and Narrative Writing
- ④Convert Narrative to Dialogue
- ⑤~⑮Learn, Practice and Perform Skits and Short Plays

英語セミナーC2

【担当】音羽 レベッカ

【開講】後期 水3

■サブタイトル

Thinking about Global Life 世界を考える

■講義概要

簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える

■到達目標

世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ

■講義方法

教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises

■授業時間外における予・復習等の指示

- (1) 毎回の単語を次回に復習する
- (2) 宿題を3回出す
- (3) 15回目にテストを行う

■成績評価の方法

その他(100%) 下記を参照

平常点10・参加45(1回につき3点×15回)・宿題30(1回につき10点×3回)・テスト15
合計100

■テキスト

教師がコピーを渡す

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Let's think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

palantir55@yahoo.com(必要な時だけ使うこと)

■講義計画

- ①Introduction to course, world map work
コース紹介・世界地図を親しんで
- ②Natural Environment I : Creating the Earth
自然環境1:地球をつくったのは?
- ③Natural Environment II : Competition & Cooperation
自然環境2:競争と協力
- ④Global Relationships I : Humanity the Superorganism
グローバル関係1:人類スーパーオーガニズム
- ⑤Global Relationships II : Work
グローバル関係2:人間の仕事
- ⑥Global Relationships III : Religious Observance
グローバル関係3:人間の宗教
- ⑦Global Relationships IV : Culture
グローバル関係4:人間の文化
- ⑧Global Relationships V : A Gaijin in Japan
グローバル関係5:日本に住む外国人
- ⑨What is Civilization I : Human Rights & Responsibilities
文明とは何か1:人権と責任
- ⑩What is Civilization II : History of Economic Man
文明とは何か2:経済人間の歴史
- ⑪What is Civilization III : Humanity's Highest Achievements
文明とは何か3:人間の最高の達成
- ⑫When Civilization Breaks Down I : Crime & Punishment
文明が危ないとき1:犯罪
- ⑬When Civilization Breaks Down II : War
文明が危ないとき2:戦争
- ⑭Word Work and Review
単語の勉強と復習
- ⑮Final Test
ファイナルテスト

英語セミナーC2

【担当】イエニク・S・C

【開講】後期 水3

■サブタイトル

English Communication

■講義概要

To develop an intuitive grasp of and fluency with relatively easy English, especially through experiencing the sound of the language.

Mainly utilizes narrative and dramatic language in the forms of stories and video skits.

A balanced and integrated approach to all four language skills: listening, speaking, reading and writing.

A variety of exercises and tasks will be used to demonstrate common English usage and guide students to express their own original thoughts directly in English in both spoken and written forms. This will also naturally reinforce basic grammar and function structures from an active point of view.

■到達目標

Relative to students' abilities.

■講義方法

Various types of class participation. Dialogues, narrative writing, etc.

■授業時間外における予・復習等の指示

Homework and preparatory exercises will be assigned to be done outside of class.

■成績評価の方法

平常点(100%) Class participation.

■テキスト

辞書持参

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①Dialogue
- ②Narrative
- ③Reading
- ④Dialogue
- ⑤Narrative
- ⑥Reading
- ⑦Dialogue
- ⑧Narrative
- ⑨Reading
- ⑩Dialogue
- ⑪Narrative
- ⑫Reading
- ⑬Dialogue
- ⑭Narrative
- ⑮Reading

■サブタイトル

Welcome to Narnia: Fantastic Fiction English 1

■講義概要

とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語で物語を楽しむようになり、さらには英語で読むほうが翻訳より面白いと思えればしたもので、あとは読み続けることさえできれば、英語力向上という結果はあとからついてくる。そのために各種の面白い物語をいろいろ読んでみる。

具体的には、読むのは2本セット。日本ではなじみが無いが、映画上映の際にメインの映画+短編映画1本の2本立てというやり方がある。メインディッシュ+前菜のような感じ。この授業でもそのノリで、メインとして映画でも有名な「ナルニア国物語」シリーズの第1巻、The Lion, the Witch and the Wardrobeの原書をシリーズで毎回少しずつ英語で読み、一方、それとは気分を変えて、様々な、より短く、だいたいより簡単で、変化に富んだ内容の短編や長編の一部を、retold版（より易しい英語で書き直したもの）なども活用して読む、という形を取ってみる。というわけで、けっこうぜいたくな試みである。

■到達目標

物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。

「**実用**」を超えた英語の味わいを経験すること。

物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法

事前に2本立て分2種類のハンドアウトを配布。合わせても4ページ前後の予定。授業で内容を確認、表現の練習など。メイン作品については、一部しか読めないのが、話の展開はリスニング練習を兼ねて映画の映像で補う。

授業ではまず前回学習した英語表現、及び当日読む作品のストーリーについての小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説。表現練習など。次回分の作品について、必要に応じて予告の解説＋情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。ほぼ毎回、学習内容についてコメントを書いてもらう。

■系統的履修

英語セミナー D2

■授業時間外における予・復習等の指示

予習が大前提。とにかく自分で読んでみようとしなければい
つまでも読めるようにならない。より意欲的に読む気になる
ようにこちらも工夫はするつもり。

■成績評価の方法

平常点(40%) 小テスト、課題(予習)の達成状況、授業中の発表、最後に書いてもらうコメントなど

定期試験 (60%)

3分の1以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則0点とする。

■テキスト

The Lion, the Witch and the Wardrobe、及び他の小説の、いずれもハンドアウトを使用する予定。なお前者については、自分で本を買ってもいいし（2013年1月現在、600円弱で買える）、あらかじめ持っている本があればそれを活用してもよい。

参考文献

児童文学とはいえ、さすがに原書は難しいと思う可能性もある。翻訳は図書館利用なども含めて簡単に読めるだろうから（かなり古風な訳だが）参考にするのは構わない。

■履修上の注意・担当者からの一言

欲ばりな内容で、消化しきれない恐れもあるので、授業の進め方については調整するかもしれない。それほど負担が大きいわけではないので、受講する場合はちゃんと予習するつもりで参加すること。メイン作品については、授業では要所要所しか読めないが、この機会にぜひ1冊丸ごと読破してほしい。原書の購入法は授業中に紹介、相談に乗る。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。
2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learning
サイトを開設予定。

■講義計画

- ①introduction
- ②Narnia 1 (1) + 昔話
- ③Narnia 1 (2) + 不気味な話
- ④Narnia 1 (3) + 皮肉な話
- ⑤Narnia 1 (4) + あつと驚く話
- ⑥Narnia 1 (5) + どきどきする話
- ⑦Narnia 1 (6) + ほのぼのする話
- ⑧Narnia 1 (7) + ショートショート
- ⑨Narnia 1 (8) + ほろりとする話
- ⑩Narnia 1 (9) + 不思議な話
- ⑪Narnia 1 (10) + 古典の名場面
- ⑫Narnia 1 (11) + 怖い話
- ⑬Narnia 1 (12) + 犯罪の話
- ⑭Narnia 1 (13) + にやりとする話
- ⑮Narnia 1 (14) + おかしい話

* +の後のサブのストーリーについては、とりあえずジャンルをランダムに示したもので、必ずしも取り上げる順番ではない。

■サブタイトル

Les Miserables and Other Stories: Fantastic Fiction English 2

■講義概要

とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語で物語を楽しめるようになり、さらには英語で読むほうが翻訳より面白いと思えばしめたもので、あとは読み続けることさえできれば、英語力向上という結果はあとからついてくる。そのために各種の面白い物語をいろいろ読んでみる。

具体的には、読むものは2本セット。日本ではなじみがないが、映画上映の際にメインの映画+短編映画1本の2本立てというやり方がある。メインディッシュ+前菜のような感じ。この授業でもそのノリで、メインとしては、もともとフランスの小説であるLes Miserables (レ・ミゼラブル) を、英語で易しく書き直したretold版で毎回少しずつ読んでみる。日本では『ああ無情』と訳されているこの小説は、波乱万丈の展開のうちに涙と感動を呼ぶヒューマンな物語として、世界文学の歴史の中でも最も有名、かつ愛されたきた作品の一つであり、何度も映画化されているが、2012年にはミュージカル映画として公開され数々の映画賞を受賞している。

一方、そのメインとは気分を変えて、様々な、より短く、だいたいはより簡単で、変化に富んだ内容の短編や長編の一部を、これまたretold版なども活用して読む、という形を取ってみる。というわけで、けっこうぜいたくな試みである。

■到達目標

物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。

「実用」を超えた英語の味わいを体験すること。

物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法

事前に2本立て分2種類のハンドアウトを配布。合わせても4ページ前後の予定。授業で内容を確認、表現の練習など。メイン作品については、一部しか読めないの、話の展開はリスニング練習を兼ねて利用できる映画の映像で補う。

授業ではまず前回学習した英語表現、及び当日読む作品のストーリーについての小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説。表現練習など。次回分の作品について、必要に応じて予告的解説+情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。ほぼ毎回、学習内容についてコメントを書いてもらう。

■系統的履修

英語セミナー D1

■授業時間外における予・復習等の指示

予習が大前提。とにかく自分で読んでみようとしなければいつまでも読めるようにならない。より意欲的に読む気になるようにこちらも工夫はするつもり。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 小テスト、課題 (予習) の達成状況、授業中の発表、最後に書いてもらうコメントなど

定期試験 (60%)

3分の1以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則0点とする。

■テキスト

Les Miserables、及び他の小説の、いずれもハンドアウトを使用する予定。Les Miserablesについては自分で本を買っていいが、2013年1月現在、やや入手にくい。

■参考文献

世界的な古典だけに各種翻訳があるので参照してもらうのは構わないが、なにしろ長いから大変だろうと思う。授業で使うretold版はコンパクトにまとめてあって手頃。

■履修上の注意・担当者からの一言

欲ばりな内容で、消化しきれない恐れもあるので、授業の進め方については調整するかもしれない。それほど負担が大きいわけではないので、受講する場合はちゃんと予習するつも

りで参加すること。メインのLes Miserablesは要所所しか読めないが、図書館にもあるので、この機会に1冊丸ごと読破を試みるのもいいと思う。原書を購入したければ相談に乗る。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画

- ①introduction
- ②Les Miserables (1) + 昔話
- ③Les Miserables (2) + 不気味な話
- ④Les Miserables (3) + 皮肉な話
- ⑤Les Miserables (4) + あつと驚く話
- ⑥Les Miserables (5) + どきどきする話
- ⑦Les Miserables (6) + ほのぼのする話
- ⑧Les Miserables (7) + ショートショート
- ⑨Les Miserables (8) + ほろりとする話
- ⑩Les Miserables (9) + 不思議な話
- ⑪Les Miserables (10) + 古典の名場面
- ⑫Les Miserables (11) + 怖い話
- ⑬Les Miserables (12) + 犯罪の話
- ⑭Les Miserables (13) + にやりとする話
- ⑮Les Miserables (14) + おかしい話

*+の後のサブのストーリーについては、とりあえずジャンルをランダムに示したもので、必ずしも取り上げる順番ではない。

英語セミナー E 1

[担当] 里井 久輝

[開講] 前期 水3

■サブタイトル

映画と歌で英語に親しもう！

■講義概要

本セミナーは2部からなる。前半では、1999年の映画『ノッティングヒルの恋人』を用いて、さまざまな英語の表現を学びながら、現代英国の社会・文化の諸相を見てゆく。後半では、ジャズやポップスなどの英語の歌を取り上げ、主として音声学のおよび語用論的観点から歌詞を学ぶ。

■到達目標

映画や歌を通じて英語に親しみ、自然な英語音声習得できるようにする。さまざまな英語の表現を身につけ、英語の総合的運用力の向上を目指す。

■講義方法

前半では、DVDも活用し、脚本や表現の面白さに着目しながら、セリフの聞き取り・語彙と表現のまとめ・文法演習・音読練習を中心に進める。各ユニットを2回で完成させる。後半では、映画との関連も考えながら、スタンダード・ジャズやポップスから毎回1曲を取り上げ、自然な発音と役に立つ表現を学んでゆく。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書や取り上げた歌の当該部分の音読ならびに予・復習を怠らず、身につけた表現を繰り返し暗唱すること。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 平素の学習活動状況・小テスト・提出課題・担当箇所の発表などを含む。
レポート (50%) レポート課題は別途指示する。

■テキスト

Hiromi Akimoto, Mayumi Hamada 『English Grammar in Focus -Expanded Edition (映画『ノッティングヒルの恋人』で学ぶ会話英文法)』 Macmillan Languagehouse 2,205円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

毎回の入念な予復習と、真摯な受講態度とが必須である。常に音読を心がけ、興味と意欲を持ってしっかり取り組むこと。なお、第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。

■講義計画

- ①前期オリエンテーション
映画『Notting Hill』の鑑賞 (前半)
- ②映画『Notting Hill』の鑑賞 (後半)
レポート課題の説明
- ③Notting Hill - Not a Bad Place to Be 1
- ④Notting Hill - Not a Bad Place to Be 2
- ⑤Surreal, But Nice 1
- ⑥Surreal, But Nice 2
- ⑦I'll Be Your Date 1
- ⑧I'll Be Your Date 2
- ⑨Miracles Do Happen 1
- ⑩Miracles Do Happen 2
- ⑪Do You Want to Come Up? 1
- ⑫Do You Want to Come Up? 2
- ⑬Nice Surprise or Nasty Surprise 1
- ⑭Nice Surprise or Nasty Surprise 2
- ⑮まとめ・レポート提出

英語セミナー E 2

[担当] 里井 久輝

[開講] 後期 水3

■サブタイトル

映画と歌で英語に親しもう！

■講義概要

本セミナーは2部からなる。前半では、1999年の映画『ノッティングヒルの恋人』を用いて、さまざまな英語の表現を学びながら、現代英国の社会・文化の諸相を見てゆく。後半では、ジャズやポップスなどの英語の歌を取り上げ、主として音声学のおよび語用論的観点から歌詞を学ぶ。

■到達目標

映画や歌を通じて英語に親しみ、自然な英語音声習得できるようにする。さまざまな英語の表現を身につけ、英語の総合的運用力の向上を目指す。

■講義方法

前半では、DVDも活用し、脚本や表現の面白さに着目しながら、セリフの聞き取り・語彙と表現のまとめ・文法演習・音読練習を中心に進める。各ユニットを2回で完成させる。後半では、映画との関連も考えながら、スタンダード・ジャズやポップスから毎回1曲を取り上げ、自然な発音と役に立つ表現を学んでゆく。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書や取り上げた歌の当該部分の音読ならびに予・復習を怠らず、身につけた表現を繰り返し暗唱すること。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 平素の学習活動状況・小テスト・提出課題・担当箇所の発表などを含む。
レポート (50%) レポート課題は別途指示する。

■テキスト

Hiromi Akimoto, Mayumi Hamada 『English Grammar in Focus -Expanded Edition (映画『ノッティングヒルの恋人』で学ぶ会話英文法)』 Macmillan Languagehouse 2,205円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

毎回の入念な予復習と、真摯な受講態度とが必須である。常に音読を心がけ、興味と意欲を持ってしっかり取り組むこと。なお、第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。

■講義計画

- ①後期オリエンテーション
- ②There Are such Horrible Pictures 1
- ③There Are such Horrible Pictures 2
- ④Breakfast in Bed? Or Lunch or Brunch? 1
- ⑤Breakfast in Bed? Or Lunch or Brunch? 2
- ⑥Our Perspective Are Different 1
- ⑦Our Perspective Are Different 2
- ⑧Wait! There Are Things to Say 1
- ⑨Wait! There Are Things to Say 2
- ⑩Don't Forget - I'm Also Just a Girl 1
- ⑪Don't Forget - I'm Also Just a Girl 2
- ⑫Where's the Press Conference 1
- ⑬Where's the Press Conference 2
- ⑭映画『Notting Hill』の鑑賞 (前半)
- ⑮映画『Notting Hill』の鑑賞 (後半)
まとめ・レポート提出

教育原論B

【担当】大野 僚

【開講】後期 月1

■サブタイトル

教育の再考

■講義概要

これまで教育を受けてきた人が、人に教える立場になったとき、どのような教育観が必要となってくるのか。少なくとも、自分が受けてきた「教育」が、教育のすべてであると思うのはあまりに偏った見方である。この講義では、体験や経験だけで教育を考えるのではなく、教育を対象化できる思考方法を身につけることを目的として、教育に関する歴史や制度を紹介していく。

■到達目標

各自が抱く自明の「教育観」を、教育学の基礎的な思考方法によって再検討できるようにする。

■講義方法

講義形式を基本とするが、小規模でのグループ学習を行ったリ、視聴覚教材等を用いる場合もある。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容を整理し、日ごろから考えることを重点においた理解をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (10%) ミニツペーパー

小テスト (90%) 小テスト

講義時間内に小レポート (複数回) を課す場合があるので、注意すること。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①「教育」のイメージ
- ②教育に関する最近の動向 (1) 現在までの推移
- ③教育に関する最近の動向 (2) 教育改革の方向性
- ④教育に関する最近の動向 (3) 学力論にみる教育のあり方
- ⑤教育学の思考方法としてのモデル論
- ⑥教育モデル論の類型
- ⑦近代教育学の特質
- ⑧子どもの発達観
- ⑨近代学校教育の成立
- ⑩日本の戦後教育の理念
- ⑪戦後「新教育」の特徴
- ⑫学習指導要領の変遷
- ⑬戦後教育のパラダイムシフト
- ⑭教育基本法の改正と教員養成制度
- ⑮まとめ

教育原論B

【担当】広川 義哲

【開講】後期 月2

■サブタイトル

教育の歴史と理論

■講義概要

本講義では、学校が制度的に整備されてきた歴史的な背景や子どもを表象する仕方の変容、そして、家庭が教育の場所として機能し、家族が教育する役割を担ってきた歴史を説明する。さらに、近代以降、教育学が学問として成立してきた歴史をたどり、最後に、大人と子ども、教師と生徒、あるいは友人や恋人との関わりなど、さまざまに彩られる人間関係の諸相から教育を読み解いてゆく。

■到達目標

教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。

■講義方法

毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に適宜、指示します。

■成績評価の方法

レポート (20%) 毎回の講義時に提出してもらおう小レポート。
定期試験 (80%) 学期末の筆記試験。

■テキスト

講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。

■参考文献

原聰介ほか編 『近代教育思想を読みなおす』 新曜社
高橋勝・広瀬俊雄編 『教育関係論の現在』 川島書店
これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②教育の歴史①：学校の成立史
- ③教育の歴史②：子どもへの眼差しの変容
- ④教育の歴史③：家庭／家族という問題
- ⑤教育の歴史④：身体技法・体育の構想
- ⑥近代の教育思想①：ルソー
- ⑦近代の教育思想②：ペスタロッチ
- ⑧近代の教育思想③：ヘルバルト
- ⑨近代の教育思想④：デューイ
- ⑩近代の教育思想⑤：シュプラング
- ⑪関係から教育を読む①：自己形成の物語
- ⑫関係から教育を読む②：公共性への通路
- ⑬関係から教育を読む③：ライフサイクルと人間形成
- ⑭関係から教育を読む④：教育関係の理論
- ⑮まとめ

■サブタイトル

マクロ経済学の基礎を学ぶ

■講義概要

日々、デフレ不況、円高、金融緩和などの経済ニュースを新聞などで目にすることが多い。マクロ経済学、マクロ経済政策の基礎を学ぶことで、日本政府の様々な経済政策が、どのような期待の下で導入されているのか、そしてどのような結果を導いたのか、さらに日本経済の何が問題で政府が何を悩んでいるのか、そして何をどのような視点で考えるべきなのかが分かる。

経済学の価値観や思考法を身に付けるためには、ミクロ経済学から学び始めるべきかもしれないが、本講義は経済学部の特科目ではないのでマクロ経済学から始める。

■到達目標

現在のわが国の景気動向や経済政策についての理解を深めることができ、マスコミや政治家の意見に左右されず、日本の経済政策について自分の意見をしっかり持つよう考え方を鍛える。

■講義方法

講義形式で、テキストに沿って進める。

日本を代表する経済学者によるコンパクトな入門書を約3か月で読破する。各自でしっかり読み込んでほしい。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストは、一般向けに易しく書かれているので、講義に合わせて最後まで読破してほしい。とにかく教科書を隅々まで読むこと。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 授業への参加度/貢献度を考慮する場合がある。集中して話を聞くこと。

レポート (80%) 講義中に4回のレポート提出を課す。

出席は一切評価しないし、出題の趣旨を理解していないレポートも評価しない。

■テキスト

岩田規久男 『マクロ経済学を学ぶ』 ちくま新書

■参考文献

岩田規久男 『景気ってなんだろう』 ちくまプリマー新書

岩田規久男 『デフレと超円高』 講談社現代新書

岩田規久男 『インフレとデフレ』 講談社学術文庫

■履修上の注意・担当者からの一言

本講義で取り上げるテーマは、いずれも社会科学系の学部で学ぶ内容であるが、卒業後、他学部出身者と対等に競争していかなければならない国際文化学部の学生にとって重要なものばかりである。

■講義計画

①マクロ経済学とは何か－名目GDPと実質GDP－[第1章]

②新古典派経済学とケインズモデル

③総需要と景気変動 [第2章]

④市場経済の不安定性と雇用

⑤財政政策－公共投資は景気対策として有効か－[第3章]

⑥金融市場の仕組みと機能 [第4章]

⑦金融と総需要－金利と民間設備投資－

⑧貨幣の需要・供給と金利 [第5章]

⑨金融政策のメカニズム－日銀の役割－[第6章]

⑩不況対策としての金融政策

⑪為替レートとマクロ経済－経常収支決定のメカニズム－[第7章]

⑫外国為替の仕組みと為替レートの変動要因

⑬財政金融政策と為替レート－変動相場制の下での金融政策－

⑭経済成長の諸要因－日本はなぜ高い経済成長を達成することができたか－[第8章]

⑮日本経済の現状－世界最強の日本経済－

経済学入門

【担当】 長命 洋佑
【開講】 前期 金5

■サブタイトル

われわれは、予想どおりに不合理な行動をとる

■講義概要

経済学は日常生活の中で全く役に立たないものだと思っていますか？

実は、経済学は日常生活に密接に結びついています。

あなたは、「なぜ、大学に行くのでしょうか？」

あなたは、「なぜ、お金を出して、生協でご飯を食べるのでしょうか？」

あなたは、「なぜ、アルバイトをするのでしょうか？」

・・・そして、あなたは、「なぜ、このシラバスをみているのでしょうか・・・？」

意識的に「なぜ？」と考えると、「これまで、考えたことがなかったな」と思うことがたくさんあるのではないかと思います。

日常生活の裏側には、経済学の考え方があり、その考えは、人間の心理と非常に密接しています。

本講義では、経済学・心理学の視点から、日常生活における経済行動について、少し違った視点で考えていきたいと思います。

本講義では、そうした「なぜ？」に対し、経済学の視点からわかりやすく説明することを心がけます（初めて経済学に触れる学生大歓迎です）。

■到達目標

経済学的な考え方を日常生活のなかで、活かせるようになる。

■講義方法

講義形式による。また、学生の意見・考え方を講義に反映させたいので、意見・考え方を取り入れられるような工夫を試みる

■授業時間外における予・復習等の指示

日常生活の中で、自分の行動を見直す。

■成績評価の方法

平常点（40%）

定期試験（60%）

■テキスト

受講生に合わせて、テキストを紹介するが、基本的には配布資料によって講義を行う。

ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

「経済学」はお金のことばかり扱う学問と思われがちですが、実際は、日常生活に非常に密接した学問です。経済学を学ぶことによって、これまでとは少し違った日常生活が送れるようになるかもしれません。

なお、他の学生になるような非常識な行為（私語・携帯）は慎むようお願いします。私語が多い場合は、退出をお願いしております。

■講義計画

①オリエンテーション

②日常生活における経済とは？

③経済・心理のお話①：価値とは何か？

④経済・心理のお話②：満足とは何か？

⑤経済・心理のお話③：右向け右！右向け左！

⑥経済・心理のお話④：自分でもわからない金銭的価値と心理的価値

⑦経済・心理のお話⑤：あなたの（時間的）価値とは何か？

⑧これまでの復習

⑨経済行動のお話①：なぜ、われわれは不合理な行動をとるのか？

⑩経済行動のお話②：なぜ、となりのレジに並び変えようとするのか？

⑪経済行動のお話③：払ってしまったお金のことは忘れよう！

⑫経済行動のお話④：騙す方が悪い？騙されるほうが悪い？

⑬世界と日本のお話①：風が吹けば桶屋が儲かる!?

⑭世界と日本のお話②：よりよい社会・日常生活のために・・・

⑮これまでの復習

経済学入門

【担当】 李 复屏

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

暮らしの中の経済学

■講義概要

この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、高い価格は強欲のせいなのか、汚染権を売買してもいいのか、政府は何をしているのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。

■到達目標

経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。

■講義方法

視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。授業中の練習問題がよくある。

なお、ナマの時事経済を取り入れて解説することもある。

■系統的履修

なし。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業関連の資料や予・復習の具体的な内容は、すべてネットで配布するので、それにしたがって予・復習を行いなさい。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

定期試験 (50%)

■テキスト

N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社 3,200円

■参考文献

授業内容に応じて、授業中に適宜提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生の皆さんにとって、経済学はよく分からない学問のようだが、そもそも学ぶとは、分からないことを分かるように努力することなので、分かるように「多少」努力してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは月2。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。

■講義計画

- ①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
- ②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
- ③経済学者らしく考える②：大学進学の手続き費用はいくらか
- ④取引と貿易：なぜ取引するのか
- ⑤取引と貿易：取引において誰が得するか
- ⑥需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
- ⑦需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
- ⑧価格の役割：市場が語る時
- ⑨外部性：市場は失敗することがあるよ
- ⑩公共部門：政府も失敗するさ
- ⑪GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
- ⑫GDPとは②：何がGDPを決めるか
- ⑬貨幣システム：お金とはなにか
- ⑭復習：練習問題
- ⑮もう一度、経済学とは：人間は合理的か

経済学入門

【担当】 李 复屏

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

暮らしの中の経済学

■講義概要

この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、高い価格は強欲のせいなのか、汚染権を売買してもいいのか、政府は何をしているのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。

■到達目標

経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。

■講義方法

視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。授業中の練習問題がよくある。

なお、ナマの時事経済を取り入れて解説することもある。

■系統的履修

なし。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業関連の資料や予・復習の具体的な内容は、すべてネットで配布するので、それにしたがって予・復習を行いなさい。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

定期試験 (50%)

■テキスト

N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社 3,200円

■参考文献

授業内容に応じて、授業中に適宜提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生の皆さんにとって、経済学はよく分からない学問のようだが、そもそも学ぶとは、分からないことを分かるように努力することなので、分かるように「多少」努力してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは月2。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。

■講義計画

- ①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
- ②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
- ③経済学者らしく考える②：大学進学の手続き費用はいくらか
- ④取引と貿易：なぜ取引するのか
- ⑤取引と貿易：取引において誰が得するか
- ⑥需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
- ⑦需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
- ⑧価格の役割：市場が語る時
- ⑨外部性：市場は失敗することがあるよ
- ⑩公共部門：政府も失敗するさ
- ⑪GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
- ⑫GDPとは②：何がGDPを決めるか
- ⑬貨幣システム：お金とはなにか
- ⑭復習：練習問題
- ⑮もう一度、経済学とは：人間は合理的か

コリア語 I A

【担当】孫 才喜

【開講】前期 水3

■サブタイトル

韓国語の基礎

■講義概要

1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語の文字（ハングル）を正確に発音するようにする。
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。

■到達目標

1. 日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
2. 韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法

教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだ文法や単語の暗記。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 出席、授業中質問と対答、読み、暗記
小テスト (30%) 宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験 (40%)

■テキスト

入佐信宏、文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』
白帝社 2,500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 外国語として韓国語を週 1 回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■講義計画

- ①言語の意味や歴史と文化との関係
- ②韓国語の起源とハングルの創制ー母音と子音
- ③母音,子音+母音の単語
- ④子音+母音+子音の単語
- ⑤あいさつ、自己紹介
- ⑥日本語カナのハングル表記
発音規則ー連音化
- ⑦主格助詞、イだ (이다) 動詞
- ⑧肯定文（表現）と疑問文（表現）
- ⑨国籍の表現
発音規則ー鼻音化
- ⑩疑問詞の活用と答え
- ⑪親戚の呼び方
- ⑫存在の表現と答え
- ⑬動詞の原型と活用
- ⑭数字の表現ー基数、序数
- ⑮数字の表現の暗記

コリア語 I B

【担当】孫 才喜

【開講】後期 水3

■講義概要

1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語（ハングル）を正確に発音するようにする。
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。
4. 韓国語の数字の使い方を学ぶ。

■到達目標

1. 日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
2. 韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法

教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだ文法や単語の暗記。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 出席、授業中質問と対答、読み
小テスト (30%) 宿題、授業態度、聞取（書き）試験
定期試験 (40%)

■テキスト

入佐信宏、文賢珠共著 『よくわかる韓国語STEP1 CD付』
白帝社 2,500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 外国語として韓国語を週 1 回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

paku@world.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①日常生活、習慣に関する表現ー 1
動詞の不定形ー質問、対答
- ②日常生活、習慣に関する表現ー 2
動詞の不定形ー質問、対答
- ③物の状態に関する表現ー 1 ー形容詞の原型、変形
- ④物の状態に関する表現ー 2 ー形容詞の原型、変形
- ⑤趣味の表現、種類
- ⑥数字の表現、読み方ー日、月、時間、番号
- ⑦毎日生活に関する表現ー日、月、時間、番号、曜日
- ⑧過去表現
- ⑨未来表現
- ⑩買い物の表現ー単位、数え方、お金ー 1
- ⑪買い物の表現ー単位、数え方、お金ー 2
- ⑫韓国の歌
- ⑬韓国の映画
- ⑭韓国のドラマ
- ⑮韓国語と文化の係わり

コリア語 I C

【担当】朴 炫国

【開講】前期 木3

■講義概要

1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して正確に発音するようにする。
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。

■到達目標

1. 日常生活で使われる基本語彙や挨拶を暗記して活用するようにする。
2. 韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法

教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだ文法や単語の暗記。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 出席、授業中質問と対答、読み、暗記。
小テスト (30%) 宿題、授業態度、聞取 (書き) 試験
定期試験 (40%)

■テキスト

延世大学校韓国語学堂 『初めの韓国語の読み方』 延世大学校出版部
教科書は授業時紹介

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 外国語として韓国語を週1回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

paku@world.rykoku.ac.jp、研究室 4 号館331、077.543-7881、(月、金曜日以外の昼ご飯の時間、会議の可能性あり、前以て電話必要)

■講義計画

- ①人間と言語、言語と文化
- ②韓国語の起源とハングルの製作
- ③韓国語の母音と子音
- ④母音の単語－音、書き方、読み方
- ⑤子音の単語－音、書き方、読み方－1
- ⑥子音の単語－音、書き方、読み方－2
- ⑦子音の交替 平音、硬音、濃音 パチム (終声)
- ⑧あいさつ 発音練習－連音化
- ⑨自己生活 発音練習－鼻音化1
- ⑩勉強 発音練習－硬音化
- ⑪家族 発音練習－鼻音化2
- ⑫図書館 発音練習－濃音化1
- ⑬昼ご飯 発音練習－7 終声
- ⑭友達 発音練習－濃音化2
- ⑮買い物 発音練習－激音化

コリア語 I D

【担当】朴 炫国

【開講】後期 木3

■講義概要

1. 韓国語の子音と母音を把握して暗記する。
2. 韓国語と日本語の発音差を認識して韓国語 (ハングル) を正確に発音するようにする。
3. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な会話を言う能力を培う。
4. 韓国語の数字の使い方について学ぶ。

■到達目標

1. 日常生活で使われる基本語彙を暗記して活用するようにする。
2. 韓国語で自己の紹介ができて、相手の自己の紹介を聞いて把握するようにする。
3. 一文章の中で文法的機能を現わす部分の区分ができるようにする。

■講義方法

教科書の内容を読んで、意味を把握して自ら活用するように繰り返し読みながら学習する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだ文法や単語の暗記。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 出席、授業中質問と対答、読み、暗記。
小テスト (30%) 宿題、授業態度、聞取 (書き) 試験
定期試験 (40%)

■テキスト

延世大学校韓国語学堂 『初めの韓国語の読み方』 延世大学校出版部
教科書は授業時紹介

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 外国語として韓国語を週1回勉強してマスターすることは不可能です。毎日繰り返してCDを聞きながら復習と予習をしてください。
2. 積極的に授業に参加して自分の表現に自信感を持つこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

paku@world.rykoku.ac.jp、研究室 4 号館331、077.543-7881、(月、金曜日以外の昼ご飯の時間、会議の可能性あり、前以て電話必要)。

■講義計画

- ①人間と言語、言語と文化、
- ②韓国語の起源とハングルの製作
- ③韓国語の母音と子音 韓国の歌
- ④母音の単語－音、書き方、読み方
- ⑤子音の単語－音、書き方、読み方－1 韓国のドラマ
- ⑥子音の単語－音、書き方、読み方－2
- ⑦子音の交替 平音、硬音、濃音 パチム (終声)、韓国の映画1
- ⑧あいさつ 発音練習－連音化
- ⑨自己生活、発音練習－鼻音化1 韓国の映画2
- ⑩勉強 発音練習－硬音化
- ⑪家族、発音練習－鼻音化2 韓国の食べ物
- ⑫図書館 発音練習－濃音化1
- ⑬昼ご飯 発音練習－7 終声
- ⑭友達、発音練習－濃音化2 韓国の観光
- ⑮買い物の表現 激音化

コリア語セミナーA

【担当】柳 綏美

【開講】前期 水3

■サブタイトル

韓国語

■講義概要

韓国語の丁寧表現や否定の表現、数字の使い方などを扱う。

■到達目標

基礎的な文型と日常会話能力を身に着ける。

■講義方法

講義や練習による授業

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回扱う文法事項や単語などを復習し覚えること

■成績評価の方法

平常点 (20%)

小テスト (30%)

定期試験 (50%)

■テキスト

入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語』 白帝社

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

毎回、ペアー或いはグループで会話練習を行うので積極的に参加すること。

■講義計画

①ヘヨ体 (名詞文)

②漢語系数詞

③年月日の言い方

④ヘヨ体 (存在詞)

⑤電話番号の言い方

⑥固有語系数詞

⑦時間の言い方

⑧ヘヨ体の作り方 (動詞)

⑨助詞「～から」「～まで」

⑩否定形1、曜日

⑪ヘヨ体の練習 (形容詞)

⑫不規則活用1

⑬不規則活用2

⑭否定形2

⑮助詞「場所+から」

⑯期末テスト

コリア語セミナーB

【担当】柳 綏美

【開講】後期 水3

■サブタイトル

韓国語

■講義概要

過去形や用言の不規則活用を主に扱い、状況や場面別の会話練習を行う。

■到達目標

基礎的な文型と日常的な会話能力を身に着ける。

■講義方法

講義と練習による授業

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回習った文法や進出語彙を覚えること。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

小テスト (30%)

定期試験 (50%)

■テキスト

入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語』 白帝社

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

毎回、ペアー或いはグループで会話練習を行うので積極的に参加すること。

■講義計画

①買い物

②食堂

③過形の作り方

④過去形の運用

⑤過去の状態・様子に関する表現

⑥過去の状態の否定

⑦勧誘の表現

⑧動作の目的を表す表現

⑨不規則活用3

⑩勧誘の表現2

⑪意志の表現

⑫願望の表現

⑬願望の表現2

⑭指示に関する表現

⑮依頼に関数r表現

⑯期末テスト

社会学入門

【担当】 渡辺 めぐみ
【開講】 前期 木3

■サブタイトル

社会学とはどのような学問なのか

■講義概要

社会学という学問について、さまざまな事象から解説していきます。
そして、現代の社会問題について、社会学の視点から考えていきます。

■到達目標

社会現象について論理的に思考しよう。
現代の社会問題について自ら考えよう。

■講義方法

原則として講義形式。パワーポイントを使用します。映像資料の上映もあります。

■授業時間外における予・復習等の指示

次のテキストで自習することをおすすめします。講義の理解に役立ちます。
浅野智彦編著『考える力が身につく社会学入門』中経出版 2010年

■成績評価の方法

平常点 (30%) 毎回ミニレポート提出
定期試験 (70%) 配付資料、自作ノートは持ち込み可

■テキスト

特になし

■参考文献

アンソニー・ギデンズ 『社会学』 而立書房 3,780円
そのほか、講義中に指示します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレスを講義中に配布します。

■講義計画

- ①社会学とは何か
- ②教育について考える その1
－学校とは何か
- ③教育について考える その2
－学校と社会のつながり
- ④家族について考える その1
－家族の「当たり前」を見直す
- ⑤家族について考える その2
－ジェンダーとは
- ⑥家族について考える その3
－親子とは
- ⑦家族について考える その4
－結婚とは
- ⑧セクシュアリティについて考える その1
－セクシュアルマイノリティの基礎知識
- ⑨セクシュアリティについて考える その2
－世界のパートナーシップ
- ⑩労働について考える その1
－働く人の権利とは
- ⑪労働について考える その2
－組織について考える
- ⑫「貧困」について考える
- ⑬マスメディアについて考える
- ⑭ナショナリズムについて考える
- ⑮グローバル化について考える

社会学入門

【担当】 渡辺 めぐみ
【開講】 後期 木3

■サブタイトル

社会学とはどのような学問なのか

■講義概要

社会学という学問について、さまざまな事象から解説していきます。
そして、現代の社会問題について、社会学の視点から考えていきます。

■到達目標

社会現象について論理的に思考しよう。
現代の社会問題について自ら考えよう。

■講義方法

原則として講義形式。パワーポイントを使用します。映像資料の上映もあります。

■授業時間外における予・復習等の指示

次のテキストで自習することをおすすめします。講義の理解に役立ちます。
浅野智彦編著『考える力が身につく社会学入門』中経出版 2010年

■成績評価の方法

平常点 (30%) 毎回ミニレポートの提出
定期試験 (70%) 配付資料、自作ノート持ち込み可

■テキスト

特になし

■参考文献

アンソニー・ギデンズ 『社会学』 而立書房 3,780円
そのほか、講義中に指示します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレスを講義中に配布します。

■講義計画

- ①社会学とは何か
- ②教育について考える その1
－学校とは何か
- ③教育について考える その2
－学校と社会のつながり
- ④家族について考える その1
－家族の「当たり前」を見直す
- ⑤家族について考える その2
－ジェンダーとは
- ⑥家族について考える その3
－親子とは
- ⑦家族について考える その4
－結婚とは
- ⑧セクシュアリティについて考える その1
－セクシュアルマイノリティの基礎知識
- ⑨セクシュアリティについて考える その2
－世界のパートナーシップ
- ⑩労働について考える その1
－働く人の権利とは
- ⑪労働について考える その2
－組織について考える
- ⑫「貧困」について考える
- ⑬マスメディアについて考える
- ⑭ナショナリズムについて考える
- ⑮グローバル化について考える

社会思想史入門

【担当】村澤 真保呂

【開講】前期 水2

■サブタイトル

現代社会を理解するための思想史入門

■講義概要

私たちのいる社会は、一朝一夕にできあがったものではありません。人類が誕生して以来、多くの試行錯誤と経験を重ねて、いまの社会の姿ができあがっています。とくに市民革命以降の近代社会は、宗教や王権から解放された人々が、自分たちの理念や理想を掲げてつくりだされたものです。つまり「社会はどのようにあるべきか」という思想にもとづいて社会のさまざまな仕組みが考案されてきたのです。そのような社会の歴史を知るためにも、また社会をつくりあげてきたさまざまな理想の歴史を知るためにも、社会思想史を知ることがきわめて有益であるだけでなく、今後の社会のあり方を考えるために不可欠と言えるでしょう。とりわけ福島原発事故後の日本社会の目も覆うばかりの状況乗り越えるためにも、今後の社会のあり方を若い人たちが考えていく必要に迫られています。

この授業では、古代ギリシアにはじまる西欧の社会思想の歴史を、その時代の社会的・文化的背景の歴史とかさねあわせて理解することをつうじて、現代社会の課題を学生ひとりひとりが自分自身で考察できるようにすることを目的にしています。なお、シラバスに書かれているのはあくまで予定であり、実際には学生諸君の理解度や関心にあわせて内容を変更することがあります。

■到達目標

社会のあり方と思想の関連について理解する。

■講義方法

講義形式を基本としつつ、必要におうじて映像資料や音声資料を利用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に指示。

■成績評価の方法

レポート（20%）

定期試験（80%）

評価基準はあくまで予定であり、授業のなかで学生との対話をつうじて最適な評価方法を決定する。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語や居眠り、途中入室などの授業妨害にたいしては、受講資格の取り消しをはじめ、厳しい処置をとる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業中に指示する。

■講義計画

- ①人間と自然：正義の根拠
- ②古代ギリシア：プラトンとアリストテレス
- ③古代ギリシア：プラトンとアリストテレス（2）
- ④中世神学とミクロコスモス：トマス・アキナス
- ⑤ルネサンスと宗教改革：ルター、エラスムス、トマス・モア
- ⑥国際法の構想：グロティウスとカント
- ⑦近代精神と新しい社会（1）：デカルトとホッブス
- ⑧近代精神と新しい社会（2）：スピノザとライプニッツ
- ⑨近代国家の構想（1）：ルソー
- ⑩近代国家の構想（2）：ロック、モンテスキュー
- ⑪市場の理論：ベンサムからアダム・スミスへ
- ⑫近代社会の矛盾（1）：マルクス
- ⑬近代社会の矛盾（2）：社会学と社会主義
- ⑭現代社会の課題：ポスト近代の理論
- ⑮まとめと補足

社会思想史入門

【担当】森 元斎

【開講】後期 水2

■サブタイトル

現代社会を理解するための思想史入門

■講義概要

私たちのいる社会は、一朝一夕にできあがったものではありません。人類が誕生して以来、多くの試行錯誤と経験を重ねて、いまの社会の姿ができあがっています。とくに市民革命以降の近代社会は、宗教や王権から解放された人々が、自分たちの理念や理想を掲げてつくりだされたものです。つまり「社会はどのようにあるべきか」という思想にもとづいて社会のさまざまな仕組みが考案されてきたのです。そのような社会の歴史を知るためにも、また社会をつくりあげてきたさまざまな理想の歴史を知るためにも、社会思想史を知ることがきわめて有益であるだけでなく、今後の社会のあり方を考えるために不可欠と言えるでしょう。とりわけ福島原発事故後の日本社会の目も覆うばかりの状況乗り越えるためにも、今後の社会のあり方を若い人たちが考えていく必要に迫られています。

この授業では、古代ギリシアにはじまる西欧の社会思想の歴史を、その時代の社会的・文化的背景の歴史とかさねあわせて理解することをつうじて、現代社会の課題を学生ひとりひとりが自分自身で考察できるようにすることを目的にしています。なお、シラバスに書かれているのはあくまで予定であり、実際には学生諸君の理解度や関心にあわせて内容を変更することがあります。

■到達目標

社会のあり方と思想の関連について理解する。

■講義方法

講義形式を基本としつつ、必要におうじて映像資料や音声資料を利用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に指示。

■成績評価の方法

レポート（20%）

定期試験（80%）

評価基準はあくまで予定であり、授業のなかで学生との対話をつうじて最適な評価方法を決定する。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語や居眠り、途中入室などの授業妨害にたいしては、受講資格の取り消しをはじめ、厳しい処置をとる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業中に指示する。

■講義計画

- ①人間と自然：正義の根拠
- ②古代ギリシア：プラトンとアリストテレス
- ③古代ギリシア：プラトンとアリストテレス（2）
- ④中世神学とミクロコスモス：トマス・アキナス
- ⑤ルネサンスと宗教改革：ルター、エラスムス、トマス・モア
- ⑥国際法の構想：グロティウスとカント
- ⑦近代精神と新しい社会（1）：デカルトとホッブス
- ⑧近代精神と新しい社会（2）：スピノザとライプニッツ
- ⑨近代国家の構想（1）：ルソー
- ⑩近代国家の構想（2）：ロック、モンテスキュー
- ⑪市場の理論：ベンサムからアダム・スミスへ
- ⑫近代社会の矛盾（1）：マルクス
- ⑬近代社会の矛盾（2）：社会学と社会主義
- ⑭現代社会の課題：ポスト近代の理論
- ⑮まとめと補足

心理学入門

【担当】 松島 恵介

【開講】 前期 月1

■サブタイトル

心理学諸理論の体系的理解

■講義概要

心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテインメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとするれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。

■到達目標

心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。

■成績評価の方法

その他（100％）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者により単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成

績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

テキストは使用しない。（必要に応じて講義内で資料を配布する）

■参考文献

宝島編集部編 『心理学・入門』 宝島社
大橋ら著 『心理学者、裁判と出会う』 北大路書房
松島著 『記憶の持続 自己の持続』 金子書房

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①「心」概念とその認識の在り方を巡って
- ②科学的方法論と心理学との関係性
- ③心理学的測定論
- ④主観性／客観性という二元論を巡って
- ⑤モチベーションに関する諸理論
- ⑥行動主義の心理学
- ⑦条件付けと行動療法
- ⑧認知心理学概説
- ⑨神経心理学概説
- ⑩発達心理学概説
- ⑪臨床心理学概説
- ⑫フロイト／ユングの理論
- ⑬人格心理学概説
- ⑭社会性と自己との関係性を巡って
- ⑮総括

心理学入門

【担当】 松島 恵介

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

心理学諸理論の体系的理解

■講義概要

心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテインメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとするれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。

■到達目標

心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。

■成績評価の方法

その他（100％）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者により単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成

績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

テキストは使用しない。（必要に応じて講義内で資料を配布する）

■参考文献

宝島編集部編 『心理学・入門』 宝島社
大橋ら著 『心理学者、裁判と出会う』 北大路書房
松島著 『記憶の持続 自己の持続』 金子書房

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①「心」概念とその認識の在り方を巡って
- ②科学的方法論と心理学との関係性
- ③心理学的測定論
- ④主観性／客観性という二元論を巡って
- ⑤モチベーションに関する諸理論
- ⑥行動主義の心理学
- ⑦条件付けと行動療法
- ⑧認知心理学概説
- ⑨神経心理学概説
- ⑩発達心理学概説
- ⑪臨床心理学概説
- ⑫フロイト／ユングの理論
- ⑬人格心理学概説
- ⑭社会性と自己との関係性を巡って
- ⑮総括

スポーツ技術学B

【担当】 種目・開講曜講時による
【開講】 学科により異なる

■講義概要

現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。

- 1) スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
 - 2) スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
 - 3) 自己の体力を分析し、改善策を探索。
- スポーツ技術学は、一年次の履修で、前・後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標

1. スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2. 自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法

より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、1) 1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。2) ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカー、ニュースポーツ、バレーボールの7種目の中から指定された種目を履修する。

■授業時間外における予・復習等の指示

オリエンテーションのときに指示する。

■成績評価の方法

平常点 (70%) 出席と授業参加

レポート (30%) 体力測定に関するレポート

各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

○スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。

○体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画

- ①各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ②各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑫体力測定①
- ⑬体力測定②（体育館に集合）
- ⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については、講義時に指示）

生活の中の化学

【担当】 中沖 隆彦、糟野 潤
【開講】 後期 木3

■講義概要

私たちが現代社会で生活していく上で、化学物質の使用や化学反応は日常いたるところで見られます。普段何気なく使っていて、どうしてこうなるのか?と不思議に思ったことはないでしょうか?本講義では生活に密着した身近なところで見られる化学に関する話や実際の化学製品について化学の知識があまりなくても平易に解説します。例えば毎日身に付けている洋服の素材は?いい香りがするのはなぜ?環境問題はどのようにしているの?といったことをとりあげます。

■到達目標

身の回りのいたるところに見られる「化学」を身近に感じてもらい、化学に対する関心と知識が深まります。

■講義方法

1回の講義でトピックを決めて話をします。演示実験や適宜パワーポイント等の視覚的な教材も使用します。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習に力を入れてください（講義の内容を意識しながら、身の回りにある「化学」を再度見つめて欲しい）。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 毎回小エッセーを授業の終わりに書いてもらいます

定期試験 (70%) 語句説明や論述式問題から評価します。

定期試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

化学の話を肩ひじ張らずにします。講義内容はビギナー向けですので化学の知識がなく化学式が苦手という人でも大歓迎です。より高度な内容を望む学生は他の講義を選択してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業が終わったあとと研究室で行います。

■講義計画

- ①グリーンケミストリー
- ②合成繊維
- ③界面活性剤
- ④空が青いのは?－色の化学－
- ⑤ゲルの化学－砂漠の緑化に役立つ吸水性高分子－
- ⑥香りの化学
- ⑦最先端ディスプレイ－液晶orプラズマ?－
- ⑧中間テスト
- ⑨植物のつくるエネルギー－光合成－
- ⑩微生物発酵でつくられる酒、味噌
- ⑪コスメの化学
- ⑫水の不思議
- ⑬原子力エネルギー
- ⑭ゴムの化学
- ⑮電池の歴史

生活の中の数学

【担当】 國府 宏枝、山岸 義和

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

現代数学のアイデア

■講義概要

高校まではみんなが数学を学んできましたが、大学では縁遠くなってしまいう人が多いかもしれません(統計は使う専攻が多そうですね)。これはとても残念なことで、もう少し進んだ数学には、高校までで出会ったのとは全然違う、新しいアイデアがたくさん出てくるんです。また、数学は入試以外に役に立たない、と思っている人もいますが、そんなことはありません。数学は世の中の現実の問題に深く関わっています。この講義では、高校までで学ばなかったような数学のいろいろな新しいアイデアを、数学が作られてきた動機にもどって、直観のはたらく現実世界を舞台として解説します。この講義に参加して、数学の美しさの一端を感じるとともに、数学が実際に役立つ(こともある)ことを実感しましょう。なお、この科目では、特定の専攻分野のための数学の基礎知識の準備のためのものではありません。

■到達目標

数学の各分野独特の考え方や方法論の一端を感じることで頭が柔らくなるかもしれません。また、現実の問題で、数学を利用して解決できそうかちょっと考えてみるモード、が自分の頭の中に生まれるかもしれません。

■講義方法

担当教員が内容を説明しつつ、講義の参加者に実際に問題を考えてもらいます。その結果を、ときどき、eラーニングシステムで教員に返してもらい、その結果をもとにさらに参加者とともに考えます。

■系統的履修

この科目の前に履修しておくべき科目は特にありません。高校の数学を復習しながら使います。事前にこの科目を履修しておかないと履修できない科目もありますが、この科目で統計学に興味を持った人には「生活の中の統計技術」や「統計入門」、論理に興味を持った人には「論理学入門」、コンピュータに興味を持った人には「情報社会とメディア」や「情報と人間」が教養教育科目の中でお奨めです。

■授業時間外における予・復習等の指示

eラーニングシステムを利用します。

■成績評価の方法

その他(100%)

前半の成績評価と後半の成績評価を合算する。
前半は、レポートと、小テストに基づいて評価する予定。
後半は、レポートと、期末試験に基づいて評価する予定。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

到達目標になるべく近づけるように、講義計画や講義方法の詳細は、受講者数やそこまでの授業の状況に応じて変更することがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

瀬田1号館5階501。

■講義計画

- ①安上がりな高速道路整備－グラフ理論と最小シュタイナー木
- ②一筆書きできる図形でできない図形－グラフ理論
- ③コーヒーカップ＝ドーナツトポロジー
- ④アンサーを変えるのと変えないのどっちが得?－確率のパラドクス
- ⑤バーコードのお話－誤り訂正符号
- ⑥すべてのクレタ人は嘘つき－論理とパラドクス
- ⑦お天気予報とカオス－力学系
- ⑧小テストと解説
- ⑨正方形のタイルと三平方の定理
- ⑩ひまわりの葉序と螺旋タイル
- ⑪ファレ数列、フィボナッチ数列、黄金比、連分数
- ⑫葉序の折り紙
- ⑬結び目
- ⑭ペンローズタイル
- ⑮後半のまとめと解説

生活の中の統計技術

【担当】 樋口 三郎

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

使える統計!

■講義概要

インターネットや携帯電話の通信記録、株価や為替レートの変動、通販サイトの購買履歴など、世の中には大量のデータがありますが、そこからデータの性質を読み取って役立てることは簡単ではありません。この科目では、これらのための技術の集合体である統計を学びます。授業は数学のりです。高等学校1年程度の数学の予備知識を期待します。統計の予備知識は前提としません。統計ではPC特にExcelなどの表計算ソフトやその他の統計ソフトがよく利用されますが、この授業では、授業形式の制約から、ソフトウェアの使用法についてはごく限られた範囲しか説明できません。

■到達目標

1変数または2変数の統計データを理解するためにグラフを描いたり平均や分散や相関係数などの量を求めたりすることができる。データ全体からその一部分だけをサンプルとして抽出して調べ、全体の性質を推定することができる。

■講義方法

週に1回の講義からなる授業です。授業時間内に演習を、授業時間外にeラーニングシステムを利用した学習を行うことがあります。

■系統的履修

本科目は、統計入門、社会統計学、数量的方法入門、確率統計・演習、確率・統計、統計学概論などの科目と内容が重なります。これらの科目の大部分よりも、本科目は初等的な範囲にとどまります。これらの科目を履修済、あるいは履修予定の方は、本科目の履修を思いとどまった方がいいかもしれません。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回自主的に復習を行うことを期待します。
必要な予習は、授業時間内および授業サポート hig3.net で直前の回に指示します。

特に必要な復習は、eラーニングシステム上で行います。授業サポート hig3.net にリンクがあります。

■成績評価の方法

平常点(20%) 予習復習、授業時間内の演習、アンケートやquizへの反応などの合計です。
小テスト(30%) プチテストとよんでいます。1回。
定期試験(50%) ファイナルトライアルとよんでいます。1回。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の情報は授業サポート hig3.net で提供しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業サポート hig3.net を参照してください。

■講義計画

- ①データの分布(記述統計)
- ②データを代表する値
- ③データのちらばりを表す値
- ④標準得点と偏差値
- ⑤2変量データの分布
- ⑥回帰分析
- ⑦確率
- ⑧プチテスト
- ⑨離散的な確率分布
- ⑩連続的な確率分布
- ⑪正規分布
- ⑫中心極限定理
- ⑬母集団と標本・点推定
- ⑭区間推定
- ⑮比率の推定

■サブタイトル

統計数値に騙されないようになろう！

■講義概要

新聞、TV、書物、インターネットなど様々なメディアにおいて統計数値およびそれを加工した統計指標が活用されている。我々はそうした統計数値や統計指標を無批判に信じたり、そこから誤ったイメージをくみ取ったりしがちである。この講義では、①統計とはいかなるものであり、どのようなプロセスで作成されているのかを理解することから出発し、②各種の統計数値や指標を用いた分析結果に惑わされないようするにはどうしたらよいか、③統計を活用する際にはどのような点に留意せねばならないのか、について簡単な数値例を用いながら解説する。

■到達目標

- (1) 統計と統計学の概念や歴史を知る。
- (2) 統計資料の作成プロセスを知り、その段階に含まれる問題点について理解する。
- (3) 社会環境の変化と統計数値の意味の関係について理解する。
- (4) 統計指標、統計数値のグラフ化、統計数値を用いた予測などに潜む問題点について学ぶ。

■講義方法

口述による講義を中心としますが、出席代わりに、その授業の内容に関する練習問題を解いて提出していただくことがあります。そのためルート(√)キー付きの電卓を必ず持参するようにしてください。

■授業時間外における予・復習等の指示

各回の内容は連続性を持っています。前の回の授業を復習してから講義に出席するようにしてください。講義時に資料をプリントとして配布する予定ですが、欠席した方は次の回までにご自分で自助努力で（友人などから）入手し、目を通しておくようにしてください。また、新聞やニュースで数字が語られるときには、それに何か「裏」はないのか考えてみてください。

■成績評価の方法

平常点 (40%)
小テスト (20%)
定期試験 (40%)

■テキスト

特にありません。プリント等を配布します。

参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

統計学=数学というイメージを持つ方が多いのですが、必ずしもそれは正しくありません。実際、この講義で使うのは、加減乗除と $\sqrt{\quad}$ 計算だけです。将来、社会に出ていくみなさんにとって、世間一般でいわれていることを「少し斜めから見る」という態度も必要です（いつもそうでは困りますが）。なお、他の学生の聴講を妨げる行為をした方については退席をお願いすることがありますので、注意してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義開始時に通知します。

■講義計画

- ① ガイダンス・オリエンテーション
- ② 統計とは何か：統計と統計学の歴史、統計体系（古代の人も統計を作った）
- ③ 統計はどう作られているか：統計調査のプロセス（誰が、どうやって作っている?）
- ④ 統計数値は信用できるのかⅠ：調査段階の問題（日本人とは誰ですか?）
- ⑤ 統計数値は信用できるのかⅡ：社会環境の変化と統計数値（交通事故の死者は本当に減っているのですか?）
- ⑥ 記述統計の基礎Ⅰ：代表値とバラツキ（「平均」は平均ではない?）
- ⑦ 記述統計の基礎Ⅱ：データの分布（ゾウの体重とネズミの体重ではどちらがよりバラバラなのか?）
- ⑧ ここまでの復習（小テスト：予定）
- ⑨ 統計指標の信頼性：日本の食料自給率がずつとびったり40%なのですが・・・
- ⑩ 数値のグラフ化に印象操作：新聞によって同じ数字に基づく報道内容が違うのは何故?）
- ⑪ 確率の基礎Ⅰ：3割バターは4打席あれば最低1本はヒットを打つか?
- ⑫ 確率の基礎Ⅱ：宝くじを買うことは合理的か?
- ⑬ 関係性を疑う：相関係数（ジャンクフードで子どもはキレるのか?）
- ⑭ 予測の信頼性：回帰分析（このまあいくと何千年後かに最後の日本人が死ぬらしい）
- ⑮ まとめと試験実施要領の解説

■サブタイトル

身の回りの物理と科学技術

■講義概要

身の回りの科学技術に限っても、その進歩は著しく、益々高度になると共に複雑になり、その仕組みを理解して使うことは益々難しくなっている。それ故に、その基本的な仕組みを知って、正しく使うのみならず、人類の将来に貢献する科学技術の推進のさせ方がより強く求められている。この講義では、誰もが恩恵に浴している科学技術に使われている物理的仕組みを、身の回りの物理現象に注目することから、平易に理解することを目的としている。毎回、話題の一つ取り上げ、ビジュアルな資料提示の手段を採り入れたりすることにより、その物理的現象に興味を持ち注目することから始めて、その物理的仕組みについて理解していく。文科系、理科系の履修にかかわらず、身の回りの物理現象に対する直観的な理解を促進し、科学に対する興味を刺激するようなわかり易い講義を行う。

■到達目標

身の回りの物理現象ならびに科学技術の仕組みと理屈に強く関心を持つようになる。同時に、物理は数少ない基本法則から、論理的に物理現象を解明したり説明したりすること、さらに応用として人に役立つ便利で確実に動作する機械を作るところに特長があるとわかることが講義目標とも言える。

■講義方法

授業計画に示すように、毎回一つのテーマについて、身の回りの自然としての物理現象または科学技術としての物理学の応用例について、直観的な理解が深まるような授業を行う。

■系統的履修

一般に物理関係の科目を受講すると効果的であるはずであるが、論理的に考えることを訓練する科目はすべて役に立つ。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義計画に示したテーマについて、講義の前後に関連する資料（本、新聞・雑誌、インターネットなど何でも可）でもっと詳しく調べて、自分の興味を膨らませていくこと。

■成績評価の方法

平常点（100%）講義を頭と耳と目を使って聴いているか、さらに講義内容を理解しているかを問う小テストにより評価する。原則として毎回実施する。

平常点を小テストで評価することの意味をよく認識してください。講義を聴いて考えているか努力しているか、その度合い、即ち平常点を、小テストで調べます。能力テストではありません。従って、問いに対して、講義内容を用いて自分の言葉で回答してはじめて評価されます。理由が何であれ、講義を聴いていないのですから、遅刻者は小テストを受ける資格はありません。注意する必要はないと思いますが、代筆等の不正行為に対しては関係した者全員が不合格になります。

■テキスト

講義において、主としてPowerPointにより示す内容、さらに他のマルチメディアを使って示す内容

■参考文献

藤城敏幸 『生活の中の物理』 東京教学社 1,800円

広く科学分野の出版物、書籍から科学雑誌、大手の新聞の科学欄の記事に関心を持って読んでください。

■履修上の注意・担当者からの一言

出席しても、耳を貸すだけでは修得できません。教壇で説明していることをしっかり見ながら聞くことが必須です。さらに、その場で考えることが要求されます。また、理解した内容を、説明に適した簡単なスケッチ図やグラフを添えて、的確な文章で表現する努力が評価されます。なお、高等学校で物理を学んでいることを前提にすることはありません。講義の時間に学ぶ基本概念と法則から理解ができるはずと考えてください。勿論、そのためには小中学校で教わった理科と算数と、大学生レベルの日本語と、勉学の努力は前提になります。さらに、成績評価の方法の項に記載した内容に注意してください。

■講義計画

- ①振り子の原理…位置エネルギーと運動エネルギー
- ②てこの原理…支点、力点、作用点
- ③ロケットの仕組み…アポロからスペースシャトル、はやぶさまで
- ④引力と遠心力…人工衛星の話（宇宙ステーションから静止衛星まで）
- ⑤モータと発電機…電気はどこで作られる。電車の話。
- ⑥電波の利用…ラジオ、テレビの話
- ⑦電子レンジの原理…なぜ温まるか、おいしい冷凍食品
- ⑧楽音の周波数の規則、音階、和音…十二平均率音階、純正調音階、和音
- ⑨ギターの弦の振動、たいこの皮の振動…波の伝搬と反射の話
- ⑩温度と熱…物の温まり方、熱の伝わり方
- ⑪トランジスタと半導体…エレクトロニクスの話
- ⑫粒子と波動の2重性…量子力学と特殊相対性理論
- ⑬地球と宇宙…気候変動、オーロラの話
- ⑭電話とインターネット、コンピュータの話
- ⑮携帯電話・スマートホンの仕組みと中身

■サブタイトル

議会制と選挙制度、その歴史と現実

■講義概要

今日、我が国の議会制度は、「熱狂」と「無関心」という相反する問題点を抱えている。今は昔となったとはいえ、「小泉劇場」と称され、いわゆる「小泉チルドレン」（幼稚な名称！）なるものの誕生に始まる「大衆の熱狂」傾向（これはいわゆる「ハシズム」問題へと続いているが）と、反面、棄権者50%近くという低投票率に象徴される「政治的無関心」とが同時進行の状態にある。特定の人気政治家の演説に熱狂しつつも、同時に、国会の現状に失望感と幻滅を抱く国民は少なくない。だが、我々国民を失望させている国会議員たちを選び出したのは他ならぬ、我々国民自身であるという点も忘れてはならない。「一国の政治の現状は、その国民のレベルを如実に反映する」、「国民の知的レベルを超えた政治など持ち得ない」、としばしば指摘される。つまり、失望させられる政治像・政治家像もまた、我々自身の姿という面を否定できない。選挙運動期間中に性犯罪を犯し、後にそれに因り辞職し有罪判決を受けた破廉恥なタレントに200万を超える票を投じ、知事の座につけたのは誰であったのか、考えてみられたい。「国会で所信表明演説を行った直後に辞意表明するようなお粗末な総理大臣」（当該人物はまたもや首相になってしまった！）、「マンガのみを愛読し中学生程度の漢字読解力すら欠如した総理大臣」（当該人物は今度は副総理になってしまった！）を選んだのはどこの国の国会議員たちであったのか、その国会議員を選んだのは誰であったのか！

この講義では、現代民主主義にとって不可欠な制度となった議会制を主たる対象とし、議会制にとって不可欠な制度である選挙制度の原理や歴史、そして現代日本の政治の現状について考える。我が国の主権者たる国民は、本人の専攻・社会的立場に関わりなく選挙に際して等しく1票を有する。そうした国民有権者が、政治に参加するに際して最小限知っておくべき知識・判断基準の授受を目標とする。

■到達目標

この講義では、龍谷大学建学の理念の一たる「共生」の精神に則り、その精神を体现しつつ、政治におけるいかなる「タブー」も打破することを念頭においている。特定の政党・団体だけを支持・宣伝あるいは非難・攻撃することは無いのはもちろんだが、同時に、特定の政党・団体に遠慮することもない。政治に関わるすべての組織について、忌憚らない批評・批判を行い、時として内幕暴露も行う。一国民たる我々は、権力を持つ者たちに対して、常に「批判的精神」を抱くことが絶対に必要であるからだ。

仮に、講義の内容に関して、特定政党・団体に関係する学生諸君から苦情が呈せられるような事態が生じるにせよ、決して門前払いなどにはせず、当該学生諸君との「共生」をめざし、相互寛容の精神を以て、冷静かつ真摯な姿勢で対話を行うであろう。370年の歴史と伝統を有する龍谷大学において、共生の精神に基づき、いかなる圧力にも屈することなく、「学問の自由」「言論の自由」「思想信条の自由」擁護を貫徹し、政治上、如何なる立場にも左右されることのない、「タブー打破」を掲げた講義とする。

様々な考え方を持つ者が「共生」すること、こうした相互の寛容こそが、政治世界のみならず現代社会に求められるものであり、それこそが龍谷大学建学の理念である。意見が異なる者であっても、非難・抗議・敵視・排除するのではなく、互いに寛容の精神を持ち、「共生」することが龍谷大学人として望ましい姿であらうし、そうした姿勢こそが卒業後、一般社会人として高い評価を受けることにもなると考える。”Nobody is Right”！

■講義方法

通常の講義（口述）形式で行う。講義で話したことを、各自、頭で整理しつつノートをとってもらいたい。高校の授業とは違って、講義内容のすべてを板書するわけではないことに留意されたい。

尚、シラバスは一つの目安であり、必要に応じて入れ替えなど、状況によって最適と思われる形で講義を運営する方針であることを事前了解してもらいたい。

■系統的履修

法学入門、日本国憲法など

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に指示する

■成績評価の方法

定期試験（100%）論述式試験。

例年、受講生多数につき、出席調査などは不可能である。従って、出席点加算や講義中の小テスト、レポート提出などは一切行わない。

■テキスト

特になし

参考文献

必要に応じて、講義中に紹介する。但し、「これ1冊ですべて理解可能」といったような安直な本など存在しないことに留意されたい。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語、居眠り、マンガなどを読むことなど絶対厳禁。携帯電話・メールの使用も絶対に認めない。教壇上から見渡せば、使用している姿は一目瞭然であり、注意を受ける前にあらかじめ電源を切っておくこと。態度の悪い者には、退堂を命じることもあるので、あらかじめ留意の上、登録履修されたい。

■講義計画

- ①はじめに～講義内容の説明・講義方針と「諸注意事項」の伝達
- ②議会制や選挙制度の基本原則、さまざまな矛盾点など
- ③参議院の選挙制度①～過去：全国区
- ④参議院の選挙制度②～過去：拘束名簿式比例代表制
- ⑤参議院の選挙制度③～現在：非拘束名簿式比例代表制
- ⑥衆議院の選挙制度①～過去：中選挙区制
- ⑦衆議院の選挙制度②～現在：小選挙区比例代表並立制
- ⑧戦後日本の政治体制～「五五年体制」の成立とその意味
- ⑨「五五年体制」の実態
- ⑩「五五年体制」の功罪～自民党長期政権の光と影
- ⑪連立政権時代の到来とその特質
- ⑫自民政権の崩壊と民主党政権の成立 一政権交代
- ⑬民主党政権の功罪、民主党政権崩壊の要因
- ⑭衆参両院のいわゆる「ねじれ」状態について
- ⑮まとめ－現代日本政治の諸問題

■サブタイトル

議会制と選挙制度、その歴史と現実

■講義概要

今日、我が国の議会制度は、「熱狂」と「無関心」という相反する問題点を抱えている。今は昔となったとはいえ、「小泉劇場」と称され、いわゆる「小泉チルドレン」（幼稚な名称！）なるものの誕生に始まる「大衆的熱狂」傾向（これはいわゆる「ハシズム」問題へと続いているが）と、反面、棄権者50%近くという低投票率に象徴される「政治的無関心」とが同時進行の状態にある。特定の人気政治家の演説に熱狂しつつも、同時に、国会の現状に失望感と幻滅を抱く国民は少なくない。だが、我々国民を失望させている国会議員たちを選び出したのは他ならぬ、我々国民自身であるという点も忘れてはならない。「一国の政治の現状は、その国民のレベルを如実に反映する」、「国民の知的レベルを超えた政治など持ち得ない」、としばしば指摘される。つまり、失望させられる政治像・政治家像もまた、我々自身の姿という面を否定できない。選挙運動期間中に性犯罪を犯し、後にそれに因り辞職し有罪判決を受けた破廉恥なタレントに200万を超える票を投じ、知事の座につけたのは誰であったのか、考えてみられたい。「国会で所信表明演説を行った直後に辞意表明するようなお粗末な総理大臣」（当該人物はまたもや首相になってしまった！）、「マンガのみを愛読し、中学生程度の漢字読解力すら欠如した総理大臣」（当該人物は今度は副総理になってしまった！）を選んだのはどこの国の国会議員たちであったのか、その国会議員を選んだのは誰であったのか！

この講義では、現代民主主義にとって不可欠な制度となった議会制を主たる対象とし、議会制にとって不可欠な制度である選挙制度の原理や歴史、そして現代日本の政治の現状について考える。我が国の主権者たる国民は、本人の専攻・社会的立場に関わりなく選挙に際して等しく1票を有する。そうした国民有権者が、政治に参加するに際して最小限知っておくべき知識・判断規準の伝授を目標とする。

■到達目標

この講義では、龍谷大学建学の理念の一たる「共生」の精神に則り、その精神を体現しつつ、政治におけるいかなる「タブー」も打破することを念頭においている。特定の政党・団体だけを支持・宣伝あるいは非難・攻撃することは無いのももちろんだが、同時に、特定の政党・団体に遠慮することもない。政治に関わるすべての組織について、忌憚のない批評・批判を行い、時として内幕暴露も行う。一国民たる我々は、権力を持つ者たちに対して、常に「批判的精神」を抱くことが絶対に必要であるからだ。

仮に、講義の内容に関して、特定政党・団体に関係する学生諸君から苦情が呈せられるような事態が生じるにせよ、決して門前払いなどにはせず、当該学生諸君らとの「共生」をめざし、相互寛容の精神を以て、冷静かつ真摯な姿勢で対話を行うであろう。370年の歴史と伝統を有する龍谷大学において、共生の精神に基づき、いかなる圧力にも屈することなく、「学問の自由」「言論の自由」「思想信条の自由」擁護を貫徹し、政治上、如何なる立場にも左右されることのない、「タブー打破」を掲げた講義とする。

様々な考え方を持つ者が「共生」すること、こうした相互の寛容さこそが、政治世界のみならず現代社会に求められるものであり、それこそが龍谷大学建学の理念である。意見が異なる者であっても、非難・抗議・敵視・排除するのではなく、互いに寛容の精神を持ち、「共生」することが龍谷大学人として望ましい姿であろうし、そうした姿勢こそが卒業後、一般社会人として高い評価を受けることにもなると考える。”Nobody is Right”！

■講義方法

通常の講義（口述）形式で行う。講義で話したことを、各自、頭で整理しつつノートをとってもらいたい。高校の授業とは違って、講義内容のすべてを板書するわけではないことに留意されたい。

尚、シラバスは一つの目安であり、必要に応じて入れ替えなど、状況によって最適と思われる形で講義を運営する方針であることを事前了解してもらいたい。

■系統的履修

法学入門、日本国憲法など

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に指示する

■成績評価の方法

定期試験（100%）論述式試験

例年、受講生多数につき、出席調査などは不可能である。従って、出席点加算や講義中の小テスト、レポート提出などは一切行わない。

■テキスト

特になし

■参考文献

必要に応じて、講義中に紹介する。但し、「これ1冊ですべて理解可能」といったような安直な本など存在しないことに留意されたい。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語、居眠り、マンガなどを読むことなど絶対厳禁。携帯電話・メールの使用も絶対に認めない。教壇上から見渡せば、使用している姿は一目瞭然であり、注意を受ける前にあらかじめ電源を切っておくこと。態度の悪い者には、退室を命じることもあるので、あらかじめ留意の上、登録履修されたい。

■講義計画

- ①はじめに～講義内容の説明・講義方針と「諸注意事項」の伝達
- ②議会制や選挙制度の基本原則、さまざまな矛盾点など
- ③参議院の選挙制度①～過去：全国区
- ④参議院の選挙制度②～過去：拘束名簿式比例代表制
- ⑤参議院の選挙制度③～現在：非拘束名簿式比例代表制
- ⑥衆議院の選挙制度①～過去：中選挙区制
- ⑦衆議院の選挙制度②～現在：小選挙区比例代表並立制
- ⑧戦後日本の政治体制～「五五年体制」の成立とその意味
- ⑨「五五年体制」の実態
- ⑩「五五年体制」の功罪～自民党長期政権の光と影
- ⑪連立政権時代の到来とその特質
- ⑫自民政権の崩壊と民主党政権の成立 一政権交代
- ⑬民主党政権の功罪、民主党政権崩壊の要因
- ⑭衆参両院のいわゆる「ねじれ」状態について
- ⑮まとめ～現代日本政治の諸問題

■講義概要

中国語 I Bは、中国語 I Aを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標

ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法

講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修

中国語ⅠA、ⅠCとⅠD及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 授業への出席状況、宿題、授業態度
小テスト (70%)

■テキスト

竹山相哲「ほか」共著『超入門中国語』 晃洋書房

参考文献

※授業中に提示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つめましょう。

■講義計画

講義時に指示します。

中国語 I C

【担当】張 健同
【開講】前期 水3

■講義概要

中国語ⅠCは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《1冊めの中国語(会話クラス)》という教材を使います。それにより基本的な文法と簡単な日常会話を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標

正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法

繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習と宿題をしっかりとってください。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
小テスト (70%)
出席 (10%)、宿題 (20%)、小テスト (70%) 合計100点満点
で評価します。

■テキスト

劉穎（ほか）『1冊めの中国語（会話クラス）』 白水社
2415円

参考文献

参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言

中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく

勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみならずには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画

- ① 発音 1
- ② 発音 2
- ③ 発音 3
- ④ 第一課：1、人称代詞；2、“是”；3、“不是”；4、副詞“也”“都”“不”
- ⑤ 第二課：5、指示代詞－中国語の「こそあと」；6、“吗”疑問文；7、反復疑問文
- ⑥ 第三課：8、形容詞文；9、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
- ⑦ 第四課：12、“的”（日本語の「の」）；13、“的”後の名詞省略；14、親族呼称；15、“的”が省略される条件
- ⑧ 第五課：16、前置詞“在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
- ⑨ 第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞“几”；22、“呢”
- ⑩ 第七課：23、モノを数える；24、“有”（動詞「もつ」）；25、“二”と“兩”
- ⑪ 第八課：26、“有”（動詞「ある／いる」）；27、“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
- ⑫ 第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么”と“那么”
- ⑬ まとめ 1
- ⑭ まとめ 2
- ⑮ まとめ 3

中国語 I C

【担当】 韓 正愛

【開講】 前期 水4

■講義概要

中国語 I Cは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標

中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることを目標としています。

■講義方法

講義毎にテーマを設定し、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合がありますが、その都度、先生が学習者の発音の誤りや表現を直す法式をとります。ショーテストも実施しますが、実施日時は講義中にお知らせします。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 授業への出席状況、宿題、授業態度
定期試験 (50%)

■テキスト

内田慶市ほか 『中国語への道』 金星堂 2,380円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①ピンイン母音
- ②ピンイン子音
- ③第1課 会話と要点
- ④第1課 練習
- ⑤第2課 会話と要点
- ⑥第2課 練習
- ⑦第3課 会話と要点
- ⑧第3課 練習
- ⑨第4課 会話と要点
- ⑩第4課 練習
- ⑪第5課 会話と要点
- ⑫第5課 練習
- ⑬第6課 会話と練習
- ⑭第6課 練習
- ⑮まとめ

中国語 I C

【担当】 張 健同

【開講】 前期 水4

■講義概要

中国語 I Cは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《1冊めの中国語(会話クラス)》という教材を使います。それにより基本的な文法と簡単な日常会話を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標

正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法

繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習と宿題をしっかりとやってください。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
小テスト (70%)
出席 (10%)、宿題 (20%)、小テスト (70%) 合計100点満点で評価します。

■テキスト

劉穎 (ほか) 『1冊めの中国語(会話クラス)』 白水社 2,415円

■参考文献

参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言

中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはあり

ません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦するようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画

- ①発音1
- ②発音2
- ③発音3
- ④第一課: 1、人称代詞; 2、“是”; 3、“不是”; 4、副詞“也”“都”“不”
- ⑤第二課: 5、指示代詞—中国語の「こそあど」; 6、“吗”疑問文; 7、反復疑問文
- ⑥第三課: 8、形容詞文; 9、“很”; 10、形容詞の否定; 11、形容詞疑問文
- ⑦第四課: 12、“的”(日本語の「の」); 13、“的”後の名詞省略; 14、親族呼称; 15、“的”が省略される条件
- ⑧第五課: 16、前置詞“在”; 17、いくつかの疑問詞; 18、疑問詞疑問文
- ⑨第六課: 19、数の数え方; 20、年月日、曜日の言い方; 21、疑問詞“几”; 22、“呢”
- ⑩第七課: 23、モノを数える; 24、“有”(動詞「もつ」); 25、“二”と“两”
- ⑪第八課: 26、“有”(動詞「ある／いる」); 27、“在”(動詞「ある／いる」); 28、“什么地方”
- ⑫第九課: 29、“怎么”; 30、“为什么”; 31、“这么”と“那么”
- ⑬まとめ1
- ⑭まとめ2
- ⑮まとめ3

哲学入門

[担当] 渡邊 華月

[開講] 後期 月3

■サブタイトル

倫理観の根を求めての序章

■講義概要

哲学は自然、人間、社会を考えるうえでの一貫した道筋を見いだそうと、模索を続けながら受け継がれてきた、二千数百年以上の歴史をもつ営為である。難解で日常生活に関係ないイメージをもたれがちであるが、実は人間の生き方を問うていくことに直結するものでもある。「どう生きていくか」を問うことは「よく生きること」、つまりわれわれがよって立つ「倫理観」の根を求めることである。「倫理観の根を求めて」問いを發し、筋道立てて考える、そうした訓練の「序章」に本講座がなればよいと考える。一人一人がただ受動的に聞くだけでなく、「自ら考える」姿勢をもって積極的に参加してほしい。

■到達目標

答をすぐに求めるのではなく、問いを立てて考える姿勢を身につけてほしい。

■講義方法

講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布するが、詳細講義資料はホームページに掲載する【サイト名：せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。詳細資料を読み上げ、補足する形で講義を進めるが。詳細資料は配布しないので、各自必要に応じてダウンロードやプリントアウトしておくことが望ましい。また期間中三回、講義時間中に各自の考えをまとめて書くミニレポートを実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料には目を通してほしい。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 講義中に実施するミニレポートの評価／詳細は講義中に指示する。
レポート (50%) 学期末に提出を求めるメインレポート／詳細は講義中に指示する。

ミニレポートのテーマは実施当日に講義中で伝えるが、実施に先立ち前週の木曜日にホームページにも公開する。レポート実施当日にやむを得ず参加できない場合、ホームページでテーマ、提出要項を確認のうえ最終締切日までに提出すること。

■テキスト

特になし

■参考文献

各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

添付ファイル（所定ファイルはホームページからダウンロードすること）でのレポート提出→7_7@moon-the.biz[受取確認が自動返信メールで来ます。自動返信メールが来ない場合は上記Yahooメールアドレスに送信しなおしてください。]

■講義計画

- ①導入／哲学とは？
- ②変わらないものを求めて／タレス～原子論
- ③ソフィストとソクラテス
- ④快楽と幸福／古代ギリシアおよびヘレニズム期の哲学
- ⑤ミニレポート①
- ⑥性格の責任は自分にある？／アリストテレス
- ⑦究極の自由／プロティノス～アウグスティヌス
- ⑧ルネサンスから近代へ／機械論的自然観の形成
- ⑨ミニレポート②
- ⑩カントと純粹理性
- ⑪カントと道徳
- ⑫ニーチェと永劫回帰
- ⑬ミニレポート③
- ⑭私の成功は私の力？／ロールズ
- ⑮まとめ

哲学入門

[担当] 渡邊 華月

[開講] 前期 水3

■サブタイトル

自然観を中心として

■講義概要

哲学は二千数百年以上の昔より、自然万物の根源について思いをはせてきた。自然というものは「環境」というわれわれをとりまくものとしてもとらえられるが、われわれもその一部であり、われわれの生き方のモデルを提供しうるものでもあるだろう。われわれの生き方を探る視点と併せて自然というものを今一度とらえ直してみてもどうか。環境問題や自然科学にも目を向けながら、受講者自らも考える機会を提供するひとときとしていきたい。

■到達目標

答をすぐに求めるのではなく、問いを立てて考える姿勢を身につけてほしい。

■講義方法

講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布するが、詳細講義資料はホームページに掲載する【サイト名：せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。詳細資料を読み上げ、補足する形で講義を進めるが。詳細資料は配布しないので、各自必要に応じてダウンロードやプリントアウトしておくことが望ましい。また期間中三回、講義時間中に各自の考えをまとめて書くミニレポートを実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料には目を通してほしい。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 講義中に実施するミニレポートの評価／詳細は講義中に指示する。
レポート (50%) 学期末に提出を求めるメインレポート／詳細は講義中に指示する。

ミニレポートのテーマは実施当日に講義中で伝えるが、実施に

先立ち前週の木曜日にホームページにも公開する。レポート実施当日にやむを得ず参加できない場合、ホームページでテーマ、提出要項を確認のうえ最終締切日までに提出すること。

■テキスト

特になし

■参考文献

各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

添付ファイル（所定ファイルはホームページからダウンロードすること）でのレポート提出→6_6@moon-the.biz[受取確認が自動返信メールで来ます。自動返信メールが来ない場合は上記Yahooメールアドレスに送信しなおしてください。]

■講義計画

- ①導入／哲学とは？
- ②古代原子論の挑戦
- ③プラトンの自然観
- ④アリストテレスの自然観
- ⑤ミニレポート①
- ⑥ストア派の自然観
- ⑦自由と必然をめぐる／プロティノス～アウグスティヌス
- ⑧ルネサンスの自然観
- ⑨ミニレポート②
- ⑩西洋近代の自然観（デカルト・ニュートン）
- ⑪カントの自然観
- ⑫カント的道徳法則にのっとりエコロジーを考える
- ⑬ミニレポート③
- ⑭ニーチェとインド思想
- ⑮まとめ

哲学入門

[担当] 渡邊 華月

[開講] 後期 水3

■サブタイトル

自然観を中心として

■講義概要

哲学は二千数百年以上の昔より、自然万物の根源について思いをはせてきた。自然というものは「環境」というわれわれをとりまくものとしてもとらえられるが、われわれもその一部であり、われわれの生き方のモデルを提供しうるものでもあるだろう。われわれの生き方を探る視点と併せて自然というものを今一度とらえ直してみてもどうか。環境問題や自然科学にも目を向けながら、受講者自らも考える機会を提供するひとときとしていきたい。

■到達目標

答をすぐに求めるのではなく、問いを立てて考える姿勢を身につけてほしい。

■講義方法

講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布するが、詳細講義資料はホームページに掲載する【サイト名：せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。詳細資料を読み上げ、補足する形で講義を進めるが。詳細資料は配布しないので、各自必要に応じてダウンロードやプリントアウトしておくことが望ましい。また期間中三回、講義時間中に各自の考えをまとめて書くミニレポートを実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料には目を通しておいてほしい。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 講義中に実施するミニレポートの評価／詳細は講義中に指示する。

レポート (50%) 学期末に提出を求めるメインレポート／詳細は講義中に指示する。

ミニレポートのテーマは実施当日に講義中で伝えるが、実施に

先立ち前週の木曜日にホームページにも公開する。レポート実施当日にやむを得ず参加できない場合、ホームページでテーマ、提出要項を確認のうえ最終締切日までに提出すること。

■テキスト

特になし

■参考文献

各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

添付ファイル（所定ファイルはホームページからダウンロードすること）でのレポート提出→6_6@moon-the.biz[受取確認が自動返信メールで来ます。自動返信メールが来ない場合は上記Yahooメールアドレスに送信しなおしてください。]

■講義計画

- ①導入／哲学とは？
- ②古代原子論の挑戦
- ③プラトンの自然観
- ④アリストテレスの自然観
- ⑤ミニレポート①
- ⑥ストア派の自然観
- ⑦自由と必然をめぐる／プロティノス～アウグスティヌス
- ⑧ルネサンスの自然観
- ⑨ミニレポート②
- ⑩西洋近代の自然観（デカルト・ニュートン）
- ⑪カントの自然観
- ⑫カント的道徳法則にのっとりエコロジーを考える
- ⑬ミニレポート③
- ⑭ニーチェとインド思想
- ⑮まとめ

ドイツ語 I A

[担当] 青山 豊

[開講] 前期 月2

■サブタイトル

ドイツを知るための第一歩

■講義概要

ドイツ語というヨーロッパの言語を学ぶことによって、日本語や英語による表現や発想に基づくものとは異なる文化があることを実感し、ドイツ語圏の国々に対する視野を広げ理解を深めることを目標とする。この I A の授業では、ことばの学習の第一歩である発音と日常の挨拶からはじめて、さまざまな場面におけるやり取りや自己紹介、状況の説明、さらには平易なドイツ語文の理解へと進めていく。この段階では文法的なポイントにはあまりこだわらず、ドイツ人が普段の生活で話しているなまのことばとしてのドイツ語をそのまま受け入れればよい。授業ではドイツ語を聞き、それを真似て発音することに重きを置く。特に表現力をつけるためにドイツ語 I C を併せて履修することを強くすすめる。

■到達目標

「ことば」を学ぼううちに、ドイツ人の生活や文化にも目が向くようになり、現代のドイツやヨーロッパに対する認識もあらたなものとなるだろう。

■講義方法

テキストの音声を手回聞きながら授業を進める。

■系統的履修

ドイツ語 I C（特にドイツ語を総合的に理解するために、この科目との同時履修が望ましい。）

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回短時間でも予習と復習をすること。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席を重視する

小テスト (50%)

■テキスト

小野寿美子 他『クロイツング ネオ』朝日出版社 2,500円

■参考文献

辞書等については授業中に説明する。

■履修上の注意・担当者からの一言

C D を用いてドイツ語を聞き取る努力をしてほしい。質問や相談事がある場合には遠慮なくどうぞ。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画

- ①アルファベート
- ②綴りと発音
- ③自己紹介
- ④国名
- ⑤趣味は漫画
- ⑥職業
- ⑦フランクフルト中央駅で
- ⑧小テスト
- ⑨家族
- ⑩エコ先進国
- ⑪チューリヒの町で
- ⑫ホテルに宿泊
- ⑬文法の補足
- ⑭同上
- ⑮小テスト

ドイツ語 I A

【担当】 呉 春吉

【開講】 前期 月3

■講義概要

この授業は、初めてドイツ語を学習する人を対象とし、ドイツ語のアルファベットの読み方、発音、簡単な挨拶というような基礎的なことから始めます。テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味のもてる内容のテキストがバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりとすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。

■到達目標

「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法

各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。ドイツに関するビデオなども観る予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。

■成績評価の方法

平常点（40%）
定期試験（60%）
出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による平常点（40%）と期末試験（60%）を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト

小野寿美子 『クロイツングネオ』 朝日出版社
辞書等については授業中に紹介します。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画

- ①ドイツ語の発音アウトライン
- ②挨拶表現
- ③動詞の現在人称変化
- ④sein と haben
- ⑤名詞の性、冠詞
- ⑥定冠詞と名詞の格変化
- ⑦不定冠詞と名詞の格変化
- ⑧不規則動詞の現在人称変化
- ⑨人称代名詞の格変化
- ⑩命令形
- ⑪名詞の複数形
- ⑫不定冠詞類、定冠詞類
- ⑬前置詞の格支配
- ⑭分離動詞
- ⑮前期のまとめ

ドイツ語 I B

【担当】 青山 豊

【開講】 後期 月2

■サブタイトル

ドイツを知るための第一歩

■講義概要

ドイツ語をととしてドイツ語圏および周辺諸国に目を向けられるようになるための手段、またEUの時代をむかえた新しいヨーロッパに対する理解への手がかりとしてこのIBの授業を位置付ける。この授業では内容的にはIAを引き継ぎながらも、たとえばワク構造や副文といったドイツ語らしい文の構造を学ぶことによって、日本語や英語とは異なる思考のあり方に気づくことになる。またそれと同時に、辞書をひきながらドイツ語の文章を読み解いていく知的な喜びを味わうこともできるようになる。特に表現力をつけるためにドイツ語IDを併せて履修することを強くすすめる。

■到達目標

「ことば」を学ぼううちに、ドイツ人の生活や文化にも目が向くようになり、現代のドイツやヨーロッパに対する認識もあらたなものとなるだろう。

■講義方法

テキストの音声を毎回聞きながら授業を進める。

■系統的履修

ドイツ語ID（特にドイツ語を総合的に理解するために、この科目との同時履修が望ましい。）

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回短時間でも予習と復習をすること。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席を重視する
小テスト（50%）

■テキスト

小野寿美子 他『クロイツング ネオ』朝日出版社 2,500円

■参考文献

辞書等については授業中に説明する。

■履修上の注意・担当者からの一言

CDを用いてドイツ語を聞き取る努力をしてほしい。質問や相談事がある場合には遠慮なくどうぞ。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画

- ①映画を見に行きたい
- ②ドイツ映画の現在
- ③大学の教室で
- ④私の願い
- ⑤食べ物
- ⑥昨日 今日 明日
- ⑦ドイツ人とパン
- ⑧小テスト
- ⑨負の遺産
- ⑩オペラ鑑賞
- ⑪音楽
- ⑫ホテル
- ⑬数詞
- ⑭文法の補足
- ⑮小テスト

■講義概要

この授業は、ドイツ語Ⅱで習得した知識を踏まえた上で、さらに様々な動詞表現、時制等を学びます。テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味のもてる内容のテキストがバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりとすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしていきましょう。

■到達目標

「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法

各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。ドイツに関するビデオなども観る予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。

■成績評価の方法

平常点 (40%)
定期試験 (60%)
出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による平常点 (40%)
と期末試験 (60%) を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト

小野寿美子 『クロイツングネオ』 朝日出版社 2,500円
辞書等については授業中に紹介します。

参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画

- ①前期の復習
- ②話法の助動詞
- ③従属接続詞と副文
- ④形容詞の格変化
- ⑤zu不定詞
- ⑥動詞の3基本形 (1)
- ⑦動詞の3基本形 (2)
- ⑧現在完了形 (1)
- ⑨現在完了形 (2)
- ⑩過去形
- ⑪再帰代名詞と再帰動詞
- ⑫形容詞、副詞の比較
- ⑬関係代名詞 (1)
- ⑭関係代名詞 (2)
- ⑮総復習

■サブタイトル

ドイツ語文法

■講義概要

文法とドイツ語による表現を学ぶ。文法の学習というとは無味乾燥というイメージを持つかもしれないが、外国語をマスターするにはこれが早道であり合理的でもある。授業では、必要最小限の文法規則を繰り返し学習することによって自分のものとしたうえで、受講生各自が、それをを用いて自分の思うところをドイツ語で表現できるようにしたい。

■到達目標

まとまった内容のドイツ語文が正確に読めるようになる。

■講義方法

受講生の理解度を確認しながら、ゆっくり進めていく。

■系統的履修

ドイツ語 I A

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回少しずつでも予習復習をすること。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席を重視する
小テスト (50%)

■テキスト

清野智明 『ドイツ語の時間＜話すための文法＞改訂版』 朝
日出版社 2,200円

参考文献

授業中に説明する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレス : qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画

- ①文字と発音
- ②同上
- ③動詞の現在人称変化
- ④名詞の格変化
- ⑤規則動詞
- ⑥不規則動詞
- ⑦前置詞
- ⑧小テスト
- ⑨副文
- ⑩再帰動詞
- ⑪人称代名詞
- ⑫冠詞類
- ⑬分離動詞
- ⑭補足
- ⑮小テスト

– 51 –

ドイツ語 I D

[担当] 永井 達夫

[開講] 後期 水3

■サブタイトル

テキスト、インターネット、DVDなどを使って、多角的に学習するドイツ語、文法編（後半部分）

■講義概要

ドイツ語 I C の続きです。授業の概要は I C と同じです。以下は繰り返になります。

「語学を本気で学ぼうと思えば、文法的な理解は欠かせません。この講義ではドイツ語の文法を最初歩（I C の続き）から順を追って積み上げていきます。ドイツ語は、ドイツのほか、オーストリア、スイスでも話されています。それらの国のことも DVD などを使って学んでいきましょう。ドイツ語圏の音楽、映画なども取り上げたいと思っています。」

■到達目標

引き続き、ドイツ語文法の基礎を身につけます。文法のための文法ではなく、いわゆる使える文法を習得します。

■講義方法

講義の進行は教科書に従っていきます。映像教材は提出するレポートの資料となるのでしっかり見るようにしてください。

■系統的履修

必修ではありませんが、平行して開講されるドイツ語の授業を取るのが理想的です。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に随時指示します。

■成績評価の方法

小テスト（70%）中間テストを11月に、期末テストは1月に、ともに授業中に実施します

レポート（30%）3回の小レポートがあります。これが平常点になります

総得点で60%以上が合格です。3分の2以上の出席が必要です。遅刻2回につき欠席1回に換算しますので、注意してください。

■テキスト

清野智昭『ドイツ語の時間 改訂版』朝日出版社 2,200円

■参考文献

必要があれば、授業のなかで紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

後期になって学習の速度が少し上がりますが、予習復習をしっかりしてついてきてください。ドイツ語 I C を履修せずにこの講義を取る学生は、開講時までに自分で前期の範囲を学習しておくことが前提となります。後期も引き続きレポートなどの課題をたくさん出します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

開講時に連絡方法を言います。

■講義計画

- ①前学期の復習／スイス 1
- ②Lektion 7 zu 不定詞／スイス 2
- ③Lektion 7 分離動詞／スイス 3
- ④Lektion 7 話法の助動詞／スイス 4
- ⑤Lektion 8 過去形／ハイディ 1
- ⑥Lektion 8 完了形／ハイディ 2
- ⑦Lektion 8 受動態／ハイディ 3
- ⑧中間テストを予定
- ⑨Lektion 9 形容詞の格変化／ハイディ 4
- ⑩Lektion 9 比較級／リヒテンシュタイン侯国
- ⑪Lektion 10 関係代名詞／ドイツのクリスマス
- ⑫Lektion 10 命令形／DVDで見る世界遺産 1
- ⑬Lektion 11 接続法／DVDで見る世界遺産 2
- ⑭Lektion 11 接続法、続き／後期の総復習
- ⑮学期末テストを予定

ドイツ語セミナーA

[担当] 青山 豊

[開講] 前期 月4

■サブタイトル

ドイツ語力アップ

■講義概要

これまでに学んだドイツ語の知識を整理確認して、次のステップへ進む。取り組みやすい平易なドイツ語のテキストを用いて読解力や表現力を養成する。

■到達目標

インターネットなどのドイツ語情報を正しくキャッチできるようになる。

■講義方法

マンツーマンの対話的授業にしたい。

■系統的履修

I A I B I C I D のいずれかを履修済みであることが受講の条件。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の予習と復習が必要。

■成績評価の方法

平常点（50%）

その他（50%）

平常点（50%）と授業への熱意（50%）を総合して評価する。

■テキスト

橋本政義『フィール シュパース<Ver.3>』郁文堂 2,400円

■参考文献

I A I B または I C I D で使用したテキストを授業に持参するとよい。

■履修上の注意・担当者からの一言

I A I B I C I D のうち1単位以上修得済みであることを受講の条件とするが、授業の内容は初級から中級への橋渡しである。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画

- ①ベルリン大好き
- ②ワールドサッカー
- ③ビール一杯
- ④ドイツ人とパン
- ⑤グリム童話
- ⑥アウトバーン
- ⑦環境保護
- ⑧小テスト
- ⑨人気バンド Tokio Hotel
- ⑩色で表すドイツの政治
- ⑪手紙
- ⑫再生可能エネルギー
- ⑬補足
- ⑭補足
- ⑮小テスト

ドイツ語セミナーB

【担当】 青山 豊

【開講】 後期 月4

■サブタイトル

「ことば」からみたドイツの文化と日常生活

■講義概要

ドイツ語IA・IB、IC・ID またはセミナーAで修得した知識を整理確認した上で、聞き話すという会話の要素をベースに日常的ドイツ語にふれながら、現代ドイツの文化を考察する。テキストとしてはドイツ人の生活情報や異文化をテーマにしたものを使用する。

■到達目標

ドイツ語検定試験も視野に入れて、日常生活に必要なレベルの読解力とドイツ語による表現力を身につける。

■講義方法

少人数クラスになると思われるので、対話的授業にしたいと考えている。できれば学術書に取り組む意欲もひきだしたい。

■系統的履修

ドイツ語IA IB IC ID またはセミナーAのいずれかを履修済みであることが受講の条件。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の予習と復習は必要である。

■成績評価の方法

平常点 (50%)
その他 (50%)
平常点 (50%) と授業への熱意 (50%) を総合的に評価する。

■テキスト

様々なテーマを扱ったテキストをコピーして使用する予定。

■参考文献

IA IB または IC ID で使用したテキストを授業に持参するとよい。

■履修上の注意・担当者からの一言

ドイツ語IA、IB、IC、IDのうち1単位以上修得済みであることを受講の条件とするが、基本的にはIA、IB、IC、ID、セミナーAに続くドイツ語運用能力の向上をもめざす授業であるので、堅苦しく考えずに参加して欲しい。授業には必ず辞書を持参のこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画

- ①受講生の興味と実力に合わせた内容のテキストを読み進めながら、表現力を磨く。(プリントを使用)
- ②同上
- ③同上
- ④同上
- ⑤同上
- ⑥同上
- ⑦同上
- ⑧小テスト
- ⑨同上
- ⑩同上
- ⑪同上
- ⑫同上
- ⑬同上
- ⑭同上
- ⑮小テスト

統計入門

【担当】 李 复屏

【開講】 前期 月1

■サブタイトル

数字に弱い人のための統計学

■講義概要

世界は数字でできている。世の中を知るには、経済学より、まず統計学である。この講義は、世の中を知りたいという意欲を持っている(いわゆる、統計の利用者としての)学生を対象とし、新聞や報告書を読み解くに必要な統計学の基本概念を理解することを目的とする。単に「数をかみ砕き、答えを吐き出す」かを教えるだけではない。それはあなたのパソコンがやることである。身近な例に、知っておくと役立つ話を織り交ぜながら、統計学のエッセンスを会得していただきたい。

■到達目標

新聞や報告書などを読むとき、そこにどのような統計が含まれているとも、その要点を理解できるようになる。

■講義方法

授業中、時々受講生にちょっとした問題を解いてもらうことがあるので、ルートキー(√)付きの電卓を用意すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

統計学は積み重ねの学問である。基本概念を一つ一つ順を追って議論していくため、次の授業に進む前に、前の授業内容を復習してしっかり理解してくる必要がある。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
定期試験 (70%)
授業中の練習問題は30%、期末試験は70%の割合で評価する。

■テキスト

D. ロウントリ著 加納悟訳 『新・涙なしの統計学』 新世社 1,600円

■参考文献

鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社 2,233円

ダレル・ハフ著 高木秀玄訳 『統計でウソをつく法』 講談社 880円

神永正博 『ウソを見破る統計学』 講談社 900円

カイザー・ファング著 矢羽野薫訳 『ヤバイ統計学』 阪急コミュニケーションズ 1,900円

■履修上の注意・担当者からの一言

計算ではなく、統計学的な考え方を理解していただくのが本講義の目的であるため、可能な限りに、式を使わず図で説明しようとするが、努力なしの統計学というつもりは毛頭ない。むしろ、統計学を理解するために一所懸命努力していただきたい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは月2です。この時間帯に來れない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまで相談してください。

■講義計画

- ①統計学とは
- ②標本の収集
- ③標本の記述
- ④データの中心的傾向
- ⑤データのばらつき尺度
- ⑥正規分布
- ⑦標本平均の標本分布
- ⑧母平均の推定
- ⑨t分布と母平均の推定
- ⑩X二乗分布と母標準偏差の推定
- ⑪仮説検定
- ⑫相関分析
- ⑬回帰分析
- ⑭復習①
- ⑮復習②

統計入門

【担当】長命 洋佑

【開講】後期 金5

■サブタイトル

数字に騙されるな！アレルギーを克服しよう！

■講義概要

新聞、テレビ、インターネットなどさまざまなメディアを通して日常生活の中から得られるデータ、社会現象の調査や自然現象の観察・実験などを通して得られるデータなど多種多様なデータが我々のまわりに溢れています。

そうした大量の情報が氾濫している現代社会において、「何が正しく、何が誤っているか」を自分自身で判断する力がないと思わぬ落とし穴に陥ることになります。最悪、「騙されたっ！」という状態になりかねません。

また、数値（データ）の持つ意味を理解していないと「数字に振り回される」ことにもなります。

社会では、こうした数字を使い、巧みに人を騙す人もいます。その逆で、騙される人もいます。

この講義では、そうした数字（データ）を正しく理解する力を養い、数字（データ）に振り回されないように、生きていくためのコツについて学びます（ギャンブルなどに関する心理的トラップなどについてもお話いたします）。

講義では、日常生活の中の現象（経済・心理の関連）を例に取り上げ講義を行います。

数学の知識がなくても（ $+$ ・ $-$ ・ $\times$ ・ $\div$ で充分です）、世の中の様々なことが見えてくるようになると思います。

この講義では、皆さんが近い将来、必要となる（身につけておくと大きな力となる）客観的なモノの見方について一緒に学んでいけたらと思います。

■到達目標

新聞、テレビ、インターネット、調査や実験などの数値（データ）の意味が理解できるようになる。

日常生活において、数値への恐怖心（アレルギー）がなくなる。

■講義方法

日常生活の中の話を題材に講義形式で行います。また、簡単な例題も解きながら、統計を学んでいただけるよう心がけます。

■授業時間外における予・復習等の指示

日常生活のなかで、数字の意味について考えてみる。

■成績評価の方法

平常点（40%）

定期試験（60%）

■テキスト

特になし。

講義資料を配布します。

ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

統計学は数字を扱い、数式などもでてくるため、毛嫌いされる部分があります。しかし、日常生活を見渡してみると数字を見ない日なんてないと思います（一部除く）。そうした数字の意味がわかりだしてくると「おっ！そーゆうことか。なかなかオモロイな〜」と思うようになってくると思います。統計は、毛嫌いする人が多いからこそ、逆に身につければ大きな武器となると思います。

授業中、私語が多い場合、他の学生の迷惑になりますので退出をお願いいたします。

■講義計画

①オリエンテーション

②記述統計①：日常生活の中でみる統計

③記述統計②：分布とその特性①（集団の特性を知ろう）

④記述統計③：さまざまな指標がもたらす日本社会の現状（騙す図を描くには）

⑤記述統計④：分布と特性②（偏差値の恐怖からの開放）

⑥記述統計⑤：これまでの復習

⑦確率①：確率の基本（コイン投げで5回連続「表」がでたら、次は・・・?）

⑧確率②：期待値とは?（直感と実際のズレ）

⑨確率③：母集団と標本（賭け事で負けないようにするには?）

⑩確率④：これまでの復習（勝ち逃げするためには）

⑪日常の中の統計①：当たり前を当たり前のように疑う

⑫日常の中の統計②：人間の感覚とは・・・

⑬日常の中の統計③：われわれは意図的に誘導されている?(アンケートのお話)

⑭日常の中の統計④：統計のその後・・・(統計を使った分析のお話)

⑮これまでの復習

日本国憲法

【担当】 時本 義昭

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要

近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

1 回生は受講できない。1 回生は後期の日本国憲法（月・1、月・3、木・3）を受講すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

小嶋和司・大石真 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成25年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①憲法の基本概念
- ②日本国憲法の成立過程と基本原理
- ③国会
- ④内閣
- ⑤裁判所
- ⑥基本的人権の分類と基本原理
- ⑦包括的基本権
- ⑧法の下の平等
- ⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
- ⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
- ⑪経済的自由
- ⑫社会権
- ⑬人身の自由
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】 時本 義昭

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要

近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

前期に法学入門を受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

小嶋和司・大石真 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成25年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①憲法の基本概念
- ②日本国憲法の成立過程と基本原理
- ③国会
- ④内閣
- ⑤裁判所
- ⑥基本的人権の分類と基本原理
- ⑦包括的基本権
- ⑧法の下の平等
- ⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
- ⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
- ⑪経済的自由
- ⑫社会権
- ⑬人身の自由
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

発達と教育A

【担当】 松島 恵介

【開講】 前期 水1

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育B」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育B」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。

※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりた学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達とは何か（序論）
- ②発達論にみられる児童期～青年期の様相（総論）
- ③発達と自我、それをめぐる教育について
- ④対人関係と自己の発達
- ⑤子どもの生活世界／学校とは何ものか
- ⑥ピアジェの発達理論・概説
- ⑦ヴィゴツキーの発達理論・概説
- ⑧発達と教育の接点
- ⑨学習・日常認知
- ⑩知能とは何か
- ⑪敢えて「教えない」ことのもつ意味をめぐって
- ⑫発達と現代の諸問題（1）～人間関係、とりわけ家族をめぐる問題について
- ⑬発達と現代の諸問題（2）～様々な病理をめぐって
- ⑭発達と現代の諸問題（3）～教育のあるべき姿とは
- ⑮まとめと今後の課題・質疑応答（総括的議論）

発達と教育A

【担当】 松島 恵介

【開講】 前期 水2

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育B」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育B」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。

※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりた学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達とは何か（序論）
- ②発達論にみられる児童期～青年期の様相（総論）
- ③発達と自我、それをめぐる教育について
- ④対人関係と自己の発達
- ⑤子どもの生活世界／学校とは何ものか
- ⑥ピアジェの発達理論・概説
- ⑦ヴィゴツキーの発達理論・概説
- ⑧発達と教育の接点
- ⑨学習・日常認知
- ⑩知能とは何か
- ⑪敢えて「教えない」ことのもつ意味をめぐって
- ⑫発達と現代の諸問題（1）～人間関係、とりわけ家族をめぐる問題について
- ⑬発達と現代の諸問題（2）～様々な病理をめぐって
- ⑭発達と現代の諸問題（3）～教育のあるべき姿とは
- ⑮まとめと今後の課題・質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】松島 恵介

【開講】後期 水1

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極

めて低くなる）。

※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達と教育を学ぶ意義（序論）
- ②自己意識と発達課題
- ③学習と自律性
- ④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
- ⑤論理構成力と発達過程
- ⑥社会的問題行動
- ⑦遊びと発達・教育
- ⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
- ⑨学校文化と発達
- ⑩隠れたカリキュラムをめぐって
- ⑪個性化の教育
- ⑫教育と現代的諸問題
- ⑬発達と現代的諸問題
- ⑭まとめと今後の課題
- ⑮質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】松島 恵介

【開講】後期 水2

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成

績評価は極めて低くなる）。

※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達と教育を学ぶ意義（序論）
- ②自己意識と発達課題
- ③学習と自律性
- ④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
- ⑤論理構成力と発達過程
- ⑥社会的問題行動
- ⑦遊びと発達・教育
- ⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
- ⑨学校文化と発達
- ⑩隠れたカリキュラムをめぐって
- ⑪個性化の教育
- ⑫教育と現代的諸問題
- ⑬発達と現代的諸問題
- ⑭まとめと今後の課題
- ⑮質疑応答（総括的議論）

仏教の思想

「仏教の思想 A・B」

龍谷大学は、「一切の人間が平等に真実心を与えられているという親鸞精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養とをもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想 A・B」は龍谷大学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義は、龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己をふりかえり、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とします。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想 A・B」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。

この「仏教の思想 A・B」を平易に理解していただくために、以下に教育目標と講義の主な内容を掲げておきます。

講義の教育目標

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。

真実の宗教は、その思想と文化を通して、人間に二つの働きをもっている。一つは、自己の存在意味や人生の根本的な方向性を指し示すという働きである。もう一つは、日々の生活の中で直面する苦しみや悲しみを乗り越えさせるという働きである。仏教は、この二つの働きをもって、自己中心的に生きようとする人間が、あるべき理想の人間に向かって、脱皮、成長していくことをめざしている。

2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。

仏教は一つの学問である。高校では、公民科「倫理」や地歴科「世界史」「日本史」の教科で、仏教を学習する。それを踏まえ、「仏教の思想」の教育目標に、次の点を掲げる。

- ① 青年期における人間が、自ら歩んできた道・人生をあらためて見つめ直し、人間として生きる意味を考える。
- ② 学生が過去の人々の思想や生き方を学び、また現代社会の諸問題を考えることを通して、人間としての生きる意味や目的を探究する。
- ③ 仏教は、人類が継承してきた一つの智慧であり、世界の各地で、人々の心の依りどころになっている。この歴史を学ぶことを通して、ものの見方を豊かにし、人生への思索を深める。

講義の概要

「仏教の思想 A」 講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアム、研究展示施設パドマの展示や視聴覚教材を活用して講義を展開します。

「仏教の思想 A」では、釈尊の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

人間と宗教——カルトや原理主義・宗教の意義

神々と仏——民族宗教・世界宗教（キリスト教・イスラム教・仏教）

あるがままに見る眼——智慧・如実知見・四諦・三法印

いのちあるものすべてへの慈愛——慈悲・非暴力

自己中心的に考える人間存在——煩惱・我執・四苦八苦

支えあってつながっている宇宙——縁起の理法・空・無我

仏教の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している「仏教の思想と文化」に関する現物資料を教材として授業を行う予定です。講義とともに展示を観覧することで講義内容の理解を深めます。詳細については、講義の中でお知らせします。

講義の概要

「仏教の思想 B」 講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアム、研究展示施設パドマの展示や視聴覚教材を活用して講義を展開します。

「仏教の思想 B」では、親鸞の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

鎌倉仏教の位置と特質——法然・親鸞・道元・日蓮・一遍

真実の探求——老少善悪を問わず・易行・わけへだてのない安らぎの道

自己を徹底的に見つめる——悪人正機・煩惱具足の凡夫・罪悪深重

現実世界への凝視と安らぎへの願い——火宅無常の世界・欣求浄土・世のなか安穏なれ

あるがままで受け容れられる世界——摂取不捨・阿弥陀仏の本願・自力と他力

あらゆるものは輝いている——白色白光・御同朋御同行・他者の尊重

親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している「仏教の思想と文化」に関する現物資料を教材として授業を行う予定です。講義とともに展示を観覧することで講義内容の理解を深めます。詳細については、講義の中でお知らせします。

■講義方法

特定のテキストは用いない。視覚資料も適宜使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

特に復習が重要である。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 出席、授講態度、毎回のコメント
定期試験 (70%)

■テキスト

特になし

参考文献

講義時に適宜紹介する。

■講義計画

- | | |
|----------|------------|
| 1 回目 | 建学の精神 |
| 2～3 回目 | 大乘仏教の興起と展開 |
| 4～5 回目 | 中国の仏教と浄土教 |
| 6～7 回目 | 日本の仏教と浄土教 |
| 8 回目 | 法然の生涯 |
| 9 回目 | 法然の思想 |
| 10～12 回目 | 親鸞の生涯 |
| 13～14 回目 | 親鸞の思想 |
| 15 回目 | まとめ |

仏教の思想B

【担当】北岑 大至
【開講】後期 火2

■講義概要

■講義方法

特定のテキストは用いず、毎回配布する資料をもとに講義を進める。視覚資料も適宜使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

特に復習が重要である。

■成績評価の方法

平常点 (40%)	出席、受講態度、講義内容に関するコメント、講義中の小レポートなど。
定期試験 (60%)	点数を評価とする。

■テキスト

特になし

参考文献

講義中に適宜紹介する。

■講義計画

- | | |
|----------|-----------------------|
| 1 回目 | ガイダンス
—前期の復習と講義概要— |
| 2～3 回目 | 中国への仏教伝播
—中国仏教と浄土教 |
| 4～5 回目 | 日本への仏教伝播
—日本仏教と浄土教 |
| 6～7 回目 | 法然の生涯と思想 |
| 8～9 回目 | 親鸞の生涯 |
| 10～13 回目 | 親鸞の思想 |
| 14 回目 | 親鸞の思想と建学の精神 |
| 15 回目 | まとめ |

フランス語 I C

【担当】 森部 卓
【開講】 前期 月2

■サブタイトル

ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要

従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには、日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。

■到達目標

①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法

パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席点

定期試験 (50%) 受講者数により、小テストに変更する場合あり。

■テキスト

藤田裕二 『パスカル・オ・ジャポン』 白水社 2,000円

■参考文献

辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。このソフトは日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画

- ①パソコンソフトTell me more (フランス語版教材)の全体の構成を提示
- ②フランスとフランス語に親しむ
- ③挨拶する
- ④発音と綴り字の説明
- ⑤名前、国籍、職業を言う
- ⑥年齢を言う、家族を語る
- ⑦好きなものを言う
- ⑧持ち物を言う
- ⑨友達について話す
- ⑩疑問詞を使ってたずねる
- ⑪近い未来、近い過去のことを言う
- ⑫時間、天候を言う
- ⑬数量を表す
- ⑭パリで出会う日本文化
- ⑮レストランに行く

フランス語 I C

【担当】 嶋崎 陽一
【開講】 前期 月3

■サブタイトル

さらに楽しいフランス語

■講義概要

フランス語IA、IBは基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIC、IDは、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習の場としたいと思います。同時に多くの視聴覚教材を利用して、フランスの文化と歴史について、幅広い解説をしていきます。さらに、盛りだくさんの内容を誇るコンピュータ教材を用いることで、発音練習なども深めていく予定です。

■到達目標

口頭練習を数多く取り入れることで、実践的なコミュニケーション能力を習得することを目指します。

■講義方法

CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。

■系統的履修

前期完結の授業ですが、つづけてフランス語IDも受講し、通年で学習することを目指して下さい。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書の内容は授業時間内に完結しますが、付録のCD教材などを通じて自宅での復習を繰り返して行えば効果的です。また、CALL教室が自習用に開放されるときには、学習用ソフトウェアによる自習が可能です。

■成績評価の方法

平常点 (80%) 出席を重視します。
定期試験 (20%)

■テキスト

中川努、中井珠子、曾我祐典 『フランス語2020』 白水社 2,415円

■参考文献

仏和辞典を使用します。次の3点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』(白水社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『クラウン仏和辞典』(三省堂)
『クラウン』には電子辞書版が、『プチ・ロワイヤル』には電子辞書版とiPhone版があります。

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。

■講義計画

次の教材を併用していきます。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。

Tell Me More (Auralog)

その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語 I C

【担当】 森部 卓

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要

従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。

■到達目標

①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法

パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席点

定期試験 (50%) 受講者数により、小テストに変更する場合あり。

■テキスト

藤田裕二 『パスカル・オ・ジャポン』 白水社 2,000円

■参考文献

辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画

- ①パソコンソフトTell me more (フランス語版教材)の全体の構成を提示
- ②フランスとフランス語に親しむ
- ③挨拶する
- ④発音と綴り字の説明
- ⑤名前、国籍、職業を言う
- ⑥年齢を言う、家族を語る
- ⑦好きなものを言う
- ⑧持ち物を言う
- ⑨友達について話す
- ⑩疑問詞を使つてたずねる
- ⑪近い未来、近い過去のことを言う
- ⑫時間、天候を言う
- ⑬数量を表す
- ⑭パリで出会う日本文化
- ⑮レストランに行く

フランス語 I D

【担当】 森部 卓

【開講】 後期 月2

■サブタイトル

ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要

従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はICの続きです。

■到達目標

①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法

パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席点

定期試験 (50%) 受講者数により、小テストに変更する場合あり。

■テキスト

藤田裕二 『パスカル・オ・ジャポン』 白水社 2,000円

■参考文献

辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ICの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画

- ①パソコンソフトTell me more (フランス語版教材)の全体の構成の提示
- ②一日を語る
- ③頼む、命令する
- ④店で買い物をする
- ⑤未来のことを語る
- ⑥過去のことを語る (直説法複合過去)
- ⑦バカンスに行く
- ⑧フランス語でメールを出す
- ⑨人や物について語る
- ⑩美術館に行く
- ⑪大人気のジャポン・エキスポ
- ⑫フランス留学と学生生活について
- ⑬乗り物に乗る
- ⑭感情を表現する
- ⑮日仏文化交流の昨今

■サブタイトル

物語の誘惑

■講義概要

ある物語が面白く感じられ、ある言葉が魅力的に思えるのはなぜなのか。おそらくこれまでは漠然と文学に接してきた学生諸君に、文学を理解するための諸々の知的枠組みを紹介し、それによって新たな目で文学を捉え、より深く面白く味わえるようにするのが狙い。その過程で、道具となる考え方はもちろん、ときに専門用語も導入し、また例として学生にとって面白いのではないかとという諸作品をも紹介したい。対象は日本文学に限らず広く翻訳も含める。詩も取り上げるものの、何よりも物語の魅力を焦点とするため、ジャンルとしては主に小説を扱う。映画など、文学以外の物語形式にも多く言及することになる。

■到達目標

文学作品を、より知的に、より深く、より楽しく、味わうためのノウハウを身につける

文学という広く豊かな世界への意識を養う

■講義方法

受講者数にもよるが、授業計画に基づく理論的な講義と、実際に文学作品を読み解く作業とを併せて取り入れたい。細かいレベルで考えられるように、作品は短編を中心に扱う。出欠状況の確認も兼ねて、毎回講義の最初にミニクイズ、終わりに感想、質問などを書いてもらうほか、作品分析などで課題の提出を求めていることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回講義で解説予定の作品等をあらかじめ配るので、指示に従って自分なりに読んで考えてみることにしよう。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 講義末に書いてもらうコメントや課題の提出状況と内容

定期試験（60％）講義内容に関する選択問題、論述問題など試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として期末試験の受験資格を失うものとし、結果的に単位は認められないことになる。

■テキスト

使用せず。適宜プリント配布。

参考文献

中条省平 『小説の解剖学』 筑摩書房（ちくま文庫） 798円
 廣野由美子 『批評理論入門－「フランケンシュタイン」解剖
 講義』 中央公論社（中公新書） 780円

■履修上の注意・担当者からの一言

文学の世界をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいだけの人には向かない。よく話を聞いて、じっくり考え深く味わって欲しい。なお、物語についての講義となると、取り上げる小説などについての、いわゆる「ネタばれ」は多少とも避けられない。なるべく配慮はするが、あらかじめ了解の上受講のこと

■ オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。
2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learning
サイトを開設予定。

■講義計画

- ①序説—文学は死んだか?
- ②詩の言葉、言葉の詩
- ③ジャンル・タイプ・intertextuality
- ④幻想という名の真実
- ⑤言葉の裏を読む
- ⑥象徴の成立
- ⑦構造と対立
- ⑧アイロニー
- ⑨作者・作品・読者
- ⑩曖昧と解釈の問題
- ⑪文学と時間
- ⑫名前の文化論
- ⑬旅のモチーフ
- ⑭実践分析批評 1
- ⑮実践分析批評 2

* 以上は、講義項目の流れを示したもので、必ずしも回毎の内容というわけではない。1-13の項目に14,15を絡めてゆくのが基本スタイルである。

文学入門

【担当】 嶋崎 陽一

【開講】 後期 木3

■サブタイトル

ブンガクはなぜあんなにつまらないか?あるいはなぜこんなに面白いのか?

■講義概要

宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくらかでもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか?それもよりによってブンガクだなんて!しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。

■到達目標

ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。

■講義方法

毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で採り上げた文学作品を、できるだけ自ら読んでみることを薦める。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席による
レポート (80%) 1600~2000字程度

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。

■講義計画

本年度は作家別に授業を編成する。以下の作家を予定する。(順不同)

- ①ダニエル・キイス
- ②谷崎潤一郎
- ③宮部みゆき
- ④小松左京
- ⑤筒井康隆
- ⑥ジェームズ・ジョイス
- ⑦松本清張
- ⑧山田風太郎
- ⑨村上春樹
- ⑩コナン・ドイル
- ⑪舞城王太郎
- ⑫奥泉光
- ⑬吉増剛造
- ⑭入澤康夫
- ⑮谷川俊太郎

法学入門

【担当】 時本 義昭

【開講】 前期 月1

■サブタイトル

日常生活と法

■講義概要

わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐられ、近代的法制度は一応完備されているといつてよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといつても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジメを配布し、レジメに沿って講義を進めるので、レジメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験 (100%) 学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

佐藤幸治他編 『デリー六法平成25年版』 三省堂
※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①基礎知識 (法の種類)
- ②日本国憲法の基本原理
- ③日本国憲法の保障する人権
- ④日常生活と契約Ⅰ (契約とその主体)
- ⑤日常生活と契約Ⅱ (動産と不動産)
- ⑥日常生活と契約Ⅲ (金銭と保証)
- ⑦日常生活とアクシデント
- ⑧雇用と法
- ⑨家族関係Ⅰ (夫婦と親子)
- ⑩家族関係Ⅱ (相続)
- ⑪犯罪と法Ⅰ (刑法の基本原理)
- ⑫犯罪と法Ⅱ (犯罪の成立)
- ⑬行政と法
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

■サブタイトル

日常生活と法

■講義概要

わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといつてよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといつても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要であれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

佐藤幸治他編 『デイリー六法平成25年版』 三省堂

※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①基礎知識（法の種類）
- ②日本国憲法の基本原理
- ③日本国憲法の保障する人権
- ④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
- ⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
- ⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
- ⑦日常生活とアクシデント
- ⑧雇用と法
- ⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
- ⑩家族関係Ⅱ（相続）
- ⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
- ⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
- ⑬行政と法
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

倫理学入門

【担当】 菊地 建至

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

現代社会の倫理学入門

■講義概要

- 「倫理学入門」担当の菊地建至です。はじめまして。各授業の「講義概要」の説明に入る前に話しておきたいことがあります。ただし字数制限のためここには書けないから、「履修上の注意・担当者からの一言」に書きます。先に、よく読んでください。
- 「倫理（道徳）」に関心のある学生に「倫理学の基本知識」をわかりやすく解説する。
- わたしたちの社会は、科学技術・医療への大きな期待と信頼をもっている。その反面、それらに関する決定をほんとうに専門家・政治家・公務員だけに任せてよいのかという疑問ももっている。「科学技術によってできるようになること（利用できる選択肢が増えること）」にはよい面があるが、「なんでも、なんの制限もなく、できるようになってよいか」、「ひと（人間）が科学技術・医療の進展に期待して生きることにはどのような長所と問題点があるか」など、ていねいに考えなければならないことがたくさんある。わたしは、これらのことは、受講者が「倫理学入門」でどのようなことを学ぶのがよいかということにとって重要だと思う。
- この倫理学入門では、とくに「こどもを生むことにかかわる医療・技術（たとえば体外受精、代理出産、治療にとどまらない増強・強化（エンハンスメント）を含む遺伝子操作など）の倫理問題」に注目し、そこから「倫理の基礎的な諸問題（自由、尊重、規制、幸福など）」にも取り組む。また、「ひと（人間）と自然環境のかかわりに関する倫理学的考察」の一端にも触れる予定です。
- 「倫理学なんてほとんど知らないから、不安だ」、「わたしは〈文系〉だから、科学技術に関する授業は不安だ」など、このシラバスを読みながら思っているひともいるだろう。わたしは、学生が楽しく学び、よく考えられるように工夫することを約束するから、「興味はある」、「おもしろそうだ」、「挑戦しよう」などの肯定的なきもちがあれば、積極的に参加してください。
- この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらにあなたが授業をととしてとくに関心をもった倫理問題について（他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど）考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。
- この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことがらか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きっと、「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、あなたの身近な日常のできごとやさまざまな社会問題について「倫理的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標

- 現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常生活や社会の諸問題に関して「倫理的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。

■講義方法

- 「講義」形式だが、多くの授業のなかで「（映画を中心とする）映像資料」や「読書資料」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこなうことを約束します。君は、「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。
- 配布する読書資料はときに、簡単に読めるものではないこともあるだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにアドバイスするから、君にやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大学で求められる読書のトレーニング」にもなると前向きに理解するといいたいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の復習・課題提出が求められる機会は少なくないだろう。

■成績評価の方法

平常点（50%）積極的な授業参加、小テスト（確認テスト）、比較的短い論述（レポート）などで評価する

定期試験（50%）

■テキスト

特になし

■参考文献

授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言

- わたしが担当する倫理学入門は、2013年度も、三種類あります（水曜日3時限・前期、水曜日3時限・後期、水曜日5時限・後期）。毎年、どの授業も、参加者が多数になり、多人数授業だから「講義中心」になります。しかし、わたしは学生が「倫理に関して自分（たち）で考えること」を重視するから、学生が「自分で考える、そしてその思考を表現する」きっかけになる工夫に力を入れます（たとえば、授業のなかでの映像資料の活用、質問について考えて書くワークの多用など）。
- また、あなたは上記の（三種の）倫理学入門の「どれかひとつだけに」登録することができます。曜日・時間だけでなく「内容」や「授業の進め方」も異なる部分があるように授業計画するから、ぜひ「内容や進め方を理解し」、あなたが「積極的に」授業参加したいと思うものを選んで登録してほしいと思います。
*参考までに言うと、2012年度の受講者数は、水曜日3時限・前期は約200人、水曜日3時限・後期は約300人、水曜日5時限・後期は約120人でした。そして、毎回の授業で出席をとり、それを平常成績に反映したのは（受講者数120人の）水曜日5時限・後期だけでした。逆に言えば、受講者多数のため出席をとらない授業では、平常成績を明確にするために、授業期間内の課題や小テスト（確認テスト）の回数が多くなる傾向にあります。出席確認がなくとも積極的に授業参加し、理解を進め、（たびたびあるだろう）その成果を示す機会にしっかり取り組むことが求められると言えるでしょう。
- 継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、（知的に）楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■講義計画

- | | |
|---------|--|
| 1回目 | 「ガイダンス」 |
| 2～3回目 | （映画などの）映像資料を用いて、生殖医療・技術の倫理問題の広がりを理解しよう |
| 4回目 | 生殖医療・技術の歴史と現在の整理 |
| 5～6回目 | 代理出産について「倫理的に」考える |
| 7回目 | 調整日 |
| 8～9回目 | 「自由」、「優秀さ」、「受け入れること」、「規制」、「幸福」など、わたしたちの人生のなかでもたびたび使われる重要語について、その「倫理的な」意味を考える |
| 10～11回目 | （映画などの）映像資料を用いて、遺伝子診断などの予知医療と生殖技術の組み合わせについて「倫理的に」考える |
| 12～13回目 | ひと（人間）と自然環境のかかわりに関する「倫理学的」考察 |
| 14～15回目 | 授業で取り上げた範囲であたがももっとも関心のあ
る「科学技術・医療の倫理の問題」について、徹底的に考えよう |

以上、順不同。

倫理学入門

【担当】 菊地 建至

【開講】 後期 水5

■サブタイトル

現代社会の倫理学入門

■講義概要

- 「倫理学入門」担当の菊地建至です。はじめまして。各授業の「講義概要」の説明に入る前に話しておきたいことがあります。ただし字数制限のためここには書けないから、「履修上の注意・担当者からの一言」に書きます。先に、よく読んでください。
- 現代社会において、「個人の自由」や「多様な価値観」は重視されていると言えるだろう。しかし、「自由に生きるなんて結局無理なことだから」や「自由といっても結局ひとそれぞれだから」といった態度も、根強い。そういう状況において「自由を考えること」や「自由に生きること」に関心を決め込むのではなく、それなら「自由について」一度徹底的に取りこんでみよう、そう思うひとが参加するのが、この「水曜日5時限の倫理学入門」です。
- また、この「水曜日5時限の倫理学入門」は「インターネットなど情報技術の進展がいちじるしい現代社会において、自由というテーマに加えて、政治（とくにデモクラシー）や倫理はどうあるべきか」ということにも取り組みます。「現代社会の自由の問題には、倫理学の視点でどのような特徴があるか」と「倫理的なアプローチは自由の問題にどのような提案をすることができるか」、これら両方の問いを意識し、「現代社会の主要な倫理問題」について、具体的かつ理論的にいねいに授業を進めることを約束します。
- この「水曜日5時限の倫理学入門」は、わたしが担当する倫理学入門のなかで唯一「テキストを使用する」授業です。そういう意味では読書の予習・復習の機会は少なくありません。そういう自習はしたくないというひとは、この授業に向かないでしょう。もちろん、ただ本を順番に読むだけといったものではなく、さまざまな（映画など）映像資料やワークも活用し、学生が「楽しく、能動的に」取り組める工夫もたくさんあります。
- この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらにあなたが授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について（他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど）考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。
- この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことからか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きっと、「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、あなたの身近な日常のできごとやさまざまな社会問題について「倫理的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標

- 現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。
- 世界で長きにわたって「繰り返し読まれてきた」価値ある本（こういうものを古典と呼びます）の一冊に集中的に取り組み、「読むこと」や「伝えること・表現すること」について理解を深める。

■講義方法

- 「講義」形式だが、多くの授業のなかで「(映画を中心とする)映像資料」や「テキスト」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。君は、「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。
- テキストはときに、簡単に読めるものではないこともあるだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにアドバイスするから、君にやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大学で求められる読書のトレーニング」にもなると前向きに理解するといいたいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の復習やテキストの自習（予習・復習を含む）が求められる機会は少なくないだろう。

■成績評価の方法

平常点（50%）積極的な授業参加、小テスト（確認テスト）、比較的短い論述（レポート）などで評価する
定期試験（50%）

■テキスト

ミル『自由論』 光文社 1,048円

J.S.ミルは1806年に生まれ1873年に死んだ。活動の時期からすれば、およそ150-200年前のひとです。しかし、たんに昔の有名な人というのではなく、「これまでの自由な社会」の基礎となる考えのいくつかを示し、「これからの自由な社会」を開く力にもなるひとだと言えます。この『自由論』の読書を通して、あなたは、「個人と社会はどうかかわるのが正しいか」、「自分の意見を持ちそれを表明する自由や少数意見が聞かれるということは、わたしの人生にとって、また、人間の社会にとって、どういふものか」、「個性の発展は、わたしの人生にとって、また、人間の社会にとって、どういふものか」、「なぜ、世論や多数意見や自信満々の主張がほんとうに確かなものかどうかを検討することが重要なのか」、「他者に危害を与える行為と自分自身を害する（本人のためにならない）行為は、おなじように規制されてよいのか」、「個人の自由の限界は、どういふものか」など、さまざまに徹底的に考えるきっかけをもつだろう。

■参考文献

授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言

- わたしが担当する倫理学入門は、2013年度も、三種類あります（水曜日3時限・前期、水曜日3時限・後期、水曜日5時限・後期）。毎年、どの授業も、参加者が多数になり、多人数授業だから「講義中心」になります。しかし、わたしは学生が「倫理に関して自分（たち）で考えること」を重視するから、学生が「自分で考える、そしてその思考を表現する」きっかけになる工夫に力を入れます（たとえば、授業のなかでの映像資料の活用、質問について考えて書くワークの多用など）。また、あなたは上記の（三種の）倫理学入門の「どれかひとつだけに」登録することができます。曜日・時間だけでなく「内容」や「授業の進め方」も異なる部分があるように授業計画するから、ぜひ「内容や進め方を理解し」、あなたが「積極的に」授業参加したいと思うものを選んで登録してほしいと思います。
- *参考までに言うと、2012年度の受講者数は、水曜日3時限・前期は約200人、水曜日3時限・後期は約300人、水曜日5時限・後期は約120人でした。そして、毎回の授業で出席をとり、それを平常成績に反映したのは（受講者数120人の）水曜日5時限・後期だけでした。逆に言えば、受講者多数のため出席をとらない授業では、平常成績を明確にするために、授業期間内の課題や小テスト（確認テスト）の回数が増える傾向にあります。出席確認がなくとも積極的に授業参加し、理解を進め、（たびたびあるだろう）その成果を示す機会にしっかり取り組むことが求められると言えるでしょう。
- 継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点で厳しい授業です。とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、（知的に）楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■講義計画

- | | |
|---------|---|
| 1回目 | ガイダンス |
| 2～3回目 | （映画などの）映像資料とテキストを用いて、「自由」について考える－1 |
| 4～5回目 | （映画などの）映像資料を用いて、「情報社会の倫理や政治の問題の広がり」を理解しよう |
| 6回目 | テキストを用いて「自由」について考える |
| 7回目 | 友人どうしのあいだでも正しくないこととは、どのようなことか |
| 8回目 | （映画などの）映像資料とテキストを用いて、「自由」について考える－2 |
| 9～10回目 | 「平等と正義のちがひ」、「多数決が重視されるデモクラシーの特長と問題点」について理解を深めよう |
| 11～13回目 | （映画などの）映像資料とテキストを用いて、「自由や倫理の問題」について考える |
| 14～15回目 | 授業で取り上げた範囲であたががもっとも関心のある「自由や倫理の問題」について、徹底的に考えよう |

以上、順不同

歴史入門

【担当】西村 昌洋

【開講】前期 水3

■サブタイトル

歴史を知る、歴史で楽しむ、歴史から考える

■講義概要

歴史とは、過去に起こった出来事や遠い時代を生きた人々の生き方・考え方のこと、あるいはそれらについて調べることである。歴史を学ぶことにはどのような意味があるのだろうか。会社での業務に役立つわけではないし、実際に製品を生み出すわけでもないから、別に必要ではないと思うかもしれない。だが歴史を学ぶことは、遠い昔、はるかかなたに離れた世界について知ることであり、それは私たちの想像力を広げてくれるし、それ自体楽しいものである。同時に、歴史を学ぶことは今とは違う社会について知ることであり、それは必然的に今私たちが生きているこの社会について考え直すことを迫る。その結果、今の私たちの社会や生活についてもっと鋭い感覚を持つことができ、自分自身について考える視点を養うことができる。またそれは、今の「当たり前」とは別の様々な可能性を意識し模索する手段をも与えてくれるのである。

この「歴史入門」では入門編として、過去という見知らぬ世界での生き方について、歴史を書くという営みについて、そして、民主主義や「グローバル化」のような現代世界と深いかわりのある事柄の起源について、取り上げてみたい。もちろんここで取り上げる事柄は歴史の内のある側面なのだが、この講義を通して「歴史的にものを考える」ことの意味や面白さを理解してもらえれば幸いである。

■到達目標

過去を知ること、自分たち自身の生きている社会の枠組みや約束事を相対的にとらえる。

今の社会のあり方や問題点、そして今後何をすべきかということ、歴史的に考える感覚を身につけ、それを自分の言葉で的確に説明できるようになる。

■講義方法

基本的には、プリント資料を配布しつつ講義形式で行うが、授業の進行状況に応じて柔軟に対応する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の進行状況に応じて予習や復習の課題を出すことがある。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 授業中に小課題を出すことがある。
レポート (30%) 講義期間中に読書レポートを課す。
定期試験 (50%) 論述式の試験を行う。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中、授業の進行を妨げる行為、他の出席者の迷惑となる行為は、絶対にしないでください。

授業で扱った事柄について興味を持ったなら、自分で本を探して読んでみてください。

■講義計画

- ①イントロダクション：歴史とは
- ②過去は見知らぬ国なのか (1)：中世日本の性モラル
- ③過去は見知らぬ国なのか (2)：近世パリの猫殺し
- ④歴史を書く (1)：ヘロドトスとトゥキディデス
- ⑤歴史を書く (2)：『史記』と『漢書』
- ⑥歴史を書く (3)：『古事記』と『日本書紀』
- ⑦民主主義の来し方 (1)：古代アテネのラディカル・デモクラシー
- ⑧民主主義の来し方 (2)：フランス革命と社会的デモクラシー
- ⑨ヨーロッパとアジア (1)：「自由貿易」の帝国
- ⑩ヨーロッパとアジア (2)：「朝貢貿易」の帝国
- ⑪ヨーロッパとアジア (3)：「グローバル化」と世界
- ⑫「国民」とは何か (1)：ブリティッシュ意識
- ⑬「国民」とは何か (2)：フランスとドイツ
- ⑭「国民」とは何か (3)：オーストリア＝ハンガリー
- ⑮予備日 (予定通りに授業が進まない場合を考慮して調整用に設ける、予定が遅れなかった場合でも休講にはしない)

歴史入門

【担当】佐野 東生

【開講】後期 金2

■サブタイトル

西アジアの歴史と文化

■講義概要

西アジアは多様な民族・宗教・文化が交流する地域として長い歴史を有している。この講義では、史料を主体とした歴史学の基礎を理解した上で、古代から近現代に至る西アジア史について概観する。まず、古代オリエン文明を基としたギリシア・ペルシア文明のあり様について述べ、その後のヘレニズム文化の成立と仏教にも影響を与えた発展について理解を深める。次いで中世イスラーム世界の、アフリカからインド・中国にいたる大規模な交流について解説する。最後に、近現代史について西洋の進出とそれへの対応の視野から概観し、現代のグローバル化する世界の中でいかなる変貌を遂げているか考察する。

■到達目標

中東とも呼ばれる西アジア地域の現代の情勢を考察する上で、歴史的理解の必要性を認識すること。

■講義方法

講義形式で、日本語に訳された史料を配布し、講読する。ビデオなど視覚教材を適宜使用。

■授業時間外における予・復習等の指示

配布された史料を批判的に評価できるように復習すること。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 質問票 (出席票にもなる) を数回提出。
小テスト (20%) 1 回実施する。
定期試験 (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

前嶋信次 『イスラムの時代』 講談社学術文庫 1,365円

■履修上の注意・担当者からの一言

西アジア史に関する書籍は多いので、講義とともに読む習慣を身につけてもらいたい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義中に指示

■講義計画

- ①歴史学の方法 1
- ②歴史学の方法 2
- ③古代の西アジア 1
- ④古代の西アジア 2
- ⑤古代の西アジア 3
- ⑥古代の西アジア 4
- ⑦中世イスラーム史 1
- ⑧中世イスラーム史 2
- ⑨中世イスラーム史 3
- ⑩近代 1
- ⑪近代 2
- ⑫現代 1
- ⑬現代 2
- ⑭現代 3
- ⑮まとめ

論理学入門

【担当】中谷 隆雄

【開講】前期 月3

■サブタイトル

練習して身につく論理学

■講義概要

講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまな形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。

■到達目標

弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。

■講義方法

推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけでなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。

■授業時間外における予・復習等の指示

特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%)

評価は主として定期試験によって評価する。定期試験約80点 (80%)、平常点約20点 (20%)

■テキスト

飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂 2,000円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。

■講義計画

- ①論理とは何か
- ②推論の最小単位としての命題(文)・命題を否定する語(ない)
- ③命題と命題を結ぶ語(そして)
- ④命題と命題を結ぶ語(あるいは)
- ⑤命題と命題を結ぶ語(ならば)
- ⑥命題と命題を結ぶ語(双条件)
- ⑦常に真な命題; 表による判定
- ⑧常に真な命題; 図による判定
- ⑨推論の妥当性; 表による判定
- ⑩推論の妥当性; 図による判定(その基本)
- ⑪推論の妥当性; 図による判定(その応用)
- ⑫ルールによる推論の証明(1)(そして)
- ⑬ルールによる推論の証明(2)(ならば)
- ⑭ルールによる推論の証明(3)(ない)
- ⑮総復習

論理学入門

【担当】中谷 隆雄

【開講】後期 月3

■サブタイトル

練習して身につく論理学

■講義概要

講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまな形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。

■到達目標

弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。

■講義方法

推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけでなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。

■授業時間外における予・復習等の指示

特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%)

主として定期試験によって評価する。定期試験約80点 (80%)、平常点約20点 (20%)

■テキスト

飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂 2,000円

改定の予定があるので、テキストは後期になってから購入すること

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。

■講義計画

- ①論理とは何か
- ②推論の最小単位としての命題(文)・命題を否定する語(ない)
- ③命題と命題を結ぶ語(そして)
- ④命題と命題を結ぶ語(あるいは)
- ⑤命題と命題を結ぶ語(ならば)
- ⑥命題と命題を結ぶ語(双条件)
- ⑦常に真な命題; 表による判定
- ⑧常に真な命題; 図による判定
- ⑨推論の妥当性; 表による判定
- ⑩推論の妥当性; 図による判定(その基本)
- ⑪推論の妥当性; 図による判定(その応用)
- ⑫ルールによる推論の証明(1)(そして)
- ⑬ルールによる推論の証明(2)(ならば)
- ⑭ルールによる推論の証明(3)(ない) 総復習
- ⑮総復習

教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）

（総 合 科 目）

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時	ページ
ア	アジアの文化	徐 光輝	前期 木 4	81
	アジアの文化	松井 智子	後期 水 3	81
	アジアの文化	舟橋 健太	後期 木 4	82
オ	欧米の文化	瀧口 順也	前期 月 4	82
	欧米の文化	嶋崎 陽一	前期 水 1	83
	欧米の文化	大槻 志郎	後期 水 3	84
	欧米の文化	サルズ・ジョーナ・I	後期 木 4	85
カ	科学技術史	林 久夫	前期 月 1	86
	科学技術史	岩本 太郎	後期 月 3	87
	環境と人間 A	竺 文彦	前期 月 4	88
	環境と人間 A	山崎 達雄	後期 月 4	88
	環境と人間 B	西江 仁徳	前期 水 1	89
	環境と人間 B	鈴木 滋	後期 水 2	89
	環境と倫理	柿本 佳美	前期 木 4	90
	教養教育科目特別講義 A（里山学入門） ／共同開講科目特別講義	宮浦 富保／近藤 倫生／ 鈴木 龍也／須藤 護／ 田中 滋／帖地 孝人／ 朴 炫国／丸山 徳次／ 遊磨 正秀／横田 岳人	前期 月 3	90
キ	教養教育科目特別講義 B（西洋近現代史入門）	福島 千穂	前期 月 2	91
	教養教育科目特別講義 B（西洋近現代史入門）	福島 千穂	後期 水 3	91
	教養教育科目特別講義 C（アジアの映画）	李 相哲	前期 月 3	92
	教養教育科目特別講義 D（アジアの歴史と社会）	野呂 靖	前期 水 3	92
	教養教育科目特別講義 D（アジアの歴史と社会）	野呂 靖	後期 水 3	93
	教養教育科目特別講義 F（現代社会と栄養）	石井 和子	前期 木 3	93
	教養教育科目特別講義 F（現代社会と栄養）	土居 幸雄	後期 月 2	94
	教養教育科目特別講義 G（雑草学）	古本 強	後期 水 3	94
	健康とスポーツ	渡辺 英児	後期 月 1	95
ケ	現代社会と宗教	辻 虎志	前期 月 3	95
	現代社会と宗教	辻 虎志	後期 月 3	96
	現代社会とスポーツ	辻 延浩	前期 月 4	96
	現代社会と福祉	岡野 英一	前期 木 3	97
	現代社会とマス・メディア	中野 有	前期 木 4	97
	現代社会とマス・メディア	中野 有	後期 木 4	98
	現代社会とマス・メディア	西村 敏雄	後期 月 4	98
	現代の技術	吉川 恒夫／池田 昌彦	後期 月 3	99
コ	国際社会と日本 A	池尾 靖志	前期 水 1	100
	国際社会と日本 B	佐藤 一進	後期 水 1	101
	国際社会と日本 C	川村 覚文	前期 木 4	101

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時	ページ
シ	ジェンダー論	堀江 有里	前期 火 5	102
	ジェンダー論	堀江 有里	後期 火 5	102
	ジェンダー論	高橋 慎一	後期 金 5	103
	自然観察法	宮浦 富保／遊磨 正秀	前期 金 2	103
	情報社会とメディア A	外村 佳伸／三浦 雅展	前期 月 3	104
	情報社会とメディア A	外村 佳伸／三浦 雅展	後期 木 3	104
	情報と人間	小堀 聡	後期 木 3	105
	情報倫理	野村 竜也／芝原 努	前期 月 4	105
	人権論 A	稲田 七海／本岡 拓哉	前期 月 2	106
	人権論 A	中川 ユリ子	前期 月 2	106
	人権論 A	稲田 七海／本岡 拓哉	前期 月 3	107
	人権論 A	中川 ユリ子	前期 月 3	107
	人権論 A	金 光敏	前期 水 3	108
	人権論 A	岸 衛	前期 水 3	108
	人権論 A	金 光敏	前期 水 4	109
	人権論 A	矢野 亮	前期 木 3	109
ス	人権論 B	稲田 七海	後期 月 2	110
	人権論 B	中川 ユリ子	後期 月 2	110
	人権論 B	稲田 七海	後期 月 3	111
	人権論 B	中川 ユリ子	後期 月 3	111
	人権論 B	金 光敏	後期 水 3	112
	人権論 B	岸 衛	後期 水 3	112
	人権論 B	金 光敏	後期 水 4	113
	人権論 B	矢野 亮	後期 木 3	113
	スポーツ文化論	松下 唯夫	前期 水 3	114
セ	世界の福祉	太谷 亜由美	前期 水 3	114
	生活の中の宗教	辻 虎志	前期 月 2	115
	生活の中の宗教	辻 虎志	後期 月 2	115
	生命と共生	田村 公江	前期 木 3	116
	生命と共生	柿本 佳美	後期 木 3	116
	歎異抄の思想 I	殿内 恒	前期 水 2	117
	歎異抄の思想 II	殿内 恒	後期 水 2	117
	日本の文化	泉 文明	前期 月 3	118
ニ	日本の文化	泉 文明	前期 木 5	118
	日本の文化	泉 文明	後期 木 5	119
	人間と社会と法	時本 義昭	前期 木 4	119
	平和学入門	清水 耕介	前期 木 3	120
メ	平和学入門	宮崎 寛	後期 木 3	120
	メディアにみる福祉	高田 敏司	後期 月 2	121
	メディアにみる福祉	幸重 忠孝	後期 木 3	121

教養教育科目
共同開講（共通）
総合科目

アジアの文化

【担当】 徐 光輝

【開講】 前期 木4

■サブタイトル

中国歴史文化概説

■講義概要

考古学発掘調査によれば、中国文明のあけぼのは遅くとも5000年前の新石器時代後期にさかのぼる。畑作や水田稲作に代表される農耕文化の発展に伴って、各地に城郭都市の原型が現われ、地域初期国家の胎動が注目を浴びており、従来疑われてきた「三皇五帝」などの文献資料の虚実が再検討されるようになった。

このような先史文明を土台に、夏・商（殷）・周のような古代国家が各地で興亡を繰り返し、春秋戦国時代を経て、秦漢帝国が登場した。とりわけ城郭都市、文字、百家思想、金属器（青銅器、鉄器）文化、郡県制度が注目される。

後漢末に起きた「黄巾の乱」を経て、魏、蜀、呉といった三国時代に入るが、西晋王朝によって再び統一された。南北朝時代の民族大融合のなかで、地域文化交流が活発になり、絢爛たる六朝文化、北朝文化が栄え、朝鮮半島や日本列島との文化交流を裏付ける考古発見も多い。

隋唐時代には東西文化交流が更に盛んになり、科学技術、経済、文化、芸術などの分野において大きく発達した。朝鮮半島や日本列島との文化交流も頻繁に行われた。

■到達目標

隋唐時代に至る中国歴史文化の主な流れを知り、また朝鮮半島や日本列島との比較研究の一助になってほしい。

■講義方法

時代順に概説するが、パワーポイント、ビデオなどによる映像資料を常に使う。

■系統的履修

アジアの歴史文化に関する科目を多く履修してほしい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点（10%）出席率や受講態度等を重視する

小テスト（20%）点数により評価する

レポート（20%）内容により評価する

定期試験（50%）点数により評価する

■テキスト

特になし

■参考文献

尾形勇・岸本美緒編 『中国史（新版世界各国史3）』 山川出版社 1998 3,500円

小澤正人・谷豊信・西江清高著 『中国の考古学（世界の考古学7）』 同成社 1999 3,200円

■講義計画

- ①はじめに
- ②中国文明のあけぼの（黄河流域）
- ③中国文明のあけぼの（長江、淮河流域）
- ④中国文明のあけぼの（西遼河流域）
- ⑤考古学上の夏王朝、夏文化の実体
- ⑥殷周王朝と都城遺跡の考古発見
- ⑦春秋戦国時代の百家思想
- ⑧秦の統一と始皇帝陵の考古発見
- ⑨漢王朝と長安城、洛陽城の考古発見
- ⑩魏晋王朝と陳寿の『魏志倭人伝』
- ⑪南北朝時代の民族大融合
- ⑫宗教文化の発展と伝播
- ⑬隋唐帝国の成立と繁栄
- ⑭隋唐時代の文化交流
- ⑮まとめ

アジアの文化

【担当】 松井 智子

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

タイの文化と社会

■講義概要

「アジアの文化」を分析するいくつかの理論を学んだ上で、タイの文化と社会に関する代表的研究を取り上げ、理解を深める。授業の前半では、「アジアの文化」を捉える理論として、『想像の共同体』、『オリエンタリズム』等を学ぶ。後半では、前半で学んだ「ナショナリズム」や「オリエンタリズム」等の概念を援用しながら、タイの文化と社会に関する代表的研究を検討し、その特徴と限界を解説する。

■到達目標

「アジアの文化」を分析する文献の読解を通じて、文化と権力との関係について理解する。また、タイの文化と社会を多面的に学ぶことを通じて、タイを始めアジアに対して、ステレオタイプにとらわれない公平な見方ができるようになることを目指す。

■講義方法

ハンドアウトによる講義。映像資料等も使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

赤木攻『タイの政治文化』は必ず読んでくること。その他の課題文献も読んでくることが望ましい。

■成績評価の方法

平常点（30%）

定期試験（70%）

■テキスト

特になし

■参考文献

梅棹忠夫 『文明の生態史観』 中公文庫 780円

ベネディクト・アンダーソン 『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』 書籍工房早山 2,100円

E.W.サイード 『オリエンタリズム（上）』 平凡社ライブラリー 1,631円

E.W.サイード 『オリエンタリズム（下）』 平凡社ライブラリー 1,631円

赤木攻 『タイの政治文化—剛と柔（復刻版）』 エヌ・エヌ・エー 2,100円

平井京之介 『村から工場へ—東南アジア女性の近代化経験』 NTT出版 2,415円

赤木攻『タイの政治文化』は必ず読んでくること。その他の課題文献も読んでくることが望ましい。

■履修上の注意・担当者からの一言

無遅刻・無欠席が原則。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②梅棹忠夫『文明の生態史観』を読む（1）—文明論の試み
- ③梅棹忠夫『文明の生態史観』を読む（2）
- ④B.アンダーソン『想像の共同体』を読む（1）—国民国家と文化
- ⑤B.アンダーソン『想像の共同体』を読む（2）
- ⑥E.W.サイード『オリエンタリズム』を読む（1）—帝国主義と文化
- ⑦E.W.サイード『オリエンタリズム』を読む（2）
- ⑧映画『アンナと王様』とオリエンタリズム批判
- ⑨赤木攻『タイの政治文化』を読む（1）—入門「タイの文化」論
- ⑩赤木攻『タイの政治文化』を読む（2）
- ⑪赤木攻『タイの政治文化』を読む（3）
- ⑫平井京之介『村から工場へ』（1）—現代タイ女性の近代化経験
- ⑬平井京之介『村から工場へ』（2）
- ⑭平井京之介『村から工場へ』（3）
- ⑮まとめ

アジアの文化

【担当】 舟橋 健太

【開講】 後期 木4

■サブタイトル

インド社会と「カースト」

■講義概要

南アジア社会、とりわけインドを代表的に表象するものとして、「カースト」が挙げられることが多い。伝統的・固定的にとらえられがちな「カースト制度」について、その歴史的背景から成り立ち、制度の概要・内容、そして現代における変化まで、幅広く取り上げて講義を行っていく。人びとの生活に密接に関わるものとして、人びとの暮らしとカーストのありように焦点を当て、多角的観点から講義を進めていく。また、社会・文化の実際の様相をヴィヴィッドに把握するため、映像・画像を積極的に使用し、視聴覚に効果的に訴えて理解の深化を図る。

■到達目標

インド社会における「カースト」を中心に、当該地域の社会と文化ならびにそこに住まう人びとについて学び考察することから、一面的で先入的な価値判断を脱して、「異文化」を理解すること、さらには了解することの必要性和重要性について認識し、「他者」と接する際の視角のありようについて、受講生が自省的に思考することを目標とする。

■講義方法

基本的に講義形式で行うが、受講生の人数や希望に応じて、受講生の発表の場や、ディスカッションの場を設けていく。

■系統的履修

文化人類学

■授業時間外における予・復習等の指示

各自で諸媒体を有効に用いて、毎回の授業のテーマについて振り返るとともに、次回テーマについて予備的知識を得ておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席、ならびに、コメントやレポートなどの内容を考慮する。
定期試験 (60%) 論述形式で行う。詳細は講義において通達。
出席 (原則として無遅刻・無欠席)、ならびに、質疑や討議といった面での積極的な参加を高く評価する。

■テキスト

特にテキストは指定しないが、必要に応じて、適宜資料を配布する。

■参考文献

金基淑 (編著) 『カーストから現代インドを知るための30章』 明石書店 2,100円
田中 雅一・田辺 明生 (編) 『南アジア社会を学ぶ人のために』 世界思想社 2,520円
辛島 昇 他 (監修) 『新版 南アジアを知る事典』 平凡社 9,450円
その他、講義ごとに、テーマに沿った参考文献を提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

インド社会(あるいは「異文化」というもの)への関心を有する方々の受講、ならびに、質疑・討議という点からの講義への積極的な参加を期待する。また、記載の講義計画は、進行具合や受講生の関心の度合い等に従い、若干の変更が生じることがある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

基本的に、電子メール (アドレス: kfunama43@ybb.ne.jp) でのコンタクトとする。

■講義計画

- ① イントロダクション
- ② 「カースト」とは何か
- ③ 「カースト制度」の歴史的形成・展開過程①
- ④ 「カースト制度」の歴史的形成・展開過程②
- ⑤ 「カースト」をめぐる議論①
- ⑥ 「カースト」をめぐる議論②
- ⑦ 「不可触民」とされる人びと①
- ⑧ 「不可触民」とされる人びと②
- ⑨ M. K. ガンディーとB. R. アンベードカルの「カースト」認識と解釈
- ⑩ 反カースト運動／不可触民解放運動／ダリト運動
- ⑪ 「カースト」と家族・親族関係
- ⑫ 「カースト」と女性～インドのジェンダー問題
- ⑬ 「カースト」をめぐる政治～現代インド社会における「カースト」
- ⑭ 「カースト」を考える
- ⑮ 「異文化」を学ぶということ

欧米の文化

【担当】 瀧口 順也

【開講】 前期 月4

■サブタイトル

文化を学ぶまなざしー西洋文化史

■講義概要

本講義は、「文化史」というアプローチを用いて欧米圏および日本のさまざまな文化の成り立ちと変容を考察します。現在のわれわれが日常で経験・体験している行為の多くは、近現代に誕生し異文化との接触や異なる地域に伝播されるなかで変化を遂げてきました。

本講義が扱う「文化」の領域は、物質文化、芸術文化、身体文化、日常文化と、きわめて幅広いものです。

普段の生活で何気なく接している行為や言葉にも、由来があり歴史があります。講義で扱う事例の多くは欧米圏のものですが、それらの多くは日本の文化様式にも影響及ぼしています。それぞれのキーワードとトピックを軸に、われわれの現在への理解を深め、これからを考えるための手掛かりとして、文化の歴史を紐解く試みです。

■到達目標

1. 「文化史」の視点や方法論への理解を深める。
2. 21世紀の現代に行われている様々な文化様式の変遷を知り、現代文化を洞察する見識を養う。
3. 欧米圏と日本の文化接触への知見を深め、日本文化への理解を促進させる。

■講義方法

パワーポイントを用いて講義を進める。適宜プリントを配布する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に多くの参考文献や映像資料を紹介します。ひとつでも多くの本や映画・ドキュメンタリーなどに触れ、歴史を体感するように心掛けて下さい。

■成績評価の方法

平常点 (10%)
レポート (30%) 学期中のレポート
その他 (60%) 学期末レポート
二度 (中間・学期末) のレポートにより評価します。

■テキスト

特になし

■参考文献

ピーター・バーク 『文化史とは何か』 法政大学出版局
個別のトピックについては、講義内で随時紹介します。「文化史」への総体的な理解を深めるものとして、上記の文献を挙げておきます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

第一回講義時に指示します。

■講義計画

- ① イントロダクション: 「文化史」というアプローチ
- ② 食物と消費文化Ⅰ: 砂糖
- ③ 食物と消費文化Ⅱ: 塩
- ④ 食物と消費文化Ⅲ: 茶、タバコ、酒
- ⑤ スポーツと現代文化Ⅰ: フットボール
- ⑥ スポーツと現代文化Ⅱ: ボクシング
- ⑦ スポーツと現代文化Ⅲ: オリンピック
- ⑧ 集合的記憶Ⅰ: 『未来予想図』とベル・エポック
- ⑨ 集合的記憶Ⅱ: オスタルギー、昭和ノスタルジー
- ⑩ 集合的記憶Ⅲ: ノスタルジーの克服
- ⑪ 儀礼と国家Ⅰ: 権力の表象
- ⑫ 儀礼と国家Ⅱ: 「全体主義国家」と儀礼
- ⑬ テキストと身体Ⅰ: 書物と出版
- ⑭ テキストと身体Ⅱ: 監視と規律
- ⑮ まとめ: 文化の歴史と現代文化

■サブタイトル

ヨーロッパ近現代の歴史思想を知る

■講義概要

近代ヨーロッパの成立について教科書的な記述に終わらない光をあて、生きた人間たちが作り上げた文化・歴史について紹介する。本年度は特に古代ギリシャに始まるユートピア思想の変遷とその実現の試みの歴史を主たるテーマとする。

■到達目標

近代西洋の礎となる思想・思考について理解を深める。

■講義方法

書籍、絵画、ビデオなどさまざまな教材を使って講義形式ですすめる。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に指示する文献をできるだけ読むようにすること。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%) ただし、講義に出席した上での理解度を問う試験となるので、授業には積極的に参加されたい。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に指示する。

■講義計画

1～3回目	古代ギリシャ・ローマのユートピア思想
4回目	トマス・モアの『ユートピア』
5回目	ユートピアの実践：トマス・カンパネッラと『太陽の都市』
6回目	ユートピアの実践：パラグアイのイエズス会運動
7～8回目	ユートピアの実践とフランス革命
9回目	ロバート・オーウェンの協同組合
10回目	サン＝シモンの社会思想
11回目	サン＝シモンの影響
12回目	シャルル・フーリエのファランステール
13回目	反ユートピア文学の展開
14～15回目	18世紀啓蒙思想の展開

■サブタイトル

テーマで斬る欧米文化

■講義概要

「文化を学ぶ」ということの意味は必ずしも明確ではない。したがって文化についての講義も、文化研究の最先端に触れるものから、観光ガイドに近いものまで、その振幅は広い。この講義は、特定の国や地域に限定せず、広く欧米文化を理解するためのテーマをいくつか設定して考察しながら、欧米を考え直す機会を提供しようとするものである。その際、歴史をはじめ、世界の状況に関する基本的な知識が土台となるが、そうした知識は日本の教育からしばしば欠落しているのが現状である。したがってこの講義では、時間の制約はあるものの、基本的な事項についても簡単な解説をする他、小テスト、課題などで補強的な学習を求めたい。

■到達目標

未知の世界としての異文化を、単純化せず、固定観念を持たずに、さまざまな角度、視点から考察する態度を養う。
欧米についての基礎知識をより多く身につける。

■講義方法

授業計画に基づく講義。出欠の確認も兼ねて、毎回講義の最初に、欧米の基礎知識についての小テスト、終わりに講義についての簡単なコメントを書いてもらう。課題として特定の問題について調べてもらうことがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

とくに最初の西洋史通史の段階では、たとえば参考文献などを講義の前後によく読んで、西洋史についての基礎知識を身に付けておくことが望ましい。また講義中いろいろ新しい概念、用語などを示すので、なるべくその日のうちに内容を思い起こして自分なりに整理しておくといよい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 小テスト、講義末に書いてもらうコメント、他の課題の提出と内容。

定期試験 (60%) 講義内容を理解できているかどうかについて、選択問題、論述などの筆記試験。小テストから一部出題。

試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として定期試験の受験資格を失うものとし、したがって単位も認められないことになる。

■テキスト

特になし

■参考文献

綿引弘『一番大切なことがわかる「世界史」の本』三笠書房(知的生きかた文庫) 619円

講義内容の土台となる西洋史の知識をサポートする副読本として好適。西洋史の基礎知識が不足としている場合は、講義前に一度通読し、講義期間中も折にふれて読むことが望ましい。その他文献も講義中に紹介。

■履修上の注意・担当者からの一言

欧米の文化をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取ればいいだけの人には向かない。しっかり話を聞いて、未知の内容はちゃんと学び、問題を掘り下げるつもりでいろいろ考えてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜4講時。但しいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画

- ①「欧米」の誕生(西洋史通史1)
- ②「欧米」の誕生(西洋史通史2)
- ③聖書と神話
- ④時間をめぐる話
- ⑤移動としての歴史
- ⑥風土と文化
- ⑦旅の物語の伝統
- ⑧土地と家族の問題
- ⑨労働と階級
- ⑩理性と野性、文明と自然
- ⑪言語の歴史、言葉の重さ
- ⑫言葉、シンボル、数字
- ⑬人間主義、個人主義
- ⑭名前と個人主義
- ⑮総合

* 以上は、講義項目のおおまかな流れを示したもので、必ずしも回数毎の内容ではない。

■サブタイトル

映画で見るアメリカの現代社会
Contemporary American Society through Film

■講義概要

アメリカ映画はその初期から大衆芸術としてあり、劇的な場面や生き生きとした見せ場を通して、同時代のさまざまな問題に取り組んできた。なかには議論を呼ぶような深いテーマを扱う映画もあり、それらは重要な文化的アイコンとなったり、各世代のアイデンティティや心性を探るための窓となっているものもある。

この講義は、映画を通して1980年代以降のアメリカの主要な社会問題について議論することを目的とする。具体的には、人種差別や「アメリカン・ドリーム」という根強い神話、フロンティアの開拓者たち、青年セクスと暴力、孤高の人物やアウトサイダーたち、資本主義の危機に関する問題である。これらの映画は、同時代の社会問題をどの程度正確に反映しているのだろうか？そして、これらの映画が与えた影響は、アメリカ人の自己へのまなざしや世界の見方をどのように変えたのだろうか？

■到達目標

この講義では、過去30年間にアメリカで生じた社会的・政治的な問題を取り上げる。

■講義方法

毎週、まず有名なハリウッド映画又テレビ番組（英語版、日本語字幕付き）を1本取り上げて、その物語の戦略と問題点を紹介する。次に、映画の受容とその影響について議論する。その後、授業内にその映画を鑑賞して、感想の意見交換する。授業で鑑賞する作品の多くは、映画の道を切り開いてきたものである。たとえば、物語の構成方法は、暗示的なメッセージと同様に影響を及ぼしている。講義では、こうした先駆的な映画制作のテクニックを論じていく。

■系統的履修

アメリカの社会と政治文化、メディア共通テーマを探る。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義での映画の関連、延長線として他のアメリカの映画たくさん鑑賞する事。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 参加程度
小テスト (30%) 感想レポート (毎週の課題)
レポート (20%) 作品の比較分析レポート (授業で見た映画以外のアメリカ映画の文化としての分析)
定期試験 (30%) 授業で見た映画の内容について又はエッセイレポートでは、授業中に鑑賞した映画作品以外のアメリカの作品を感想、「アメリカの文化のメッセージ」を探る
剽窃と判明した際、0点にする。

■テキスト

なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。

■参考文献

井上 一馬 『ブラック・ムービー—アメリカ映画と黒人社会 (講談社現代新書)』 (新書)
八尋 春海 『映画の中の星条旗—厳選映画100本で見る現代アメリカ社会 by』
鈴木 透 『性と暴力のアメリカ—理念先行国家の矛盾と苦悶』 中央公論新社
図書館、Tsutayaなどで現代のアメリカ (他の国も道論!) 文化を描いている映画沢山みてみましょう。

■履修上の注意・担当者からの一言

なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。
授業での作品はすべて英語で (字幕付け) ですが、英語を聞き取れない場合各自で振替版を又見に来なさい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

jonahATworld.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①映像の基本の見方
アメリカ社会の最近20年
- ②『Gran Torino』『グラン トリノ』
- ③『Gran Torino』『グラン トリノ』
- ④『Gran Torino』『グラン トリノ』
- ⑤『The Simpsons』 1 テレビと暴力
- ⑥『Bowling for Columbine』『ボウリングフォー・コロンバイン』:
アメリカの銃への欲望
- ⑦『Bowling for Columbine』
- ⑧『Bowling for Columbine』
- ⑨『Juno』 — 少女妊娠コメディ—
- ⑩『Juno』
- ⑪『Juno』
- ⑫『The Simpsons』『ザ・シンプソンズ』 2 日本の イメージ
- ⑬『真実の噂: Wag the Dog』
- ⑭『真実の噂: Wag the Dog』
- ⑮まとめ

■サブタイトル

将来の科学技術を客観的に考えるために

■講義概要

20世紀は科学技術の時代と言われた。石炭・石油をエネルギーとして、18世紀から産業革命が始まり、高度な物質文明を築き上げてきた。しかし、同時にこのことが、地球環境問題を引き起こしている。石器時代から人類は道具を作り始めたが、ギリシア時代にもものや現象に対する科学的な思考を始め、中世を経て近代の科学技術を基礎とした社会を作り上げてきたと言える。本講では、ギリシア・ローマ時代の科学技術、アラビアの科学、中世の錬金術、12世紀ルネッサンス、産業革命以降の近代科学技術の発展について概観する。また、とくに物理学の分野においてはエネルギー観の変遷に、化学の分野においては物質観の変遷に着目し、これらの分野における先駆者たちの発見のきっかけや思考過程について、科学者たちのエピソードなども交えて解説する。この講義を受講することによって、現在私たちが教育によって当然と考えている科学の基本的な概念の成り立ちを理解し、今後の科学技術の発展に対して客観的な判断が下せるようになることを期待する。

■到達目標

科学技術の発展を5つ程度の時代に分け、それぞれの発達した地域・国家を説明できる。
各時代の科学技術の特性を、それぞれ3人程度の科学哲学者の業績と関連付けて説明できる。
各時代の科学技術の相互関係を、経済的・政治的・宗教的背景と関連付けて説明できる。

■講義方法

プリント、DVD、PowerPointなどの視覚的教材を活用しながら、視覚に訴え、興味の持てる授業にしたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

配布資料のPowerPointなどの視覚的教材は未完成なので、授業中に完成させたものを用いて予習と復習を行うこと。推薦・指定DVDなどは、締め切り間際には混雑するので、時間の余裕を持って視聴すること。

■成績評価の方法

小テスト（40%）
定期試験（30%）
その他（30%）中間試験

■テキスト

特になし

■参考文献

渋谷一夫ら 『科学史概論』 ムイスリ出版 2,400円
八杉龍一 『図解 科学の歴史』 東京教学社 2,000円

■講義計画

- ①環境問題と科学技術
- ②古代の科学技術
- ③ギリシアの宇宙観
- ④ギリシアの物質観
- ⑤ローマの科学技術
- ⑥アラビアの科学
- ⑦中世の科学技術
- ⑧ガリレオ、デカルト、ニュートン
- ⑨錬金術と元素観
- ⑩フロギストン仮説の崩壊
- ⑪原子論の復活
- ⑫永久機関への夢
- ⑬産業革命と熱機関
- ⑭近代科学技術
- ⑮持続可能な社会のための科学技術と技術者倫理

■講義概要

現在の科学や技術は過去の長い期間にわたる真理の追及や技術改良の限らない努力の上に成り立っている。科学技術の発展の歴史を学ぶことは、現代の科学技術をより深く理解し、次への発展の手掛りを得ることにつながる。たとえば、製鉄の技術は文明の発展に寄与した。蒸気機関の発明は産業革命を推進し、近代文明への発展のきっかけを作った。現代の便利な社会はコンピュータの発明の恩恵を多大に受けていることは言うまでもない。数多くの技術が相互に影響を与えながら発展してきたのであるが、時系列的に見て科学技術の発展に大きな影響を与えた要素を大づかみする一方、個々の技術について注目し、その技術の発展について論述する。科学技術史は人と時と技術で構成されている。この講義では技術の内容に立ち入り、それがどう変わっていったのかを中心に、それに関わった人のエピソードを交えながら話をしたい。私の専門の関係から、内容が機械に偏ると思われるが、その点はお容赦願いたい。

■到達目標

社会に大きな変革を及ぼした主要な科学技術について説明ができ、その技術内容のポイントについてもある程度説明ができる。

■講義方法

パワーポイントを主体的に使用し、補足的に配布資料を使用する。パワーポイントなので全てをメモすることはできないが、キーワードや主要点はメモすることが望ましい。

■系統的履修

直接関連する科目は無いが、時代背景を理解するために世界史/日本史をおさらいしておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の後、当日の講義内容の要点をまとめておくこと。興味のある点、さらに詳しく知りたい点についてはインターネットや図書館で調べておくこと。このようにして作成したノートが学習の成果になる。

■成績評価の方法

小テスト (60%) 出席確認と学習効果の把握を兼ねる。小テストの評価は合計して評価に用いる。
レポート (40%) 学習が進んだ段階で、課題を出す。オリジナリティを重視し、他人のコピーは人数分の1にする。

■テキスト

特になし

■参考文献

山崎正勝他 『科学技術史概論』 ムイスリ出版 1,995円
中山秀太郎 『機械発達史』 大河出版 2,100円
三津間秀彦他 『新・機械技術史』 日本機械学会 2,800円
L・T・C・ロルト著、磯田浩訳 『工作機械の歴史』 平凡社 3,600円
ここに書ききれないが、参考図書はたくさんあり、記述内容もさまざまである。気に入ったものを探して読んでみるとよい。

■履修上の注意・担当者からの一言

講義は落語ではない。受け身でなく、自ら知識を学び取っていく姿勢で臨むこと。疑問点があれば授業中あるいは授業後に聞くこと。ただ漫然と聞き流すことなく、重要な点はノートに書き留めておくこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは定めないが、基本的に在室時は質問等に応じる。1号館315号室の扉に予定表を掲げている。参考図書を試読したいときは申し出ること。

■講義計画

- ①科学技術史総論 (古代)
- ②科学技術史総論 (中世)
- ③科学技術史総論 (近世)
- ④科学技術史総論 (近代)
- ⑤科学技術史総論 (現代)
- ⑥製鉄の歴史
- ⑦紡績・織布産業の歴史
- ⑧工作機械の歴史
- ⑨動力の歴史
- ⑩蒸気機関車の歴史 (世界)
- ⑪蒸気機関車の歴史 (日本)
- ⑫日本の鉄道の歴史
- ⑬自動車の歴史
- ⑭電気の歴史
- ⑮計算機の歴史

環境と人間A

【担当】 竺 文彦

【開講】 前期 月4

■サブタイトル

環境をいかに学び、いかに対処するか。

■講義概要

かつては、公害問題が環境問題であったが、公害問題については、法的な対応や行政的な対応によって、一応社会的には対応がなされたといえる。しかし、その後、ダイオキシン問題などの微量汚染物質が問題となったり、地球温暖化というような社会のエネルギーの使用を根本的に考え直さなければならないような大きな環境問題が出現してきている。これらのさまざまな環境問題の実態について知識を深め、今後どのように対処していかなければならないかについて、説明する。

■到達目標

さまざまな環境問題を理解し、基本的な考え方を確立する。

■講義方法

テキストおよびパワーポイント等を使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストを用いるので、テキストによる予習、復習を行うこと。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

石川宗孝 『環境読本』 電気書院 2,500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

広く世界の環境の問題に目を向けてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室を訪問してほしい。

■講義計画

- ①環境と社会づくり
- ②大気、水圏、土壌、森林
- ③地球温暖化、オゾン層
- ④酸性雨、森林破壊、砂漠化
- ⑤大気汚染
- ⑥水質汚濁
- ⑦廃棄物
- ⑧大気汚染防止技術
- ⑨水質汚濁防止技術
- ⑩化学物質、車社会
- ⑪温暖化、エネルギー
- ⑫CSR
- ⑬環境マネジメント、環境会計
- ⑭グリーン購入、LCA
- ⑮生活と環境

環境と人間A

【担当】 山崎 達雄

【開講】 後期 月4

■サブタイトル

環境の問題を通じて、人間社会を考える。

■講義概要

人間は、長い歴史の中で育んできた知恵と文化を生かして、環境問題にも取り組んできたが、その歩みをふりかえりながら、持続可能な社会にむけて、現代の環境問題について考える。ごみ問題を中心に、地球温暖化やエネルギー、トイレや水環境、更には環境を柱としたまちづくりなど、幅広く、いろいろな問題をとりあげる。

■到達目標

社会においてどんな環境問題が生まれているのか関心を持つとともに、身近な環境問題について、自分で考え、行動できる基礎的な知識を学ぶ。

■講義方法

授業毎にレジメを用意する。

テーマによっては、NPOで実際に環境問題に取り組んでいる人から話を聞きながら授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞等を読み、社会においてどんな環境問題が生じているのか、理解に努める。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席

レポート（50%）期末に与えられたテーマについてレポートを提出

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義時間前後の直接連絡

■講義計画

- ①授業の狙い、履修上の注意事項、身近な環境問題としてごみ問題を考える
- ②私達が毎日排出しているごみの行方
- ③ごみのリサイクルを考える
- ④循環型を考えるーごみゼロは実現できるのかー
- ⑤トイレを考える
- ⑥公害・環境問題の歴史から何を学ぶのか
- ⑦水の問題を考える
- ⑧アスベスト等、大気の問題を考える
- ⑨地球温暖化の問題を考える
- ⑩環境とエネルギーの関係を考える
- ⑪子どもたちは、環境の問題をどう考えているのか
- ⑫人間は環境を制御することはできるのか
- ⑬持続的社会に向けて、環境を学ぶ
- ⑭環境への取り組みを通じて、まちづくりを進める
- ⑮授業のまとめ、レポートの提出

■サブタイトル

ヒトの進化史からみた人間と自然の関係

■講義概要

生態人類学的な観点から人と自然の相互関係について探求する。具体的には、

1. 霊長類の特徴と人類の進化について学ぶ。
2. 狩猟採集民社会を中心にさまざまな民族や文化を概観し、人間社会の多様性を理解する。

■到達目標

人類学的な視点を習得するとともに、グローバル・ローカルの双方向から人と自然の関係を考える力を養う。

■講義方法

パワーポイントのスライドを用いた講義形式で進める。必要に応じてビデオを利用する。

■系統的履修

環境と倫理、環境と人間A

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で紹介する参考文献などに目を通して、講義内容を復習することが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 講義に対する質問や意見
レポート (60%) 期末レポート 1 回

■テキスト

特になし

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

受講者からの質問やコメントにもとづき、受講者の興味と理解度に合わせて柔軟に内容を変更する。
平常点が評価の一定の割合を占めるので、積極的に参加する意欲のない人、簡単に単位を取得したい人には向いていない。

■講義計画

- ①講義ガイダンス：環境とはなにか?
- ②霊長類としてのヒト：進化論的視点から
- ③人類の進化1：初期人類
- ④人類の進化2：ホモ属の出現と出アフリカ
- ⑤人類の進化3：現生人類の起源
- ⑥人種と環境
- ⑦生活史からみたヒト
- ⑧人口問題
- ⑨狩猟採集生活①
- ⑩狩猟採集生活②
- ⑪農耕のはじまり
- ⑫農耕民の暮らし
- ⑬牧畜民の暮らし
- ⑭映像鑑賞
- ⑮まとめ：人間と自然の共生

■サブタイトル

自然と人間の関係の人類史

■講義概要

環境問題に関心のある学生は多いが、人間が自然環境に依存して生きていくとはどういうことか、具体的な理解はごくかぎられている。この授業では、生態人類学的な視点を中心に、ヒトという動物の特徴を、人類進化史から抽出し、人間と環境の基本的な関係を概観する。ヒトと霊長類の比較や、人類史の99%以上を占める狩猟採集生活についての研究成果をもとに、人間の環境利用の特徴を検討する。そして、狩猟採集や農耕などの生業活動が自然環境にもたらした影響を、進化的かつ人類学的に考察する。また、人口増加や農耕と森林をめぐる問題を中心として、ヒトによる持続的な環境の利用のあり方を検討する。この授業で扱う環境とは、森林や動物などの自然をおもに対象としており、地球環境問題についての授業ではない。

■到達目標

環境問題の根源として、ヒトという生物の特徴と時代や生業や環境との関連を見渡す視点。
有史以前の人類と環境のかかわりの基本論点を説明できる。

■講義方法

パワーポイントのスライドで資料を提示しながら講義をする。
ビデオも利用し、スライド資料はWEBで公開する。
情報メディアセンターの携帯による出欠確認システムを利用予定。
授業時間中に小テストを実施し、また宿題レポートの提出をもとめる。

■系統的履修

環境と倫理、環境と人間A

■授業時間外における予・復習等の指示

授業スライドの資料をダウンロードして予復習に活用すること。
わからなかった用語・事項などをウェブや文献で調べること。

■成績評価の方法

平常点 (10%) 携帯出欠確認システムによる質問や意見
小テスト (40%) 授業時間中の小テスト
レポート (50%) 授業期間中に提出する課題レポート

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

この授業をきっかけに、人間と自然に対する根本的な興味をもってもらいたい。そのために、自分で調べ、考えるレポートなどの課題を重視する。よって簡単に単位をとりたい学生には向いていない。

■講義計画

- ①人類学からみる環境の視点
- ②霊長類の多様性とヒト
- ③人類の進化と環境
- ④ヒト化と出アフリカ
- ⑤新人の起源と世界進出
- ⑥人種と環境
- ⑦生活史
- ⑧人口
- ⑨中間まとめと小テスト
- ⑩狩猟採集生活 1
- ⑪狩猟採集生活 2
- ⑫農耕の起源と帰結
- ⑬環境の収容力と持続性
- ⑭里山と環境の持続性
- ⑮日本の環境利用の持続性

環境と倫理

【担当】 柿本 佳美

【開講】 前期 木4

■サブタイトル

科学技術と社会

■講義概要

人間は、生命をつなぐ食料や生活を豊かにする道具の素材を、自然環境において生み出されるものから得てきました。現在も、工学や生命科学をはじめとする科学技術は、エネルギーをはじめ多くのものを自然環境から得ています。しかしながら、科学技術の発展は、人間の生を豊かにする一方で、公害や希少な生物種の絶滅といった深刻な環境破壊も引き起こしてきました。環境をめぐるさまざまな問いは、福島第一原発事故に代表されるように、私たちに、科学技術の社会的効用と、その発展に伴う環境へのリスクのバランスをどのように取るかという問いでもあるのです。

ところで、環境倫理学は、問題となる自然環境に関わるさまざまな当事者の利害を考慮し、予測される環境破壊の予防と、それによって不利益を受けるであろう人々の権利や自然生物の生を守るシステムの構築を目指す領域です。

そこで、この授業では、環境に関わる基礎理論を学び、人間の福利と科学技術という点から環境をめぐるさまざまな問題を取り上げ、そのなかにある倫理的な課題について考えていきます。

■到達目標

環境倫理の基礎理論を学び、環境問題について知ること、多角的な思考ができる。尊重すべき原則と客観的な根拠に基づき、自らの見解をまとめることができる。

■講義方法

プリントを使用し、講義形式で行う。数回のミニレポートあり。これをもとに授業を進めることもある。

■系統的履修

「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に取り上げる文献については、予習または復習として読んでおくこと。環境問題に関する新聞等による報道に注意し、環境に関わる記事については必ず目を通しておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%)

通算欠席数が授業回数の3分の1以上欠席した場合は履修放棄と見なします。

■テキスト

加藤尚武編 『環境と倫理 (新版)』 有斐閣 アルマ 1,890円

■参考文献

関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求著 『環境の社会学』 有斐閣 アルマ 1,900円

上記のほか、参考となる文献については授業中に挙げます。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の途中であつてもかまいませんので、分からないと思ったらすぐに質問してください。

授業開始30分以降の入室はお断りすることがあります。

受講者の関心によって授業内容を一部変更することがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

木曜日13:00～13:30、講師室

■講義計画

- ①はじめに：科学技術と社会
- ②環境問題のはじまり：公害と環境汚染権利という視点
- ③環境倫理のキーワード：世代間倫理
- ④環境倫理のキーワード：環境的正義
- ⑤環境倫理のキーワード：環境アセスメントと企業の責任
- ⑥環境倫理のキーワード：「自然」「動物」に権利はあるか？
- ⑦環境資源と人間：水
- ⑧環境資源と人間：琵琶湖と暮らし
- ⑨環境資源と人間：大気
- ⑩環境資源と人間：土地
- ⑪生活のなかの環境問題：自然保護は誰のため？
- ⑫生活のなかの環境問題：里山と持続可能な発展
- ⑬エネルギー問題と環境：持続可能な社会とは？
- ⑭エネルギー問題と環境：原発と代替エネルギー
- ⑮まとめ：技術発展と未来世代

教養教育科目特別講義A (里山学入門) (2008年度以降入学生) 【担当】 宮浦 富保、近藤 倫生、鈴木 龍也、須藤 護、田中 滋、帖地 孝人、共同開講科目特別講義 (2003～2007年度入学生) 朴 炫国、丸山 徳次、遊磨 正秀、横田 岳人 【開講】 前期 月3

■サブタイトル

里山学入門 地域の自然と文化

■講義概要

里山は、人間が長期にわたって手を入れ、自然と多様な形で関わり、自然と共生することによって、人間同士の共存を可能にしてきた場所であった。日本の生物の多様性の一部は里山の存在によって維持されてきたということも明らかになりつつある。ところがエネルギー革命と農業革命のため里山は放置され、都市の膨張とともに開発のターゲットにされてきた。生物多様性を維持し、人間の生活を支え、日本文化の形成にも密接に関連していたと考えられる里山が失われようとしている。「里山学入門」では、里山の環境、動植物、歴史、里山と文化・制度との関わりなどについて、複数の教員が講義する。

■到達目標

里山といわれる環境について、その歴史や現状を理解する。里山を代表とする身近な自然環境と人間との関係について、自分自身の意見を持つ。

■講義方法

複数教員によるチェーンレクチャーであり、それぞれの教員ごとにいろいろな方法で講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

ほぼ毎回、レポートを課す。人間と自然の関係についての自分の考えを整理すること。

■成績評価の方法

レポート (100%)

■テキスト

講義時間内に教員ごとに指示する。

■参考文献

丸山徳次・宮浦富保 『里山学のすすめ』 昭和堂 2,310円

丸山徳次・宮浦富保 『里山学のまなざし』 昭和堂 2,310円

講義時間内に教員ごとに指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

チェーンレクチャーであるので、すべての講義時間に出席しないと、里山学の全体を理解することができない。

■講義計画

- ①4月15日 里山の歴史と現状
- ②4月20日 里山の自然と恵み
- ③4月22日 里山の環境倫理
- ④5月6日 里山の生物多様性1 動植物の多様性
- ⑤5月11日 里を歩く
- ⑥5月13日 水辺環境と里山
- ⑦5月20日 環境社会学からみた里山
- ⑧5月27日 里山と天の神＜中国編＞
- ⑨6月3日 里山と山の神＜韓国編＞
- ⑩6月10日 里山の保全
- ⑪6月15日 里山の保全体験
- ⑫6月17日 人と自然の関係～森からの思想
- ⑬6月24日 里山の生物多様性2 多様性のメカニズム
- ⑭7月1日 里山の所有と利用
- ⑮7月8日 総合考察

教養教育科目特別講義B（西洋近現代史入門）

【担当】 福島 千穂

【開講】 前期 月2

■講義概要

近代以降、良くも悪くも全世界に多大な影響を及ぼしてきた欧米の歴史は、もちろん現代日本の我々にとっても無関係ではない。この講義では近世から世界大戦にいたるまでの西洋世界の歴史を概観し、ヨーロッパ諸国に共通の歴史的経験、そして彼らとヨーロッパ外の世界との関わりについて学ぶ。様々な視角・論点に言及しつつ、原則的に時系列に沿って話を進める。

■到達目標

年号や固有名詞にとらわれる必要はなく、あくまでも全体的な流れを把握してもらいたい。また歴史的背景とあわせ地理的な知識も深めてもらいたい。

■講義方法

教科書は特に指定せず、パワーポイントと配布資料に則して授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点（40％）授業に対し意欲的に取り組んでいるかどうか
定期試験（60％）記述式の試験により、理解の度合いをはかる

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義の前後に質問を受けつけます。

■講義計画

- ①序論：ヨーロッパとは何か
- ②ヨーロッパ世界の拡大（1）：大航海時代
- ③ヨーロッパ中世の普遍主義の終わり：宗教改革
- ④宗教戦争と主権国家体制の成立
- ⑤絶対王政の時代
- ⑥近代化について
- ⑦産業革命と市民革命
- ⑧ナポレオン支配とウィーン体制
- ⑨国民国家の形成（1）：ネイションとエスニシティ
- ⑩国民国家の形成（2）：ナショナリズムの時代
- ⑪多民族帝国の統治（1）：ロシア帝国
- ⑫多民族帝国の統治（2）：ハプスブルク帝国
- ⑬ヨーロッパ世界の拡大（2）：植民地帝国
- ⑭ヨーロッパと海外植民地
- ⑮世界大戦へ

教養教育科目特別講義B（西洋近現代史入門）

【担当】 福島 千穂

【開講】 後期 水3

■講義概要

近代以降、良くも悪くも全世界に多大な影響を及ぼしてきた欧米の歴史は、もちろん現代日本の我々にとっても無関係ではない。この講義では近世から世界大戦にいたるまでの西洋世界の歴史を概観し、ヨーロッパ諸国に共通の歴史的経験、そして彼らとヨーロッパ外の世界との関わりについて学ぶ。様々な視角・論点に言及しつつ、原則的に時系列に沿って話を進める。

■到達目標

年号や固有名詞にとらわれる必要はなく、あくまでも全体的な流れを把握してもらいたい。また歴史的背景とあわせ地理的な知識も深めてもらいたい。

■講義方法

教科書は特に指定せず、パワーポイントと配布資料に則して授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点（40％）授業に対し意欲的に取り組んでいるかどうか
定期試験（60％）記述式の試験により、理解の度合いをはかる

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義の前後に質問を受けつけます。

■講義計画

- ①序論：ヨーロッパとは何か
- ②ヨーロッパ世界の拡大（1）：大航海時代
- ③ヨーロッパ中世の普遍主義の終わり：宗教改革
- ④宗教戦争と主権国家体制の成立
- ⑤絶対王政の時代
- ⑥近代化について
- ⑦産業革命と市民革命
- ⑧ナポレオン支配とウィーン体制
- ⑨国民国家の形成（1）：ネイションとエスニシティ
- ⑩国民国家の形成（2）：ナショナリズムの時代
- ⑪多民族帝国の統治（1）：ロシア帝国
- ⑫多民族帝国の統治（2）：ハプスブルク帝国
- ⑬ヨーロッパ世界の拡大（2）：植民地帝国
- ⑭ヨーロッパと海外植民地
- ⑮世界大戦へ

教養教育科目特別講義C（アジアの映画）

【担当】 李 相哲

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

映画で語るアジアの歴史と文化

■講義概要

映画はその国の歴史や時代を背景にしている。また、その空間に生きる人々の生活を題材にしている。映画は我々に過去の出来事を再現し、未知の世界を見せてくれたり、想像の世界を作り出すこともある。

この講義は、アジアの映画を通してアジアの近現代の出来事を映像でみながら、映画に映し出される場所、人物、物語が、その国の歴史や文化、人々の普通の生活とどうつながるのかを考えながら、映画に取り上げられた国について理解を深めていく。

■到達目標

東アジアの歴史や文化を理解する。この授業は映画という芸術を理解するためのものではない。映画に映し出されるアジアの国々の歴史、生活、文化を理解し、歴史の見方を身につける。

■講義方法

講義形式；映画を見る、解説を聞く、関連書物を読む、という形式。日・中・韓の歴史と関連のある映画、人々の生活を題材にした映画を鑑賞、映画に取り上げられた時代、空間、登場人物についての解説を聞くと同時にテキストを読む。

■系統的履修

アジアの文化、欧米の文化

■授業時間外における予・復習等の指示

その都度指示する

■成績評価の方法

平常点（10%）講義中に取り上げる映画をみたか、テキストを読んだか

レポート（60%）映画に関する感想文、テキストに関する感想文

定期試験（30%）

指定のテキストをしっかりと読んで欲しい。

■テキスト

李相哲 『東アジアのアイデンティティ』 凱風社 2,300円

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：水曜日12時30分～13時30分

連絡方法：cieli@soc.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①スケジュール、講義方法を知ってもらう（必ず出席すること）
- ②現代韓国の文化事情について
- ③分断国家の悲劇を知る
- ④韓国の文化を知る
- ⑤韓国人の家族愛、映画芸術の今を知る
- ⑥韓国の歴史を知る
- ⑦アジアの中の韓国の位置づけを知る
- ⑧現代中国の文化事情について
- ⑨現代中国を理解する
- ⑩中国の近代を知る
- ⑪中国の現代を知る
- ⑫中国の現在を知る
- ⑬日本の映画は中国、韓国映画とどう違うか
- ⑭現代アジアの家族、アジア的英雄像
- ⑮アジア映画にみる日中韓の文化

教養教育科目特別講義D（アジアの歴史と社会）

【担当】 野呂 靖

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

近江（滋賀）の仏教文化

■講義概要

豊かな水をたたえた琵琶湖や、古来より続く主要な街道を有する近江（滋賀県）の地。その風景は多くの歌に詠まれるなど、日本文化の中心地の一つとされてきました。また近江には、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在し、さまざまな仏像や絵画、文献など多くの文化財が現在にまで伝わっています。

この講義では、歴史とともに紡がれてきた近江の豊かで固有の文化を、宗教・仏教との関連のなかで紐解き、近江の魅力に迫ります。

■到達目標

近江の歴史と文化を宗教との関わりの中で総合的に理解することを目標とします。

■講義方法

毎講義時に配布するプリント、板書、映像資料により講義を行います。また、滋賀県内の古寺社や博物館などでの現地実習を予定しています（受講者数により変更となる場合があります。詳細は初回講義時に説明）。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自、講義時に紹介した参考文献の通読、博物館の拝観などにより理解を深める必要があります。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席状況・受講態度・毎講義時に提出を求めるコメントカードにより総合的に評価する。
レポート（50%）講義時に指示したテーマにもとづくレポートの内容により評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に随時、紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある滋賀県には、どのような文化と歴史があるのでしょうか。仏教との関わりを見ることで、滋賀県の魅力がより一層明らかになってきます。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②近江の歴史と宗教① 古代
- ③近江の歴史と宗教② 中世
- ④比叡山の仏教—天台宗の歴史—
- ⑤比叡山の修行—いまに生きる回峰行—
- ⑥比叡山の神と仏—山王神道の世界—
- ⑦園城寺の歴史と文化
- ⑧石山寺の歴史と文化
- ⑨戦国武将たちの仏教信仰①
- ⑩戦国武将たちの仏教信仰②
- ⑪近江の観音信仰と西国巡礼
- ⑫近江の修験道と甲賀の忍者伝承
- ⑬仏教説話に登場する近江
- ⑭現地実習（時期は未定。滋賀県内の寺社や博物館等を予定）
- ⑮まとめ

教養教育科目特別講義D（アジアの歴史と社会）

【担当】野呂 靖

【開講】後期 水3

■サブタイトル

近江（滋賀）の仏教文化

■講義概要

豊かな水をたたえた琵琶湖や、古来より続く主要な街道を有する近江（滋賀県）の地。その風景は多くの歌に詠まれるなど、日本文化の中心地の一つとされてきました。また近江には、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在し、さまざまな仏像や絵画、文献など多くの文化財が現在にまで伝わっています。この講義では、歴史とともに紡がれてきた近江の豊かで固有の文化を、宗教・仏教との関連のなかで紐解き、近江の魅力に迫ります。

■到達目標

近江の歴史と文化を宗教との関わりの中で総合的に理解することを目標とします。

■講義方法

毎講義時に配布するプリント、板書、映像資料により講義を行います。また、滋賀県内の古寺や博物館などでの現地実習を予定しています（受講者数により変更となる場合があります。詳細は初回講義時に説明）。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自、講義時に紹介した参考文献の通読、博物館の拝観などにより理解を深める必要があります。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席状況・受講態度・毎講義時に提出を求めるコメントカードにより総合的に評価する。
レポート（50%）講義時に指示したテーマにもとづくレポートの内容により評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に随時、紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある滋賀県には、どのような文化と歴史があるのでしょうか。仏教との関わりをみることで、滋賀県の魅力がより一層明らかになってきます。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②近江の歴史と宗教① 古代
- ③近江の歴史と宗教② 中世
- ④比叡山の仏教—天台宗の歴史—
- ⑤比叡山の修行—いまに生きる回峰行—
- ⑥比叡山の神と仏—山王神道の世界—
- ⑦園城寺の歴史と文化
- ⑧石山寺の歴史と文化
- ⑨戦国武将たちの仏教信仰①
- ⑩戦国武将たちの仏教信仰②
- ⑪近江の観音信仰と西国巡礼
- ⑫近江の修験道と甲賀の忍者伝承
- ⑬仏教説話に登場する近江
- ⑭現地実習（時期は未定。滋賀県内の寺社や博物館等を予定）
- ⑮まとめ

教養教育科目特別講義F（現代社会と栄養）

【担当】石井 和子

【開講】前期 木3

■講義概要

現代社会と健康を考えるに当たり、栄養は人体を構成する重要な要素である。栄養に関する正しい知識の取得を目標とする。本講義では、平均寿命と死因、生体成分と栄養素およびエネルギー代謝、食生活と健康（生活習慣病と食事の関連）について学ぶ。

■到達目標

健康な生活を維持する条件として、栄養の果たす役割の重要性について

■講義方法

講義形式を基本とするが、履修人数により小グループによるディスカッションや作業を行う場合がある

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の時に指示する

■成績評価の方法

平常点（40%）出席の有無
定期試験（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②食を通して見えるもの①
- ③食を通して見えるもの②
- ④食を通して見えるもの③
- ⑤栄養素とは何か
- ⑥食べ物の消化・吸収と代謝
- ⑦何をどれだけ食べたら良いのか①
- ⑧何をどれだけ食べたら良いのか②
- ⑨青年期・妊娠期の食事
- ⑩生活習慣病と食事①
- ⑪生活習慣病と食事②
- ⑫生活習慣病と食事③
- ⑬生活習慣病と食事④
- ⑭最近の栄養疫学研究
- ⑮まとめ

教養教育科目特別講義F（現代社会と栄養）

【担当】土居 幸雄

【開講】後期 月2

■サブタイトル

現代の食を巡る諸問題を知り、健康な食生活を考える

■講義概要

従属栄養生物であるヒトは様々な生き物（動植物、微生物）を食物として摂取するが、食物には生命の維持に不可欠な栄養素がバランス良く含まれなければならない。食を巡る様々な問題が社会を騒がす現代、食と栄養に関する基本的知識を持つことは、健康な生活を確保する大切な一歩である。本講義では、健康で豊かで食生活を送るために、我々が何を知らなければならないのか、広い視野に立って身近な問題から考えてゆきたい。始めに、食を巡る現代の課題を知り、食の安全について考えてゆく。次に、ヒトが摂取しなければならない栄養素について基本を学び、健康と食事の関連について考える。

■到達目標

食物と栄養について広い視点から捉えて学び、健康な食生活に必要な情報を選び取る能力を養う

■講義方法

講義形式を基本とする。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の時に指示する

■成績評価の方法

平常点（30%）

小テスト（0%）

レポート（10%）

定期試験（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①食を巡る諸問題
- ②世界の食料事情と日本
- ③食品の安全性
- ④食品の安全性
- ⑤食品の表示
- ⑥食品の栄養成分
- ⑦栄養素の消化・吸収・代謝
- ⑧栄養素の摂り方
- ⑨栄養素の摂り方
- ⑩国民衛生の動向と健康日本21
- ⑪生活習慣病
- ⑫生活習慣病と食事
- ⑬食品の機能性
- ⑭食育基本法
- ⑮まとめ

教養教育科目特別講義G（雑草学）

【担当】古本 強

【開講】後期 水3

■サブタイトル

雑草のくらしを学ぶ

■講義概要

雑草はヒトの活動と切っても切れない関係にある。定義も曖昧で、たとえば「雑草のようにたくましくやつ」などの文学的な用法から作物の栽培に害をなす植物を指す農学的用法などが混在している。さまざまな定義があるということは、善くも悪くもそれだけヒトの生活に密着していることを示している。

本講義では、雑草のくらしを中心に、生理的・生態学的観点などから解説するとともに、農業上の問題やどのように管理されているかなど、江戸時代の農学書に記載されている内容から最先端の農薬開発事情まで含めて解説する。

身近な植物についてこぼれ話なども折々に紹介する。

■到達目標

作物とは違う雑草のくらしへの理解を通して、道ばたに生える植物に想いをはせることができるようになること。

■講義方法

パワーポイント等を用いた講義を行う。資料は基本的に配布する。理解を促すために課題を求めることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

シラバスを参考に講義中の指示に従って予習すること

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況をみて判断する

小テスト（20%）講義中に行う小テストの結果を評価する

レポート（20%）折々に出すレポート課題への取り組みを評価する

定期試験（40%）試験評価

■テキスト

特になし

■参考文献

甲斐信枝『雑草のくらし』福音館 2,300円

この本は、絵本である。しかし、その内容はとても深い、授業では繰り返し使用するつもりである。

■履修上の注意・担当者からの一言

身近な植物に興味があればおもしろく感じるように講義したい。

■講義計画

- ①概念1－くらしに着目する－
- ②概念2－農業と雑草－
- ③概念3－外来植物－
- ④生理－繁殖生理－
- ⑤生理－光合成生理－
- ⑥生理－栄養生理－
- ⑦生理－アレロパシー－
- ⑧生理－形態－
- ⑨防除の考え方－生物防除－
- ⑩防除の考え方－物理防除－
- ⑪防除の考え方－化学防除－
- ⑫遺伝子組換え技術での防除
- ⑬ヒトによる利用－救荒植物－
- ⑭ヒトによる利用－作物の起源－
- ⑮まとめ

■講義概要

テクノロジーの急速な発展は人類に多大な恩恵をもたらした一方で、運動不足などによる生活習慣病などの発生率が年々高くなってきている。そこで、本講義は、現代社会における健康とスポーツ・運動の役割をスポーツ科学の観点から以下の項目について紹介する。

- (1) 現代社会におけるスポーツ・運動と健康
- (2) スポーツ・運動と身体的な健康
- (3) スポーツ・運動と心の精神的健康
- (4) 食生活とスポーツ

■到達目標

現代社会における運動やスポーツの重要性を科学的な観点から理解することを目指す。

■講義方法

講義形式で、担当教員が講義する。受講人数が少なければ実際にトレーニングセンターを使って運動を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外に講読できる文献を講義の時に紹介する。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 授業参加状況を総合的に判断する
定期試験 (80%) 大学が定める定期試験中に試験を実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

スポーツや運動に興味のある学生の履修を期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

最初の講義で紹介する。

■講義計画

- ①健康、スポーツ、運動、身体活動とは
- ②①スポーツや運動への参加状況
 - ②運動は寿命を長くするか。
- ③スポーツ・運動不足と生活習慣病について
- ④健康に関する体力要素
- ⑤エネルギー供給システムの違いについて
- ⑥①運動処方について
 - ②運動によるウェイトコントロール
- ⑦レジスタンストレーニング
- ⑧①ストレスと運動
 - ②行動パターンと運動
- ⑨①スポーツ・運動と精神的健康
 - ②運動の実践による心理的効果
- ⑩①運動により心理的効果のメカニズム
 - ②運動の実践による自己概念の向上
- ⑪スポーツ・運動を継続させるための心理的方策
- ⑫スポーツ栄養学について
- ⑬スポーツの実践によるライフスキルの獲得
- ⑭スポーツ科学の基礎知識
- ⑮まとめ

現代社会と宗教

■講義概要

現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修

生活の中の宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席
定期試験 (60%)
出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

- ①はじめに ― 現代における宗教
- ②宗教と物語 (1)
- ③宗教と物語 (2)
- ④宗教と原理主義 (1)
- ⑤宗教と原理主義 (2)
- ⑥宗教と悪 (1)
- ⑦宗教と悪 (2)
- ⑧宗教と寛容 (1)
- ⑨宗教と寛容 (2)
- ⑩宗教と生命 (1)
- ⑪宗教と生命 (2)
- ⑫宗教と死刑 (1)
- ⑬宗教と死刑 (2)
- ⑭宗教と死刑 (3)
- ⑮まとめ

■講義概要

現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修

生活の中の宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (40%)

定期試験 (60%)

出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

①はじめに ― 現代における宗教

②宗教と物語 (1)

③宗教と物語 (2)

④宗教と原理主義 (1)

⑤宗教と原理主義 (2)

⑥宗教と悪 (1)

⑦宗教と悪 (2)

⑧宗教と寛容 (1)

⑨宗教と寛容 (2)

⑩宗教と生命 (1)

⑪宗教と生命 (2)

⑫宗教と死刑 (1)

⑬宗教と死刑 (2)

⑭宗教と死刑 (3)

⑮まとめ

現代社会とスポーツ

■サブタイトル

現代のスポーツ文化

■講義概要

現代社会におけるスポーツの社会的・文化的な役割について、スポーツ固有の魅力や楽しみ方、スポーツと地域社会のかかわりなどをふまえながら考えていきます。また、スポーツのメディア化・ビジネス化・グローバル化という3つの視点から、現代スポーツのあり方を批判的に検討し、これからのスポーツと社会との関係について考えていきます。

■到達目標

スポーツと社会の関係を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむための楽しみ方を見いだそうとする。現代スポーツの社会的問題点を考察し、これからの社会とスポーツのかかわりについて考え、実践の視点を見つけることができる。

■講義方法

プレゼンソフトによる講義、プリントの配布、ビデオ (DVD、VHS) を使用。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席状況および受講態度

小テスト (20%) 毎授業後のプリント

レポート (20%) 中間試験。講義内容 (前半) をもとに出題する。記述式。

定期試験 (40%) 講義内容 (後半) をもとに出題する。記述式。

出席は毎回とる。授業後に小プリントを配布し、記述を求める。

■テキスト

受講生は講義内容をもとに独自のノートを作成すること。積極的な意見や質問を期待する。

■参考文献

井上俊・亀山佳明編 『スポーツ文化を学ぶ人のために』 世界思想社 2,415円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業プリントは一人1枚受け取る。枚数に限りあり。

■講義計画

①オリエンテーション：講義の概要、成績評価の方法、授業計画、履修上の注意事項などについて説明します。「スポーツ」「SPORT」「体育」「武道」「レクリエーション」「レジャー」「遊び」などの用語について理解を深めます。

②スポーツの起こりと発展について、陸上競技の技術史をもとに学びます。

③競技スポーツと生涯スポーツの魅力について、多角的に学びます。また、スポーツの楽しみ方を「する」「みる」「かたる」「ささえる」の観点からとらえます。

④ホイジンガとカイヨワのプレイ論を視座にして、スポーツの楽しさについて学びます。

⑤教育としてのスポーツについて、学習指導要領の変遷、体育科 (保健体育科) の目標と内容を中心に考えます。

⑥総合型地域スポーツクラブについて、ヨーロッパの事例をもとに運営形態や経営努力、課題について学びます。

⑦中間試験

⑧人間のからだの適応性について、運動の種類、強度、時間などの要因によって異なる変化の様相について理解を深めます。

⑨「メディアと競技スポーツの商品化」、「勝利至上主義とドーピング」、「競技スポーツと環境問題」、「スポーツの大衆化と環境問題」をテーマとして、現代スポーツが抱える問題点について考えます。

⑩これからの社会とスポーツと題して、ニューススポーツやユニセックスのスポーツ、民族スポーツについて学びます。

⑪スポーツとライフマネジメントについて、子どもの体力・運動能力や生活行動の調査データをもとに考えます。

⑫現代社会における健康問題に対する食事の重要性について学びます。

⑬24時間型社会がもたら睡眠への影響を実態調査結果をもとに理解するとともに、睡眠は脳とからだをつくるをキャッチフレーズとして、最近の睡眠の科学的知見を学びます。

⑭健やかなからだを育むことを目的として、睡眠6か条および補足6か条を理解するとともに、自己の睡眠生活を見つめ直し、その改善方法について考えます。

⑮「表現することは生きている証」をキャッチフレーズに展開されている表現運動のビデオを通して、表現することの意義や価値について考えます。

⑯定期試験

現代社会と福祉

【担当】岡野 英一

【開講】前期 木3

■サブタイトル

現代社会における福祉とは何なのか

■講義概要

現代社会における福祉とはどういうものか、経済社会的視点、歴史的視点、実戦的視点から考察を行います。

■到達目標

私たちの生活の中で、福祉とはどのような働きを持っているものなのかを理解できることを目指します。

■講義方法

基本テキストに沿って、計画的に講義を進めます。

■系統的履修

でき得れば地域福祉論の履修を勧めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

基本テキストの内容について、予習を求めます。

■成績評価の方法

平常点 (30%)

小テスト (20%) 前期中間時に実施します。

定期試験 (50%) 記述式テストを実施します。(テキスト、プリントのみ持込可)

■テキスト

成清美治、加納光子 『現代社会と福祉』 学文社 2,500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

できるかぎり質問を受け付けます。そこから意見交換をしたと思います。

■講義計画

- ①現代社会と福祉との関係および、福祉の構造とその意義について考察します。
- ②今日の福祉を形成する元となった理論と哲学について学びます。
- ③今日の福祉について、その歴史から学びます。
- ④我が国の高齢者福祉の概要を学び、その課題を考えます。
- ⑤我が国の児童福祉の概要を学び、その課題を考えます。
- ⑥我が国の障害者福祉の概要を学び、その課題を考えます。
- ⑦我が国の生活保護制度の概要を学び、その課題を考えます。
- ⑧我が国の地域福祉の概要を学び、国際比較を通して、その課題を考えます。
- ⑨論述式筆記試験を行います。
- ⑩福祉政策の意味と考え方、及びその進め方を捉えます。
- ⑪我が国福祉政策の概要を学び、国際比較等を通じて課題を考えます。
- ⑫福祉政策における市民協働の在り方について考えます。
- ⑬福祉問題を解決するのに必要な関連領域との協働について学びます。
- ⑭福祉専門職としての現代ソーシャルワーカーの在り方について学びます。
- ⑮少子高齢社会を突き進んでいく我が国。これからの福祉の在り方を展望します。

現代社会とマス・メディア

【担当】中野 有

【開講】前期 木4

■サブタイトル

メディア・リテラシー、

■講義概要

マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。最新の情報をベースにマスメディアの本質を考える。テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に接しながら考える能力を向上させる。国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。

■到達目標

メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。自分の頭で考え(Think)し、発表する能力を養う。

■講義方法

時勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。毎回、講義のレジュメを配布する。ハーバード大学のサンデル教授の「白熱教室」のような学生との対話形式の講義を目指す。毎回の講義で確実にスマートになる講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。

■成績評価の方法

平常点 (70%) 毎回の講義で約10分間の小レポートを作成。

レポート (30%) 講義で習得したことを1400字でまとめる。最終講義かその前の講義時にレポートを提出。

■テキスト

李相哲、小黒純他 『超入門ジャーナリズム101の扉』 晃洋書房 1,575円

オリエンテーションにて説明。

■参考文献

参考文献はオリエンテーションにて説明する。

■履修上の注意・担当者からの一言

世界に通用する教養を楽しく学ぼう。人生で最も勉強・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室

email nakanoassociate@yahoo.co.jp

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②マス・メディアとは
- ③マス・メディアのエッセンス
- ④メディアはメッセージである
- ⑤メディア・リテラシーとは
- ⑥Think, Learn, Lead 自分の頭で考える
- ⑦哲学的思想
- ⑧近代史を語る
- ⑨国際情勢の変化を解説
- ⑩外交・安全保障とマス・メディア
- ⑪グローバル・イングリッシュの習得
- ⑫国際経済を解説
- ⑬ソーシャル・メディアの役割
- ⑭総括
- ⑮総括

現代社会とマス・メディア

【担当】 中野 有

【開講】 後期 木4

■サブタイトル

メディア・リテラシー,現代社会を解説する

■講義概要

マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。毎日、メディアに接する時間は平均6時間と言われている。洪水のようにあふれる情報を如何に解説するかが非常に大切である。現代社会、特にグローバル・ソサエティーにおいては、単に学ぶことよりも自分の頭でThinkする能力が求められている。そこで、考えることを学ぶ講義を行う。テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に触れながら考える能力を向上させる。国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち、世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。

■到達目標

メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。

■講義方法

時勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。ハーバード大学のサンデル教授の「白熱教室」のような学生との対話形式の講義を目指す。

■系統的履修

毎週放送しているラジオカフェ・シンクタンクジャーナルをインターネットを通じて聴く。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。

■成績評価の方法

平常点 (70%) 積極的発言を重視、毎回約10分の小レポートを作成。レポート (30%) 講義で習得し分析したことを1400字でまとめる。講義の最終日からその前の講義中に提出。

■テキスト

李相哲、小黒純他 『超入門ジャーナリズム101の扉』 晃洋書房 1,575円
オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■参考文献

オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的かつ真剣に授業に参画して欲しい。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。豊かな人生を謳歌するための教養（リベラル・アーツ）を学ぶことができる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室 email nakanoassociate@yahoo.co.jp

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②マス・メディアのエッセンスを習得
- ③メディアはメッセージである
- ④鉄のトライアングル（政・官・財）とメディア
- ⑤哲学思想とメディア
- ⑥歴史の潮流
- ⑦近代史とメディア
- ⑧国際情勢の変化を解説
- ⑨外交・安全保障とメディア
- ⑩国際経済とメディア
- ⑪海外のメディアから学ぶ、ニューヨークタイムズ、BBC,CNN
- ⑫ソーシャル・メディア
- ⑬グローバル・イングリッシュ
- ⑭総括
- ⑮総括

現代社会とマス・メディア

【担当】 西村 敏雄

【開講】 後期 月4

■サブタイトル

メディアを監視、メディアの発信する情報から真実を読み取る

■講義概要

情報社会の中で、新聞やテレビ、インターネットなど情報は多様化している。その情報を発信するメディアは「記者や編集者のフィルターがかけられている」。その中からいかに真実を見抜くか。イラク戦争ではアメリカの攻撃する側からの情報が多く、被害者の観点からの報道は少なかった。3・11の東北震災では政府や東電の情報を踊らされた。また、先の選挙では自民党が圧勝したかに見えたが、その背景には。また尖閣諸島を巡る日中の駆け引きの裏側、さらには最近頻発している「冤罪」をめぐる警察や検察など権力の思惑など、その情報から「真実」を見抜く視点を養うことが求められている。こうした「作業」を通じて「人権とメディアのあり方」を基本的に学ぶことにより、より身近な社会、政治、国際、経済問題などの「真実」を見抜いて、「自分なりの意見を持つ」ことが求められている。

■到達目標

いかに多様な情報から「真実」を見つめる視点を養うか。マスコミ志願者にはその心構えを学ぶ機会としたい。

■講義方法

①新聞の読み比べ②大討論会③レジュメに沿った授業の3形式で行う。ビデオを鑑賞しながら「知らなかった世界」を発見して、「自分の視点」を養う。毎回、授業の終わりに、感想文や意見などを書いてもらう→出席票の代わりでもある。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の前には前週の新聞やテレビを通して何が世の中で起きているかを考えてくること。

■成績評価の方法

平常点 (70%) 欠席は3回まで、4回になると自動的に受講資格なしになる。小テスト (30%) 授業の節目に小レポートを3回 (各800～1000字)

■テキスト

『超ジャーナリズム入門』 晃洋書房 2,100円
毎回、レジュメを作成して渡す。

■参考文献

『メディアコントロール』 集英社新書

■履修上の注意・担当者からの一言

欠席は4回で授業の受講資格を失うので注意。忌引きや病気などは必ず連絡すること

■オフィスアワー・教員への連絡方法

toshi_bozu_1949@yahoo.co.jpのパソコンに連絡する。

■講義計画

- ①授業の進め方
- ①この授業の意義②レジュメの内容③採点④受講生に求めるもの。
- ②メディア・リテラシーの意義
- ③新聞が読者に届くまで
記者の一日
- ④ジャーナリズムの役割や使命
- ⑤戦争とメディア
- ⑥ビデオ・ベトナム戦争「これは正義の戦いか」を鑑賞する。
- ⑦ビデオ・イラク戦争をベトナム戦争と比較してそれを取材するマスコミの違いを検証する。
- ⑧冤罪事件
「痴漢冤罪」の恐怖
- ⑨冤罪事件
「足利事件」のDNA科学を信用し、誤審になった菅谷さんの失われた17年の人生を考える。
- ⑩冤罪事件
「松本サリン事件」での被害者が、権力やマスコミによって「犯人」に仕立てられていく危険性を検証する。
- ⑪日本軍「従軍慰安婦」に関するマスコミの対応や日韓の政治の思惑を検証する。
- ⑫「戦争とメディア」
教員と受講生との意見交換
- ⑬「冤罪とメディア」
教員と受講生との意見交換
- ⑭授業を振り返っての大討論会
- ⑮14回分の授業の確認

■サブタイトル

現代社会を支える先進技術

■講義概要

本講義の前半では、現代社会を支える基盤技術の概要について講義する。その内容は以下の通りである。まず技術の歴史を手短に紹介した上で、現代技術の概要を解説する。ついで現代技術の代表的分野の中から、コンピュータ技術、輸送技術、エネルギー技術、微細技術、ロボット技術などを取り上げ、これらの分野における基礎的知識、技術の現状、および今後の課題などについてわかりやすく講述する。

後半の講義は明治以後の産業技術論が中心である。現在の日本の多くの産業・技術の源は約150年前のわずか約50年の間に立ち上げられたものである。本講義では明治初期の技術シーズが如何に構築され社会ニーズに対応したか、明治50年間で幅広い産業技術分野での発展過程とその背景を整理する。その中で、環境・公害問題それに伴う企業理念や技術者理念の変化の背景をも見ることができる。これからのポスト産業主義時代に求められているパイ型人間（多くの分野に判断できる能力を有する人）の1つの要件は、知識の整理と社会に対しての行動力である。本講義は社会と産業技術の関連を解析し行動するための技術論である。さらに実例として第2次世界大戦後の社会ニーズに対応した最近の分析装置・技術の開発での体験も交え講義を行う。

■到達目標

現代社会を縁の下で支えている先端技術の現状と課題について理解を深め、今後のあるべき姿あるいは方向性を考えるための基礎知識を修得する。また、科学技術の進歩とそれらの恩恵について知り、21世紀において、20世紀にもたらされた地球環境の悪化に対する対策を講じながら、持続的発展をいかに続けていくかを理解することが到達目標である。

■講義方法

プリントを配布し、それに準じて講義する。

■系統的履修

「生活の中の物理」（教養教育科目）

■授業時間外における予・復習等の指示

現代技術に関する新聞、TVなどの報道記事に関心を持つことが好ましい。

■成績評価の方法

レポート（10%）

定期試験（50%）

その他（40%）中間試験

前半は、授業途中で課すレポートの成績（10点満点）と中間試験の成績（第8回目授業時に実施、40点満点）によって評価する（合計50点満点）。

後半は定期試験（100%）を50点とする。

前半と後半の点数を足し合わせて総計100点とする。

■テキスト

特定の教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

私語は他人に迷惑となるので慎むこと。目に余る者は退出または減点する。

中間試験は持込み不可。定期試験も持ち込み不可。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

特に設けない。

■講義計画

- ①現代技術序論（技術略史、現代技術概説）
- ②コンピュータ技術（アナログとデジタル、計算機の歴史、計算機の応用）
- ③輸送技術（自動車、鉄道、飛行機、ロケット）
- ④エネルギー技術（エネルギー概説、各種発電法、地球環境問題）
- ⑤微細技術（マイクロマシン、ナノ技術）
- ⑥ロボット技術1（ロボット技術の歴史、産業用ロボット）
- ⑦ロボット技術2（ヒューマノイドロボット、ロボット技術の将来）
- ⑧中間試験・復習
- ⑨幕末・明治への科学技術情報と社会構造の変化
- ⑩明治政府の産業基盤整備・殖産興業政策と富国強兵
- ⑪産業各論 1（化学、造船）
- ⑫産業各論 2（機械、通信・鉄道）
- ⑬産業各論 3（金属・電力・その他）
- ⑭分析機器の発展と社会ニーズ（環境高感度無機計測技術）
- ⑮まとめ

■サブタイトル

沖縄の視点から見た日米安保体制

■講義概要

ふたたび、自民党政権に戻り、普天間飛行場の移設条件であった、名護市辺野古沖への新基地建設が問題となってきた。

世界で唯一のジャングル訓練センター（北部訓練場）では、オスプレイの配備に伴い、新たなヘリパッド建設が着々と進められてきている。

この講義では、沖縄の視点から、日米安保体制について考える。沖縄の人たちは、本土の人たちが沖縄の問題に無関心であることに、いまや、憤っている。そのことを踏まえ、ぜひ、沖縄の視点から日米安保体制の矛盾を捉え、日本の政治のありようを考えてみよう。

■到達目標

- 1) 社会の出来事を自分の問題と受け止めることができるようになる。
- 2) 情報リテラシーの力をみにつける。

■講義方法

視聴覚教材視聴をふくめた、講義方式。

■系統的履修

平和学入門を履修するといいい。

■授業時間外における予・復習等の指示

e-ラーニングシステムを活用して、ディスカッションに積極的に加わるとともに、レポート課題にも取り組むこと。

テキストや、講義中に指示する参考文献に目を通すこと。

■成績評価の方法

平常点（10%） e-ラーニングシステムを用いたレポート課題を、講義の進捗状況に応じて課す。出席はとらない。

定期試験（90%） 論述2問。自分の考えた「プロセス」を論述形式で評価する。

■テキスト

池尾靖志 『自治体の平和力』 岩波書店 820円

テキストは、沖縄の現状、日本外交のオルタナティブの1つの手がかりを示したもので、講義全体をカバーするものではない。このため、講義中に指示される参考文献や新聞記事の切り抜き（ネット検索を含む）、板書やパワーポイントをメモするためのノート作りが必須である。

■参考文献

池尾靖志 『平和学をつくる』 晃洋書房

池尾靖志ほか 『地域から平和をきづく』 晃洋書房

■履修上の注意・担当者からの一言

出席はとらないが、授業に積極的にのぞむと同時に、新聞・テレビなどのニュースにも幅広く目を通し、講義の理解を深めるように努力すること。

この講義用のノート（ルーズリーフでかまわない）を用意すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

担当者のHPに書いてあるメールアドレスにメールしてくること。

■講義計画

- ①「標的の村」をみる
- ②国際関係の分析レベル
- ③少女暴行事件と県民大会、代理署名拒否
- ④SACO合意
- ⑤名護市民投票と辺野古への新基地建設
- ⑥高江へのヘリパッド建設
- ⑦安全保障のジレンマ
- ⑧米軍は本当に日本を守ってくれるのか?
- ⑨集団的自衛権とは?
- ⑩同時多発テロの衝撃
- ⑪イラク戦争と自衛隊の海外派遣
- ⑫改憲論の動き
- ⑬いわゆる15年戦争と日本の戦争責任
- ⑭アジア太平洋地域の安全保障
- ⑮日本のこれからを考える
- ⑯定期試験

■サブタイトル

思想課題としての「西欧近代」と日本

■講義概要

本講義では「西欧近代」を日本にとっての思想課題としてとらえ、その衝撃によって生じた葛藤について政治、経済、社会、科学、芸術などの側面から思想的な分析と考察を行ないます。東日本大震災と原発事故を経た日本は多くの困難を抱えていますが、それらの起源をたどれば黒船来航以来、日本がつねに葛藤してきた「近代性」の問題へといたります。日本にとって国際化とは何よりもまず「近代化」であり、それはすなわち「西欧化」を意味してきました。しかし近代化の問題と限界は現在、いっそう切迫した状況として私たちの眼前に広がっています。したがって、日本社会に山積する数々の問題を克服していくことはただ政策的、技術的なテーマなのではなく、「西欧近代」を支える思想と対峙しながら、いかにして日本は日本であろうとするのかという思想的な問いを問うことにほかなりません。

■到達目標

- ・「西欧近代」と「近代性」の原理をつかむ。
- ・「西欧近代」との出会いのなかで日本が経験した葛藤について知る。
- ・現代的な諸問題を展望するための思想的な視座を築く。

■講義方法

基本的に講義形式で行ないますが、状況に応じてディスカッションの形式をとることもあります。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に取ったノートを整理してください。講義で示した文献にもできるだけアクセスしてください。

■成績評価の方法

定期試験（100％）論述形式をとります。

試験への持ち込みは自筆ノートのみ認め、書籍や他人のノートのコピー、ワープロ入力した文書を印刷したものなどは持ち込み不可とします。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に適宜指示します。

■講義計画

- ①はじめに
- ②「国際化」と「グローバル化」
- ③西欧近代とは何か（1）
- ④西欧近代とは何か（2）
- ⑤西欧近代とは何か（3）
- ⑥西欧近代とは何か（4）
- ⑦西欧近代とは何か（5）
- ⑧近代性の三つの波（1）
- ⑨近代性の三つの波（2）
- ⑩近代性の三つの波（3）
- ⑪明治維新と武士道
- ⑫文明開化と個人主義
- ⑬近代美術と東洋の美
- ⑭「近代の超克」と太平洋戦争
- ⑮おわりに

■講義概要

本講義では、「日本文化」がどのように国際社会とのかかわりにおいて構築されてきているのか、ということの問題にします。私たちは、「日本文化」という超歴史的で実体的なものが、あたかもそれだけで独立して存在しているかのように錯覚しがちですが、実はそうではありません。むしろ、「日本文化」とは「日本」と国際社会との絶えざる接触において形成されてきた、「構築物」であるといえます。言い換えれば、「日本」の外部において抱かれているイメージを参照することで、「日本文化」なるものは構築されてきているのです。そしてこれは、近代において「日本人」という国民的アイデンティティを立ち上げるために、要請されてきたものであるといえるでしょう。以上のことを理解することで、普段あたりまえのように「日本文化」や「日本人」の存在を前提にしてなされている議論に対し、批判的に向き合えるようになる、というのが本講義のねらいです。

■到達目標

1. 日本文化という概念は、国際社会との関係において構築されて来たものであることを理解する
2. 日本文化を巡る議論は政治的なものと密接なかかわりのあるものであることを理解する
3. 上記を達成するために必要な諸理論について理解する

■講義方法

基本的にレクチャー形式で授業を進めますが、適宜ディスカッションの形式も取りたいと思います。また、パワーポイントなどの視覚資料も用います。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメなどは配布しない予定ですので、各自でしっかりとノートを取ってください。

■成績評価の方法

定期試験（100％）持込み可

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②近代日本とアイデンティティの構築史
- ③日本人論の系譜1（戦前から戦中）
- ④日本人論の系譜2（戦後から現代）
- ⑤オリエンタリズムと日本文化1
- ⑥オリエンタリズムと日本文化2
- ⑦クール・ジャパンと日本文化1
- ⑧クール・ジャパンと日本文化2
- ⑨クール・ジャパンと日本文化3
- ⑩アジアと日本文化1
- ⑪アジアと日本文化2
- ⑫欧米と日本文化1
- ⑬欧米と日本文化2
- ⑭欧米と日本文化3
- ⑮まとめ

ジェンダー論

【担当】堀江 有里

【開講】前期 火5

■サブタイトル

ジェンダー入門

■講義概要

ジェンダーとは、社会的・文化的につくられた性差（女らしさ・男らしさ）のことである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」を”つがう”ものとして認識する社会規範もあわせもっている（「異性愛主義」）。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在する、これらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ないたい。

■到達目標

ジェンダーとは何か、また性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれてきたのか、維持されてきたのかを考察する視点を身につけることを目指す。

■講義方法

講義形式にて進める。また、適宜、映像資料などを用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内に指示する。また、わからないことがあったら、その都度、図書館等で調べるようにすること。

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況およびミニレポート

定期試験（80%）論述試験

■テキスト

特になし

■参考文献

高橋準 『ジェンダー学への道案内（三訂版）』 北樹出版 2,000円

田中雅一・川橋範子 『ジェンダーで学ぶ宗教学』 世界思想社 1,995円

堀江有里 『「レズビアン」という生き方』 新教出版社 2,100円
その他、講義内に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語等、講義妨害行為には厳しく対処しますので各自注意して受講登録をしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

非常勤講師（パートタイム）のため、講義時間にのみ出講しています。講義後に声をかけてください。

■講義計画

- ①イントロダクション：講義概要の紹介等
- ②ジェンダーとは何か？（1）：概念説明、性差別の存在
- ③ジェンダーとは何か？（2）：マスメディアのなかのジェンダー
- ④フェミニズムの思想と実践（1）：女性解放運動と市民権
- ⑤フェミニズムの思想と実践（2）：「家父長制」という慣習
- ⑥労働とジェンダー（1）：賃金格差と職場・法
- ⑦労働とジェンダー（2）：セクシュアル・ハラスメント
- ⑧家族とジェンダー（1）：近代家族の成り立ち
- ⑨家族とジェンダー（2）：家族の多様性
- ⑩性暴力の諸問題（1）：軍事・基地とジェンダー
- ⑪性暴力の諸問題（2）：軍隊「慰安婦」問題
- ⑫ジェンダーとセクシュアリティ（1）：性の多様性
- ⑬ジェンダーとセクシュアリティ（2）：性自認と越境
- ⑭ジェンダーとセクシュアリティ（3）：性的指向／同性愛と異性愛
- ⑮宗教とジェンダー

ジェンダー論

【担当】堀江 有里

【開講】後期 火5

■サブタイトル

ジェンダー入門

■講義概要

ジェンダーとは、社会的・文化的につくられた性差（女らしさ・男らしさ）のことである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」を”つがう”ものとして認識する社会規範もあわせもっている（「異性愛主義」）。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在する、これらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ないたい。

■到達目標

ジェンダーとは何か、また性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれてきたのか、維持されてきたのかを考察する視点を身につけることを目指す。

■講義方法

講義形式にて進める。また、適宜、映像資料などを用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内に指示する。また、わからないことがあったら、その都度、図書館等で調べるようにすること。

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況およびミニレポート

定期試験（80%）論述試験

■テキスト

特になし

■参考文献

高橋準 『ジェンダー学への道案内（三訂版）』 北樹出版 2,000円

田中雅一・川橋範子 『ジェンダーで学ぶ宗教学』 世界思想社 1,995円

堀江有里 『「レズビアン」という生き方』 新教出版社 2,100円
その他、講義内に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語等、講義妨害行為には厳しく対処しますので各自注意して受講登録をしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

非常勤講師（パートタイム）のため、講義時間にのみ出講しています。講義後に声をかけてください。

■講義計画

- ①イントロダクション：講義概要の紹介等
- ②ジェンダーとは何か？（1）：概念説明、性差別の存在
- ③ジェンダーとは何か？（2）：マスメディアのなかのジェンダー
- ④フェミニズムの思想と実践（1）：女性解放運動と市民権
- ⑤フェミニズムの思想と実践（2）：「家父長制」という慣習
- ⑥労働とジェンダー（1）：賃金格差と職場・法
- ⑦労働とジェンダー（2）：セクシュアル・ハラスメント
- ⑧家族とジェンダー（1）：近代家族の成り立ち
- ⑨家族とジェンダー（2）：家族の多様性
- ⑩性暴力の諸問題（1）：軍事・基地とジェンダー
- ⑪性暴力の諸問題（2）：軍隊「慰安婦」問題
- ⑫ジェンダーとセクシュアリティ（1）：性の多様性
- ⑬ジェンダーとセクシュアリティ（2）：性自認と越境
- ⑭ジェンダーとセクシュアリティ（3）：性的指向／同性愛と異性愛
- ⑮宗教とジェンダー

■講義概要

ジェンダー（gender）とは、社会の中で男性が女性に対して力をふるう図式、を明らかにするものの見方である、と私は考えます。誰と一緒に住むのか、誰を愛するのか、誰とともに子を生み育てているのか、誰とともに働くのか、病気や障害をもった人の介護をするのは誰なのか。そのとき、男性と女性は何を考え、どのようにふるまうのか。現代の日本社会においても、男性と女性が期待される役割は異なります。男性が得をして女性が損をする、損をしていることにさえ女性が気づきにくい仕組みがあります。ジェンダーというものの見方や感じ方を学ぶことで、知らず知らずに私たちが「男性が女性を支配する」図式に陥っていく謎にアプローチします。

■到達目標

この講義は男性と女性の客観的な知識や情報を伝えることだけを目標にしていません。私も含めて講義に参加する人が、私はどうなのかあなたはどうか、と自分自身の条件を深く問うものになればと思います。考え表現するきっかけを獲得することを目標とします。

■講義方法

基本的には講義形式です。講義内では、映像資料も多用して、参加者に議論してもらう時間もうけます。また、ジェンダーの視点を持ちながら地域で活動している方を、ゲストスピーカーとして呼ぶ場合もあります。

■授業時間外における予・復習等の指示

必要に応じて適宜指示します。

■成績評価の方法

平常点（40%）講義内で少し長めの感想を4回書いてもらい、出席点とします。

定期試験（60%）自筆ノートと配布資料の持ち込みは可です。

■テキスト

講義内で適宜指示します。

■参考文献

講義内で適宜指示します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

適宜可能な範囲で調整します。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②一人で暮らすこと、誰かと暮らすこと（1）
- ③一人で暮らすこと、誰かと暮らすこと（2）
- ④産まないこと、産むこと、育てること（1）
- ⑤産まないこと、産むこと、育てること（2）
- ⑥働くこと（1）
- ⑦働くこと（2）
- ⑧性を買うこと、性を買うこと（1）
- ⑨性を買うこと、性を買うこと（2）
- ⑩性暴力について（1）
- ⑪性暴力について（2）
- ⑫ジェンダーと教育（1）
- ⑬ジェンダーと教育（2）
- ⑭マイナーであること（1）
- ⑮マイナーであること（2）

自然観察法

■講義概要

瀬田学舎の近くには比較的豊かな自然環境が残されています。この講義では、瀬田学舎周辺で観察できる植物や動物を主な題材として、身近な自然を観察するポイントを学習します。身近な動植物の名前を知るのみでなく、行動や生態、進化的な観点から、観察し、記録し、簡単な分析を行う方法を学びます。

■到達目標

身近な自然環境を観察するための基本的な項目を体得する。

■講義方法

スライドや板書による講義とともに、実際にキャンパス内外の身近な自然を観察し、記録、分析する方法を体験学習する。

■系統的履修

なし

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時間中に学習した観察手法を、身近な環境で実践することにより、確実に身につけるとともに、自然の多様な側面を理解していただきたい。

■成績評価の方法

平常点（50%）3回以上の欠席で不合格とする
レポート（50%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①野外における観察とは（ガイダンス）
- ②地形図の見方と野外での観察記録
- ③自然の恵み
- ④覚えよう身近な樹木
- ⑤「昆虫の飛び方を探る」（チョウやハチの飛翔）
- ⑥田圃の生き物
- ⑦植物と動物の関係
- ⑧ホタルの観察
- ⑨動物の餌探し
- ⑩生物による造形（巣作り）
- ⑪生物の形の数理
- ⑫「生き物のだましを見抜こう」（擬態）
- ⑬カワニナの観察
- ⑭樹木の形
- ⑮まとめ

情報社会とメディア

【担当】 外村 佳伸、三浦 雅展

【開講】 前期 月3

■講義概要

本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。

我々はいわゆる情報社会に生きている。文明的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標

- ・メディアの基本的な特性と役割を理解している。
- ・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。
- ・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法

主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法

- 平常点 (40%)
- レポート (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画

- ①現代情報化社会： 情報社会の問題点と背景
- ②生活とメディア： デジタルな生活考
- ③コミュニケーション・メディア論： 電話からつぶやきまで
- ④ビジネスとメディア： ビジネス・モデルはメディアと共に
- ⑤文化とメディア： 日本文化、アーカイブ
- ⑥安心・安全社会とメディア： 情報化時代のリスク論
- ⑦社会秩序とメディア： ネット時代の生き方
- ⑧情報の基本概念： 情報・メディア・伝達
- ⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
- ⑩情報システムと情報ネットワーク
- ⑪メディアの諸相 (1)： 音メディアが伝える情報
- ⑫メディアの諸相 (2)： 映像メディアが伝える情報
- ⑬メディアの諸相 (3)： 感情・感動を伝えるメディア
- ⑭人間によるメディア処理： 視覚と聴覚によるメディア処理
- ⑮芸術とメディア： デジタルアート、デザイン

情報社会とメディア

【担当】 外村 佳伸、三浦 雅展

【開講】 後期 木3

■講義概要

本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。

我々はいわゆる情報社会に生きている。文明的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標

- ・メディアの基本的な特性と役割を理解している。
- ・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。
- ・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法

主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法

- 平常点 (40%)
- レポート (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画

- ①現代情報化社会： 情報社会の問題点と背景
- ②生活とメディア： デジタルな生活考
- ③コミュニケーション・メディア論： 電話からつぶやきまで
- ④ビジネスとメディア： ビジネス・モデルはメディアと共に
- ⑤文化とメディア： 日本文化、アーカイブ
- ⑥安心・安全社会とメディア： 情報化時代のリスク論
- ⑦社会秩序とメディア： ネット時代の生き方
- ⑧情報の基本概念： 情報・メディア・伝達
- ⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
- ⑩情報システムと情報ネットワーク
- ⑪メディアの諸相 (1)： 音メディアが伝える情報
- ⑫メディアの諸相 (2)： 映像メディアが伝える情報
- ⑬メディアの諸相 (3)： 感情・感動を伝えるメディア
- ⑭人間によるメディア処理： 視覚と聴覚によるメディア処理
- ⑮芸術とメディア： デジタルアート、デザイン

■講義概要

我々の社会生活に不可欠な「情報」というものを、主として科学・技術的な側面から学習する。まず、情報の性質と特徴を明らかにするとともに、コンピュータ、インターネットのしくみを学ぶ。また、情報という観点から、人間の特質、機械と人間の違いなどにも触れ、情報と人間の関係や情報社会のしくみや在り方を考える。そこから、人間にとって情報とは何なのかを導き出す。

■到達目標

情報の表現や伝達方法、通信、コンピュータ、インターネットのしくみとこれを利用するのに必要な知識を習得することを目指す。

■講義方法

原則としてパソコンによる提示と板書にそって講義を進める。

■系統的履修

なし

■授業時間外における予・復習等の指示

講義ノートは本授業のサイトで公開しているので、PDFを各自ダウンロードして予習・復習に活用すること。なお、講義ノートはプリントアウトして授業に持参すること。

■成績評価の方法

小テスト（100%）

授業中の筆記テスト（100点満点）の成績により評価する。

■テキスト

なし

■参考文献

川合 慧 『情報』 東京大学出版会 1,900円

回陽 博史 『情報と人間』 オーム社 2,200円

その他の参考書などについては、授業の中で随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

本講義で学ぶ情報、メディア、コンピュータ、インターネットに関する知識は、文系、理系を問わず、これからの社会を生き抜くには必要不可欠の知識です。

好き嫌いではなく、大学生の基礎知識として理解し、習得してください。単に授業に出てノートを取るだけでなく、自分でよく考えながら講義を聴くようにしてほしいと思います。

なお、本科目は瀬田学舎の全学部・全年次を対象としたものですが、理工学部学生には推奨しません。本来、理工学部固有の科目において学習すべき内容（と理工学部生として当然身につけているはずの教養）を講義するからです。すでに学習した内容、もしくは今後学習する内容を聴くことになるので、本科目により新たな知識を得ることはないと思います。教養教育科目の総合科目については、他の科目（理工系でない科目）を受講することを強く推奨します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

理工学部電子情報学科の教員の週間予定については、学科のWebサイトで参照することができます。スケジュールを確認して、1号館4階の研究室を訪問してください。

■講義計画

- ①情報とは何か
- ②情報の表現と性質 1
- ③情報の表現と性質 2
- ④情報の伝達と通信
- ⑤問題の表現と解き方
- ⑥コンピュータのしくみ
- ⑦インターネットのしくみ
- ⑧まとめ
- ⑨感覚系と記憶系
- ⑩脳の情報処理
- ⑪遺伝子と進化
- ⑫インタフェース
- ⑬情報技術と社会
- ⑭筆記テスト
- ⑮まとめと質疑応答

情報倫理

■サブタイトル

情報社会における心理・技術・法

■講義概要

情報化に伴う社会の変化により、倫理や規範の問題についても、これまでの議論の枠組みとは異なる視点からの再検討が必要になっていると考えられる。例えば、従来の知的財産権法制は情報社会において有効な行動指針たりうるのか、新たな形態の反社会的行動に対する対策はいかにありうるのか、人と人の間の対話のあり方はどのように変容していくのか等、問題は多岐に渡り、社会や個人の様々な側面に関係している。本講義では、こうした課題を法制・関連IT技術・個人の心理面の3テーマから整理し、情報倫理の問題を多面的に検討していくことを目指す。

■到達目標

人がインターネット等で活動する際に直面する問題はどのようなものか、そうした問題を予防し、またはこれに対処する行動指針とはどのようなものかを理解する。

■講義方法

講義計画に沿ってレジュメと資料を配布し、それに基づき講義形式で進める。可能な限り視聴覚教材も利用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

インターネット上での心理に関連する新聞コラム、事件報道等に常に注目しておくこと。講義内容を理解する上で必須かつ有用。

■成績評価の方法

平常点（20%）

小テスト（10%）

レポート（40%）

定期試験（30%）

■テキスト

特になし

■参考文献

A.N.ジョインソン 『インターネットにおける行動と心理』

北大路書房 2,800円

Deborah G. Johnson 『コンピュータ倫理学』 オーム社

2,500円

名和小太郎 『情報の私有・共有・公有 ユーザーからみた著作権』 NTT出版 2,500円

■講義計画

- 1～5回目 インターネットにおける行動と心理
- 6～9回目 コンピュータウイルス、セキュリティ対策、ネットワークサービスと開発者倫理
- 10回目 確認のための小テスト
- 11～14回目 関連法律、現行法の問題点および今後の動向
- 15回目 総括

人権論A

【担当】 稲田 七海、本岡 拓哉

【開講】 前期 月2

■サブタイトル

流動社会における人権

■講義概要

本講義では、雇用、貧困、生活保護、ホームレスなどの社会問題を通して、流動社会における労働や生活のあり方について考えることを目的とします。雇用の流動化による格差の拡大や貧困問題が深刻化する現在、「働き方」や「生活」をめぐる問題は、私たちにとってもっとも身近で重要な課題となっています。労働や生活をとらえて見えてくる貧困・格差をめぐる問題と、それらに対応する社会保障や社会政策、そしてそれらを補完する民間の実践プロセスを通して、人権について議論していきます。

■到達目標

本講義では、私たちに身近な労働や生活のあり方ととして、「働くこと」や「生活すること」をめぐる自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持つことを到達目標とします。

■講義方法

教科書は指定しませんが、各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料）などを活用しながら講義を進めていきます。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点（40%）
レポート（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に紹介する予定です。

■講義計画

- ① イントロダクション：「働くこと」「生活すること」と人権
- ② 多様化する「働き方」と生活
- ③ 高度経済成長期における労働と生活 1
- ④ 高度経済成長期における労働と生活 2
- ⑤ 労働と社会保障 1
- ⑥ 労働と社会保障 2
- ⑦ 労働の空間と生活の空間 1
- ⑧ 労働の空間と生活の空間 2
- ⑨ 労働の空間と生活の空間 3
- ⑩ 流動化とライフコース 1
- ⑪ 流動化とライフコース 2
- ⑫ 流動化とライフコース 3
- ⑬ セーフティネットと地域 1
- ⑭ セーフティネットと地域 2
- ⑮ これまでの総括

人権論A

【担当】 中川 ユリ子

【開講】 前期 月2

■サブタイトル

現在の被差別部落・入門

■講義概要

日本で人権ということが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。

本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて、同和対策事業が大々的に行われ、多くの部落は確かに大きく変わった。時代とともに全体として裕福にもなった。市民の意識を変革していくという試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとはいえない。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。

大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。

差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。

■到達目標

たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。

■講義方法

初回から4、5回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は、個々人がその現実とどういった関係性をもっているのか理解できるような題材を用いて、講義を行う。

■系統的履修

特になし。

■授業時間外における予・復習等の指示

社会問題に興味を向け、現在の問題を知るように心がけること

■成績評価の方法

定期試験（100%）

基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて、答える（文章を作る）という形をとる。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。

■テキスト

教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献

読んで欲しい本、興味をひかれるだろう本等は、講義時に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

連絡用のemailを講義時に知らせることを考えている。

■講義計画

- ① 部落問題とは何か
- ② 今日の差別事象ー結婚差別を考える
- ③ 被差別部落の実態ー統計資料より
- ④ 被差別部落の実態ー統計資料より
- ⑤ 同和対策事業が部落にもたらしたもの
- ⑥ 古い問題、新しい問題
- ⑦ 部落の新しい世代
- ⑧ ある唄から部落を見る①
- ⑨ ある唄から部落を見る②
- ⑩ 賤民の歴史ー中世・近世
- ⑪ 部落の歴史ー近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
- ⑫ 部落の歴史ー近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
- ⑬ 部落の人々が語ること
- ⑭ 部落とは何か
- ⑮ 予備日（ビデオの上映など）

人権論A

【担当】 稲田 七海、本岡 拓哉

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

流動社会における人権

■講義概要

本講義では、雇用、貧困、生活保護、ホームレスなどの社会問題を通して、流動社会における労働や生活のあり方について考えることを目的とします。雇用の流動化による格差の拡大や貧困問題が深刻化する現在、「働き方」や「生活」をめぐる問題は、私たちにとってもっとも身近で重要な課題となっています。労働や生活をとらえて見えてくる貧困・格差をめぐる問題と、それらに対応する社会保障や社会政策、そしてそれらを補完する民間の実践プロセスを通して、人権について議論していきます。

■到達目標

本講義では、私たちに身近な労働や生活のあり方ととして、「働くこと」や「生活すること」をめぐる自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持つことを到達目標とします。

■講義方法

教科書は指定しませんが、各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料）などを活用しながら講義を進めていきます。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点（40%）

レポート（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に紹介する予定です。

■講義計画

- ① イントロダクション：「働くこと」「生活すること」と人権
- ② 多様化する「働き方」と生活
- ③ 高度経済成長期における労働と生活 1
- ④ 高度経済成長期における労働と生活 2
- ⑤ 労働と社会保障 1
- ⑥ 労働と社会保障 2
- ⑦ 労働の空間と生活の空間 1
- ⑧ 労働の空間と生活の空間 2
- ⑨ 労働の空間と生活の空間 3
- ⑩ 流動化とライフコース 1
- ⑪ 流動化とライフコース 2
- ⑫ 流動化とライフコース 3
- ⑬ セーフティネットと地域 1
- ⑭ セーフティネットと地域 2
- ⑮ これまでの総括

人権論A

【担当】 中川 ユリ子

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

現在の被差別部落・入門

■講義概要

日本で人権ということが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。

本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて、同和対策事業が大々的に行われ、多くの部落は確かに大きく変わった。時代とともに全体として裕福にもなった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとはいえない。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。

今、大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。

差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。

■到達目標

たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。

■講義方法

初回から4、5回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は、個々人がその現実とどう関係性をもっているのか理解できるような題材を用いて、講義を行う。

■系統的履修

特になし。

■授業時間外における予・復習等の指示

社会問題に興味を向け、現在の問題を知るように心がけること

■成績評価の方法

定期試験（100%）

基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて、答える（文章を作る）という形をとる。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。

■テキスト

教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献

読んで欲しい本、興味をひかれるだろう本等は、講義時に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

連絡用のemailを講義時に知らせることを考えている。

■講義計画

- ① 部落問題とは何か
- ② 今日の差別事象ー結婚差別を考える
- ③ 被差別部落の実態ー統計資料より
- ④ 被差別部落の実態ー統計資料より
- ⑤ 同和対策事業が部落にもたらしたもの
- ⑥ 古い問題、新しい問題
- ⑦ 部落の新しい世代
- ⑧ ある唄から部落を見る①
- ⑨ ある唄から部落を見る②
- ⑩ 賤民の歴史ー中世・近世
- ⑪ 部落の歴史ー近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
- ⑫ 部落の歴史ー近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
- ⑬ 部落の人々が語る
- ⑭ 部落とは何か
- ⑮ 予備日（ビデオの上映など）

人権論A

【担当】金 光敏

【開講】前期 水3

■サブタイトル

社会の扉として人権

■講義概要

社会問題との接点に積極的な姿勢を持ち、自らの進路とも関連付けながら、人権をどのように生かすのかについて考えていきます。社会のありよう、政府、国家について多角的な評価を加え、批判的視覚を培うことはすべての学問、社会、企業活動に有意義なことです。ひとつの事柄を固定的に捉えるのではなく、多面的に捉える訓練を重ね、事実だとされているその裏側や背景をたどりながら、再評価することで自らと社会との関係性の中に多様性を担保してほしいと考えます。そのことを通して、自らの進路選択の幅を広げてほしいと考えています。メディアや政治に対するリテラシーを培い、溢れる情報化社会の中で、自分自身にとって必要な情報とは何かを主体的に見つけ出して行く視点としての「人権論」の役割に期待し、そこから学び取ってほしいと思います。

■到達目標

この授業では、国際化社会の到来を受け、多様な背景を持つ人々が共生していくために必要なアプローチとは何で、溢れる情報の時代に一面的ではなく、多面的な社会考察の力を育む『リテラシー』を重視します。

■講義方法

講義では、プリント、新聞、映像などを活用して、「人権」、「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのような対話が行われ、どのような対論が存在しているのかを見ていきます。授業終了前に「意見カード」を書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席

定期試験 (40%) 全授業終了後に試験を実施します。

その他 (20%) 授業中に取り上げた内容に基づいて意見カードが記載されているのかを評価します。

人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけでは

ありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意識を見せているのかを評価したいと思います。

■テキスト

藤木美奈子 『傷つけあう家族』 講談社 600円

■参考文献

授業ごとに関連資料を印刷配布します。

■履修上の注意・担当者からの一言

大学生として知って欲しい社会の動きについて、授業では積極的に取り上げたいと思います。

■講義計画

- ①意思表明することの大切さ
この授業のねらいとガイダンス
- ②夫婦別姓は賛成か、反対か①
～家族観をめぐる対論～
- ③夫婦別姓は賛成か、反対か②
～女性の社会進出をめぐる現実～
- ④定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か～憲法判断をめぐる～
- ⑤定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か～基礎となる地域社会に
国籍のちがいは重要か～
- ⑥高校無償化、朝鮮高級学校排除は賛成か反対か
- ⑦沖縄に対する差別の現実
～押し付けられる米軍基地と日米関係～
- ⑧上方落語「代書」はなぜ演じられなかったか
- ⑨日本映画の中の在日コリアン
- ⑩日本映画の中の在日コリアン
- ⑪公権力による人権侵害の実態
- ⑫メディアによる人権侵害の実態①～警察発表を鵜呑みする報道～
- ⑬メディアによる人権侵害の実態②～電子空間における人権侵害～
- ⑭生きることが重んじられる社会とは?～労働と人権～
- ⑮生きることが重んじられる社会とは?～子どもの目線から見た社会～

人権論A

【担当】岸 衛

【開講】前期 水3

■サブタイトル

自分を見つめ・差別を見つめ・世間を見つめる

■講義概要

- 1 社会心理学的に自分と他人の関係をみつめる。
- 2 民俗学や社会史・文化史の観点から、差別問題、差別する心を見つめる。
- 3 「世間」とは、何か。社会とは違う「世間」の構造を見つめる。

■到達目標

- *今の「世の中」を見る目を身につける。
- *自分との関係でものをとらえる習慣を身につける。
- *本を読む習慣を身につける。

■講義方法

受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。

■系統的履修

人権論B

■授業時間外における予・復習等の指示

今回の講義内容を予告し、あらかじめ「自分の考え・意見」をまとめておく。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 講義ごとのコミュニケーションカードの提出
レポート (20%) 講義の中でテーマを課し、レポートを提出する

定期試験 (50%)

■テキスト

岸 衛 『自分・差別・世間 第2版』 反差別国際連帯解放研究所しが 700円

■参考文献

遠藤周作 『ほんとうの私を求めて』 集英社文庫 457円
阿部謹也 『「教養」とは何か』 講談社現代新書 750円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②知ってもらいたい「自分」
- ③「まなざし」と差別
- ④まとめ：「自分を見つめる」
- ⑤人は「なぜ、差別するのか」
- ⑥恐れながら遠ざける「差別」
- ⑦賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて①
- ⑧賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて②
- ⑨日本人の「原風景」と差別
- ⑩結婚をめぐる
- ⑪まとめ：「部落差別の根底にあるもの」
- ⑫世間とは何か
- ⑬世間の中の「自分」
- ⑭「世間」の中でどう生きるか
- ⑮まとめ：「自分・差別・世間」

人権論A

【担当】金 光敏

【開講】前期 水4

■サブタイトル

社会的スキルとしての人権アプローチ

■講義概要

「人権」「人権問題」とは、とかく堅苦しいものとのイメージがあります。あるいは人権問題と聞いた場合、同和問題、在日問題、障害者問題など特定の課題をイメージして語られることも少なくありません。果たして「人権」とは、「人権問題」とは、特定の人の、特定の課題をさすものなのでしょうか。

「人権」が重要な価値として広く認識されるようになったのは、第二次世界大戦後です。そこには最大の人権侵害が戦争であるとの認識があり、二度と繰り返してはならないという反省がありました。国際社会が取り組むべき共通の課題として明文化されたのが、国連による1948年の「世界人権宣言」の採択でした。「世界人権宣言」は日本国憲法の中にも生かされており、そこでは「人権」が特定の人々の、特定の課題ではなく、すべての人々に保障されるべきものと語られています。この授業では、「人権」「人権問題」の基礎理解をもとにし、新しい視点からの接近を考えています。「人権」「人権問題」に取り組むことが日常生活の何に生かされ、生かされるべきかをエピソード加えながら、進めて行く予定です。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を意識し、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない社会的スキルとしての「対話力」を着目し、「人権」「人権問題」へのアプローチが社会的スキル向上にどのように生かされるべきかを考えます。また、「人権」課題への接近が、社会変革にどのような可能性を持つのかについても考えます。

■講義方法

講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像、音楽などを活用し、社会が「人権」「人権問題」をどのように捉えているのかを問題提起した上で、意見交換したいと思います。

授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席

定期試験（40%）全授業終了後に試験を実施します。

その他（20%）授業中に取り上げたキーワードを授業終了時の意見カードに正しく記載されているかを評価します。

人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを総合的に評価したいと思います。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考してほしいと思っています。生きて行く上で役に立つこと満載の授業にしたいと思います。

■講義計画

- ①この授業のねらいとガイダンス
- ②国際人権①～戦争と人権～
- ③国際人権②～世界人権宣言～
- ④性差別の現実①～セクシャルハラスメントは我慢すべきか～
- ⑤性差別の現実②～女性は家事、子育てに専念すべきか～
- ⑥性差別の現実③～夫婦別姓は賛成か反対か～
- ⑦在日外国人の人権①～在日外国人の現状から見る日本社会の多様性～
- ⑧在日外国人の人権②～在日コリアンの人権と共生社会～
- ⑨在日外国人の人権④～在日ブラジル人と多文化共生のいま～
- ⑩日本映画の中の在日コリアン
- ⑪日本映画の中の在日コリアン
- ⑫働くことと人権～非正規雇用の現実～
- ⑬ハンセン病患者らの記憶
- ⑭人権をテーマとした社会変革の可能性
- ⑮しめくり～試験～

人権論A

【担当】矢野 亮

【開講】前期 木3

■サブタイトル

生活のなかにある「人権」

■講義概要

私たちはすでに「人権」と関わる日常生活世界を生きています。にもかかわらず、「人権」と聞くと、ある特定の差別や排除を被った「当事者（たち）」の問題だと括って（限定して）考えてしまいがちです。

本講義では、身近な生活場面において生起する人権侵害に関する具体的事例を取り上げ、それらの対応策について検討することを通じて、人権について議論していきます。その際、「当事者」を理解することにとどまらず、「当事者」を取り巻く社会政策や社会運動の歴史的展開過程についても視野に入れて考え議論していきます。

■到達目標

本講義では、身近な生活場面における事例検討を通して、自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持つことを到達目標とします。

■講義方法

教科書は指定しません。各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料等）を活用しながら講義を進めていきます。

■系統的履修

人権論B

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点（40%）

レポート（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②私と（の）人権——部落問題から——
- ③「生活」の捉え方
- ④生活のなかにある人権①児童
- ⑤生活のなかにある人権②保育・教育
- ⑥生活のなかにある人権③恋愛・結婚
- ⑦生活のなかにある人権④労働
- ⑧生活のなかにある人権⑤老い
- ⑨生活のなかにある人権⑥障がい
- ⑩生活のなかにある人権⑦住宅
- ⑪生活のなかにある人権⑧家族
- ⑫生活のなかにある人権⑨地域
- ⑬生活のなかにある人権⑩国家
- ⑭生活のなかにある人権⑪国際
- ⑮まとめと振り返り

人権論B

【担当】 稲田 七海

【開講】 後期 月2

■サブタイトル

居住と人権

■講義概要

本講義では、居住福祉の観点から人権について考えることを目的とします。近年、ホームレスやネットカフェ難民などの住居を持たない人々や、無縁化や孤立化によって無届の福祉施設などを転々する困窮高齢者など、安定した居場所を持たずに都市空間の中を漂流する人たちの存在が社会問題化しています。労働が流動化し、家族のあり方や人とのつながり方が大きく変化する現在、所与のものとして存在した住宅のあり方は変化し、人々の「居住する権利」が脅かされる場面も少なくありません。本講義では、「住宅とは福祉の基礎である」という居住福祉の観点から、「住まうこと」と人権について議論していきます。

■到達目標

「住まうこと」は、人が生きていくために不可欠な条件です。本講義では、自らの居住する権利について知り、居住をめぐる多様なあり方への理解を深めることを目標とします。

■講義方法

テーマに沿って、参考資料（映像資料、調査報告書、審議会資料など）を活用しながら講義を進めていきます。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点（40%）

レポート（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に紹介する予定です。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②居住福祉とは何か?
- ③居住福祉をめぐるさまざまな動向
- ④ホームレスと居住問題 1
- ⑤ホームレスと居住問題 2
- ⑥都市空間と不法占拠 1
- ⑦都市空間と不法占拠 2
- ⑧貧困と居住福祉 1
- ⑨貧困と居住福祉 2
- ⑩無縁化と居住福祉 1
- ⑪無縁化と居住福祉 2
- ⑫若者の仕事と居住 1
- ⑬若者の仕事と居住 2
- ⑭まちづくりと居住福祉
- ⑮これまでの総括

人権論B

【担当】 中川 ユリ子

【開講】 後期 月2

■サブタイトル

「生」と「性」

■講義概要

女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった・・・そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と、何の疑問も持たずに言う大人たちも、多く存在する。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、その言葉に違和感を感じる人は必ずいるに違いない。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。

「らしさ」の呪縛から解放放たれるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。

■到達目標

常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。

■講義方法

まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられる性に関する問題に興味を向け、自分で考える時間を設ける。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。

■テキスト

教科書は使用しない。プリントを配布する。

■参考文献

おもしろい本などは、講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

希望があればemailを使用する。

■講義計画

- ①差別問題を考える意味
- ②世間は女と男をどう扱うのか
- ③新聞で気付くこと
- ④女の子、男の子はつくられる——性の認識
- ⑤どこで「らしさ」を学んだのか——絵本
- ⑥どこで「らしさ」を学んだのか——学校
- ⑦どこで「らしさ」を学んだのか——学校
- ⑧どこで「らしさ」を学んだのか——TVのCM、アニメ、漫画など
- ⑨どこで「らしさ」を学んだのか——TVのCM、アニメ、漫画など
- ⑩どこで「らしさ」を学んだのか——抗議の歴史
- ⑪常識を疑え！
- ⑫女人禁制——伝統をどう考えるか
- ⑬多様な性のあり方——同性愛
- ⑭多様な性のあり方——同性愛
- ⑮まとめ（ビデオ鑑賞など）

■サブタイトル

居住と人権

■講義概要

本講義では、居住福祉の観点から人権について考えることを目的とします。近年、ホームレスやネットカフェ難民などの住居を持たない人々や、無縁化や孤立化によって無届の福祉施設などを転々する困窮高齢者など、安定した居場所を持たずに都市空間の中を漂流する人たちの存在が社会問題化しています。労働が流動化し、家族のあり方や人とのつながり方が大きく変化する現在、所与のものとして存在した住宅のあり方は変化し、人々の「居住する権利」が脅かされる場面も少なくありません。本講義では、「住宅とは福祉の基礎である」という居住福祉の観点から、「住まうこと」と人権について議論していきます。

■到達目標

「住まうこと」は、人が生きていくために不可欠な条件です。本講義では、自らの居住する権利について知り、居住をめぐる多様なあり方への理解を深めることを目標とします。

■講義方法

テーマに沿って、参考資料（映像資料、調査報告書、審議会資料など）を活用しながら講義を進めていきます。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点（40%）

レポート（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に紹介する予定です。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②居住福祉とは何か?
- ③居住福祉をめぐるさまざまな動向
- ④ホームレスと居住問題 1
- ⑤ホームレスと居住問題 2
- ⑥都市空間と不法占拠 1
- ⑦都市空間と不法占拠 2
- ⑧貧困と居住福祉 1
- ⑨貧困と居住福祉 2
- ⑩無縁化と居住福祉 1
- ⑪無縁化と居住福祉 2
- ⑫若者の仕事と居住 1
- ⑬若者の仕事と居住 2
- ⑭まちづくりと居住福祉
- ⑮これまでの総括

■サブタイトル

「生」と「性」

■講義概要

女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった・・・そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と何の疑問も持たずに言う大人たちは、多く存在する。テレビの視聴者参加番組で「あんな、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、違和感を感じる人は必ずいるに違いない。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。

現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。

「らしさ」の呪縛から解放放たれるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。

■到達目標

常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。

■講義方法

まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられる性に関する問題に興味を向け、自分で考える時間を設ける。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。

■テキスト

教科書は使用しない。プリントを配布する。

■参考文献

おもしろい本などは、講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

希望があればemailを使用する。

■講義計画

- ①差別問題を考える意味
- ②世間は女と男をどう扱うのか
- ③新聞で気付くこと
- ④女の子、男の子はつくられる——性の認識
- ⑤どこで「らしさ」を学んだのか——絵本
- ⑥どこで「らしさ」を学んだのか——学校
- ⑦どこで「らしさ」を学んだのか——学校
- ⑧どこで「らしさ」を学んだのか——TVのCM、アニメ、漫画など
- ⑨どこで「らしさ」を学んだのか——TVのCM、アニメ、漫画など
- ⑩どこで「らしさ」を学んだのか——抗議の歴史
- ⑪常識を疑え！
- ⑫女人禁制——伝統をどう考えるか
- ⑬多様な性のあり方——同性愛
- ⑭多様な性のあり方——同性愛
- ⑮まとめ（ビデオ鑑賞など）

人権論B

【担当】金 光敏

【開講】後期 水3

■サブタイトル

対論の中からさぐる人権

■講義概要

人権をめぐる対論に視野を向けたいと思います。社会の多様化にともなって、起こった出来事をめぐる多角的な討論が繰り返られるようになりました。特に、メディアではものごとの賛成派と反省派に分かれて論じ合う場面が、繰り返し報道されています。賛否の立場に立つ人々が、それぞれの立場から論じ合うことは、民主主義の根幹であり、とても大切な社会合意へのプロセスです。

こうした賛否の議論で取り上げられたさまざまな討論課題の中で、人権問題がどのように取り上げられたのかを考察し、社会が「人権」をどのように捉え、どのように扱っているのかに接近したいと思います。

一方、私たちが暮らす社会において、メディアが持つ影響力は多大なものです。現代人の価値観や社会観に大きな影響を及ぼし、メディアによって発せられた情報が社会そのものを大きく変動させたケースも多く見られます。メディアは第4の権力とも呼ばれ、情報化社会が進めば進むほど、メディアの役割を多角的に検証する役割が求められます。「人権論」の視点からメディアリテラシーの重要性についても考えてみたいと思います。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を迎えて、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない「対話力」を重視し、「人権」「人権問題」へのアプローチを通して、社会を批判的に捉えることと、常にオルタナティブにたどり着くための努力に焦点をあてたいと思います。

■講義方法

講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像などを活用して、実際に行われている対論を見てもらい、「人権」「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのように賛否がわかれているのかを見てもらい、その上で意見交換したいと思います。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席

定期試験（40%）全授業終了後に試験を実施します。

その他（20%）授業中に取り上げたキーワードが意見カードに正しく記載されているかを評価します。人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを評価したいと思います。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考にしてほしいと思っています。社会を創造的に切り開いて行けるヒントになるような授業にしたいと思います。

■講義計画

- ①意思表明することの大切さ
この授業のねらいとガイダンス
- ②夫婦別姓は賛成か、反対か?①～家族観をめぐる対論～
- ③夫婦別姓は賛成か、反対か?②～女性の人権をめぐる～
- ④定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か①～住民の権利とは何かをめぐる～
- ⑤定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か②～多文化共生をめぐる～
- ⑥高校無償化、朝鮮高校排除は賛成か反対か①～なにか問題視されたのか～
- ⑦普天間基地の辺野古移転、賛成か反対か～沖縄と戦争、基地～
- ⑧上方落語『代書』はなぜ放送されなかったのか
- ⑨日本映画の中の在日コリアン
- ⑩日本映画の中の在日コリアン
- ⑪公権力による人権侵害
- ⑫日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか?②～メディアスクラムの恐怖～
- ⑬日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか?③～記者クラブ制度は必要か～
- ⑭しめくくり～試験～
- ⑮人権と社会
人権論の授業を締めくくりながら

人権論B

【担当】岸 衛

【開講】後期 水3

■サブタイトル

－ ライフストーリー・インタビューへの招待 －

■講義概要

- 1 ライフストーリー・インタビューは、文字として記録には残らなかったけれども「あった」ひとり一人の生活を聞き取る作業である。インタビューから得られた滋賀県内での20年間に渡る「語り」を紹介する。
- 2 差別の「今」を明らかにする。

■到達目標

- *今の「世の中」を見る目が身につく。
- *自分との関係でものをとらえる習慣が身につく。
- *本を読む習慣が身につく。
- *「いかに生きるか」を問う姿勢ができる。

■講義方法

受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。実際の聞き取り調査にもとづく映像や写真、資料も紹介しながら、進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの次章を、事前に読み込んでくる。

■成績評価の方法

平常点（15%）講義ごとにコミュニケーションカードを提出する

レポート（35%）講義の中で課した章ごとのまとめをするためのノートをつくる。

定期試験（50%）全体から、提出する

■テキスト

岸 衛・桜井厚著『差別の境界をゆく』せりか書房 2,300円

■参考文献

桜井厚『境界文化のライフストーリー』せりか書房 2,500円
桜井厚・岸衛 編『屠場文化…語られなかった世界…』創土社 2,520円
反差別国際連帯解放研究所しが編『語りのちから』弘文堂 2,415円

■講義計画

- ①ライフストーリーインタビューとは何か
- ②宮本常一の世界
- ③柳田国男の仕事
- ④Ⅰ 戦中・戦後を生きる 生活のための仕事
- ⑤差別経験の語り方
- ⑥Ⅱ 「太鼓の里」から東京へ 皮革の「技」をもって
- ⑦皮革業の変化と差別観
- ⑧Ⅲ 「伝統の技」に生きる 靴職人の世界
- ⑨「嫁盗み」の物語 「はしり」
- ⑩「屠場文化」 屠畜をめぐる
- ⑪Ⅳ 「部落」を伝える 親と子の苦悩 「部落」の語りがたき
- ⑫Ⅴ 差別の「はざま」で 結婚・子育ての中で
- ⑬差別を越えて 若者たちの「自己認識」
- ⑭Ⅵ アイデンティティを問う 若者たちの自己認識
- ⑮アイデンティティ形成の困難

人権論B

【担当】金 光敏

【開講】後期 水4

■サブタイトル

対論の中からさぐる人権

■講義概要

人権をめぐる対論に視野を向けたいと思います。社会の多様化にともなって、起こった出来事をめぐる多角的な討論が繰り返られるようになりました。特に、メディアではものごとの賛成派と反省派に分かれて論じ合う場面が、繰り返し報道されています。賛否の立場に立つ人々が、それぞれの立場から論じ合うことは、民主主義の根幹であり、とても大切な社会合意へのプロセスです。

こうした賛否の議論で取り上げられたさまざまな討論課題の中で、人権問題がどのように取り上げられたのかを考察し、社会が「人権」をどのように捉え、どのように扱っているのかに接近したいと思います。

一方、私たちが暮らす社会において、メディアが持つ影響力は多大なものです。現代人の価値観や社会観に大きな影響を及ぼし、メディアによって発せられた情報が社会そのものを大きく変動させたケースも多く見られます。メディアは第4の権力とも呼ばれ、情報化社会が進めば進むほど、メディアの役割を多角的に検証する役割が求められます。「人権論」の視点からメディアリテラシーの重要性についても考えてみたいと思います。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を迎えて、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない「対話力」を重視し、「人権」「人権問題」へのアプローチを通して、社会を批判的に捉えることと、常にオルタナティブにたどり着くための努力に焦点をあてたいと思います。

■講義方法

講義では、プリント、新聞(雑誌)、映像などを活用して、実際に行われている対論を見てもらい、「人権」「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのように賛否がわかれているのかを見てもらい、その上で意見交換したいと思います。

授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点(40%) 出席

定期試験(40%) 全授業終了後に試験を実施します。

その他(20%) 授業中に取り上げたキーワードが意見カードに正しく記載されているかを評価します。人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを評価したいと思います。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考にしてほしいと思っています。社会を創造的に切り開いて行けるヒントになるような授業にしたいと思います。

■講義計画

- ①意思表明することの大切さ
この授業のねらいとガイダンス
- ②夫婦別姓は賛成か、反対か?①～家族観をめぐる対論～
- ③夫婦別姓は賛成か、反対か?②～女性の人権をめぐる対論～
- ④定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か①～住民の権利とは何かをめぐる対論～
- ⑤定住外国人の地方参政権付与は賛成か反対か②～多文化共生をめぐる対論～
- ⑥高校無償化、朝鮮高校排除は賛成か反対か①～なにかが問題視されたのか～
- ⑦普天間基地の辺野古移転、賛成か反対か～沖縄と戦争、基地～
- ⑧上方落語『代書』はなぜ放送されなかったのか
- ⑨日本映画の中の在日コリアン
- ⑩日本映画の中の在日コリアン
- ⑪公権力による人権侵害
- ⑫日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか?②～メディアスクラムの恐怖～
- ⑬日本のメディアは人権をどのように扱ってきたか?③～記者クラブ制度は必要か～
- ⑭しめくり～試験～
- ⑮まとめ

人権論B

【担当】矢野 亮

【開講】後期 木3

■サブタイトル

部落問題を事例として

■講義概要

本講義では、戦前、戦中、戦後から現代における「人権」をめぐる言説空間について、部落問題を事例として取り上げることを通じて、いかなる時代状況において、「部落」と「人権」が人々にいかに語られ問題化されてきたのかを考えたい。また、それらの問題化のプロセスを理解すると同時に、各時代における社会事業や社会政策、社会運動や社会活動等の目的と方策、影響力についても理解を深める。

■到達目標

部落問題を事例として、いかなる時代状況のもと、いかなる実践と研究があり、現代にいたる「人権」概念に到達してきたのかを理解することを通じて、身近な人権に関する諸課題の解決策を模索する手掛かりを得ること。

■講義方法

参考資料を使用しながら講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示する。

■成績評価の方法

平常点(40%)
レポート(60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に紹介する。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②私と人権——部落問題から——
- ③部落問題をめぐる言説空間——戦前①
- ④部落問題をめぐる言説空間——戦前②
- ⑤部落問題をめぐる言説空間——戦時
- ⑥部落問題をめぐる言説空間——1945年～1950年
- ⑦部落問題をめぐる言説空間——1950年代
- ⑧部落問題をめぐる言説空間——1960年代
- ⑨部落問題をめぐる言説空間——1970年代
- ⑩部落問題をめぐる言説空間——1980年代
- ⑪部落問題をめぐる言説空間——1990年代
- ⑫部落問題をめぐる言説空間——2000年代
- ⑬人権の到達点①
- ⑭人権の到達点②
- ⑮まとめ、振り返り

スポーツ文化論

【担当】 松下 唯夫

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

文化人類学の立場から、スポーツは「誰のためのものか」を考え、学ぶ

■講義概要

スポーツは人類の発展史と共にあり、その過去の歴史から、ナショナリズム・プロパガンダ・ビジネス化・アマチュアリズム・人種差別など明らかにしながら「誰のためのスポーツか」を受講学生とともに考える。

■到達目標

スポーツ文化の理解を深める。

■講義方法

板書、配布資料、ビデオ

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示する。

■成績評価の方法

その他（100%）
平常点80%（講義中のミニレポート）、期末の課題レポート20%

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①映画「スパルタカス」「ベンハー」から古代スポーツを見る
- ②〃〃
- ③近代スポーツの発展史（イタリアの古式サッカーと1600年～1900年代のスポーツ事情）
- ④〃〃
- ⑤日本の戦前・戦後のスポーツ事情
- ⑥〃〃（人見・古橋から学ぶ）
- ⑦アマチュアリズムとフェアプレー
- ⑧テレビ支配
- ⑨ビジネス化
- ⑩スポーツとプロパガンダ
- ⑪スポーツの市民参加
- ⑫イタリア・シエナのパリオ（競馬）とコミュニケーション
- ⑬まとめ1
- ⑭まとめ2
- ⑮まとめ3

世界の福祉

【担当】 太谷 亜由美

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

子供の貧困と子育て支援政策を考える

■講義概要

少子化が進行する日本の状況は、他の先進国と比較すると一層その深刻さが克明となる。やはり、欧米諸国との比較において、日本では子供に関する政策が遅れていることは明白である。少子化対策の必要性が論じられる一方で、他の先進国と比べると、その対策は統計上も不十分である。少子化対策だけでなく、子供に対する支援も見劣りがするのが現状だ。このような日本の少子化の状況は我々の社会にどのような影響を及ぼすのか、またなぜ少子化が進行する要因なのかを、本講義では分析し一緒に考えていきたい。その上で、どのような政策が実現可能か考えていきたいが、日本と同じような経済体制の下、中程度の負担、中程度の福祉を行う、イギリス、ニュージーランド、オーストラリアを取り上げ、こうした国々ではどの程度の負担によって、どの程度の政策が行われているかを考察したい。また、アメリカで見られる子供の貧困についても考え、子供が幸福に暮らせる社会を考えたい。

■到達目標

日本ではあまり詳しく紹介されていない3ヶ国とアメリカの状況を理解し、日本の状況と比較し、どうした政策が望ましいか各受講者が考え、身近な問題として意識づけできるように取り組んで頂きたい。

■講義方法

主として、教員による講義とそれを元に受講者に意見を求め、考察して頂く。

■授業時間外における予・復習等の指示

各国の状況と制度について、復習を適宜行っていただきたい。

■成績評価の方法

平常点（10%）出席などの状況を勘案します。
定期試験（90%）論述式筆記試験
リアクション・ペーパーをほぼ毎回、配布し出席をとります。一度も出席のないものは不可といたします。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に追って紹介いたします。

■履修上の注意・担当者からの一言

成績評価の方法でも記載しましたが、一度も出席のない受講生は不可と致しますので、ご注意ください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義後、ご質問ください。

■講義計画

- ①日本の少子化の状況と世界・OECD加盟各国との比較 -
- ②日本の子供の貧困、一人親世帯の現状
- ③日本における実際の子育て支援政策の紹介
- ④日本の子育て支援政策の問題点
- ⑤イギリスの子供の貧困と対策
- ⑥イギリスの実際の子育て支援政策の紹介 1
- ⑦イギリスの実際の子育て支援政策の紹介 2
- ⑧講義予備日
- ⑨ニュージーランドの子供にかんする状況
- ⑩ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介 1
- ⑪ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介 2
- ⑫アメリカの子供の貧困の現状
- ⑬オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介 1
- ⑭オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介 2
- ⑮講義予備日

生活の中の宗教

【担当】 辻 虎志

【開講】 前期 月2

■講義概要

我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることとは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修

現代社会と宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席

定期試験 (60%)

出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

①はじめに ― 生活の中の宗教

②宗教とお金 (1)

③宗教とお金 (2)

④宗教と食

⑤宗教と医療 (1)

⑥宗教と医療 (2)

⑦宗教と経済 (1)

⑧宗教と経済 (2)

⑨宗教とアート

⑩宗教と文学

⑪宗教と政治

⑫宗教とインターネット

⑬宗教とおひとりさま

⑭宗教と性愛

⑮まとめ

生活の中の宗教

【担当】 辻 虎志

【開講】 後期 月2

■講義概要

我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることとは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修

現代社会と宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席

定期試験 (60%)

出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

①はじめに ― 生活の中の宗教

②宗教とお金 (1)

③宗教とお金 (2)

④宗教と食

⑤宗教と医療 (1)

⑥宗教と医療 (2)

⑦宗教と経済 (1)

⑧宗教と経済 (2)

⑨宗教とアート

⑩宗教と文学

⑪宗教と政治

⑫宗教とインターネット

⑬宗教とおひとりさま

⑭宗教と性愛

⑮まとめ

生命と共生

【担当】 田村 公江

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

生命倫理の諸問題

■講義概要

医療技術の進歩とともに、延命や治療を至上とする考え方に対して、「それでいいのだろうか?」という疑問が寄せられるようになってきました。たとえば、ガンの治療について考えてみましょう。外科的治療、抗がん剤による治療、放射線による治療、あるいはそれらの組み合わせなど、治療の選択肢はさまざまです。また、発見されたとき、すでに末期の状態だったとしたら、完治をめざすよりも痛みや苦痛をやわらげることが重要となります。

生命倫理の問題は、生殖技術や臓器移植などの新しい技術についても発生します。新しい技術によって恩恵を受ける人がいるのはとても喜ばしいことです。しかし、「代理母を認めてもいいのか」、「脳死は人の死か」などの問題について、あなたなら、どう考えますか? 「その時はその時だ」と思う人もいるかもしれませんが、生き方の問題として、今から少しずつ考えてみませんか? すぐに答は出ませんし、唯一の正しい答があるわけでもありません。けれども、学習することによって、視野を広げることができます。

この授業では、基礎的なことを分かりやすく解説します。基礎を学ぶことによって自分の意見を形作り、自分とは意見の異なる人と対話できる人にならしましょう。

■到達目標

生命倫理学のキーワードの意味を理解して、様々な立場の対立点を把握すること。

■講義方法

授業計画に沿って講義形式で進めます。

■系統的履修

教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

ほぼ毎回、次の回のテーマについての予習資料を指示します。予習資料は主にテキストから選びます。復習に役立つプリントを配布します。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席状況などで評価する。詳しくは授業内で説明する。
定期試験 (50%)

■テキスト

伏木信次・榎則章・霜田求 [編] 改訂2版 『生命倫理と医療倫理』 金芳堂 2,500円
加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理を学ぶ人のために』 世界思想社 1998 2,300円

■参考文献

欠席遅刻はしないこと。私語をしないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

月曜日と木曜日の昼休み、場所は研究室 (2号館300-1)
連絡はメールでしてください。ktamura@soc.ryukoku.ac.jp
件名に「生命と共生の受講生」と書き、本文に名前(フルネーム)と学籍番号を書くこと。

■講義計画

- ①ガイダンス
倫理学とは
- ②生命倫理とは何か
- ③自分のことは自分で決める—医師と患者の関係—
- ④人工妊娠中絶に関する基礎知識
- ⑤人工妊娠中絶の問題点
- ⑥人工妊娠中絶に関する法律
- ⑦出生前診断
- ⑧優生思想と選択的中絶
- ⑨不妊治療の問題点
- ⑩臓器移植
- ⑪脳死は人の死か
- ⑫臓器移植、脳死判定の問題点
- ⑬自己決定原理とは
- ⑭安楽死・尊厳死
- ⑮安楽死・尊厳死の問題点

生命と共生

【担当】 柿本 佳美

【開講】 後期 木3

■サブタイトル

生命に関する技術と私達

■講義概要

現在にいたる医療技術の進歩は、さまざまな疾病を治療し、人類が長い間望んでいた健康で長生きするという夢を実現させています。また、体外受精の技術の確立により登場した第三者の配偶子を使った生殖や代理母、脳死した身体からの臓器移植も登場しています。その一方で、現在の医療技術では回復できない場合、自らの意志で延命治療を拒否して死を迎えようとする人も現れています。生と死は、医療技術の発達により、人間の意志を超えた出来事ではなく、各人が自らの意志で判断する対象になりつつあります。生命倫理学は、医療と生命科学に関わるさまざまな問題について、医学・法学・社会学・哲学などさまざまな分野からアプローチする領域です。とはいえ、生命倫理の諸問題は、専門家の間でのみ議論されるべきトピックではありません。皆さんもまた、現代の医療技術の進歩の恩恵を受けている以上、こうした問題のいくつかについては当事者なのです。

そこで、この授業では、生命倫理の主要な理論とキーワードについて解説し、主要ないくつかのトピックをたどりながら、生命技術のあり方について取り上げます。

■到達目標

医療技術・生命科学に関するさまざまな問題について、さまざまな角度から検討することができる。
客観的な根拠に基づき、自らの見解をまとめることができる。

■講義方法

プリントを使用し、講義形式で行います。ミニレポートあり。
これをもとに授業を進めることもあります。

■系統的履修

「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に取り上げる文献については、予習または復習として読んでおくこと。
新聞等による報道に注意し、医療・生命科学等に関わる記事については読んでおくこと。

■成績評価の方法

平常点 (20%)
定期試験 (80%)

欠席遅刻はしないこと。通算欠席数が授業回数の3分の1以上欠席した場合は履修放棄と見なします。

■テキスト

加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理学を学ぶ人のために』 世界思想社 2,300円
玉井真理子・大谷いづみ 『はじめて出会う生命倫理』 有斐閣 1,995円

■参考文献

参考文献については、授業中に適宜提示します。
試験に際しては、生命倫理に関する文献のうち1冊を読むように。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の途中であってもかまいませんので、分からないと思ったらすぐに質問してください。
なお、授業開始30分後以降の入室はお断りすることがあります。
受講者の関心によって、授業内容を一部変更することがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

木曜日13:00 ~ 13:30、講師室

■講義計画

- ①はじめに：私たちの身近にある生命倫理
- ②はじめに：生命倫理学とは
- ③生命倫理のキーワード：「自律」と「尊厳」
- ④生命倫理のキーワード：インフォームド・コンセントとパターナリズム
- ⑤生命倫理のキーワード：優生主義
- ⑥生命倫理の理論：パーソン論
- ⑦生命倫理の理論：ケアとは
- ⑧生殖に関する諸問題：中絶
- ⑨生殖に関する諸問題：出生前診断と選択的中絶
- ⑩生殖に関する諸問題：第三者提供配偶子の使用と代理母
- ⑪生命科学と私たち：再生医療と倫理的課題
- ⑫死に関する諸問題：脳死と臓器移植
- ⑬死に関する諸問題：安楽死
- ⑭死に関する諸問題：緩和ケア
- ⑮まとめ

歎異抄の思想Ⅰ

【担当】 殿内 恒

【開講】 前期 水2

■サブタイトル

親鸞のことば

■講義概要

『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の前半（第10条まで）に伝えられる親鸞のことばを正確に読んでいき、その真意を把握することを通して、そこに示される親鸞の思想を深く理解していきたい。

■到達目標

誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。

■講義方法

『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。

■系統的履修

「仏教の思想A・B」の履修を前提とする。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回に読むテキストの現代語訳に目を通しておくこと。

■成績評価の方法

その他（100%）

定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。

■テキスト

『歎異抄 現代語訳付き』 本願寺出版社

■参考文献

梯實圓 『聖典セミナー 歎異抄』 本願寺出版社

林智康（他） 『歎異抄事典』 柏書房

■履修上の注意・担当者からの一言

龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。

■講義計画

- ①『歎異抄』とは：伝えられる親鸞の言葉
 - ②第1条：本願のはたらき－摂取不捨－
 - ③第2条：念仏との出会い－往生極楽の道－
 - ④第3条：悪人正機の意味－いわんや悪人をや－
 - ⑤第4条：本当の慈悲とは－浄土の慈悲－
 - ⑥第5条：縁の中にある命－世々生々の父母兄弟－
 - ⑦第6条：仏の前の平等性－弟子一人も持たず－
 - ⑧第7条：信心の行者のあり方－無碍の一道－
 - ⑨第8条：念仏の意味するもの－非行・非善－
 - ⑩第9条：煩惱を持って生きる－浄土は恋しからず－
 - ⑪第10条：他力のあるがまま－無義をもって義とす－
- 上記は1回又は2回を予定

歎異抄の思想Ⅱ

【担当】 殿内 恒

【開講】 後期 水2

■サブタイトル

誤解をただす

■講義概要

『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の後半（第11条以降）に示された、親鸞の教えに対する誤解をただす文章を通して、その中で伝えようとされている親鸞の思想を深く理解していきたい。

■到達目標

誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。

■講義方法

『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。

■系統的履修

「仏教の思想A・B」の履修を前提とする。「歎異抄の思想Ⅰ」も履修していることが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回に読むテキストの現代語訳に目を通しておくこと。

■成績評価の方法

その他（100%）

定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。

■テキスト

『歎異抄 現代語訳付き』 本願寺出版社

■参考文献

梯實圓 『聖典セミナー 歎異抄』 本願寺出版社

林智康（他） 『歎異抄事典』 柏書房

■履修上の注意・担当者からの一言

龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。

■講義計画

- ①「異義」とは：親鸞思想への誤解
 - ②第11条：本願と念仏の関係
 - ③第12条：学問の持つ意義
 - ④第13条：人間にそなわる悪
 - ⑤第14条：罪を滅ぼす行い
 - ⑥第15条：この世で開くさと
 - ⑦第16条：回心するということ
 - ⑧第17条：本願を疑っての往生
 - ⑨第18条：布施の意義と利益
 - ⑩後 序：信心は一つ－たまわりたる信心－
 - ⑪後 序：自身が対象－親鸞一人がため－
 - ⑫後 序：虚仮と真実－念仏のみぞまこと－
- 上記は1回又は2回を予定

日本の文化

【担当】 泉 文明

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

映像から探求する京都の魅力：京に学ぶ京を学ぶ

■講義概要

皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。

■到達目標

京都の魅力に触れながら、京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。

■講義方法

講義形式を主とするが、口述だけでなく、映像を駆使して、京都の〈姿〉〈カタチ〉を存分に伝える。

■系統的履修

〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。

■成績評価の方法

平常点（20%）

定期試験（80%）

平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。

■テキスト

泉 文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房 1,800円
授業時に指示及び配布プリント。

■参考文献

上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。

■講義計画

- ①概論
- ②京都の町のでき方・京都の歴史
- ③京都を題材とした映画鑑賞1
- ④前回（第3回）の続編、解説と分析
- ⑤京都を題材とした映画鑑賞2
- ⑥前回（第5回）の続編、解説と分析
- ⑦京都の世界遺産・国宝・重要文化財/小京都と姉妹都市・友好都市
- ⑧京都を題材とした映画鑑賞3
- ⑨前回（第8回）の続編、解説と分析
- ⑩京ことば1/京都人物列伝
- ⑪京都を題材とした映画鑑賞4
- ⑫前回（第11回）の続編、解説と分析
- ⑬京都の伝統工芸・伝統芸能・茶花香道
- ⑭京都の四大大行事/京ことば2
- ⑮総論

日本の文化

【担当】 泉 文明

【開講】 前期 木5

■サブタイトル

京都四大大行事と歳時記：京に学ぶ京を学ぶ

■講義概要

皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。

■到達目標

京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。

■講義方法

講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。

■系統的履修

〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。

■成績評価の方法

平常点（20%）

定期試験（80%）

平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。

■テキスト

泉 文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房 1,800円
授業時に指示及び配布プリント。

■参考文献

上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。

■講義計画

- ①概論
- ②京都の季節感・歳時記
- ③京の町のでき方・歴史
- ④京都の四大大行事概観
- ⑤葵祭
- ⑥お盆行事と五山送り火1
- ⑦お盆行事と五山送り火2
- ⑧時代祭
- ⑨京都の京都の世界遺産・国宝・重要文化財/小京都と姉妹都市・友好都市/京ことば1
- ⑩京都の伝統工芸・伝統芸能・茶花香道/京ことば2
- ⑪祇園祭1
- ⑫祇園祭2
- ⑬祇園祭3
- ⑭祇園祭4
- ⑮総論

■サブタイトル

京都学入門

■講義概要

皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。就学旅行で京都に来たという人も少なくないはず。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思います。

■到達目標

京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。

■講義方法

講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。

■系統的履修

〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。

■成績評価の方法

平常点 (30%)

定期試験 (70%)

平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。

■テキスト

泉 文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房 1,800円

授業時に指示及び配布プリント。

■参考文献

上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社
堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。

■講義計画

- ①概論
- ②京都の町のでき方と歴史
- ③京ことば1 (アクセント・イントネーションにも配慮して)
/京都の世界遺産・国宝・重要文化財
- ④京都を題材とした映画鑑賞
- ⑤京都を題材とした映画鑑賞
- ⑥前回 (第5回) の解説と分析
- ⑦京ことば2 (アクセント・イントネーションにも配慮して)
/京都の四大大行事1
- ⑧京ことば3 (アクセント・イントネーションにも配慮して)
/京都の四大大行事2
- ⑨京ことば4 (アクセント・イントネーションにも配慮して)
/京都の四大大行事3
- ⑩京ことば5 (アクセント・イントネーションにも配慮して)
/京都の四大大行事4
- ⑪京都の伝統芸能・茶花香道
- ⑫京都の伝統工芸
- ⑬京都人物列伝
- ⑭小京都と姉妹都市・友好都市
- ⑮総論

人間と社会と法

■サブタイトル

現代日本における人権

■講義概要

日本国憲法が保障した平等は、法的な身分制度を否定しただけでなく、社会的な階層関係をも破壊した。その結果、一方で、身分制度から解放された国民の活力は高度経済成長と均質な社会を実現したが、他方で、平等意識に基づく無節操な自己主張ははじめを失い無秩序と混乱をもたらした。いずれにしても、日本の社会は憲法制定時からあまりにも変わってしまい、いまや憲法制定者が予想もしなかった利益や自由が人権の名の下に主張されている。そこで本講義では、人権の歴史をふまえたうえで、社会的背景や訴訟理論にもふれつつ、新しい人権について裁判所の判決を中心に検討したい。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること。

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

法学入門か日本国憲法を受講していることを前提として講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

レポート (100%) 出席 2/3 以上の者を対象とする

■テキスト

特に指定しない。

■参考文献

佐藤幸治他編 『デイリー六法平成25年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①人権の歴史と分類
- ②憲法訴訟 I
- ③憲法訴訟 II
- ④日本国憲法の成立
- ⑤戦後史 I
- ⑥戦後史 II
- ⑦戦後史 III
- ⑧幸福追求権と新しい人権
- ⑨プライバシーの権利
- ⑩知る権利
- ⑪環境権
- ⑫自己決定権 I
- ⑬自己決定権 II
- ⑭裁判員制度 I
- ⑮裁判員制度 II

平和学入門

【担当】 清水 耕介

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

平和学なんて忘れてしまえ！

■講義概要

平和という言葉はとても難しい言葉です。平和が何を意味するのか？戦争の無い状態か、戦争の心配のない状態か、差別やいじめのない安心して生活できる状態か。よく「平和ボケ」という言葉も最近聞きますが、平和は人々を「ボケ」させるのか、そのときの「平和」とは何なのか。本当に「日本」は平和なのか。その平和は誰にとっての平和なのか。平気で「平和ボケ」という言葉を使う事自体「平和」でボケているのではないのか。この講義では、様々な側面から「平和」について考えていきたいと思います。具体的に取り上げる事象は時間の関係から、ルワンダ、ホロコーストおよびパレスチナ／イスラエルに限られますが、これらの問題を通して現代の世界における平和について考え始めてもらえればと思います。大人数の講義になった場合でもできるだけみなさんと直接議論していきたいと思いますが、コミュニケーション・ペーパーも使いながらみなさんとの意思疎通をはかりたいと思います。積極的な参加を期待します。

■到達目標

自分なりの平和概念を持てるようになること、もしくはそのための研究を始めること。

■講義方法

主として講義形式となる予定ですが、映画・ビデオなどの教材をできるだけ使っていくつもりです。

■系統的履修

特にありません。

■授業時間外における予・復習等の指示

いくつかの映像資料については授業で放映しますが、個人的に視聴できる場合には前もって観ておいてください。

■成績評価の方法

小テスト（50%）In-class test
定期試験（50%）穴埋め+記述式

■テキスト

特になし

■参考文献

授業の中で適宜指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

ビデオ教材などを使用する予定です。上映中の出入りは他の受講生の迷惑になる場合もありますので、できるだけ遅刻しないようにしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業の中でお知らせします。

■講義計画

- ① イントロダクション
- ② 「人」の「権利」と平和
- ③ ルワンダ 1
- ④ ルワンダ 2
- ⑤ 暴力 1
- ⑥ 暴力 2
- ⑦ 中間試験
- ⑧ ホロコースト 1
- ⑨ ホロコースト 2
- ⑩ ナチスとアイヒマン裁判
- ⑪ パレスチナとイスラエル
- ⑫ 領土問題
- ⑬ 領土問題と沖縄
- ⑭ まとめ
- ⑮ まとめ 2

平和学入門

【担当】 宮崎 寛

【開講】 後期 木3

■サブタイトル

「ここ」と「あそこ」を繋ぐ思考

■講義概要

平和学は様々な学問が重なり合っている分野です。また、何が「平和な状態」であるかについても、統一見解があるわけではありません。本講義では、政治学（政治哲学）・国際関係論・グローバル市民社会論といった視点から平和と暴力について考えていきたいと思います。授業では映画や音楽などの教材も使いながら、核・ヒバクシャ、冷戦、ホロコースト、パレスチナ・イスラエル、イラク戦争などの事象を中心にとりあげていきます。同時に、これらの問題・暴力と私たちの日常生活とがどのような関係にあるのかについてもできる限り受講生のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。さらに、オルタナティブメディアをとりあげつつ多様な視点の可能性についても触れていきます。決まった「答え」がないからこそ、皆さんの自由な思考で自分なりの「平和」概念を磨いてください。大人数の講義になった場合は、コミュニケーション・ペーパーを通じて皆さんとの意見交換をしていきたいと思います。積極的な参加を期待します。

■到達目標

自分なりの「平和」概念を追究し始めること。普段の会話の中で、授業で扱った題材をはじめ時事問題を意識するようになること。

■講義方法

主として講義形式ですが、時々、映画・音楽などの視聴覚資料も使っていく予定です。

■系統的履修

日本と国際社会A、日本と国際社会Bなど

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で扱った内容やニュースで知った内容で気になった点があったら、積極的にメモを書きためてください。気になった点・質問をコミュニケーション・ペーパーやメールなどでお知らせしてもらえれば、できるだけ次の授業などで議論する時間を確保したいと思います。

■成績評価の方法

レポート（50%）1500文字程度
定期試験（50%）論述形式

■テキスト

必要に応じて授業中にお知らせします。

■参考文献

必要に応じて授業中にお知らせします。

■履修上の注意・担当者からの一言

基本的にはリラックスして受講してもらうのが一番です。ただし、多数の受講生が一つの教室を共有しますので、そのことを意識し、他の受講生の学習の妨げとならないような行動・発言を心がけて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業の中でお知らせします。

■講義計画

- ① イントロダクション
- ② ヒバクシャ 1
- ③ ヒバクシャ 2
- ④ 暴力とは何か
- ⑤ 冷戦（後）と原子力「平和」利用
- ⑥ 暴力と思考
- ⑦ 暴力と思考 2
- ⑧ 一人ひとりの勇気、ミクロな変革
- ⑨ ホロコーストとは何だったのか
- ⑩ ホロコーストとは何だったのか
- ⑪ パレスチナとイスラエル 1
- ⑫ パレスチナとイスラエル 2
- ⑬ サイド「イラク戦争を語る」
- ⑭ イラク戦争と世界経済
- ⑮ まとめ

メディアにみる福祉

【担当】高田 敏司

【開講】後期 月2

■講義概要

世界に例を見ない高齢化と少子化で、日本は人口の減少が進んでおり、「超高齢・人口減少社会」に突入しています。右肩上がりの経済成長を前提につくられた現在の社会保障制度は抜本的な見直しが迫られています。そこで政治や行政、医療・福祉関係者、住民の中からはさまざまな動きが起きている。本講義では現場で取材する新聞記者の立場から、社会保障について介護や医療、年金、雇用、少子化対応、地方自治などの観点から時事ニュースなどを例に解説するとともに、どのような課題があるのかも考えます。

■到達目標

福祉など社会保障をめぐる行政、住民、メディアの「いま」の動きを広く知り、社会生活に向けて、最低限は必要な社会保障の教養が身につくようにしたいと考えます。さらには自分の問題として考えられる手がかりを示したいと思っています。

■講義方法

新聞記事やテレビの特集番組などを素材にして講義します。

■授業時間外における予・復習等の指示

できるだけ新聞に目を通し、社会保障関連の動向に関心を持ってください。

■成績評価の方法

定期試験（100%）（人数によってはミニレポートを課すこともあります。その場合は試験90点、ミニレポート10点とします）

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜、紹介します

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問あれば、気軽にメールで連絡下さい（taka8@mvd.biglobe.ne.jp）

■講義計画

- ①超高齢・人口減少社会の到来
- ②介護保険創設の背景と仕組み
- ③介護保険の課題
- ④すすむケアの工夫
- ⑤障害者福祉の今とこれから
- ⑥日本の医療の特徴
- ⑦医師不足の深層
- ⑧がん医療、先端医療のトピック
- ⑨患者が医療を変える
- ⑩年金のいま
- ⑪生活保護と雇用保険
- ⑫少子化への対応
- ⑬福祉の軸となる雇用と教育
- ⑭負担と給付の選択肢
- ⑮地域自治と社会保障

メディアにみる福祉

【担当】幸重 忠孝

【開講】後期 木3

■サブタイトル

身近なメディアから福祉を感じる

■講義概要

学生生活を過ごす中で「福祉」を身近に感じることは少ない。しかし、実は私たちの身近なところに福祉の課題や福祉サービスが存在している。この講義では、学生にとって身近なメディア（新聞、テレビ、インターネット、小説、コミックス、映画など）の中で表現されている福祉を題材に、様々な福祉課題や福祉サービスを講義を通して深めていくこととする。

■到達目標

- ・福祉とは身近なテーマであることを知る
- ・様々なメディアから福祉課題や福祉サービスを知る
- ・メディアによる福祉の表現の問題を学ぶ

■講義方法

講義の前半は、各回ごとのメディア教材（映画、ドラマ、コミックス、小説、インターネットなど）を紹介

※過去の講義で活用した題材

映画「誰も知らない」「ジョゼと虎と魚たち」「ウイニング・パス」「青い鳥」
TVドラマ「だいすき!!」「瞳」「どんまい」「僕と彼女と彼女の生きる道」「エンジン」
コミック・自叙伝「リアル」「ヘルプマン」「Flower」「ツレがうつになりまして。」『ホームレス中学生』

他各種ドキュメンタリー番組、新聞記事、ホームページ

講義の後半は、使った教材による福祉課題が何なのかと福祉サービスの解説を行う

講義終了後、課題レポートによって学生自身の考察を深める

■授業時間外における予・復習等の指示

ブログを使い前回のレポートについて他の受講者の意見を知り、それに対する再レポートを行う。

課題コミック、映画・ドラマの視聴とレポート

■成績評価の方法

レポート（100%）講義時のミニレポートか講義終了後に自宅での課題レポートを選択

■テキスト

特になし

■参考文献

二通論『映画で学ぶ特別支援教育』全国障害者問題研究会 1,785円
講義では使いませんが、講義で使う以外の映画もたくさん紹介解説している文献です。

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 視覚教材の視聴中に他者への迷惑になる行為を行った場合は退室も含め厳しく対処します。
2. 課題で指定された映画やドラマ、コミックなどは各自でレンタルなどをして視聴してもらいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

教員のホームページやブログを活用

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②身体障がい
- ③知的障がい
- ④精神障がい
- ⑤高齢者介護
- ⑥介護従事者
- ⑦子どもの貧困
- ⑧子ども虐待
- ⑨施設で生活する子ども
- ⑩ひとり親家庭
- ⑪生活困窮
- ⑫発達障がい
- ⑬災害における福祉
- ⑭若者への福祉
- ⑮まとめ

学部内共通科目

(情報メディア学科)

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
エ	MOT演習	長谷 智弘	後期	月 1	125
	MOT概論	安藤 信行／加藤 正浩／佐藤 研司／ 神野友香子／谷口 清志／長谷 智弘	前期	火 5	125
カ	化学概論Ⅰ	長澤 佳克	前期	水 3	126
	化学概論Ⅱ	堀井 文敬	後期	月 1	126
	科学技術英語	岡田 至弘／片岡 章俊／曾我麻佐子／ 新川 芳行／外村 佳伸／野村 竜也／ 長谷 智弘／藤田 和弘／三浦 雅展／ 三好 力／吉見 毅彦／渡邊 靖彦	通年	集中	127
	科学思想史	但馬 亨	後期	月 1	127
	環境科学	糟野 潤	前期	月 3	128
	学外実習(キャリア実践実習)／学外実習	吉見 毅彦	前期	集中	128
	技術者倫理	田岡 直規／細谷 陽三	前期	集中	129
キ	キャリアデザイン	植田香代子／西木多賀子／ 柳生 利恵	前期	水 4	130
	キャリアプランニング	瀧井 智美／湯口 恭子	前期	水 2	131
ク	グローバル人材育成プログラムⅠ／ 海外キャリア実践教育及び実習A	大柳 満之／塩見 洋一	前期	集中	132
	グローバル人材育成プログラムⅡ／ 海外キャリア実践教育及び実習B	大柳 満之／塩見 洋一	前期	集中	132
ケ	計算機基礎実習Ⅰ	渡邊 靖彦	前期	火 4・火 5	133
	計算機基礎実習Ⅱ	南條 浩輝／吉見 毅彦	後期	火 4・火 5	133
コ	工学概論	泉田 信也	前期	木 1	134
シ	資源エネルギー論	白神 達也	後期	金 2	134
	自然観察実習／生物多様性実習B	島田 京子／丸山 敦／ 山中 裕樹／横田 岳人	前期	水3・水4・水5	135
	情報学概論	杉山 久佳	前期	木 5	135
	情報と職業	北林 雅俊	前期	集中	136
セ	生態学概論	丸山 敦／山中 裕樹	後期	月 2	137
	生体情報概論	梶崎 弘幸	前期	金 2	138
	生物学概論Ⅰ	土井田 幸郎	前期	木 1	138
	生物学概論Ⅱ	土井田 幸郎	後期	木 1	139
	生物学実験	竹内 圭介／土井田 幸郎	後期	水3・水4・水5	139
ソ	総合実習	伊藤 勝重／越智 勝也／竹内 真作／ 平山 義隼／吉見 毅彦	前期	集中	140
チ	地域環境概論	竺 文彦／遊磨 正秀	前期	木 2	140
	地学概論Ⅰ	桑原 希世子	前期	月 3	141
	地学概論Ⅱ	塩野 清治	後期	水 2	141
	地学実験	桑原 希世子／塩野 清治	前期	水3・水4・水5	142
	地球環境概論	市川 陽一／宮浦 富保	後期	火 1	142
	知的財産概論	藤河 恒生	後期	水 3	143
	人間工学	橋本 正治	前期	水 1	143
フ	物理実験／理工学基礎実験A	張 陽軍	前期	木3・木4・木5	144

MOT演習

【担当】長谷 智弘

【開講】後期 月1

■講義概要

本演習は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計および労務・組織、(3) 情報管理、(4) 生産管理などを中心に、演習を通じて応用を重視した実践的なManagement of Technology (MOT: 技術経営) 教育を身に付ける。

■到達目標

学習・教育目標: C2 (◎)

技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法

各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■系統的履修

MOT (技術経営) 概論

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

レポート (50%)

各講師より出される課題のレポート内容、発表・討論などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

前期開講の「MOT (技術経営) 概論」の知識を前提とするため、本科目の履修登録は「MOT (技術経営) 概論」の単位合格者に限る。

■講義計画

①総論

②マーケティング・戦略論

③マーケティング・戦略論に関する事例演習 (1) 概論、SWOT

④マーケティング・戦略論に関する事例演習 (2) 戦略、戦術

⑤財務・会計および労務・組織

⑥財務・会計および労務・組織に関する事例演習 (1) 簿記、B/S、P/L

⑦財務・会計および労務・組織に関する事例演習 (2) 経営分析

⑧情報管理

⑨情報管理に関する事例演習 (1) インターネットショッピング

⑩情報管理に関する事例演習 (2) SE

⑪生産管理

⑫生産管理に関する事例演習 (1) 在庫管理

⑬生産管理に関する事例演習 (2) 生産計画

⑭ビジネスプランの作成方法

⑮まとめ

MOT概論

【担当】安藤 信行、加藤 正浩、佐藤 研司、神野 友香子、谷口 清志、長谷 智弘

【開講】前期 火5

■サブタイトル

技術経営入門

■講義概要

本講義は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計、(3) 労務・組織、(4) 生産管理・情報管理・流通管理など、(5) 法務・知財 (特許)・標準化 (品質管理など) を、バランス良く総合的に学べる内容になっている。応用を重視した実践的なManagement of Technology (MOT: 技術経営) 教育プログラムの構成とする。

■到達目標

学習・教育目標: C2 (◎)

技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法

各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法

レポート (100%)

講師ごとに出される課題のレポート内容などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

後期開講の「MOT演習」を受講を希望するものは、本科目を受講すること。

■講義計画

①総論

②企業経営理論 (1) 企業形態・株式会社

③企業経営理論 (2) 経営計画・マーケティング

④企業経営理論 (3) 経営戦略

⑤企業経営理論 (4) 競争戦略

⑥財務・会計 (1) 概論・会計原則

⑦財務・会計 (2) 損益計算書・貸借対照表

⑧財務・会計 (3) 安全性・収益性・生産性分析

⑨財務・会計 (4) 損益分岐点分析

⑩人事・労務・組織

⑪運営管理: 生産・販売・流通・在庫・情報化

⑫法務: 会社設立・運営

⑬知的所有権: 特許

⑭標準化動向 (品質・環境・労務)

⑮まとめ: ビジネスプランの作成方法

化学概論Ⅰ

【担当】長澤 佳克

【開講】前期 水3

■サブタイトル

物質の構造と性質を光でみる

■講義概要

我々は様々な物質からなる材料を利用し、またそれに助けられて生活している。そして今、電子立国という優位性を失いつつある日本において、この材料・素材を開発する技術の維持が生き残る道と言われている。化学は物質の構造、機能、反応を研究する学問であり、日本が優位性を保っている新しい材料を生み出す力の根底にある。この講義では化学物質を構成する原子、分子の概念を学び、物質が吸収または反射、放射する光（電磁波）から見た物質の構造や性質を説明する。また物質の構造や固有の機能・性質を応用した工業製品（発熱体、電池、表示素子等）についてその機能発現の機構と抱えている課題を講義する。

■到達目標

材料が持つ化学的性質を基本から理解する。覚えることなく疑問をもち、調べ、理解し、他者に説明する力を身につけることを目標とする。

■講義方法

PowerPointを用いた講義。（資料はPDFでシラバスに講義後掲示）学生にとって主体的・能動的な講義にするため、講師から質問をして、共に考える授業とする。

■系統的履修

化学概論Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示

当番を決め、与えた課題について、講義中に発表してもらう。大きな負荷はかけない。

■成績評価の方法

平常点（50%）課題報告含む
定期試験（50%）

■テキスト

特になし

■参考文献

追って掲示する

■履修上の注意・担当者からの一言

化学を考える授業にする。企業で化学に35年以上にわたって携わった経験を生かして、化学を専攻しない理工系の学生に役立つ化学概論にする。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

e-mail:y-naga2449@hotmail.co.jp

■講義計画

- ①化学について（私と化学、化学とは？ 化学が生み出した材料）
- ②原子の概念（原子模型の誕生まで）
- ③原子の概念（波動性、粒子性）
- ④原子・分子の概念（周期表、原子軌道、分子軌道）
- ⑤化学結合（イオン結合、共有結合）
- ⑥化学結合（金属結合、自由電子とバンド理論）
- ⑦物質の状態（気体、液体、固体）
- ⑧光と物質の相互作用（透過、反射、吸収、放射）
- ⑨化学反応（触媒反応）
- ⑩化学反応（酸化還元反応、電気化学反応）
- ⑪界面化学、表面科学
- ⑫材料・素材（発熱体、電池）
- ⑬材料・素材（半導体、表示素子など）
- ⑭分析化学（分光分析、リモートセンシング）
- ⑮分析化学（表面分析、微量分析）

化学概論Ⅱ

【担当】堀井 文敬

【開講】後期 月1

■サブタイトル

環境に優しい日常の化学

■講義概要

「化学概論Ⅰ」に続いて、テキスト「現代の化学」の後半について講義する。すなわち、有機化合物、界面活性剤、化粧品・香料、医薬、天然および合成高分子、ゴム・繊維などの重要なものについて、それらの実際例とともに説明する。また、環境化学として、環境汚染物質、特に大気汚染物質について説明するとともに、バイオエタノールや有機太陽光発電などの新しい発展についても分かりやすく述べる。

■到達目標

本講義は、一言でいうと「デイリーライフ・ケミストリー」すなわち「日常生活の化学」であり、環境・エネルギー問題を意識した実生活に結びついた化学物質の基礎知識を与える。「環境に優しい衣食住の化学」と言い換えてもよいかも知れない。食品、プラスチック、衣料材料、洗剤、化粧品、防腐剤、医薬品、環境汚染物質あるいはエネルギー代替品などについて、より良い生活をするための指針を与える。

■講義方法

配布資料を中心に講義する。

■系統的履修

化学概論

■授業時間外における予・復習等の指示

区切り区切りで、小テストをしたりあるいは小レポートを提出してもらうので、配布プリントの復習や、関連事項の調査をすること。

■成績評価の方法

定期試験（60%）、平常点・レポート（40%）とする。

■テキスト

特になし

■参考文献

渡辺啓 『現代の化学』 サイエンス社
配布資料を中心に講義する。

■履修上の注意・担当者からの一言

実益と教養を兼ねた話しとして興味を持って聞いて下さい。実生活に重要な基礎知識を与えると同時に、新聞・テレビなどでの最先端の化学情報を理解する力も養えるようにしたいと思っています。

■講義計画

- ①「化学概論Ⅱ」の展望
- ②化学結合の基礎
- ③有機化合物Ⅰ（炭化水素、アルコール）
- ④有機化合物Ⅱ（カルボン酸、エステル、油脂）
- ⑤有機化合物Ⅲ（芳香族化合物）
- ⑥洗剤、化粧品
- ⑦生理活性物質と医薬品
- ⑧合成高分子Ⅰ（高分子化学の基礎：合成と構造）
- ⑨合成高分子Ⅱ（ポリエチレン、ナイロン、ポリエステルなど）
- ⑩繊維、高機能繊維、ゴム
- ⑪天然高分子（炭水化物：糖、デンプン、セルロース）
- ⑫生体高分子（タンパク質、DNA）
- ⑬環境化学Ⅰ（大気環境）
- ⑭環境化学Ⅱ（バイオエタノール、太陽光発電）
- ⑮まとめ

科学技術英語

【担当】岡田 至弘、片岡 章俊、曾我 麻佐子、新川 芳行、外村 佳伸、野村 竜也、長谷 智弘、
藤田 和弘、三浦 雅展、三好 力、吉見 毅彦、渡邊 靖彦

【開講】通年 集中

■講義概要

科学技術の分野では多くの情報が英語により伝達されている。このため、英語による情報収集と発信は特別研究を行なう上でも重要である。この科目では、科学技術文献の原典の読解を通して、有益な情報の選択・解釈能力の開発を目的とする。また、読解力の向上だけでなく自ら英語で情報を発信していく能力を習得することも目的とする。指導は、特別研究の配属先の教員が行なう。

■到達目標

科学技術分野の情報を英語により収集する能力と発信する能力を身につけること。

■講義方法

少人数の演習形態で行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示

英語文献の読解は、多少時間がかかっても最初は丹念に行うこと。また、インターネット等を通じて常に英語の文章に慣れ親しんでおくことが必要。

■成績評価の方法

その他（100%）
課題達成度、レポートの内容、発表・討論の内容、出席状況などを総合して評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

読解・調査・発表

科学思想史

【担当】但馬 亨

【開講】後期 月1

■サブタイトル

ヨーロッパにおける近代科学・技術の成立と発展についての通史

■講義概要

現代世界において、科学・技術の問題に触れずして人類の知識総体の理解を行うことはまず不可能であろう。しかし、このように強大な影響力は古代の段階においてすでに得られていたのであろうか。当講義では、発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術について、約二千年前のギリシャから遡り解説していく。なお、扱われる対象は近代の数学や物理学を主体としたいいわゆる自然科学分野であるが、その他として西洋思想の諸問題についての理解が必須であるため、適宜取り上げる。

■到達目標

学習・教育目標：C2（◎）
各時代ごとの自然科学・技術の様態について適切な歴史的認識を得ること、さらには理論的な科学発展の経過についての理解を得ること。

■講義方法

プリントなどの資料の配布に加えて、映像資料などの学習教材を使って歴史的背景について説明する。

■系統的履修

自然科学の論理

■授業時間外における予・復習等の指示

参考図書等の指示をするが、課題の考察については各自図書館の蔵書等を利用して調査してもらう場合もある。

■成績評価の方法

平常点（15%）小テストと合算で30点
小テスト（15%）平常点と合算で30点
定期試験（70%）授業で扱ういくつかの核となるべきトピックについて、その理解を問う。

テストでは論述が主体となります。

■テキスト

特になし

■参考文献

トーマス・クーン著 中山 茂訳 『科学革命の構造』 みすず書房 2,730円

■履修上の注意・担当者からの一言

携帯電話や私語などには厳しく対処し、場合によっては単位を取り消す可能性もあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業開始時にe-mailアドレスをお伝えします。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②古代ギリシャ（1）：前ソクラテス期
- ③古代ギリシャ（2）：プラトン以降
- ④ヘレニズム期と古代精密科学
- ⑤アラビアと中世の科学
- ⑥初期近代（1）：万能人の思想
- ⑦初期近代（2）：印刷術、近代解剖学
- ⑧前半内容の確認
- ⑨科学革命の世紀（1）：理論
- ⑩科学革命の世紀（2）：個別事例
- ⑪18世紀の科学
- ⑫19世紀（1）：科学の組織化、制度化
- ⑬19世紀（2）：近代生物学の誕生
- ⑭現代の科学：科学の巨大化
- ⑮総括

■講義概要

地球環境問題が大きな社会問題となっており、これには経済、政治、住民運動など、さまざまな社会要因が関連しているが、基本的には科学・技術の発展を背景とした工業化社会の問題であるといえる。地球環境問題の提起した課題は、石油という膨大なエネルギーを手に入れた人類が、効率や生産性のみを追い求めてきたことにあり、自然システムと調和した生産・生活システムを模索し、確立していくことが求められている。本講義では、これらの問題を理解していくために必要な自然科学的な基礎的事項、環境に関する化学・物理および生物・生態学に関することについて述べる。さらに、これらの問題に対処するための生活様式の検討について言及する。

■到達目標

地球規模での広がりを持って、身の回りの環境問題を考えられるようになる。

■講義方法

教科書および配布資料により講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート提出や資料収集など、適宜講義中に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (10%)

レポート (10%)

定期試験 (80%)

■テキスト

及川紀久雄（編著）『新 環境と生命』 三共出版 2,600円

適宜、資料を配布する。

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①環境問題について
- ②地球の構成と生物圏
- ③人間と環境・食料
- ④水と生命
- ⑤水環境と保全
- ⑥大気環境と酸性雨
- ⑦土壌環境と生態系
- ⑧中間試験
- ⑨化学物質の生産と安全管理
- ⑩地球温暖化
- ⑪廃棄物処理
- ⑫エネルギー資源
- ⑬都市環境
- ⑭化学物質の分析法
- ⑮まとめ

学外実習（キャリア実践実習）（2009年度以降入学生）

【担当】 吉見 毅彦

学外実習（2008年度以前入学生）

【開講】 前期 集中

■講義概要

理工学部各学科の講義・演習・実験・実習等を通じて培っている知識を背景として、学外の企業・研究所等の現場における実務を体験する。

学外実習は夏期休暇中の約2週間に実施され、実習終了後に報告書の提出、報告会への参加が必要である。また、実習先の企業・研究所等は大学により指定される。

その他、学外実習に関する説明会が事前に実施される。

■到達目標

学外実習に参加することにより、研究・開発・生産現場等の仕事を通じて大学における勉学の意義を知り、将来の学修に役立てることおよび社会的訓練と人格の向上に資することを目的としている。

■講義方法

原則として、事前実習の受講および学外の企業・研究所等での実習とし、実習内容は実習先の計画による。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習として、学内外のインターンシップ・プログラムの内容や実習先について調べておくこと。

■成績評価の方法

実習最終日に実習先に提出する報告書を実習先から大学に返送してもらうこと、および実習後に学内で開催される実習報告会への出席等により、総合的に可否を判定する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

説明会には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、学生として責任ある態度をとること。実習先の指定は原則大学側が行うが、学生の積極的な進取的選定も可とする事があるので、学外実習担当教員に相談すること。

<学外実習実施委員>

数理：馬 青 電子：小堀 聡 機械：森 正和
物質：岩澤 哲郎 情報：吉見 毅彦 環境：占部 武生

■講義計画

- ①大学より企業・研究所等へ実習受け入れの依頼書発送
- ②実習先希望アンケート作成・提出
- ③実習に関するオリエンテーション
- ④大学より企業・研究所等へ実習内容確認書発送
- ⑤実習先の通知・オリエンテーション
- ⑥大学より企業・研究所等へ正式依頼状発送、事前学習
- ⑦学外実習実施
(実習先企業等からの回答により、期間等の変更の場合あり)
- ⑧学外実習報告会（実習先企業・研究所、学生、教員が参加）

■講義概要

科学技術が人間社会や自然環境に対して与える正負の影響について理解する。また、その中で、専門職である技術者として、倫理に関わる問題に出会った場合にどのように対処すべきか、技術者の倫理、責任について理解する。さらに具体的な事例研究やグループディスカッション等を通じて、公衆の安全、公共の福祉、健康、文化、社会、環境等、様々な観点から価値を総合的に考慮する必要があることを理解し、具体的な問題解決を図る場合の、倫理的判断能力と問題解決能力の向上を図る。

■到達目標

①科学技術が人間社会や自然環境に対して与える正負の影響について理解する、②専門職である技術者として、技術者の倫理、責任について理解する、③専門職である技術者として、具体的な問題解決を図る場合の倫理的判断能力と問題解決能力を持つ、④自ら考える力を身に付ける、ことを目標とする。

■講義方法

講義に事例研究やグループディスカッション等を交えて進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

集中講義（4日間）のため、毎日講義終了時に小テスト、レポート、テストのいずれかを実施する。その際、配布資料、参考図書等持込可とする。

■成績評価の方法

平常点（20%）グループディスカッション、発表等
小テスト（20%）集中講義4日内、1・2日目終了時
レポート（30%）3日目終了時
定期試験（30%）4日目終了時

■テキスト

特になし

■参考文献

田岡直規・橋本義平・水野朝夫編著 『技術者倫理 日本の事例と考察－問題点と判断基準を探る』 丸善出版 3,000円
杉本泰治・高城重厚 『第四版 大学講義 技術者の倫理入門』 丸善 1,700円

■履修上の注意・担当者からの一言

講義に事例研究やグループディスカッション等を交えて進め、専門職である技術者として、具体的な問題解決を図る場合の倫理的判断能力と問題解決能力を持ち、自ら考える力を身に付けることを目標とするため、積極的に参画すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

集中講義のため、講義終了後にオフィスアワーを設ける。場所は原則として講義を行った教室を利用する。

■講義計画

- ①技術者倫理とは
- ②企業倫理と技術者倫理
- ③倫理問題解決の技法。事例討議と演習 1
- ④事例討議と演習 2
- ⑤技術者とは何か
- ⑥日米学協会倫理規程
- ⑦環境倫理。事例討議と演習 3
- ⑧事例討議と演習 4
- ⑨科学技術社会と技術者倫理
- ⑩原子力と技術者倫理
- ⑪研究倫理。事例討議と演習 5
- ⑫事例討議と演習 6
- ⑬技術者、研究者の行動基準
- ⑭技術者の継続研鑽
- ⑮事例討議と演習 7
- ⑯テスト

■サブタイトル

willから始める大学生活

■講義概要

キャリアデザインへの1回生からの取り組みが自分のキャリアをつくっていく上で決定的に重要であることを実践的に学ぶ。自らの判断と創造が要求される、つまり責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生には、そこに至る基本的な「考え方」と「知識」を学ぶ必要がある。大学卒業を控えた選職活動に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。このキャリアデザイン論では、自分のキャリアをつくっていく上で、何故、そうしたという「考え方」や「知識」が必要であり、これから君達が自分でつくる学生生活を自分の言葉で語ることが重要であるかを理論的・体験的に学ぶ。

＜理工学部キャリア教育の取り組み＞

http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career_support/index.html

■到達目標

- ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが「キャリアデザイン」の第一歩であることを学ぶ
- ・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

■講義方法

授業の中では、積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワークを行いながら解説を試みる。グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分自身で、体験の中から発見・再発見・再認識し、自分の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。また互いの意見を発言、聞く、伝えるスタイルはコミュニケーションの訓練にもなる。

自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。板書量は多くないが必ずノート記入を要求する。

■系統的履修

キャリアプランニング（2年次・前期）

■授業時間外における予・復習等の指示

講師からの指示により、自己紹介の準備やプレゼンテーション授業時の資料準備がある。

また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

■成績評価の方法

平常点（50%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法で厳しく行う

その他（50%）決められた提出物を何種類か提示する。

試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。

テキストの中にワークシートが組み込まれているため、授業時のテキスト忘れは要注意すること。

平常点に影響する。

■テキスト

東田晋三著 『新自分デザイン・ブックⅠ』 株式会社ドリームシップ 1,600円

生協にて販売。部数品切れの可能性あり、早めに確保すること。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。（並行して、龍子の部屋（カウンセリングルーム）も開室しています。）生きることと働くこととは切り離すことができません。学ぶことと仕事をする、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものです。キャリア開発/キャリア教育の基本が自己理解にあるのはそういう理由です。3年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みたい。講義予定は、受講生の反応を見ながら柔軟に進めたい。今年で9年目になるキャリア教育、学生による授業評価は、毎回受講して良かった90%以上と非常に高い評価が出ている。受講学生の積極的な発言を期待している。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

キャリア講師は9名で火曜日・水曜日・木曜日・金曜日に授業を行っている。授業の合間は講師控え室にて待機。

■講義計画

- ①オリエンテーション（評価の方法、学習のポイント等の解説）
高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
- ②自己紹介とは何かを考えてみよう
- ③何のために大学にきたのだろう（目的）
- ④大学生活がこうなればいいなあ（目標）
- ⑤伝えたい（コミュニケーション）
- ⑥自分を表現しよう
- ⑦協調性とは何かを知ろう
- ⑧好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
- ⑨失敗は成功へ向けての授業料
- ⑩キャリアマインドをもとう
～2つの軸が君の未来をつくる～
- ⑪ディスカッションの大切さを学ぼう
- ⑫勉強・仕事の土台となるものを考えてみよう
- ⑬プレゼンテーションにチャレンジ
- ⑭willから始まる大学生活
- ⑮willから始まる大学生活発表会

■サブタイトル

自らの意志と責任で考え、キャリアを開発しよう。

■講義概要

1年次では、自分の個性や生き方、将来の進路を見つめながら、大学で学ぶ目的・目標を持つことの大切さを学んだ。2年次、キャリアプランニングでは、種をまき、芽を出すことの意識を自らが自覚しよう。自分らしさを活かして大学生活を充実させる為に、自分は何者か、どこへ行くかとしているのか、そんな自分を見つめることから、この授業は展開する。その一つの手段として、自己理解及び自己現状把握・分析を行うが、自分の人生を可能な限り自分で納得のいくものにしていく為にも、大切なことは、最終的な目的地やそこにいたる筋道を明確にすることだけではなく、「なぜそこを目指そうとしているのか」という理由や自分にとっての意味を明確にしていこうことである。変化の激しい時代であるがゆえに、自分の考えも変わることもあるが、判断に迷った時の拠り所となる「理由や意味」を明確にしていこうことは、キャリア開発には欠かせない重要なことである。その為にも、マニュアル的な発想や行動ではなく、「自分で考える力」や「自分の中身」を鍛える授業とし、これからの大学生活で何を経験しておくべきか、実際に行動を起こす為の具体的な計画をたてよう。目標を達成するために自分でプロセスを楽しめる状態に持っていく力、それは、「なぜ」「どうやって」「どうしたら」を考え、答えを出す作業が、その力として身につくものであり、自分の言葉でその経験を熱く語れるようになる。

<理工学部キャリア教育の取り組み>

http://www.rikouryukoku.ac.jp/career_support/index.html

■到達目標

自分の考えをしっかりと持ち、自分の意見を発表することができ、議論ができること。その為に必要な事を考え、気づき、自分の中身が鍛えられ、成長できたと思えること。具体的には、
・コミュニケーション能力がつくこと・課題解決能力がつくこと・何事も後回しにせず、自発的に取り組める自立心が身に付くこと。

■講義方法

自分のキャリアを考える為のワークやグループでの学習がメインである。今年度より、一人ひとりの学ぶ意欲を引き出し、共に学び合うプロジェクト型学習を取り入れる。プロジェクトチームでの学習や行動する具体的な例として

1. テーマに沿って、達成するための自分たちの考えを出し合う。ブレインストーミングをする。
 2. 必要な情報収集や調査を行い、企画書を作成し、プレゼンテーションをする。
 3. 皆に評価してもらい、実現可能な企画書にするための行動計画をたてる。役割を決める。
 4. 実際に行動し実行する。管理する。中間報告を行う。
 5. 更に知恵を出し合い、より良い成果を上げる方法を考え、最終成果報告とする。
 6. 自らが振り返り、キャリアプランニングへと結びつけて行く。
- ワークおよびディスカッションを主に、受け身の講義ではなく自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を“自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。
- また、授業のなかで複数（3名～5名）の講師による「はたかちカード」を使って、自分の価値観を探っていくワークを行い、自己理解を深めていく。

■系統的履修

1年次キャリア授業：キャリア・デザイン

※1年次のキャリア・デザインを履修していないと、履修登録は可能である。

■授業時間外における予・復習等の指示

講師からの指示により、宿題及び下調べとしてするべきことや資料準備等がある。（毎回ではない）具体的には
・自己紹介シート作成（随時）
・ワークシート作成（必要授業時に指示）
・グループとしての協同作業（次回授業までに消化しておくべきことの指示）等がある。

また、授業内ではワークシート作成があり、欠席した者は必ず、次回までに完成しておくこと。（授業について行けなくなるので注意を要します。規律性・責任性を仕事では基本として求められます。そのベースとなることを日常の大学生活でも身に付けることが重要である。）

■成績評価の方法

平常点（30%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法にて厳しく行う

その他（70%）決められた提出物を何種類か提示する。

試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするワークシート理解が不可能であり、注意を要する。（どのように対処すべきか自分で考える、大入度をアップさせること）また、7章よりグループで考え・行動することになるので、互いに協調性をもって協力していくことが求められる。（この能力は仕事をするうえで、最も必要とされる能力である）キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育

である所以です。（並行して、龍子の部屋（カウンセリングルーム）も開室しています。）生きることと働くことは切り離すことができません。学ぶことと仕事をする、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものです。キャリア開発/キャリア教育の基本が自己理解にあるのはそういう理由です。2年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みたい。

■テキスト

1. 授業時に使用する「はたかちカード」の購入。金額は¥400 授業時に徴収。
2. 授業計画のテーマに沿ったテキストを配布予定。各人、幅3センチ以上の2穴綴じ仕様のA4サイズバイナダーを必ず用意すること。

※特に注意すべきこととして、授業時にワークシートの取り外し等を行う為、押さえ込み式のバイナダーは絶対に持参・購入しないことを強く伝えます。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

キャリア教育の基本は、自分の能力を知り、人間性を磨くことから始まる。日頃からの言葉づかい・挨拶・礼儀作法、時間厳守は最低限のマナーとし、身に付けられることが必要である。その基本のもと、自由に発想し自らの信念に基づき主体的に行動し、結果に責任を持つことが求められる。つまり、授業を通して、日常生活や大学生活で大入度をアップさせる行動や態度を常に意識し、大人の常識を身に付け社会性を高めること。このことは、2年後に控えた就職活動に役立ち、就活を左右するものである。今年度より導入するプロジェクト型学習で多くのことを学び、働く理由や意味を少しでも明確にできるよう成長した自分になってもらいたい。従って、この授業では、エントリーシートの書き方、模擬面接等、手法を学ぶ授業ではない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

2年次キャリア講師は5名。前期授業は火曜・水曜・木曜・金曜日。授業の合間には、いずれも講師控え室にて待機。

■講義計画

- ①自分について考える
オリエンテーション
- ②働くベースとなるものを知る
私の勤労観と職業観
自分の勤労観・職業観を探り、ベースにあるものに気づき、発展させる
- ③自分のことを知ろう
自己理解：能力について
- ④グループディスカッション
- ⑤自己分析：価値観について
～はたかちカードワーク その1～
- ⑥自己理解：価値観について
～はたかちカードワーク その2～
グループで語ろう
- ⑦社会を知ろう
働くを知る：考える
ブレインストーミング
- ⑧働くを知る：作成する
目標設定→行動計画書作成
ビジネスマナー
- ⑨働くを知る：検討する
行動計画書→実現可能か？
行動を開始する
- ⑩働くを知る：調査・行動する
現状・問題把握→解決策検討
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
- ⑪働くを知る：調査・報告する
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
- ⑫働くを知る：調査・まとめる
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
- ⑬働くを理解する
調査結果最終報告
評価・振り返り
- ⑭キャリアプラン作成
職種・職業・業界・企業を知る
やりたいことがわからなければ、やりたくないことから考えてみる
- ⑮キャリアプランニング発表：プレゼンテーション

グローバル人材育成プログラムⅠ（2011年度以降入学生）
海外キャリア実践教育及び実習A（2009～2010年度入学生）

【担当】大柳 満之、塩見 洋一
【開講】前期 集中

■サブタイトル
海外での実習

■講義概要

社会のグローバル化が進む中、企業の海外進出、海外企業との競争が加速し、企業の新卒採用においてグローバル志向を持った学生を求める傾向にある。しかしながら、日本から海外へ留学する学生減少に見られるように、海外に出たがらない内向きな志向をもつ学生が増加している。そこで、理工学部では、アメリカ・カリフォルニア州にある本学の海外拠点を活用しながら、同州のシリコンバレーやロサンゼルス周辺で事業展開している日系企業の協力を得て、海外での企業研修プログラムを実施する。なお、現地には理工学部の教員も滞在してサポートする。今ではほとんどの企業が海外で事業展開しているので、こうした企業への就職を希望している人は奮って受講すること。

＜日程＞ 夏期休暇中のうち、2週間程度

＜募集人数＞ 16名

＜費用（予定）＞ 25万円程度（主に航空運賃など。航空運賃はサーチャージ等により変動することがあります。）

＜実習先企業（予定）＞ 住友電工、United Television Broadcasting Systems、Senju Comtek、Neuro Skyなど

＜応募方法＞ 科目の事前登録

■到達目標

学習・教育目標：E2（◎）、C1、C2、D3、F1、F3（○）
働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。
海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。

■講義方法

- ・実習は現地の日系企業にて実施するので、主に日本語での実習となるが、英語を使う場面も当然あり得る。内容は実習先の計画による。
- ・実習中の滞在はホームステイを基本とする。外国での生活を通じて、生きた英語や異文化に触れることもできる。
- ・実習中は理工学部教員が現地に滞在してサポートを行う。

■系統的履修

グローバル人材育成プログラムⅡ

■授業時間外における予・復習等の指示

事前学修で身につけたことを実践するとともに、ホームステイでは自分から積極的に英語で話すように心がけること。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。
説明会等には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、責任ある行動をとること。

■講義計画

- ①オリエンテーション・本科目の目的等の説明
- ②受講希望調査
- ③選考のための面接
- ④海外での実習・各実習先による実習内容

グローバル人材育成プログラムⅡ（2011年度以降入学生）
海外キャリア実践教育及び実習B（2009～2010年度入学生）

【担当】大柳 満之、塩見 洋一
【開講】前期 集中

■サブタイトル
事前学修および事後学修

■講義概要

海外での実習に必要な事前研修として、「中小企業研究セミナー」、「ビジネスマナー実践研修」、「英語コミュニケーション向上研修」、「実習での目的設定」などを行う。
また、実習終了後に、「事後研修」、「報告会」を行う。

■到達目標

学習・教育目標：E2（◎）、C1、C2、D3、F1、F3（○）
働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。
海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。

■講義方法

【中小企業研究セミナー】

理工学部がこれまで培ってきた地域産業界との連携の実績を活かし、ものづくりの第一線で活躍する経営者・実務家によるチェーンレクチャーを実施し、働くことの意義や産業を支える技術力などについて学修する。

【ビジネスマナー実践研修】

ビジネスマナーの基本についての講義を受講した後、小クラス編成での実践練習を行う。

【英語コミュニケーション向上研修】

ネイティブの講師による英語コミュニケーションの実践的な学修を行う。

【事後学修】

実習の振り返りと受講者全員の報告会を実施。

【報告会】

学外実習（キャリア実践実習）と合同で実施する報告会に参加。

※本科目に関わる説明会、事前事後学修の日程等、その都度掲示を行うので、よく掲示板を確認すること。

■系統的履修

グローバル人材育成プログラムⅠ

■授業時間外における予・復習等の指示

英語自学自習支援のために貸し出した英語学習ソフトとノートパソコンで、自学自習を通して語学力を高めること。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。
事前研修および事後研修には必ず参加すること。

■講義計画

- ①中小企業の経営者・実務家による講義
- ②ビジネスマナー講座（講義・実技）
- ③実践英語
- ④海外での実習での目的等の設定
- ⑤海外での実習の振り返り
- ⑥受講者全員による実習報告
- ⑦学外実習（キャリア実践実習）と合同の報告会

計算機基礎実習Ⅰ

【担当】 渡邊 靖彦

【開講】 前期 火4・火5

■講義概要

本科目は、計算機を活用するための基本的な知識を身につけることを目的とする。
実際に1人1台の計算機を使用し、windows環境を用いて実習を進める。

具体的には、以下の内容の習得をめざして実習を進める。

1. 計算機システムの基本的な操作の習得
 - －計算機システムの起動と終了
 - －ファイル管理の基本操作
2. アプリケーションソフトの基本的な操作の習得
 - －エディタ（ワープロ）ソフト
 - －表計算ソフト
 - －プレゼンテーションソフト
 - －WWWブラウザ
 - －メール
3. レポートの作成
 - －word などによるレポートの作成
 - －excel などによる計算とグラフ作成
 - －図、グラフの作成とレポートへの挿入
 - －レポート作成のための文献情報の検索
 - －レポートの書き方の指導

■到達目標

1. 計算機システムの基本的操作の習得
2. アプリケーションソフトの基本的操作
3. レポートの作成

■講義方法

1人1台の計算機を使用し、windows環境を用いて実習を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書などを読み、授業で何を学習するかを頭の中に入れておきましょう。

演習問題を解いてみると授業がより効果的になります。

■成績評価の方法

平常点（20%）

小テスト（30%）

レポート（50%）

受講状況および毎回出される課題に対して評価を行い、その総合点を成績とする。

■テキスト

斉藤幸喜/小林和生 『windows Vista を用いたコンピュータリテラシーと情報活用』 共立出版 2,415円

山崎信寿/富田豊/平林義彰/羽田野洋子 『科学技術日本語案内』 慶応義塾大学出版会 4,800円

■参考文献

有賀妙子/吉田智子 『新・インターネット講座ネットワークリテラシーを身につける』 北大路書房 1,995円

■講義計画

- ①オリエンテーション、パスワードの変更、メールの送受信
- ②ワープロソフトの基本操作
- ③表計算ソフト（1）ワークシートの基本操作
- ④表計算ソフト（2）簡単な計算
- ⑤表計算ソフト（3）グラフの作成
- ⑥表計算ソフト（4）関数を利用した計算
- ⑦CG作品の作成
- ⑧グループ対抗CG大会
- ⑨プレゼンテーションソフトの基本操作
- ⑩情報探索講習会
- ⑪グループ対抗プレゼンテーション大会（1）
- ⑫関数の積分とグラフの作成
- ⑬グループ対抗プレゼンテーション大会（2）
- ⑭キャリア開発用データベース講習会
- ⑮総括

計算機基礎実習Ⅱ

【担当】 南條 浩輝、吉見 毅彦

【開講】 後期 火4・火5

■講義概要

この実習は、(1) UNIXに関する基礎知識、(2) LaTeX、Tgif、Gnuplotによる文書作成能力、(3) C言語を実際に使いこなせる能力を身につけることを目的とする。この実習の後半は講義科目「プログラミング基礎」と連携しており、「プログラミング基礎」で解説する、C言語の基本的な機能について、毎回いくつかの演習課題を解くことによってプログラミング能力を高めていく。

■到達目標

UNIXの基礎知識、LaTeXによる文書作成能力、C言語による基本的なプログラミング能力を身につけること。

■講義方法

各自一台のコンピュータを用いて実習形式で行なう。毎回演習課題を出題する。

■授業時間外における予・復習等の指示

今回の実習までにテキストと配布資料の当該部分を読んで理解を深めておきなさい。

■成績評価の方法

平常点（100%）演習課題に対する達成度（全回出席を前提とする）

■テキスト

皆本晃弥 『やさしく学べるpLaTeX2ε 入門－文書作成からプレゼンテーションまで－』 サイエンス社

中井獏 『わかる&使えるUNIX基礎講座 入門編：』 技術評論社

■参考文献

内田智史 『C言語によるプログラミング 基礎編 第2版』 オーム社

■講義計画

- ①ガイダンス。Linuxを使ってみる
- ②UNIXの基礎（1）：ファイル操作、ディレクトリ操作、ファイルシステム
- ③テキストエディタEmacsの使い方
- ④UNIXの基礎（2）：ファイル/ディレクトリのモード、標準入出力、リダイレクション
- ⑤LaTeXによる文書作成（1）：文書作成の流れ、文字装飾、インデント、リスト
- ⑥Tgifによる図の作成とGnuplotによるグラフの作成
- ⑦LaTeXによる文書作成（2）：章・節、相互参照、表の作成、図の取り込み
- ⑧C言語によるプログラミング（1）：入出力、四則演算、基本データ型
- ⑨C言語によるプログラミング（2）：条件分岐構造、関係演算子、論理演算子
- ⑩C言語によるプログラミング（3）：反復構造
- ⑪C言語によるプログラミング（4）：配列
- ⑫C言語によるプログラミング（5）：ポインタ
- ⑬C言語によるプログラミング（6）：関数
- ⑭C言語によるプログラミング（7）：構造体
- ⑮C言語によるプログラミング（8）：総合演習

■サブタイトル

工学概論

■講義概要

世の中の技術革新はめざましく、我々の身の回りに普及し、社会、経済の営みを大きく変えようとしている。技術革新で人々の暮らしは便利になった。しかし、その根底にはエネルギーという大きな問題があることも事実で、一昨年の東日本大震災で身近な問題となった。この講義では、まず電力とエネルギーに関連した工学技術の基礎から始め、次に、主に電気、エレクトロニクスが関係する身近にある技術革新やその原理を紹介する。また、これらの技術は、電気、機械などハード技術だけでなくソフトや材料技術など、いろいろな学問や異なる分野の技術が融合した成果であること、また、ものづくりの現場の絶え間ない開発・改良技術、量産化の技術、低コスト化技術、製品の信頼性を高める技術など、工場の生産技術も非常に重要であることを紹介し、エネルギーや物づくりの重要性を知ってもらう機会を与えることがこの講義の目的である。

■到達目標

学習・教育目標：D1（◎）

何気なく使っている身の回りの製品にも、すごい技術が秘められていることを理解する。現代の工学技術の奥深さを知り、その根底にある電力とエネルギーの重要性を知る。また自分の将来の進路を考える参考とする。

■講義方法

毎回の授業が「読みきり」となる形で、昨今の新しい技術の流れの中の様々な話題を取り上げ、講義を行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義では限られた時間内にいろいろな技術の内容に触れるので、重要な用語（キーワード）などは、あとで自分で調べてみる。それによって自分の知識として身につく。

■成績評価の方法

平常点（30%）各講義の終わりに講義の感想を書いてもらいます。4回以上の欠席（届け出無し）は不合格。

定期試験（70%）

■テキスト

特になし

■参考文献

講義で紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

講義を聞いて理解できなかったことは、あとで質問したり、自分でインターネットや本などで調べる。講義中は私語を慎み、まず、人（講師）の話を聞く。そして疑問、質問あれば遠慮なく質問すること。

■講義計画

- ①日本が直面している大問題、電力とエネルギーの基礎
- ②電気とは。電気ができ、家庭に届くまでの仕組み
- ③太陽電池、太陽光発電の現状
- ④風力、波力、潮力、電気自動車、クリーンエネルギーの新しい創生と蓄電技術
- ⑤いろいろな波（光、電波、音波、地震波、津波）の性質、現象、その関連技術
- ⑥ますます薄くなるディスプレイ、その原理と構造
- ⑦携帯やデジカメの中はどうなってる？、電子機器の軽薄短小化の技術
- ⑧ハイテク製品の陰にレアメタルあり。材料による製品の技術革新
- ⑨現代の通信はどのような原理で成り立っているか、そのしくみと歴史
- ⑩ランプからLED、有機EL照明まで。光の革命技術
- ⑪身近なすごい技術、レーザー。CDからレーザー兵器まで、その原理
- ⑫身の回りのいろいろな電磁気・電磁誘導、その応用技術
- ⑬家庭に普及したパソコンやインクジェット、その原理と進歩
- ⑭半導体って何？、どうやって作る？、工場の中は？
- ⑮まとめ

資源エネルギー論

■サブタイトル

22世紀以降も持続可能な社会を目指した技術

■講義概要

われわれの生活を支え、産業を発展させるには資源の消費が不可欠であるが、先進国における大量消費に加えて、近年は中国やインドといったアジアの人口大国での消費量が飛躍的に伸びていて、このままの持続的な社会発展は悲観的な見方が強い。それゆえ資源についてよく知り、その利用について今まで以上に深く考えねばならない。資源はその使用目的により大きく分けて物質資源とエネルギー資源とがある。本講義ではエネルギー資源を中心に、その相互の変換、特に発電についてや、将来伸びていくであろう新エネルギーについて説明する。さらに原発事故を踏まえ、原子力発電とその未来について考察する。また、物質資源としては特に金属資源およびセメントを取り上げ、リサイクルが資源の確保に果たす役割についても述べる。

■到達目標

われわれの生活を支えているエネルギー資源の状況とその将来の動向についての知識。金属資源の循環過程についての理解。

■講義方法

配布プリント、板書、プロジェクトによるパワーポイントや動画を中心に行う。理解を助けるためのレポートを必要に応じて課す。出席は何らかの形で毎回取る。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート課題などを通して、各分野の予習や復習を指示する。

■成績評価の方法

平常点（11%）

レポート（30%）10点×3回

定期試験（59%）上記の得点なしでテストだけ受けても合格しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

世羅力『資源・エネルギー工学要論 第2版』東京化学同人 2,400円

これらの参考文献はテキストの代わりに使用することがある。

■履修上の注意・担当者からの一言

資源・エネルギーに関する問題が解決しなければ、人類が22世紀まで存続できるかどうかおぼつかない。講義以外に日々発せられる情報にも関心を持ち、その行く末を考えてみて下さい。少々過激ではあるが、目からうろこが落ちる体験が待っているかも？

■講義計画

- ①エネルギーの基礎
- ②化石エネルギー（1）－石炭、石油－
- ③化石エネルギー（2）－天然ガス－
- ④化石エネルギー（3）－その他－
- ⑤電力（電気エネルギー）（1）－火力発電－
- ⑥電力（電気エネルギー）（2）－その他の発電方法－
- ⑦自然エネルギー（1）－水力、地熱－
- ⑧自然エネルギー（2）－太陽、風力、バイオマス、その他－
- ⑨核エネルギー（1）－核分裂反応－
- ⑩核エネルギー（2）－原子力発電－
- ⑪核エネルギー（3）－未来の原子力－
- ⑫省エネルギー
- ⑬金属資源と精錬・リサイクル
- ⑭セメントの概要
- ⑮まとめ

自然観察実習（2007年度以降入学生） 生物多様性実習B（2006年度以前入学生）

【担当】島田 京子、丸山 敦、山中 裕樹、横田 岳人
【開講】前期 水3・水4・水5

■講義概要

環境科学では野外における自然現象を観察し、その場で生じている事柄や問題を、科学的なデータをもとに明らかにしていく。その最も基本となるのは、自然現象の観察である。この実習では、比較的身近にある自然環境を対象に、主として植物や動物などの生物が織りなす自然現象を対象に、自然観察法の初歩を体験的に幅広く学習する。

■到達目標

学習・教育目標：D1（○）
野外での生物現象の観察の基本を身につける。自然観察に用いる道具類の取り扱いを学ぶ。動植物の関わり合いについて、実際の観察を通じて理解する。

■講義方法

実習は3つの班に分かれ、概ね4回ずつ一つのテーマについて実習を行う。具体的な実習テーマは初回ガイダンス時に示す。基本的に実習内容についての講義の後に実習を行うが、詳細は担当教員毎に異なる。不明な点は初回のガイダンス時に確認すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

初回のガイダンス時に、授業時間以外で実施する実習内容について説明するので、指示にしたがうこと。

■成績評価の方法

平常点（40%）実習参加状況
レポート（40%）レポート、スケッチを評価。
その他（20%）積極性、自発性、協調性を総合評価。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

基本的に実習は野外で行う。野外活動できる服装を準備すること。野外での実習には、思いがけない危険が伴う。安全のてびきを熟読し、指導者の指示に従うこと。また、実習内容によって集合時間や場所が変わることがあるので、事前の掲示に十分注意すること。

■講義計画

- ①実習ガイダンス
- ②3つのテーマについて4回ずつ実習を行う
- ③陸上生物を中心にした自然観察（横田岳人）
- ④水域生物を中心とした自然観察（丸山敦・山中裕樹）
- ⑤人間生活と自然（島田京子）
- ⑥博物館（動物園・植物園）での実習
- ⑦実習まとめ

情報学概論

【担当】杉山 久佳
【開講】前期 木5

■講義概要

コンピュータと情報ネットワークの基礎を解説する。まずコンピュータの発展の歴史を延べ、現代および将来の応用分野を示す。次にコンピュータシステムの基盤となる2進数と論理回路などの諸要素について解説する。情報ネットワークに関しては、その基盤となる符号化とデジタル信号処理などの要素技術を解説する。

■到達目標

学習・教育目標：D1（◎）
コンピュータと情報ネットワークの基礎を理解するとともに、これらを統合した現代社会の基盤技術の全体像を把握することを目標とする。

■講義方法

指定した参考書を中心として進める。授業中に適宜小テストを行うことで理解度をチェックする。

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜講義中に指示する。

■成績評価の方法

平常点（20%）
小テスト（20%）
定期試験（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

三井田他 『情報工学概論』 森北出版 2,100円

■講義計画

- ①コンピュータの歴史（機械式計算機）
- ②コンピュータの歴史（電子計算機）
- ③コンピュータの歴史（パーソナルコンピュータ）
- ④2進数の基礎
- ⑤2進数の演算（加減算および乗算）
- ⑥2進数の演算（計算機内部演算）
- ⑦小テスト
- ⑧2進数の内部表現
- ⑨ブール代数と演算回路（ブール代数の基礎）
- ⑩ブール代数と演算回路（演算回路設計）
- ⑪コンピュータの構成（ハードウェア）
- ⑫コンピュータの構成（ソフトウェア）
- ⑬ネットワークの基礎
- ⑭コンピュータネットワーク（インターネット）
- ⑮コンピュータネットワーク（移動体通信）

■サブタイトル

情報化の進展が及ぼす社会生活の変容

■講義概要

情報化の進展が社会を発展させ生活を充実させているが、同時に社会に及ぼす影響や課題も生じている。この現状を認識するとともに、情報化の進展が職業や教育に与える影響について考察する。

■到達目標

学習・教育目標：C2（◎）

情報化社会の進展が及ぼす社会生活の変容をふまえ、更に高度化する情報化社会に柔軟にかつ、的確に対応できる能力と態度を育てる。

■講義方法

資料を用いて授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の終了時に次回の授業に必要な事項について指示するときは、事前に調べて説明できるようにしておくこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）

レポート（30%）

定期試験（40%）

試験、レポート、学習状況等を総合して評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 情報編』 開隆堂
出版株式会社 221円

■履修上の注意・担当者からの一言

高等教員免許教科「情報」に係る科目です。

■講義計画

①ガイダンス 科目「情報と職業」について

②情報化の進展と学校教育 (1) 情報化の進展

③情報化の進展と学校教育 (2) 情報教育

④情報化の進展と学校教育 (3) 情報科教員に求められる資質・能力

⑤情報化の進展と職業 (1) 情報化社会と情報システム

⑥情報化の進展と職業 (2) 働く環境の変化と労働観

⑦情報化の進展と職業 (3) 企業の情報化と求められる人材の変化

⑧日本の情報通信技術政策 (1) (IT国家 IT基本法)

⑨日本の情報通信技術政策 (2) (e-japan IT新改革戦略)

⑩日本の情報通信技術政策 (3) (i-japan 情報通新戦略)

⑪企業における情報活用 (1) (情報システム POSシステム)

⑫企業における情報活用 (2) (SCM JIT)

⑬情報化社会における犯罪と法律

⑭情報化社会における危機管理

⑮産業構造の変化と職業 / 情報と職業のまとめ

■講義概要

環境問題への関心が高まり、「エコ」の語は世間に溢れる。しかし、生態学（ecology）の理解は必ずしも高いとは言えない。生態学は、生物どうし、および生物と非生物的環境の間の全ての関係を扱う科学分野であり、興味の方向や時空間スケール、研究手法によって多方面に発展している。この学問を概観することで、生態学本来の可能性や、環境問題の本質を理解するための学問的基礎を得られよう。

本講義では、生態学の基礎（共通）概念から始まり、進化生態学、行動生態学、社会生態学、個体群生態学、群集生態学、生態系生態学、応用生態学などについて概説する。重要キーワードの理解に重点をおき、具体的事例の紹介で理解を助ける。また、各分野の視点から、移入種、温暖化、生物多様性損失などの環境問題を考察する。

■到達目標

学習・教育目標：A、B1（○）

生態学全般についての概括的な知識を習得し、生態学の発展諸分野への興味を持つ。環境問題を生態学的に考察する重要性を知る。

■講義方法

プロジェクトを中心に行う。プロジェクトで示す内容はダウンロード可能だが、教科書の購入および事前学習は必須である。随時小テストを行い、習得状況を確認する。

■系統的履修

生物学序論、生物学概論、または高校「生物Ⅱ」

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。

■成績評価の方法

平常点（0%）講義終了時の課題に正答すれば計30点まで加算する／資料持込禁止

小テスト（40%）用語の理解度を試す選択式試験を2回実施／資料持込禁止

定期試験（60%）記述式の試験を実施する／教科書（書込可）のみ持込可

その他（0%）講義中の発言によって10点まで加算する
小テストを公欠（要証明）の場合、定期試験の得点で埋め合わせる

■テキスト

日本生態学会『生態学入門（第2版）』東京化学同人 2,940円
教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。第1版は内容が変更されているので注意が必要。

■参考文献

日本生態学会『生態学事典』共立出版 13,650円
マッキンジー、ボール、バーディー『生態学キーノート』シュプリンガー・フェアラーク東京 3,360円
ベゴン、タウンゼント、ハーパー『生態学—個体・個体群・群集の科学』京都大学学術出版会 12,600円

■履修上の注意・担当者からの一言

パワーポイントを併用し、その内容はダウンロード可能にしているが、教科書の購入は正しい理解のために必須である。自学習として毎回、教科書該当部分の予習および復習を求める。講義中に発言や質問を求めることがある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業直後、もしくは環境研究室12（瀬田学舎7号館1階）にて連絡が可能である。

■講義計画

- ①生態学概観、生物の基礎知識
- ②進化生態学の基礎
- ③分子進化と生態学
- ④生活史の適応
- ⑤性の意義
- ⑥生理生態特性の適応
- ⑦行動の適応
- ⑧社会の適応、復習テスト
- ⑨種内競争と個体群
- ⑩種間競争と個体群
- ⑪被食・寄生と個体群
- ⑫種間相互作用と生物群集
- ⑬生態系と機能
- ⑭応用生態学
- ⑮環境変動と生態学、復習テスト

■サブタイトル

遺伝情報の伝達メカニズム

■講義概要

組換えDNA技術の発展を背景に、塩基配列レベルでの遺伝情報の解析が飛躍的に進展し、細菌等の単細胞生物はもとより、ヒトに代表される高等生物の遺伝情報に対する理解が深まってきた。高次生命現象の研究までもが次々と組換えDNA技術を用いて発展し、新しい概念の確立、既成概念の修正がなされている。本講義では組換えDNA技術の基礎となる原核生物の遺伝情報の伝達メカニズムについての解説から始める。さらに、この技術を用いて解明された真核生物の遺伝情報とその伝達メカニズム、生体機能の発現のメカニズムについて分子レベルで追及した研究成果を紹介する。

■到達目標

学習・教育目標：D1 (◎)

遺伝情報の発現と制御のメカニズムを学ぶことにより、細胞内での情報伝達システムの一端を知ることができる。情報科学や物理系の学科を専攻する学生にとっても理解できるように講義を進めていく。

■講義方法

毎回授業計画のテーマに関するプリントを配布し、パワーポイントを用いて講義を進めていく。

プリントの内容はpdfとして提供も可能。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業開始時に配布するプリントのキーワードについて、授業内容の理解を深めるため復習をしておくこと。

■成績評価の方法

定期試験 (100%) 筆記試験により成績を評価する。

第1学期試験期間に筆記試験をおこなう。試験に参考資料 (本や配布資料など) の持ち込みを許可する。

■テキスト

特になし

■参考文献

J.D. Watson et al. 『遺伝子の分子生物学』 トッパン

B. Alberts et al. 『細胞の分子生物学』 教育社

B. Lewin 『遺伝子第8版』 東京化学同人

いずれの本も旧版ではあるが、本学の図書館に完備されている。一回目の授業時に配布するプリントに遺伝情報の伝達に関する入門書を挙げておく。一読することを勧める。

■履修上の注意・担当者からの一言

参考文献に挙げた本は高価なので、あえて購入する必要はありません。知識をより深めたいときに、図書館に完備してある参考文献に挙げた図書を利用していただきたい。最初の講義の時に読める本を紹介します。将来生物科学を専攻したいと考えている人は参考文献の一読を薦める。

■講義計画

① 遺伝物質の化学的本姓

② 遺伝物質の構造

③ 遺伝物質の自己複製

④ 遺伝物質の組換え

⑤ 遺伝情報の発現と制御 (1) - 原核生物における転写のメカニズム

⑥ 遺伝情報の発現と制御 (2) - 真核生物における転写とRNAプロセッシングのメカニズム

⑦ 蛋白質の構造と機能

⑧ 遺伝情報の発現と制御 (3) - 翻訳のメカニズム

⑨ 遺伝子系の保存

⑩ 組換えDNAとバイオテクノロジー

⑪ トピックス紹介 (1) がん遺伝子

⑫ トピックス紹介 (2) 免疫系におけるゲノムの再編成

⑬ トピックス紹介 (3) シグナル伝達

⑭ トピックス紹介 (4) 細胞周期の制御

⑮ トピックス紹介 (5) 生物の形を決める遺伝情報

生物学概論 I

■講義概要

生物学は生物の特長である生命現象とは何か、生きているとはどういうことかなどといった問題を自然科学の言葉で理解しようとする学問分野である。とはいえ、生きているということを定義することはむずかしい。本講義では、まず生物の基本単位である細胞をとりあげ、細胞が示す普遍的な構造と機能について説明する。以下、生物は生命維持のため、どのように自己複製をし、新しい個体を形成するか。その際、どのようにして、個々の生物は特異性を維持するのか、その物質的背景は何かなどについて、一年を通して論じるので、生物学概論 I、生物学概論 II、両方を選択されるのが望ましい。

■到達目標

昨今、生物学、医学の知識は飛躍的に増え、生命体にメスさえ入っているが、ヒトは最小の微生物すら未だに作ることができない。この講義を通じて生物のことを多面的に学んで欲しい。そして、生命という不可思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法

講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして解説する。授業計画の項目によっては複数回にわたる場合がある。講義はオーソドックスな方法で行なうが、トピカルなことも取り上げる。

■系統的履修

状態と変化の科学である生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■授業時間外における予・復習等の指示

大学の講義の一時間には二時間の予習と復習の時間が課されている。従って、私は講義時間に大切だと思う出来るだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

■テキスト

石川統編 『生物学 第2版』 東京化学同人社

近年凄まじい勢いで発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、講義中、必要なプリントを配布する。またテキストに記されていない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献

その他参考図書は随時講義中に知らせる。また、必要な資料は講義前に配布する。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

私への連絡は、講義終了時、または水曜日 (後期のみ) の午後、もしくは、生物学実験の時間中または後にしてください。

■講義計画

① 講義に先立って、生物学の学問的位置

② 生物の階層構造について

③ 生体抗生物質 1 : 水、糖質、脂質

④ 生体抗生物質 2 : タンパク質、核酸、その他

⑤ 細胞生物学 1 : 細胞と細胞構造

⑥ 細胞生物学 2 : 細胞膜の構造と機能

⑦ 細胞生物学 3 : リソソーム・ペルオキシソーム

⑧ 細胞生物学 4 : ゴルジ体

⑨ 細胞生物学 5 : 小細胞とタンパク質合成

⑩ 細胞生物学 6 : ミトコンドリア・エネルギー代謝

⑪ 細胞生物学 7 : 葉緑体・光合成

⑫ 細胞生物学 8 : 細胞骨格

⑬ 細胞生物学 9 : 核・核酸の複製と転写

⑭ 発生生物学 1 : 細胞分裂

⑮ 発生生物学 2 : 細胞周期

■講義概要

生物学概論Ⅰの講義内容に続き、生物個体はどのような調節機構のもとで成体になるのか、また、それぞれの種の生物の形体や機能の特異性や変異性はどのようにして生じ、維持されるのか、その物質的基礎は何か。生物体の恒常性は、どのようなシステムのもとで維持されているのか。生命の誕生とその後の発展はどのようにして起ったと考えられているのか。動物の行動のもつ意義は何かなど、広範な分野について概観し、解説する。

■到達目標

昨今、生物学、医学の知識は飛躍的に増え、生命体にメスさえ入っているが、ヒトは最小の微生物すら未だに作ることができない。この講義を通じて生物のことを多面的に学んで欲しい。そして生命という不思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法

講義毎にテーマを決め、そのことを中心にして論じる。

■系統的履修

状態と変化の科学である生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■授業時間外における予・復習等の指示

大学の講義の１時間には二時間分の予習と復習の時間が課されている。したがって、私は講義時間身大切だと思えるだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

石川統 『生物学 第2版』 東京化学同人社 2,520円

近年凄まじい勢いで発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、講義中、必要なプリントを配布する。またテキストに記されていない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献

その他参考図書は随時講義中に知らせる。また、必要な資料は講義前に配布する。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

私への連絡は、講義終了時、または水曜日（後期のみ）の午後、もしくは、生物学実験の時間中または後にしてください。

■講義計画

- ①講義に先立って、前期講義のまとめ
- ②発生生物学3：配偶子形成
- ③発生生物学4：受精の機構と初期発生
- ④発生生物学5：初期発生に基づく動物の分類
- ⑤発生生物学6：情報発現の調節
- ⑥遺伝生物学1：メンデル遺伝学
- ⑦遺伝生物学2：集団遺伝学の基礎
- ⑧遺伝生物学3：形質転換・形質導入・溶原変換
- ⑨遺伝生物学4：突然変異
- ⑩遺伝子工学入門
- ⑪恒常性の維持機構1：神経系の発達・構造・機能
- ⑫恒常性の維持機構2：内分泌系
- ⑬恒常性の維持機構3：免疫学
- ⑭生物進化の考え方
- ⑮動物の行動の生物学的意義

生物学実験

■講義概要

生命活動は生物の示す多様な形態と機能の上に成り立っている。それがどのようにして維持されているのかについては、形態学、細胞学、発生学、生理学、生化学、遺伝学、生態学などの視点から研究されている。本実験では、適切な材料を選び、種々な生物学的な研究方法を用いて、生物の示す生活活動の諸相について調べる。

■到達目標

多分野にわたるこの実験を通し、生物体の構造の多様なこと、変異に富むこと、生物間の相互作用、生育環境に対して示す生物の適応性などについて、基本的なことを学んで欲しい。

■講義方法

実験に先だって、実習の目的・内容・意義・方法を説明したあと、個別・グループで実験する。授業計画の項目によっては、複数回にわたる場合もある。学習内容は天候など諸種の条件で順序が変更されることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

実験に関しては、講義で触れない項目もあるので、実験後、用いた生物や実習に関連した事項について復習してください。

■成績評価の方法

平常点、レポートの提出をもって評価する。

■テキスト

実験開始前に資料を用意し配布する。

■参考文献

必要に応じ、資料は用意する。

■履修上の注意・担当者からの一言

生物学の実験では、どうしても生きているものの生命を奪わねばならないことがある。実験を通して、生物学の知識、研究の手段や技術を学ぶ以上に、命の尊厳、生きているということの意義に深く思いをいたし、真面目に実験に取り組んで欲しい。

■講義計画

- ①実験開始にあたって、顕微鏡の使用法
- ②魚種と生息数調査1：捕獲と標識
- ③魚種と生息数調査2：再捕獲
- ④魚種と生息数調査3：データーの整理
- ⑤野外観察：里山の植相調査
- ⑥植物の気孔の観察と気孔数の調査
- ⑦原形質分離と浸透圧の測定
- ⑧色素細胞の観察
- ⑨生体反応の温度依存性
- ⑩比較形態学1：マウスの解剖
- ⑪比較形態学2：アメリカザリガニの解剖
- ⑫制限酵素によるDNAの切断とアガロースゲル電気泳動法による分離
- ⑬体細胞分裂の観察
- ⑭唾液腺染色体の観察
- ⑮植物維管束系の観察

総合実習

【担当】伊藤 勝重、越智 勝也、竹内 真作、平山 義隼、吉見 毅彦
【開講】前期 集中

■講義概要

理工学部各学科の講義・演習・実験・実習等を通じて培っている知識を背景として、社会人としての実務を遂行する能力を養成するために総合的な実習を行う。

総合実習は夏期休暇中の約3週間に実施され、実習期間中および終了後に報告書の提出、報告会への参加が義務づけられている。また、総合実習に関する説明会および事前学習が義務づけられている。

■到達目標

総合学習に参加することにより、将来、研究・開発・生産現場等での実務を遂行するための能力および社会の構成員としての責任ある態度の養成という観点から、大学における勉学の意義を知り、将来の学修に役立てることおよび社会的訓練と人格の向上に役立てることを目的としている。

■講義方法

原則として、総合実習に関する説明会および事前学習の受講が義務づけられている。さらに、学内あるいは学外で総合的な実習を行う。実習終了後の実習報告会への参加も義務づけられている。

■授業時間外における予・復習等の指示

オリエンテーションに必ず出席すること。実習担当者とコミュニケーションをとりながら積極的に予習・復習を行うこと。

■成績評価の方法

実習態度、実習期間中および終了後に提出が義務づけられている報告書、および学修報告会への出席等により総合的に可否を判定する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

卒業の認定を受けるには、「学外実習」か本科目「総合実習」のいずれかの単位を修得しなければなりません。将来、実社会で実務を遂行するための能力および社会人としての責任ある態度の養成が目的であることを理解し、学生として積極的かつ責任ある態度をとること。なお、予定は状況により変更となる場合があるので、掲示には十分注意すること。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②事前学習（ビジネスマナー講習会など）
- ③総合実習実施
（報告書はほぼ毎日提出、中間報告会も適宜実施）
- ④総合実習報告会

地域環境概論

【担当】竺 文彦、遊磨 正秀
【開講】前期 木2

■講義概要

一定の地域における汚濁発生源が水域に流入し、あるいは、廃棄物となって、地域の環境レベルを決定していく。生物においては、これらの無機的環境の中において、動物、植物が、生態系を構成し、総合的な環境が形成されている。これらの地域における無機的環境、生物的環境について述べる。たとえば、琵琶湖においては、流域の様々な汚濁物質、汚染物質が河川を通じて湖に流入し、琵琶湖の水質を形成していくため、陸域の汚濁源が問題となる。これらの琵琶湖に関連する環境を中心に解説していく。

■到達目標

学習・教育目標：B1 (◎), A (○)

地域における物理・化学的、生物的環境について基礎的な理解をする。

■講義方法

パワーポイント、プリント等を用いて講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容に関連する新聞記事、雑誌記事、ウェブニュースを熟読し、その内容について日常を通じて理解を深める努力をする。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 受講状況等による
定期試験 (80%)

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①地域環境とは何か
- ②流域における水質汚濁源
- ③湖への汚濁源流入プロセス
- ④琵琶湖の水質変化
- ⑤湖内での水質形成プロセス
- ⑥地域での有機物発生源
- ⑦廃棄物処理・循環プロセス
- ⑧流域における水環境の縦断方向の連続性
- ⑨流域における水環境の横断方向の連続性
- ⑩流域における生物多様性（河川）
- ⑪流域における生物多様性（湖沼）
- ⑫流域における水環境の連続性と栄養塩回帰
- ⑬流域における水資源開発（水道用水）
- ⑭流域における水資源開発（農業用水）
- ⑮地域環境を科学する

地学概論Ⅰ

【担当】桑原 希世子

【開講】前期 月3

■講義概要

人間や社会に歴史があるように、自然界にも長い歴史がある。地学の中でも特に自然界を歴史科学的観点から理解しようとする分野がある。自然史学・古生物学・地史学などの分野がこれに相当する。この講義では原始地球から現在までの自然史を、主に生物進化の跡をたどって概観する。

■到達目標

学習・教育目標：D1（◎）

自然の歴史を概観することで、現在の地球環境をグローバルな視点で考える能力を身につける。
そして人類の産業活動と今後の地球環境保全について、洞察力を高めることを目的とする。

■講義方法

ビデオ教材、パワーポイントを使用して進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

今回の授業部分については、専門用語を調べておくこと。
授業後にノートを見直し、わからなかった点があれば調べ、復習すること。

■成績評価の方法

定期試験（100％）点数を評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

川上紳一・東條文治 『地球史がよくわかる本』 秀和システム 1,900円
丸山茂徳・磯崎行雄 『生命と地球の歴史』 岩波書店 660円
木庭元晴 『宇宙 地球 地震と火山』 古今書院 2,600円
小出良幸 『早わかり地球と宇宙』 日本実業出版社 1,400円
大谷栄治・掛川武 『地球・生命 その起源と進化』 共立出版 2,200円

J.L.パウエル 『白亜紀に夜がくる』 青土社 2,800円

池谷仙之・北里洋 『地球生物学』 東京大学出版会 3,000円

■講義計画

- ①講義概要の紹介
- ②編年と相対年代
- ③数値年代、古環境の復元方法
- ④太陽系と地球地球形成のシナリオ
- ⑤生命の誕生、光合成生物の活動が大気組成を変化させた
- ⑥スノーボールアース仮説、カンブリア大爆発：多様な動物の爆発的進化
- ⑦オゾン層の形成と植物・動物の陸上への進出
- ⑧パンゲア大陸の分裂と生物大量絶滅
- ⑨恐竜の繁栄
- ⑩白亜紀の温室地球、石油の形成
- ⑪中生代／新生代の境界の絶滅のシナリオ
- ⑫ほ乳類の繁栄
- ⑬周期的気候変動とミランコビッチサイクル
- ⑭人類はどのように進化してきたのか
- ⑮地球環境問題・総まとめ

地学概論Ⅱ

【担当】塩野 清治

【開講】後期 水2

■サブタイトル

変動する地球

■講義概要

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震の大被害を経験して以降、地震に対する恐怖と防災意識が高まっている。なぜM9.0という超巨大地震が起こったのか。同じような巨大地震が西日本でも起こる危険性はないのか。このような疑問に答えるには、地球の現在と歴史を知る必要がある。この講義では地球の内部構造や誕生してから現在に至る歴史について研究史を交えながら概観したのち、ヴェーゲナーによる大陸移動説がプレートテクトニクスとよばれる、様々な地学現象を総合的に理解するパラダイム（共通認識）へと発展していく歴史的経過をたどる。最後にその観点から西日本に住む我々にとって無視することのできない次の南海地震の危険性について考える。

■到達目標

学習・教育目標：D1（◎）

地球上で発生する様々な地学現象を総合的に理解するための基礎的知識を身につけること。ニュース等で報道される地震や火山などの自然現象を地球の歴史という長期的視点にたって理解・考察できるようになること。

■講義方法

講義内容に関連する資料を配布する。その資料とパワーポイントを使用しながら講義を進める。

■系統的履修

地学概論Ⅰ、地学実験、力学、物理学、数学、化学

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の授業の最後に復習問題を課す。問題の解答をレポート用紙まとめておき、授業中に指定する時期に提出すること。授業中に小レポートの提出を求めることがある。予習が必要

な場合は適宜指示する。

■成績評価の方法

レポート（50％）復習問題のレポートや授業中の小レポート
定期試験（50％）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

毎回復習問題を課すので欠席しないように。授業中、講義に集中している者への迷惑行為（私語、携帯電話、飲食など）は慎むこと。疑問な点があれば授業中に積極的に発言してほしい。

■講義計画

- ①地球の大きさの測定：m単位の起源
- ②地球楕円体とジオイド：標高の基準
- ③大陸と海洋の違い：アイソスタシー
- ④地震波の伝わり方：モホロビッチ不連続面
- ⑤地球の内部構造：低速度層の発見
- ⑥地層の形成順序：地層累重の法則
- ⑦化石による地球の編年：示準化石
- ⑧放射性同位体による年代測定：地球の年齢
- ⑨地球全史：地球の誕生から人類の誕生まで
- ⑩大陸移動説：ウエゲナーの提唱
- ⑪大陸移動説の復活：地球の磁場
- ⑫海洋底拡大説：マントル対流
- ⑬仮説の検証と展開：プレートの運動
- ⑭プレートテクトニクス：プレートの誕生・移動・消滅
- ⑮まとめ：大地震への備え

地学実験

【担当】桑原 希世子、塩野 清治

【開講】前期 水3・水4・水5

■講義概要

地学に関する基礎的な実験のなかから、授業計画に示す課題を取り上げて実施する。実験の前にその内容（意義、理論と方法）を解説し、ついで個別またはグループで実験を行う。室内実験だけでなく野外での平板測量や地質巡検を組み入れているため、天候によっては日程や内容を組み替えることがある。

■到達目標

学習・教育目標：D3、F1（○）

野外実習と室内実験を通じて、地球を理解するため観察法・測定法・実験法の基礎を習得する。

■講義方法

実験項目ごとにプリントを配布し、これを参考にして実験方法を説明する。その後、個別またはグループで実験を行うが、課題⑤～⑫は2班に分けて並行実施する。

■系統的履修

地学概論Ⅰ、地学概論Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示

実験ごとに実験経過・結果・考察などをレポートにして提出する。期限は原則として次の授業開始時とする。そのため、実験終了後はできるだけ早めに、実験経過・結果、ノートやプリントを参照して、レポートを作成しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点（10%）実験態度

レポート（90%）レポートの形式と内容

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

時間内に終了できるように、担当者の説明をよく聞き、実験に集中すること。疑問な点があれば、積極的に質問して、各課題の目的や方法をしっかり理解した上で実験を進めること。授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止（緊急に必要な場合は退席すること）。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②平板測量（1）放射法
- ③平板測量（2）前進法
- ④地形図の読み方
- ⑤岩石・造岩鉱物の肉眼観察
- ⑥化石の肉眼観察
- ⑦偏光顕微鏡による岩石薄片の観察
- ⑧浸液法による鉱物の屈折率の測定
- ⑨Katerの可逆振り子による重力の測定
- ⑩地震波による地球内部の推定（1）地殻
- ⑪地震波による地球内部の推定（2）マントルと核
- ⑫地質図の書き方と読み方
- ⑬学外実習Ⅰ（地質巡検）
- ⑭学外実習Ⅱ（地質巡検）
- ⑮総合討論：気象通報による天気図の作成

地球環境概論

【担当】市川 陽一、宮浦 富保

【開講】後期 火1

■講義概要

近年、地球がどのように変化したかを理解するためには、まず地球の生物圏としての機能を理解し、その機能に人間が影響をもたらす以前はどのようなになっていたかを理解することが必要である。環境の時代を象徴するように、地球環境問題が声高に取り上げられているが、それらが人間の生活にどのように関わっているのか、その因果関係を明確にし、なぜ問題視するかを論述する。人間が引き起こしたさまざまな地球環境問題に取り組み、解決策をさぐるにあたって、まず地球が集積されたシステムとしてどのように機能しているかを基本的に理解することが重要である。

■到達目標

地球における複雑な物理的・生物的環境を把握し、人間活動が地球の機能に対しどのように影響をもたらしているかを理解する。人間による地球環境へのインパクトを評価し、対処するのに必要な基礎的知見を得ることが可能となる。

■講義方法

板書、OHP、あるいはパワーポイントを用いてわかりやすく講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で学んだことを理解するために、ネットや図書館を利用して事例研究を行うとともに、様々な観点から地球環境問題の議論が行われていることを確認し、理解を深めていただきたい。

■成績評価の方法

レポート（30%）

定期試験（70%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①講義の進め方
地球環境とは？
- ②地球の歴史
- ③地球の気候変動
- ④地球の生態系－起源と進化
- ⑤地球の生態系－生物多様性
- ⑥人類の来歴と環境問題
- ⑦生態系に与える人間の影響
- ⑧地球環境の持続可能性
- ⑨環境汚染－陸上
- ⑩環境汚染－大気
- ⑪環境汚染－海洋
- ⑫地球温暖化
- ⑬エネルギーと地球環境
- ⑭環境問題の対策と見通し
- ⑮まとめ

■講義概要

本講座では産業財産権である特許権、実用新案権、意匠権、商標権について概観し、特に、技術者にとって大事な特許権について詳細に学習する。特許に関する手続きはどのようにするか、特許を受けるための要件とは何か、特許書類はどのように読み、書くか、などを実例を見ながら勉強する。特許庁が提供している産業財産権情報、特に特許電子図書館（I P D L）を活用するため、それをアクセスする基本操作から学ぶこととし、I P D Lの操作に関する時間もかなり取っている。本講座を通じて知的財産を身近に感じ、また、知的財産の重要性を感じ取ることも目的としている。

■到達目標

学習・教育目標：C2（○）

産業財産権（特許、実用新案、意匠、商標）の取得、活用についての全体像を理解する。

特許制度について、全体にわたった基礎的な知識を習得する。将来、産業財産権の制度を利用できるよう実用的な知識を習得する。

■講義方法

配布する資料を使って講義をするとともに、インターネットを用いて実例を参照又は調査したり、電子出願ソフトを用いた特許出願書類作成の練習をしたりする。

講義は、各自がインターネットを使用できる教室で行う予定である。また、ゲストスピーカーによる講義もはさむ予定である。

■授業時間外における予・復習等の指示

パソコンの基本的な操作はできるようにしておくこと。

■成績評価の方法

平常点（50%）

レポート（50%）

レポートの課題は、最終講義の2回前の講義時に渡し、最終講義時にレポート提出を受ける予定である。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①知的財産権（産業財産権）とは?特許制度とは?
- ②出願から特許権取得までⅠ（特許出願書類）
- ③出願から特許権取得までⅡ（公報、産業財産権情報）
- ④出願から特許権取得までⅢ（審査請求以降）
- ⑤I P D Lで特許情報にアクセス/演習
- ⑥発明とは?特許になる発明とは?
- ⑦特許を受けることができる者とは?職務発明とは?
- ⑧発明発掘から特許出願まで
- ⑨特許出願書類を書いてみようⅠ（特許請求の範囲）
- ⑩特許出願書類を書いてみようⅡ（明細書他）
- ⑪外国での特許取得 外国の特許情報にアクセス
- ⑫特許以外の産業財産権制度/実用新案・意匠
- ⑬特許以外の産業財産権制度/商標
- ⑭I P D Lで意匠・商標情報にアクセス/演習
- ⑮企業における知的財産権の位置づけ

人間工学

■サブタイトル

製品設計への人間工学的アプローチ

■講義概要

人間工学は、人間をシステムの一要素として扱い、人間の特性を考慮し、人間にとって適切なシステムの設計・改良をめざす工学である。ここでは、生理学・心理学・運動学の立場から人間の諸特性を明確にし、特に生産の場における製品設計・作業設計等に用いられる人間工学的な方法について解説する。これによって人間工学的な観点から設計における問題解決できる能力を養う。

■到達目標

学習・教育目標：D1（○）

人間の生体機能、運動機能に関する基本的な特性を理解でき、設計に応用できる。

機械・電気システムにおいて考慮しなければならない入出力インタフェースの特性を理解し設計に応用できる。

■講義方法

ノート講義を中心に進めますが、適時OHP等で最新事例も紹介します。図を使った説明が多くなりますので可能な限りプリントも用意します。ノートへの記入が負担となるかもしれませんが、整理されたノートを作り上げることで、学習が進むと考えます。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習：次のテーマに応じたキーワードの調べ、授業開始時に指定用紙に記入し提出

■成績評価の方法

平常点（30%）予習課題の提出をもって平常点とします。

レポート（10%）

定期試験（60%）60%の正答率をもって合格とします。

平常点（30点）とレポート（10点）、定期試験（60点）、合計100点満点で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

長町三生 『現代の人間工学』 朝倉書店 3,885円

■履修上の注意・担当者からの一言

解らないことや興味のあることは授業の途中でも質問や意見を発言して下さい。それはきっと他の人も同じように考えているに違いありません。ただ聞いているだけの授業ではなく、授業に積極的に参加して、より興味ある内容となるよう一緒に学んでいきましょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

下記アドレスまでメールしてください

hashi@mec.setsunan.ac.jp

■講義計画

- ①人間工学の定義（歴史的背景、人間工学をとりまく研究分野）
- ②人間の生理的特性と心理的特性（感覚器全般）
- ③人間の生理的特性と心理的特性（色の研究の歴史）
- ④人間の生理的特性と心理的特性（色を感じるメカニズム）
- ⑤人間の生理的特性と心理的特性（視覚と色覚特性）
- ⑥人間の生理的特性と心理的特性（色の表現法）
- ⑦人間の生理的特性と心理的特性（聴覚）
- ⑧生理的機能の測定法（筋電、心拍、呼吸、発汗）
- ⑨心理的機能の測定法（官能検査、アンケート調査）
- ⑩動作分析・動作解析（動作分析）
- ⑪動作分析・動作解析（動作解析）
- ⑫動作分析・動作解析（運動計測）
- ⑬マンマシンシステム（フィードバック、インターフェイスの要素、人間の制御機能）
- ⑭マンマシンインターフェイス（歴史的背景、コミュニケーションと情報の流れ）
- ⑮インターフェイスの最新事例（人工現実感）

■講義概要

物理学実験の目的はつぎの二つである。第1は、実験を通して物理学を理解することである。物理学は、実験による探究と理論的研究とが相補って自然の本質を明らかにする学問である。理論の正否は実験によって検証されねばならない。従って実験のもつ意味はきわめて大である。物理学の基本的で重要な実験を体験することは、自然の構造と法則とを理解する上で欠くことができない。第2の目的は、物理的測定方法を学習することである。現在、物理的な各種の測定装置は自然科学の各分野で広く用いられている。従って物理的な測定装置に慣れることは、理工学のいずれの専門分野に進む学生にとっても重要である。そこで、いくつかの基本的な実験をとりあげ、装置の使用方法、実験結果の評価、レポートの書き方などについて学習する。更に自分の行った実験の結果について皆の前で発表し、プレゼンテーションの訓練を行う。行った実験の理解度について最後にテストを行う。

■到達目標

物理法則を体験的に理解する。物理的現象を測定する機器を正しく用いることができる。理工学分野の実験レポートを的確に書けるようになる。実験結果を人前で要領よく発表することができる。

■講義方法

毎回実験のレポートを提出させる。担当教員と実験助手が全体を見る。実験の直接的な指導はTAが行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

必ず予復習の時間を確保すること。特に実験前に予習を十分行ってください。

■成績評価の方法

平常点 (30%)

レポート (30%)

定期試験 (40%)

提出されたレポート、受講状況や実験態度、発表などの総合点を60%、期末試験を40%の割合で評価する。

■テキスト

龍谷大学理工学部編 『物理実験』

■参考文献

参考資料を配布する。

■履修上の注意・担当者からの一言

実験内容を予習したうえで目的意識を持って実験に臨んでください。実験結果を積極的に吟味することにより物理現象と法則に対する理解を深め、さらにその思考過程で様々な知識の活用方法を会得してください。

■講義計画

- ①ノギスの使用法
- ②サールの装置によるヤング率の測定
- ③ボルタの振り子による重力加速度の測定
- ④弦の振動の実験
- ⑤分光計によるガラスの屈折率の測定
- ⑥レーザーによる回折実験
- ⑦電気抵抗の温度変化
- ⑧熱起電力
- ⑨電子の比電荷の測定
- ⑩オシロスコープの操作とリサージュ図形の観察
- ⑪アナログ回路
- ⑫補充実験及び補充講義
- ⑬レポート・発表指導
- ⑭発表会
- ⑮再発表会

学科固有科目

(情報メディア学科)

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時	ページ
イ	インターネットリテラシー	片岡 章俊／芝 公仁	後期 月 2	147
オ	オートマトン	植村 渉	前期 木 3	147
	応用アルゴリズム	三好 力	後期 月 2	148
	オブジェクト指向プログラミング・演習	新川 芳行	後期 金 3・金 4	148
カ	確率・統計	中野 裕治	後期 火 3	149
	画像計測	川上 肇	後期 火 3	150
キ	基礎数学	片岡 章俊	前期 金 2	150
ケ	形式言語	辰巳 昭治	後期 木 2	151
コ	コラボレーション演習	三好 力／岡田 至弘／片岡 章俊／新川 芳行／曾我 麻佐子／外村 佳伸／野村 竜也／長谷 智弘／藤田 和弘／三浦 雅展／吉見 毅彦／渡邊 靖彦	後期 木 4・木 5	151
	コンピュータビジョンとグラフィックス	岡田 至弘	後期 金 3	152
シ	システム設計論	長谷 智弘	後期 木 2	152
	情報環境論	外村 佳伸	前期 火 4	153
	情報構造と論理	三好 力	後期 金 2	153
	情報産業論	岡田 至弘／片岡 章俊／三好 力	前期 月 3	154
	情報システム演習	外村 佳伸／曾我 麻佐子／片岡 章俊／長谷 智弘／三浦 雅展	前期 月 4・月 5	154
	情報メディア基礎セミナー	岡田 至弘／片岡 章俊／新川 芳行／曾我 麻佐子／外村 佳伸／野村 竜也／長谷 智弘／藤田 和弘／三浦 雅展／三好 力／吉見 毅彦／渡邊 靖彦	前期 金 4	155
ス	数学序論	大竹 真一	前期 水 1	155
	数値計算基礎	中西 徹	後期 金 5	156
	数理計画法	山下 信雄	後期 木 2	156
セ	セミナー	岡田 至弘／片岡 章俊／新川 芳行／曾我麻佐子／外村 佳伸／野村 竜也／長谷 智弘／藤田 和弘／三浦 雅展／三好 力／吉見 毅彦／渡邊 靖彦	前期 金 5	157
	線形代数・演習	野村 竜也／三浦 雅展	前期 木 1・木 2	157
ソ	ソフトウェア開発法	新川 芳行	後期 月 2	158
	ソフトウェア科学演習	新川 芳行／芝 公仁／野村 竜也／三好 力／吉見 毅彦	前期 金 2・金 3	158
	ソフトウェア構成論	新川 芳行	前期 月 2	159
	ソフトコンピューティング	野村 竜也	後期 木 3	159
チ	知的問題解決法	片岡 章俊	後期 火 2	160
テ	データ構造とアルゴリズム・演習	三好 力	前期 火 2・火 3	160
	データベース	曾我 麻佐子	後期 月 3	161
	デジタル信号処理	藤田 和弘	後期 木 3	161
ト	特別研究	全教員	通年 集中	162
ニ	認知科学と人工知能	小堀 聡	後期 火 4	162
ネ	ネットワーク構成論	岡田 至弘	後期 火 2	163
	ネットワークシステム・演習	岡田 至弘／芝 公仁	前期 火 4・火 5	163
ハ	ハードウェア構成論	長谷 智弘	前期 月 2	164
ヒ	微積分・演習	四ッ谷 晶二	後期 木 1・木 4	165
フ	物理学概論	中西 徹	後期 金 3	166
	物理学序論	吉村 輝夫	前期 木 2	166
	プレゼンテーション演習	野口 昌子	前期 月 1	167
	プレゼンテーション演習	野口 昌子	前期 月 2	168
	プログラミング基礎	吉見 毅彦	後期 月 4	169
	プログラミング言語論	吉見 毅彦	前期 月 3	169
マ	プログラミング入門	渡邊 靖彦	前期 月 4	170
	マルチメディアシステム	片岡 章俊／外村 佳伸／藤田 和弘	前期 木 2	170
メ	メディア工学演習	岡田 至弘／藤田 和弘／渡邊 靖彦	前期 木 4・木 5	171
	メディア構成論	藤田 和弘	前期 月 1	171
	メディア処理論	渡邊 靖彦	後期 火 4	172
	メディアデザイン	曾我 麻佐子	前期 金 3	172
	メディアの物理と解析	三浦 雅展	前期 金 3	173

■講義概要

前半は、インターネットの概要を学ぶ。次に、TCP/IPというプロトコルをベースにインターネットを実現する仕組みを学習する。さらに、その仕組みを踏まえたセキュリティについて習得する。後半は、自分自身でホームページを演習形式で実際に作ってみる。

■到達目標

インターネットの基礎知識を習得することができる。

■講義方法

テキスト及び適時プリントを用いて講義する。また、Webサイト作成のための演習を実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業時に復習事項および次回授業の範囲と予習ポイントを指示する。

■成績評価の方法

平常点 (10%)
定期試験 (50%)
その他 (40%)
定期試験 (50点) に授業中に行う演習の成果 (40点) と、平常点 (10点) を加味して評価します。

■テキスト

松山公保著 『基礎からわかるTCP/IP ネットワークコンピュータ入門』 オーム社 2,200円
必要に応じてプリントを配布する

■参考文献

後藤 滋樹 『インターネット工学』 電子情報通信学会 2,800円
竹下田隆史 『マスタリングTCP/IP 入門編』 オーム社 2,200円

■講義計画

- ①インターネットとは
- ②インターネット上の主なサービス
- ③通信プロトコル、OSI参照モデル
- ④TCP/IPプロトコルの機能
- ⑤IPアドレスとルーティングの仕組み
- ⑥インターネット・セキュリティの基礎
- ⑦Webサイトを作ろう (1) (演習: Webの活用)
- ⑧Webサイトを作ろう (2) (演習: サイトの設計)
- ⑨Webサイトを作ろう (3) (演習: 配色設定)
- ⑩Webサイトを作ろう (4) (演習: JavaScript)
- ⑪Webサイトを作ろう (5) (演習: Apache)
- ⑫Webサイトを作ろう (6) (演習: Webサイト完成)
- ⑬Webサイトを作ろう (7) (演習: レポート作成)
- ⑭ウイルスとセキュリティ対策
- ⑮まとめ

オートマトン

■講義概要

オートマトン (Automaton) とは計算機システムの動作原理をシンプルに数学的に表記したものである。本科目では「オートマトンとはどのようなものか」から始めて、その数学的表現、基本的諸性質を具体例を通して説明する。さらに記号列の集合を定義する生成文法との関連について説明する。

■到達目標

状態遷移図が理解でき、言語とオートマトンの関係、決定性と非決定性の動作の関係等を理解すること。

■講義方法

基本的に教科書に従って進める。演習問題に関してはレポートとする。

■系統的履修

コンパイラと形式言語 (形式言語)

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書をしっかりと読んでくること。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)
期末のテストで評価する。

■テキスト

富田悦次／横森貴 『オートマトン・言語理論 (基礎情報工学シリーズ5)』 森北出版株式会社

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①オートマトン、形式言語
- ②形式言語の最小構成要素
- ③ド・モルガン則
- ④順序機械
- ⑤状態遷移
- ⑥オートマトンの等価性
- ⑦非決定性有限オートマトン
- ⑧部分集合構成法
- ⑨ ϵ -動作をもつ非決定性有限オートマトン
- ⑩言語演算
- ⑪正則・正規表現
- ⑫有限オートマトンと正規表現の変換
- ⑬演習問題
- ⑭非正規言語
- ⑮演習問題の解説

■講義概要

前半は情報系学生にとって重要な離散数学の基礎的概念を修得するとともに、論理的に考察するトレーニングを行う。後半はソフトウェア科学の応用発展を支える形式言語の応用であるオートマトンとチューリングマシンの基礎を学習する。

■到達目標

この科目を履修することによって、離散数学の基礎を学習し、論理的思考法、論理的表現法、論理的構成法を修得するとともに、オートマトンとチューリングマシンの基礎的概念を理解することを目標とする。

■講義方法

テキストにそった講義形式。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストにそった講義であるので、予め予告している次の学習範囲を最低1回はテキストを読んで確認すること。また、レポート課題の範囲にとらわれず、学習した項目を広く復習すること。

■成績評価の方法

レポート (30%)
定期試験 (70%)

■テキスト

小倉久和 『情報の基礎離散数学』 近代科学社
米田政明 『オートマトン・言語理論の基礎』 近代科学社

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

数学的なセンス・イメージの獲得を講義に出席するだけで達成することは非常に困難である。この科目はテキストにそって学習を行うので、事前に内容の予習を行い、理解が困難で

ある点を明確化して講義に臨み、講義後は復習としてできるだけたくさんの演習問題に取り組む必要がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

原則として木曜日昼休みとするが、在室時にはできる限り対応する。

■講義計画

- ①オリエンテーション,形式言語の代数
- ②正規表現、数式と構文木
- ③順序集合
- ④順序集合と束
- ⑤ブール関数とブール形式
- ⑥単純化、カルノー図表、クワインマクスキー法
- ⑦ブール演算と論理ゲート
- ⑧パリティ、ハミング符号
- ⑨しきい値回路、半加算器、全加算器、フリップフロップ
- ⑩ブール代数の基本性質
- ⑪有限ブール代数
- ⑫オートマトンとは、有限オートマトン
- ⑬状態遷移図、最簡形、識別できない言語
- ⑭チューリング機械
- ⑮復習とまとめ

オブジェクト指向プログラミング・演習

■サブタイトル

JAVAによるオブジェクト指向プログラミング

■講義概要

オブジェクト指向言語の一つであるJAVAによるプログラミング演習を通じ、i) . オブジェクト指向の概念と利点、ii) . JAVAプログラミング技法、iii) . プログラム設計技法、iv) . JAVA WEBアプリケーション、などを学ぶ。単なるプログラミングだけでなく、ソフトウェアの分析・設計にも焦点を当て、将来さまざまな分野で情報システム開発を行う際の基礎となる技術習得を目指す。なお演習におけるコーディングやテストの負荷を軽減するため、統合開発環境の一つである「Eclipse」を使用する。また、WEBアプリケーションの環境としては、オープンソースのJ2EEサーバーであるTomcatもしくはJBossを使用する予定である。

■到達目標

オブジェクト指向プログラミングの基本概念を理解し、JAVAとその周辺技術を応用した情報システムの設計・管理・運用の基礎を身に付ける。

■講義方法

2コマ連続の授業で、前半を講義、後半を演習に当てる。講義では、オブジェクト指向の基本概念や、JAVAおよびその周辺技術を学び、演習でその実装方法を修得する。演習は、Javaの基本機能修得を目的とした、毎回完結の小課題と、期間を通じて完成させる大課題よりなる。

■授業時間外における予・復習等の指示

課題は演習室解放時間を有効に活用し、期限内に提出できるようにすること。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 毎回の演習課題の達成度により評価
定期試験 (60%) オブジェクト指向の概念およびJava言語の理解度を評価

■テキスト

毎回プリントを配布

■参考文献

ジョゼフ・オニール 『独習Java 第4版』 翔泳社 3,360円

■講義計画

- ①Javaの特徴と基本ルール
- ②Javaの制御ステートメント
- ③クラスとメソッド
- ④継承 (Inheritance)
- ⑤インタフェースとパッケージ
- ⑥GUIとイベント処理-1 (GUI基本コンポーネント)
- ⑦GUIとイベント処理-2 (イベント処理の応用)
- ⑧マルチスレッドプログラミング
- ⑨Javaクラスライブラリ
- ⑩入出力とネットワーク
- ⑪サーバーサイドJava-1 (HTML、CSS、JavaScript)
- ⑫サーバーサイドJava-2 (サーブレット)
- ⑬サーバーサイドJava-3 (JSP)
- ⑭データベース処理1 (JDBCの基礎)
- ⑮データベース処理2 (高度な照会)

■サブタイトル

データの整理と推定・検定

■講義概要

統計学は「自然現象から得られた量的情報の科学的研究」と定義され、現在では科学の文法と言われています。集団としてのデータが与えられたところから、統計学は出発します。私たちの目的は、データを生み出した背後の構造を推論することにあります。分析される対象は、不確实现象といわれるもので、与えられた情報を基にしたとき、に起こりうるステップを完全には予測できない現象です。不確实现象の分析のための方法として、確率論が知られており、この講義でその基礎を学びます。授業ではまず、与えられたデータのまとめ方から学び、平均値や分散などの代表的な統計値を計算することからはじめます。次に、二項分布や正規分布などの確率分布を学びます。その過程で、統計的推定、検定の基本的な考えを具体例をもとに計算していきます。

■到達目標

1. データが与えられたときに、確率モデルを作成できるようになる。
2. 与えられたデータの適切なグラフや統計図、統計表が作成できるようになる。
3. 正規分布などの確率分布を理解し、基本的な推定や検定の原理を理解し、実際に応用できるようになる。

■講義方法

教科書「政策研究のための統計分析」の記述に沿って授業を進めます。授業方法は、要点となる概念や教科書では省略されている計算を補いつつ、必要に応じてExcel や Mathematica の作図を power point で表示しながら、板書によりすすめます。理解度を深めるために、教科書の問題を解く時間を設定します。

■系統的履修

初等的な微積分、Excel などの計算ソフト

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で与えられた演習問題を、解いて理解してください。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 小テストで判定

定期試験 (80%) 試験は80点満点

授業中に数回の小テストをします。これは、平常点評価の資料にします。試験 (90分) は、卓上計算機および自筆ノート、教科書の持ち込みを可にします。

■テキスト

浅野耕太 『政策研究のための統計解析』 ミネルヴァ書房
3,500円

教科書、統計学の考え方を言葉でやさしく解説している。ここに書かれていることを学ぶことで、誰もが初等確率論と応用としての統計学を理解し、計算ができるようになると信じます。

■参考文献

P.G.ホーエル 『初等統計学』 倍風館 1,733円

岡部靖憲 『確率・統計』 朝倉書店 2,800円

ホーエルの本はロングセラーの定評ある本。「確率・統計」は、確率論の原理を根本から説明している優れた本。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中に使う数学は、必要最小限説明します。教科書は必ず持参して下さい。教科書のデータや、数表を利用するため。卓上計算機も持参が望ましい。気楽に質問して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問等は、y-nakano@biwako.shiga-u.ac.jp へメール下さい。

■講義計画

- ①記述統計学
- ②確率の考え方
- ③ベイズの公式
- ④仮説検定
- ⑤確率変数
- ⑥期待値
- ⑦大数の法則
- ⑧連続確率変数
- ⑨中心極限定理
- ⑩標本
- ⑪信頼区間
- ⑫スチューデントの t 分布
- ⑬2 標本 t 検定
- ⑭相関係数
- ⑮回帰関係

画像計測

【担当】川上 肇

【開講】後期 火3

■サブタイトル

多次元信号処理

■講義概要

TVカメラを備えたスマートフォンや情報端末などが世界中で急速に普及しつつある。TVカメラに写る画像を解析して被写体を計測し、その結果を活用した有益なアプリケーション（AR：拡張現実など）・情報（CT：体の断層像など）が私たちの日常生活をより豊かで安心・安全・快適なものにしている。たとえば、TVカメラを構成する2次元の撮像面上に静止画像が写っているとき、撮像面上の2次元位置を指定すると、その位置での色や明るさが定まる。このように、2次元以上の位置を指定して値が定まる信号を多次元信号と考えよう。位置の捉え方を拡張すれば、多次元信号として表現し得る概念はこの例以外にもいたるところに現れる（例：電界・磁界、拍動数・脳波などの生体情報、株価などの経済・経営指標など）。これらの実例となる画像を用いた処理に関する要素技術とそれらに基づく計測法について学ぶ。

■到達目標

画像計測に関する基本知識・応用技術の獲得を目指す。

■講義方法

参考書・配付資料の関連した項目に依拠し、通常の方法で講義・演習を行う。

■系統的履修

1年次の数学、通信基礎、情報理論基礎、フーリエ解析、計測と信号処理、デジタル信号処理・演習

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で学んだ処理を復習し、特に簡単な処理は計算機で実行してください。

■成績評価の方法

平常点（10%）配付する選択問題への取り組み姿勢

レポート（10%）与えられた課題に対する取り組み姿勢
定期試験（80%）

■テキスト

特になし

■参考文献

デジタル画像処理編集委員会 『デジタル画像処理』（財）画像情報教育振興協会

■履修上の注意・担当者からの一言

講義で学んだ数式・定理の導出過程と定性的な意味を理解してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーを居室（1-403）前に掲示しています。また連絡箱を居室（1-403）前に設置しています。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②画像入出力
- ③画像生成モデル
- ④数学的基礎：空間周波数解析
- ⑤数学的基礎：2次元フーリエ変換
- ⑥周波数領域におけるフィルタリング
- ⑦空間フィルタ
- ⑧画像の復元
- ⑨画像の再構成
- ⑩領域処理
- ⑪画像からのパターンと図形の検出
- ⑫移動物体検出
- ⑬空間情報の取得
- ⑭形状復元
- ⑮応用

基礎数学

【担当】片岡 章俊

【開講】前期 金2

■講義概要

情報分野の技術を取得するため基礎となる2進数、ベクトル表記、確立・統計、情報量およびエントロピーの考え方と、情報通信に必要な各種符号化方法と情報セキュリティについて学ぶ。

■到達目標

情報通信と信号処理を理解するための数学的な素養として、情報表現、信号表現方法を身につけることができる。

■講義方法

テキストと板書によって講義する。理解の定着を図るため、進捗に応じて数回演習を行う。また、必要に応じて、レポートを課す。

■系統的履修

数学序論

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業時に復習事項および次回授業の範囲と予習ポイントを指示する。

■成績評価の方法

平常点（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）
定期試験（50点）と、中間試験（30点）及び、授業中に行う演習と平常点（20点）を加味して評価します。

■テキスト

『わかりやすいデジタル情報理論』 オーム社 2,300円

■参考文献

『やり直しのための工業数学』 CQ出版社 2,095円

■講義計画

- ①本講義の意義、学習方法について、2進数の基礎
- ②2進数への変換（小数、補数表現）
- ③確率の基礎、演習
- ④条件付き確率
- ⑤ベクトル表記、内積
- ⑥情報量とは
- ⑦平均情報量とエントロピー、演習
- ⑧中間試験
- ⑨情報量と通信路
- ⑩符号化の基礎知識
- ⑪高能率の符号化、演習
- ⑫雑音のある場合の符号化
- ⑬誤り訂正のできる符号化
- ⑭暗号による情報セキュリティ、演習
- ⑮まとめ

■講義概要

コンパイラはフォートラン、C言語などの高級言語で書かれたプログラムを計算機が実行しうる機械語に変換するものである。ソフトウェア作成には、経験と勘にたよることが多いが、コンパイラは形式言語理論を基礎として構築されている。また、計算機の仕組みを反映した機械語と密接な関係を持つ。以下のような内容について概説していく。まず、コンパイラの定義とその実現方法を説明する。つぎに、コンパイラの働きの概要を理解するために、後置記法とスタックについて説明する。高級言語を生成するための言語理論について説明し、言語の構文の定義する記述方法について述べる。コンパイラの最初に行う字句解析について述べる。字句の定義は、正規表現で表現され、正規表現を処理する有限オートマトンの作成する方法を述べる。コンパイラの中心的役割を担う構文解析について、その理論と再帰的下向き構文解析プログラムを生成する方法について述べる。さらに、意味解析を説明し、意味解析で重要な役割を果たす記号表の作成とその探索法についてもべる。最後に、目的マシンをスタックマシンとして仮想し、高級言語から機械語に変換するまでの流れについて説明する。

■到達目標

字句解析法と構文解析法を理解する。コンパイラの基礎となっている形式言語、特に、正規文法と文脈自由文法の知識を習得する。

最後に、コンパイラの構成の流れを把握すること。

■講義方法

3回～4回の講義の後、小テストを実施し、理解不足の場合は、レポートを提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示

小テストを実施するので、それまでの講義内容を理解するために復習が必要である。もし、小テストが理解不十分の場合は、レポートの提出が求められる。

■成績評価の方法

小テスト (40%)
レポート (10%)
定期試験 (50%)

■テキスト

中田育男 『コンパイラ』 オーム社 3,200円

■参考文献

佐々政孝 『プログラミング言語処理系』 岩波書店

■講義計画

- ①コンパイラとは
- ②後置記法
- ③スタック
- ④簡単なコンパイラの例
- ⑤コンパイラの論理構造
- ⑥バックス記法と構文図式
- ⑦文法と言語の形式的定義
- ⑧字句解析、文字読み取り、字句読み取り
- ⑨正規表現と有限オートマトン
- ⑩字句読み取りプログラム
- ⑪種々な構文解析手法
- ⑫LL (1) 文法
- ⑬再帰的下向き構文解析プログラム
- ⑭意味解析、記号表の探索
- ⑮仮想マシンと通訳系

コラボレーション演習 【担当】三好 力、岡田 至弘、片岡 章俊、新川 芳行、曾我 麻佐子、外村 佳伸、野村 竜也、長谷 智弘、藤田 和弘、三浦 雅展、吉見 毅彦、渡邊 靖彦

【開講】後期 木4・木5

■講義概要

メディア工学、情報システム、ソフトウェア科学について学んだ基礎知識と処理技術をグループで共有し、協調して問題を解決することを目的としてテーマ別に演習を行う。

本演習では、与えられたテーマを単に解く能力ではなく、問題解決を行うための問題分析能力および解決能力を、プログラミング、信号測定、機器の組み立てなどを通して修得する。

また、グループ内での情報の共有やコミュニケーションを活性化する方法や、グループによる協調作業についても演習を通じて学ぶ。問題解決のための手順や結果を報告書にまとめた上で発表を行うことにより、「文書作成能力」および「プレゼンテーション能力」を高めていく。

また、メディア工学、情報システム、ソフトウェア科学についての知識をもとに、博物館におけるマルチメディア技術の利用について、龍谷ミュージアムにて実地の調査を行う。

■到達目標

問題分析能力、コミュニケーション能力、解決能力、文書作成能力、およびプレゼンテーション能力などを身につけることができる。

4年次に取り組むことになる卒業研究や卒業後の就職先で求められる能力を総合的に高めることができる。

■講義方法

各自に与えられた課題を定められた時間内に完成させる。

課題は3～4個用意されている。

それぞれの課題完成後には、プレゼンテーションを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

各教員からの授業中の指示による。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
レポート (30%)

その他 (40%) 最終成果

出席状況、課題達成度、報告書の内容、プレゼンテーションの内容を総合的に判断する。

■テキスト

電子データもしくはプリント配布

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

課題の実現のためには、チームワークが必須となる。そのためには、目標をメンバー全員が共有するとともに、各人の役割を確実に果たしていくことが重要であることを認識し、積極的かつ着実に取り組む姿勢が求められる。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②演習 (1)
- ③演習 (2)
- ④演習 (3)
- ⑤演習 (4)
- ⑥演習 (5)
- ⑦演習 (6)
- ⑧中間発表
- ⑨演習 (7)
- ⑩演習 (8)
- ⑪演習 (9)
- ⑫演習 (10)
- ⑬演習 (11)
- ⑭龍谷ミュージアムの見学および博物館におけるマルチメディア技術の利用についての実地調査
- ⑮最終発表

コンピュータビジョンとグラフィックス

【担当】岡田 至弘

【開講】後期 金3

■サブタイトル

人間の視知覚処理と、機械によるメディア生成の融合

■講義概要

映像、画像の処理、認識、理解の基礎を学び、コンピュータと人間相互の情報・メディア・知識のインタラクションについて講義していく。ここではコンピュータビジョンの基礎から、カラー情報の表現と解析、コンピュータビジョンにおける計算幾何学の理解から、3次元CGの基礎とその概念を説明し、近年のコンピュータビジョンの融合研究と技術について講義していく。

■到達目標

コンピュータビジョンの基礎と、CVと3次元CGとの融合による新たなメディア表現手法を会得する。

■講義方法

講義内容を記したプリントを配布し、適宜コンピュータを用いた演習を行う。授業は、コンピュータビジョンについての講述する前半部と、グラフィックスについての講述とコンピュータを用いた演習を併用する後半部とに分けて進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に配布される資料を用い、予習・復習を毎週行い、講義中に指示されたWebページ、文献、問題の読了を行うこと。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

レポート (30%) 1 ないし 2 回の課題呈示に対応したレポート提出

定期試験 (50%)

毎回出席することを前提とし、不定期のコンピュータ演習およびレポート (30%)、定期試験 (50%) と総合して評価する。

■テキスト

千葉則茂、土井章男 『3次元CGの基礎と応用』 サイエンス社 1,850円

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義終了時から、午後5:30まで

■講義計画

- ①コンピュータビジョンのための画像センサ (画像入力、カメラモデル)
- ②コンピュータによる画像領域分割 (映像・画像処理アルゴリズム)
- ③カラー情報の表現 (表色系、色校正、光源)
- ④反射モデル (モデル表現、カラーコンスタンシー)
- ⑤テクスチャ解析法 (射影モデル、計算幾何学)
- ⑥明るさ解析法 (光源、環境、反射モデル)
- ⑦両眼立体視 (対応探索、多重画像解析)
- ⑧記述と照合 (領域記述、体積記述、幾何モデル)
- ⑨コンピュータビジョンと動画像符号化 (階層画像符号化、伝送手順)
- ⑩映像・画像の知的編集と生成
- ⑪コンピュータビジョンと3次元CG技術
- ⑫3次元座標と幾何変換
- ⑬座標変換と投影変換
- ⑭3次元形状モデリング
- ⑮レンダリング技法

システム設計論

【担当】長谷 智弘

【開講】後期 木2

■講義概要

本講義では、コンピュータシステムにおけるハードウェアおよびソフトウェア、さらにその組み合わせを学び、その基本的な設計手順やシステム構成方式について学習する。最初に、コンピュータシステムの基本理論を復習した後に、コンピュータシステムの設計・開発・運用について習得し、さらにコンピュータシステムの応用技術を学習する。次に、コンピュータシステムに密接に関係する情報家電分野の技術と機器について学習する。

■到達目標

コンピュータシステムと情報家電分野の技術と機器について一通りの知識が得られる。

■講義方法

テキストを用いて講義する。また、必要に応じて、演習を実施する。

■系統的履修

ハードウェア構成論

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

■テキスト

福嶋宏訓著 『初めて受ける応用情報技術者』 日本経済新聞社 2,580円

家電製品協会 『AV情報家電のプロダクツ技術』 NHK出版 1,900円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①コンピュータ科学基礎
- ②コンピュータシステム
- ③基本ソフトウェア
- ④システム構成技術 (1) ウォータフローモデル、基本計画
- ⑤システム構成技術 (2) スパイラルモデル、プロトタイプモデル
- ⑥システム構成技術 (3) 外部設計・内部設計
- ⑦システム構成技術 (4) プログラム設計
- ⑧システムの開発と運用 (1) 動作テスト・運営
- ⑨システムの開発と運用 (2) 仕様書
- ⑩システムの開発と運用 (3) まとめ
- ⑪ネットワーク技術
- ⑫データベース技術
- ⑬セキュリティ
- ⑭標準化
- ⑮まとめ

■サブタイトル

情報環境の今を知り、未来を考える

■講義概要

さまざまな情報機器、またその背後にあるインターネットなどの情報環境は、今や私たちの生活の場をはじめ社会の隅々にまで広がっており、その果たす役割や影響は非常に大きい。本講義では、こうした情報環境に対して、技術的な観点のみならず、人間、社会、文化等、多様な視点から考察することにより、現状に関する理解を深めるのみならず、内包する課題、今後の可能性、さらに私たちはどのように向き合っていくべきかなどについても幅広く考えていく。

■到達目標

- ・身の回りにある情報環境について、問題意識を持って気付いて考える習慣が身につく
- ・情報環境と社会の関係について多様な見方をする素地が養われる
- ・情報社会にあって、どのようにふるまうべきかについて自分なりの考えを持つことができる

■講義方法

- ・主としてパワーポイントを用いた講義形式で進めるが、授業途中で何度か質問を投げかける

■系統的履修

特になし

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回、講義の最後に提示する小課題を次の回の講義までに考えておくこと
(次の講義の冒頭で毎回提出用のシートに記入)

■成績評価の方法

平常点 (40%) 授業で毎回提出のシートを中心に見る
レポート (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言

複雑化・高度化しつつある現代社会が技術人材に求めていることに、広い視野からの問題発見力と提案力がある。こうした背景を念頭に、本講義では、物事に対し自分自身で問題意識を持って考える習慣を持つことをめざすため、毎回の講義で取り上げる内容、投げかける質問や課題に対して、自分なりに積極的に考えることを求める。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問等は授業直後に

■講義計画

- ①情報環境論基礎
- ②インタフェース：基本編
- ③インタフェース：技術編
- ④コミュニケーション環境
- ⑤ロボット環境
- ⑥ユビキタス情報環境
- ⑦人間と情報環境
- ⑧生物に学ぶ
- ⑨メディア論
- ⑩文化・生活・遊び・アート
- ⑪ビジネス・サービス
- ⑫安心・安全論
- ⑬情報環境と社会秩序
- ⑭最近のトピック
- ⑮まとめ

情報構造と論理

■講義概要

情報処理技術において、計算機のハードウェアとソフトウェアの両方の分野にとって基本的な概念の一つに離散数学がある。この概念は、論理回路、デジタル信号処理、コンパイラ、アルゴリズム、プログラミング言語などの設計・開発を行うために必要な、情報系学生にとって重要な概念である。この講義では、離散数学の基礎的概念を修得するとともに、論理的に考察するトレーニングを行う。

■到達目標

この科目を履修することによって、離散数学の基礎を学習するとともに、プログラムやシステムの開発に不可欠な論理的思考法、論理的表現法、論理的構成法を修得することを目標とする。

■講義方法

テキストにそった講義形式。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストにそった講義であるので、予め予告している次の学習範囲を最低1回はテキストを読んで確認すること。また、レポート課題の範囲にとらわれず、学習した項目を広く復習すること。

■成績評価の方法

レポート (30%)
定期試験 (70%)

■テキスト

小倉久和 『情報の基礎離散数学』 近代科学社

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

数学的なセンス・イメージの獲得を講義に出席するだけで達成することは非常に困難である。この科目はテキストにそって学習を行うので、事前に内容の予習を行い、理解が困難である点を明確化して講義に臨み、講義後は復習としてできるだけたくさんの演習問題に取り組む必要がある。この科目で使用しているテキストには演習問題が豊富に含まれている。論理的思考法や論理的表現法をより深く理解するためにも、講義で取り上げなかった演習問題についても各自で取り組むことができる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

原則として木曜日昼休みとするが、在室時にはできる限り対応する。

■講義計画

- ①オリエンテーション、集合
- ②論理と集合
- ③直積、写像
- ④関数表、写像の合成、置換、無限集合
- ⑤帰納法、フローチャート、ユークリッドの互除法
- ⑥アルゴリズムとフローチャート
- ⑦関係の合成と関係行列の和積
- ⑧同値関係、同値類
- ⑨離散グラフ、隣接行列
- ⑩グラフ理論、オイラーグラフ
- ⑪根付き木、探索木
- ⑫順序木、リスト
- ⑬演算と代数系、単位元、逆元
- ⑭半群と群、環と体
- ⑮復習とまとめ

■サブタイトル

情報メディア技術と情報産業の実際と動向

■講義概要

情報メディアの本質は、サービスの提供である。情報産業は、単に情報機器製造業だけでなく、広く情報システムサービス提供業、メディア産業を含んでいる。本講義では、学業で学んだ基本的な技術や技法が、これらの実際のシステムやサービスでどのように使われているのか、現場から見た課題は何か、今後の展開の方向は何かを実地に学び、学生の勉学に動機を与えることを目的とする。このため、情報産業を概観する講義とともに、広く情報産業界の第一線の方々に講師に招き講義する。

■到達目標

具体的な情報産業の事例に基づいて、種々の分野における情報メディアシステムの実際を習得させる。

■講義方法

情報産業全体の概論・総説と、情報産業を、メディア産業、情報システム産業、ソフトウェア産業に大別し、各産業分野を代表する講師による特別講義を行う。また、行政・学会における情報産業の最新の施策・提言についても言及する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義開始の2・3週前に講義予定を通知する。毎回の講義前に分野研究・調査を行い、講義時間中の積極的な質疑応答に臨むこと。

■成績評価の方法

平常点 (40%)

レポート (60%)

■テキスト

各講師の資料配布。OHP・OHCおよびDVD・VHS等メディアを使用

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

就職・進学における進路の決定、および卒業研究に対する自己のアイデンティティの涵養。
情報の専門家として、今後の自分の進路に対して、ワンポイントを掴んでほしい。

■講義計画

①講義概説

②産業界からの特別講義

情報システム演習

【担当】外村 佳伸、曾我 麻佐子、片岡 章俊、長谷 智弘、
三浦 雅展

【開講】前期 月4・月5

■講義概要

情報システムの設計・構築を行う上で必要となる基礎知識・技術・能力を身につけることを目的として演習を行う。
本演習では、与えられた問題を単に解く能力ではなく、問題解決を行うための問題分析能力および解決能力（プログラミングや機器の組み立て）を実体験を通して習得する。
また、問題解決のための手順や結果を報告書にまとめた上で発表を行うことにより、「文書作成能力」および「プレゼンテーション能力」を高めていく。

■到達目標

問題分析能力、問題解決能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力を身につける。

4年次に取り組むことになる特別研究や卒業後の就職先で求められている能力を総合的に高める。

■講義方法

各自に与えられた課題を定められた時間内に完成させる。
課題は2つのテーマが与えられ、それぞれを6週ずつ行う。
なお、与えられた1つのテーマについてプレゼンテーションを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に適宜指示する

■成績評価の方法

出席状況、課題達成度、報告書の内容、プレゼンテーションの内容を総合的に判断する。

■テキスト

電子データもしくはプリント配布

■参考文献

特になし

■講義計画

①前半ガイダンス・前半演習

②前半演習

③前半演習

④前半演習

⑤前半演習・前半レポート予備提出

⑥前半課題内容のプレゼンテーション

⑦前半レポート提出

⑧後半ガイダンス・後半演習

⑨後半演習

⑩後半演習

⑪後半演習

⑫後半演習

⑬後半演習・後半レポート予備提出

⑭後半課題内容のプレゼンテーション

⑮後半レポート提出、予備日

情報メディア基礎セミナー

【担当】

岡田 至弘、片岡 章俊、新川 芳行、曾我 麻佐子、外村 佳伸、野村 竜也、長谷 智弘、藤田 和弘、三浦 雅展、三好 力、吉見 毅彦、渡邊 靖彦

【開講】前期 金4

■講義概要

前半では、まず、大学における学習や研究の進め方について講義する。次に、学科の教員の研究の紹介をする。これらの目的は、情報メディア学科の4年間で学ぶべきことは何かを自分なりに整理するきっかけを提示することにある。後半では、少人数に分かれて演習をおこなう。この演習の目的は、(1) 研究テーマの設定、(2) 文献等の調査・分析、(3) 自分なりの考察とまとめ、(4) レポートの作成、(5) その内容を発表する、といった大学生として身に付けてほしい研究プロセスを経験することにある。

■到達目標

情報メディア学科の基礎的事項の習得
・情報メディア学科で行われている研究内容を把握している
・情報メディア学科で学ぶ内容を自分なりに整理し、位置づけることができる
・調査・考察・レポート作成・プレゼンテーションの基本を体得している

■講義方法

講義の他、全教員の研究内容の紹介、少人数による演習を実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示

各回の内容に応じて教員から適宜指示する

■成績評価の方法

授業態度、レポート内容、発表・討論などの演習全般に渡って評価に加える。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

情報メディア学科で4年間、動機を持って意欲的に学ぶために重要な科目であると同時に、一緒に学ぶ同級生と協調性を持って課題に取り組む最初の貴重な機会である。情報メディア学科で学ぶ意義を感じながら積極的に取り組むことを望む。

■講義計画

- ①概論（教務委員担当）
大学生入門
大学での学習について
- ②ラボラトリーインターンシップ（#1,#2）
- ③ラボラトリーインターンシップ（#3,#4）
- ④ラボラトリーインターンシップ（#5,#6）
- ⑤ラボラトリーインターンシップ（#7,#8）
- ⑥ラボラトリーインターンシップ（#9,#10）
- ⑦ラボラトリーインターンシップ（#11,#12）
- ⑧ラボラトリーインターンシップ（#13,#14）
- ⑨後半の演習に関するオリエンテーション
- ⑩調査及び分析のテーマ設定及び方針策定
- ⑪調査及び分析結果についての発表と議論
- ⑫調査及び分析結果についての発表と講評、レポートについての説明
- ⑬レポート原案提出及び講評
- ⑭プレ発表及び議論
- ⑮最終発表及び講評、最終レポート提出

学
科
固
有

数学序論

【担当】大竹 真一

【開講】前期 水1

■サブタイトル

微分法

■講義概要

微分積分は情報数学を学んでいくため必要不可欠なものである。その基礎となる微分法について学ぶ。導関数・微分係数・テイラーの定理・偏導関数・偏微分係数といった内容を予定している。代数関数・三角関数・逆三角関数・指数関数・対数関数などの微分法について学び、さらにテイラーの定理・オイラーの公式・偏微分法について、実際に使えるような計算力にも配慮しながら、講義を進める。

講義のほか演習も行い、学力の定着をめざす。

■到達目標

導関数・微分係数・テイラーの定理・オイラーの公式などを習得し、実際に使えるようになる。

■講義方法

講義を基本とするが適宜演習の時間をとる。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習、復習は必ず行うこと。これを前提に講義は進められる。演習、課題なども、積極的に取り組んでいただきたい。

■成績評価の方法

平常点（40%）
定期試験（60%）
期末試験（60点）、課題・小テスト等平常点（40点）をあわせて評価する。

■テキスト

大竹真一著 『＜基礎固め＞数学』 化学同人 1,800円
プリント教材（教室で配付）を併用する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

この科目は随意科目として開講するが、全員受講することが望ましい。

■講義計画

- ①微分係数、導関数の定義：関数の極限、微分係数、導関数
- ②微分の計算公式①：合成関数、逆関数の微分法
- ③微分の計算公式②：三角関数とその導関数
- ④微分の計算公式③：指数関数・対数関数とその導関数
- ⑤微分の計算公式④：逆三角関数とその導関数
- ⑥応用と演習
- ⑦高次導関数、平均値の定理：高次導関数、ロルの定理、平均値の定理
- ⑧テイラーの定理・テイラー展開①：テイラーの定理・マクローリンの定理
- ⑨テイラーの定理・テイラー展開②：テイラー展開・マクローリン展開
- ⑩複素平面・オイラーの公式①：複素平面
- ⑪複素平面・オイラーの公式②：オイラーの公式
- ⑫偏微分係数、偏導関数の定義：偏微分係数・偏導関数
- ⑬偏微分の計算①：偏導関数、偏微分係数の定義
- ⑭偏微分の計算②：偏導関数、偏微分係数の計算
- ⑮まとめと復習

数値計算基礎

【担当】中西 徹

【開講】後期 金5

■サブタイトル

コンピューターシミュレーション

■講義概要

数値解析は、複雑な物理現象のコンピューターシミュレーションに用いられる重要な応用分野である。ここでは、数値解析の基礎概念を講義し、学術的にあるいは産業界においてどのような実用に結び付けられているかを見ていく。数値解析を行う際に問題となる誤差、モデル化や計算アルゴリズムを学習し、数値解析の利点と限界を理解していく。

数学や物理の復習から始める。また、諸条件が整えば、市販ソフトウェアを履修者全員が実際に動作させる演習を行う。

■到達目標

様々な計算アルゴリズムの学習を通して、基本的な数値解析の能力が身につく。また、電子情報システム分野の具体的な数値解析例を参考に、学術的に、あるいは産業界において将来広く応用できる基礎を習得する。

■講義方法

教員作成の資料を用いて講義を行う。

■系統的履修

基礎数学、微積分・演習、線形代数

■授業時間外における予・復習等の指示

資料を基に予習・復習

■成績評価の方法

平常点 (30%) 毎回の講義時における課題提出を評価する。

定期試験 (70%)

■テキスト

講義に際しては、教員作成資料を提供する。

■参考文献

S.V. Patankar 原著 『コンピュータによる熱移動と流れの数

値解析』 森北出版 3,150円

恒藤 敏彦 著 『弾性体と流体』 岩波書店 2,730円

■講義計画

①数値計算の現状と将来展望

②数値計算導入 (Ⅰ) 連続体としての考え方

③数値計算導入 (Ⅱ) 運動方程式への適用

④数値計算導入 (Ⅲ) 理論計算の利点と欠点

⑤数値計算手法 (Ⅰ) 勾配と発散

⑥数値計算手法 (Ⅱ) 離散化の考え方：テーラー級数とコントロールボリューム法

⑦数値計算手法 (Ⅲ) 定常一次元

⑧数値計算手法 (Ⅳ) 生成項の取り扱い

⑨数値計算手法 (Ⅴ) 非定常の取り扱い

⑩数値計算手法 (Ⅵ) 非定常一次元

⑪数値計算手法 (Ⅶ) 非定常多次元基礎

⑫数値計算手法 (Ⅷ) 陽解法とクランクニコルソン法

(諸条件が整えば演習)

⑬数値計算手法 (Ⅸ) 陰解法と TDMA (諸条件が整えば演習)

⑭数値計算手法 (Ⅹ) ガウス・デイザルの点順法

(諸条件が整えば演習)

⑮数値計算手法のまとめ (諸条件が整えば演習)

数理計画法

【担当】山下 信雄

【開講】後期 木2

■サブタイトル

諸問題に対する最適な解決策を求めるためのモデル化とアルゴリズム

■講義概要

数理最適化とは、対象とする問題の最適な解決策を与えるため、問題の数理モデル (数理計画問題) を導出し、適切なアルゴリズムによってそのモデルの解を求めることである。講義では、まず、いくつかの現実の問題を題材にとり、その数理的特性から数理計画問題としてモデル化できることを見る。続いて、数理計画問題の重要な理論のひとつである最適性の理論について講義する。さらに最適性の理論に基づいて、最急降下法、ニュートン法、単体法、内点法などのアルゴリズムを紹介する。

■到達目標

さまざまな社会的、工学的問題を数理的に観察力を養い、それらの問題に対する合理的な解決策を導く手法を身につける。

■講義方法

ノート講義および演習問題を含むプリントの配布

■系統的履修

線形代数、解析

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書および配布資料をよく読み、予・復習すること。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

学期末に試験を行う。試験問題に類似した問題を授業中に演習として与える。

レポートで成績に加点することもある。

■テキスト

山下信雄・福島雅夫 『数理計画法』 コロナ社

■参考文献

福島雅夫 『数理計画入門』 朝倉書店 3,400円

茨木俊秀・福島雅夫 『最適化の手法』 共立出版 2,884円

■履修上の注意・担当者からの一言

数理計画法は様々な分野で使われる道具であり、授業を通して「数理計画法」を使いこなせるようになってもらいたいです。そのためには、授業中の私語は慎み、わからないことがあれば講義中でも積極的に質問してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールにて質問に答える。

■講義計画

①数理計画法とは

②さまざまな問題のモデル化：生産計画等

③さまざまな問題のモデル化：ポートフォリオ最適化等

④数理計画法の基礎概念

⑤凸計画問題

⑥最適性の条件：制約なし最小化問題

⑦最適性の条件：KKT条件

⑧KKT条件の活用

⑨解法の基礎概念

⑩制約なし最小化問題の解法：直線探索法

⑪直線探索法の例：最急降下法、ニュートン法、準ニュートン法

⑫線形計画問題

⑬単体法

⑭内点法

⑮その他の解法

セミナー

【担当】岡田 至弘、片岡 章俊、新川 芳行、曾我 麻佐子、外村 佳伸、野村 竜也、長谷 智弘、
藤田 和弘、三浦 雅展、三好 力、吉見 毅彦、渡邊 靖彦 【開講】前期 金5

■講義概要

特別研究テーマに対応した分野知識を補足するため、各研究分野の関連文献の輪講、演習および実験を行う。ここでは、先端情報メディア分野の論文などの読解とそこに示された原理・機構の理解を目指し、実際のシステム利用及びソフトウェア作成等の手法で講義を進めていく。指導は、特別研究の配属先の教員が行なう。

■到達目標

特別研究を行なうために必要な知識を習得すること。

■講義方法

少人数の演習形態で行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示

輪講等における事前準備、事後確認は必須。システム利用の知識は、常々の稼働経験による積み重ねで初めて実用的なものとなる。

■成績評価の方法

課題達成度、レポートの内容、発表・討論の内容、出席状況などを総合して評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

調査・発表

線形代数・演習

【担当】野村 竜也、三浦 雅展
【開講】前期 木1・木2

■講義概要

理工系の数学が関連する全ての科目の基礎である線形空間と線形変換の理論について、基本的概念の理解を徹底し、演習によって計算力をつける。平面および空間におけるベクトルを題材に線形代数学における基本用語・概念として、行列・行列式・逆行列とその演算方法についての定義と基本的性質について講義し、その計算方法と応用についても演習と並行して学んでいく。また、微積分学・統計学・信号処理などにおいて重要な固有値、正規直交系についても学習する。

■到達目標

線形変換、固有値、固有ベクトル、行列の操作が身に付く。これにより、より高度な数学、情報数理、統計学等の教科書が読めるようになる。

■講義方法

週2回でひとかたまりである。1回は講義、残り1回は演習である。講義では、適当な例題を解きながら基本的な考えを説明する。演習では、講義内容の習得と応用力育成のため問題を解く。

■系統的履修

基礎数学、微積分・演習

■授業時間外における予・復習等の指示

各回のテーマに該当する教科書の章は、必ず事前に目を通しておくこと。演習で学んだ内容、特に対面で指摘を受けた部分については、再度確認しておく。

■成績評価の方法

平常点 (10%)
小テスト (20%)
定期試験 (40%)
その他 (30%) 演習の状況

■テキスト

薩摩順吉・四ッ谷晶二 『キーポイント線形代数』 岩波書店 2,200円

■参考文献

佐武一郎 『線形代数学』 裳華房 3,200円

■履修上の注意・担当者からの一言

必ず講義に出席し、1つずつ確実に理解していくこと。1回でも怠れば理解が難しくなり、逆に焦って先に進んでも実践段階でつまづく。

■講義計画

- ①連立一次方程式
- ②行列と線形変換
- ③正方行列と逆行列
- ④行列式の定義と性質
- ⑤余因数展開、行列式と逆行列
- ⑥前半のまとめ
- ⑦線形空間と行列 (1) ベクトル空間
- ⑧線形空間と行列 (2) 線形変換
- ⑨行列の階数
- ⑩線形代数の基本定理
- ⑪行列式と固有値
- ⑫固有値と対角行列
- ⑬対角行列と正規直交系
- ⑭線形微分方程式と二次形式
- ⑮全体のまとめ

ソフトウェア開発法

【担当】新川 芳行

【開講】後期 月2

■サブタイトル

ソフトウェア開発—その方法論とプロセス

■講義概要

ソフトウェア開発の計画から保守に至る各工程で必要とされる手法や技術を講義形式で学んだ後、簡単な事例を使ったケーススタディを通じて、要求のモデリングとその仕様化を中心にそれらを体得する。まず、ソフトウェア工学の全体を概観した後、代表的な開発手法である、構造化分析・設計手法とオブジェクト指向分析・設計手法の詳細を学び、さらに事例をもとにケーススタディを行う。ケーススタディは、UMLを用いたオブジェクト指向分析・設計に沿って実施する。このほか、ソフトウェア検証技術として、テスト技法と形式手法（Formal Method）についての説明も行う。

■到達目標

ソフトウェアのモデリングや仕様化の技術など、ソフトウェア関連技術者として知っておくべき基本的な知識やスキルが習得できる。

■講義方法

前半10回を開発実務に必要な分析・設計技術について講義し、後半5回はその背景にある理論的なトピックについての講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜ケーススタディや小テストを行うため、復習をしておくこと。

■成績評価の方法

レポート（30%）分析・設計の妥当性
定期試験（70%）基礎知識および応用
レポートでは、想定したアプリケーションの分析・設計を各自行う。定期試験は、基礎知識の理解度と応用力につき確認する。

■テキスト

毎回プリントを配布

■参考文献

玉井哲雄 『ソフトウェア工学の基礎』 岩波書店 3,570円
テクノロジックアート 『独習UML 第4版』 翔泳社 3,780円

■履修上の注意・担当者からの一言

ケーススタディでは、自分の頭と手を使って、一つのものを完成させるという気持ちで取り組んでください。

■講義計画

- ①ソフトウェア工学の概要
- ②構造化分析・設計1（構造化分析手法）
- ③構造化分析・設計2（構造化設計手法）
- ④オブジェクト指向分析・設計1（オブジェクト指向の概要）
- ⑤オブジェクト指向分析・設計2（UML概要、ユースケース・クラス・オブジェクト図）
- ⑥オブジェクト指向分析・設計3（シーケンス・コミュニケーション・相互作用概要図）
- ⑦オブジェクト指向分析・設計4（ステートマシン・アクティビティ・タイミング図）
- ⑧オブジェクト指向分析・設計5（コンポーネント・コンポジット・配置・パッケージ図）
- ⑨オブジェクト指向分析・設計6（実装とソフトウェアアーキテクチャ）
- ⑩ソフトウェアの検証技術1：ソフトウェアテスト
- ⑪ソフトウェアの検証技術2：オートマトン
- ⑫ソフトウェアの検証技術3：モデル検査
- ⑬形式仕様記述の基礎
- ⑭形式仕様記述言語
- ⑮ソフトウェアの原理

ソフトウェア科学演習

【担当】新川
吉見

芳行、芝
毅彦

公仁、野村

竜也、三好 力、

【開講】前期 金2・金3

■講義概要

ソフトウェア科学を研究・実践する上で不可欠となる基礎知識および技術を習得することを目的に演習を行う。本年度は
1. 関数型プログラミング
2. RobocodeによるJAVA学習
3. ソフトウェアコンストラクション基礎
という3つのテーマを課題としてソフトウェアの設計・実装を実体験を通して学習する。演習は3グループに別れ前半、後半で2つのテーマをこなす。
本演習では、簡単なプログラムを設計し実際にプログラムを作成できる基礎能力が前提である。

■到達目標

問題分析能力および解決能力、文書作成能力およびプレゼンテーション能力を身に付けることができる。
4年次に取り組むことになる卒業研究や卒業後の就職先で求められる能力を総合的に高めることができる。

■講義方法

各自に与えられた課題を定められた時間内に完成させる。
課題は複数個あたえられ、それらをそれぞれ複数の週にわたってとりくむ。
なお、それぞれの課題を完成させたあと、プレゼンテーションを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

課題を期限内に完成させるため、予習・復習を必ず行うこと。

■成績評価の方法

受講態度、課題達成度、報告書の内容、プレゼンテーションの内容を総合的に判断する。

■テキスト

電子データもしくはプリント配布

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①前半ガイダンス
- ②前半課題
- ③前半演習
- ④前半演習
- ⑤前半演習
- ⑥前半演習
- ⑦前半課題内容のプレゼンテーション
- ⑧後半ガイダンス
- ⑨後半演習
- ⑩後半演習
- ⑪後半演習
- ⑫後半演習
- ⑬後半演習
- ⑭後半課題内容のプレゼンテーション
- ⑮総合評価

ソフトウェア構成論

【担当】新川 芳行

【開講】前期 月2

■サブタイトル

オペレーティングシステムの機能と構成

■講義概要

ソフトウェアの最も基本的な構成要素であるオペレーティングシステム（OS）について、その主要コンポーネントの構造とメカニズムをできる限り特定のOSに依存しない形で学んだ後、UNIXやWindowsなどのOSでそれらがどう実現されているかについても触れる。さらに、OSの稼動するプラットフォームとなるプロセッサやメモリについても、OSとのインターフェースを中心に学習する。また、コンピュータやオペレーティングシステムの歴史的な背景についても触れる。

■到達目標

オペレーティングシステムの構造と動作原理を理解することにより、プログラムの効率性、信頼性、安全性などを考慮した情報システムの開発・設計ができるようになる。

■講義方法

講義を中心に進めるが、アセンブラによる簡単なプログラミング演習も行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回小テストを行うため前回の復習をしておくこと。

■成績評価の方法

小テスト（30%）内容の理解度。多肢選択。
定期試験（70%）基本事項の理解度

■テキスト

毎回プリントを配布

■参考文献

松尾 啓志 『オペレーティングシステム』 森北出版株式会社 2,940円
大澤 範高 『オペレーティングシステム』 コロナ社 3,045円
前川 守 『オペレーティングシステム』 岩波書店 3,990円

■履修上の注意・担当者からの一言

C言語を知っていることが望ましいが、その都度説明するので知らなくても支障はない。

■講義計画

- ①コンピュータの歴史
- ②コンピュータの構成とテクノロジー
- ③オペレーティングシステムの概要
- ④プロセスの管理1 割込処理
- ⑤プロセスの管理2 スケジューリング
- ⑥並行プロセス1 排他制御の基礎
- ⑦並行プロセス2 セマフォとモニタ
- ⑧実記憶管理
- ⑨仮想記憶管理
- ⑩Linuxでの記憶管理
- ⑪入出力制御
- ⑫ファイルシステム
- ⑬セキュリティ
- ⑭ネットワーク、並列・分散処理、仮想化技術
- ⑮日本におけるコンピュータの歴史

ソフトコンピューティング

【担当】野村 竜也

【開講】後期 木3

■講義概要

ソフトウェア科学の先端的分野として注目を浴びているソフトコンピューティングの基礎について解説する。ソフトコンピューティングの要素技術であるファジィ理論、ニューラルネットワーク、進化的アルゴリズムの基本概念、理論的基礎について解説を行った上で、その具体的な応用例について紹介する。

■到達目標

ソフトコンピューティングの基礎的知識およびその利点・欠点について、応用の観点も含めた理解が可能となる。

■講義方法

原則として、教科書と配布資料にそって講義を行う。必要に応じて、計算機実験に基づくレポートを出題する。

■系統的履修

認知科学と人工知能

■授業時間外における予・復習等の指示

理論的説明の部分、特に数式を多用する部分は、必ず再度確認しておくこと。

■成績評価の方法

平常点（20%）
レポート（40%）
定期試験（40%）

■テキスト

岩田彰 『ソフトコンピューティング』 オーム社 2,300円

■参考文献

R.R.イェーガ・L.A.ザデー・浅居喜代治 『ソフトコンピューティング』 海文堂出版 5,500円

■履修上の注意・担当者からの一言

理論的内容が多いため、必ず講義に出席しなければ理解できない。それを踏まえれば、応用例が興味深く理解できる。

■講義計画

- ①ソフトコンピューティングの定義と歴史
- ②従来の人工知能とソフトコンピューティングの違い
- ③ニューロ情報処理：必要な数式の確認
- ④ニューロ情報処理：ニューロンモデル
- ⑤ニューロ情報処理：学習法
- ⑥ニューロ情報処理：応用
- ⑦ファジィ情報処理：必要な数式の確認
- ⑧ファジィ情報処理：ファジィ集合論
- ⑨ファジィ情報処理：ファジィ制御
- ⑩ファジィ情報処理：ハイブリッドシステム
- ⑪進化的情報処理
- ⑫カオスと連想記憶
- ⑬感性情報処理：感情認識・表現
- ⑭感性情報処理：感情モデル
- ⑮総括

■講義概要

知的問題解決法を実践するための基礎として、科学的な方法論を学習し、研究教育を遂行する上での基本的姿勢について学ぶ。その上で、知的問題解決法の実践例として、状態空間から解を見つけ出す探索法、適応信号処理によるシステムの同定・推定および隠れマルコフモデルによるパターン認識の手法等について解説する。

■到達目標

知的問題解決を自身の中で実践すると同時に、計算機に実践させるシステムを構築する上での基本的手法を身につけることができる。その上で、幾つかの実践例を概説し、理解を深める。

■講義方法

基本的に講義形式で進めるが、結果や知識の覚えこみでなく、質疑応答を含めて段階的に進める。

■系統的履修

確立・統計、デジタル信号処理、オートマトン

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業時に復習事項および次回授業の範囲と予習ポイントを指示する。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
レポート (30%)
定期試験 (40%)
定期試験 (40点) に、平常点・演習 (30点) 及びレポート (30点) を加味して評価します。

■テキスト

必要に応じてプリントを配布する

■参考文献

鹿野清宏 他 編著「音声認識システム」、オーム社 3,500円

■講義計画

- ①本講義の意義、学習方法について、方法論の基礎
- ②探索問題－状態空間とは、探索木への展開
- ③探索問題－縦型検索、横型検索
- ④探索問題－コストを考慮した探索（分岐限定法、山登り法）
- ⑤探索問題－コストを考慮した探索（最良優先探索、A探索法）
- ⑥探索問題－探索問題演習
- ⑦システム同定－システム同定とは、線形システム
- ⑧システム同定－モデリング
- ⑨システム同定－適応アルゴリズム
- ⑩システム同定－システム同定演習
- ⑪パターン認識－パターンとは
- ⑫パターン認識－音声処理、確率・状態遷移
- ⑬パターン認識－隠れマルコフモデル
- ⑭パターン認識－パターン認識演習
- ⑮まとめ

データ構造とアルゴリズム・演習

■講義概要

与えられた問題をどのように解決していくかの手順をアルゴリズムと言い、取り扱うデータをどのように表現するかをデータ構造という。優先順位の高い特性を持ったアルゴリズムを実現するためには、適切なデータ構造を用いることが重要であり、データ構造とアルゴリズムは密接な関係にある。アルゴリズムはプログラムとして表現することによって、与えられた問題を計算機を利用して解決することができる。この講義では、代表的なデータ構造とアルゴリズムを学習するとともに、演習においてそれらを実現するプログラムの作成・実行・デバッグを行うことによって計算機を用いた問題解決の基礎を修得する。

■到達目標

この科目を履修することによって、問題の把握、データ構造およびアルゴリズムの記述、プログラムの作成・実行・デバッグというプログラム開発の一連の流れを修得し、これを応用する能力を養うことを目標とする。

■講義方法

初めに講義形式で問題の把握とデータ構造及びアルゴリズムについて学習し、引き続き演習形式でプログラムの作成・実行・デバッグを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容があやふやだと、次回の講義を理解することが困難となるので、必ずデータ構造及びアルゴリズムについて復習を行うこと。

■成績評価の方法

定期試験 (60%)
その他 (40%) 演習の評価

■テキスト

講義ごとに配布

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

代表的なデータ構造とアルゴリズムをしっかり理解すること。また、C言語を用いたプログラミングの仕上げとなる科目でもあり、プログラム開発と論理的思考を身に付けること。講義で学習する新たなデータ構造やアルゴリズムについて事前に予習を行い自分なりに理解しておくことで、講義中は不明な点や誤解点に集中して学習することができる。また、プログラミング言語の復習を行って演習に臨むことで、データ構造やアルゴリズムのプログラム化に十分な時間を取ることができる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

原則として木曜日昼休みとするが、在室時にはできる限り対応する。

■講義計画

- ①オリエンテーション、C言語の復習
- ②ポインタ
- ③配列
- ④構造体
- ⑤ファイルの入出力
- ⑥リスト データの追加
- ⑦リスト データの検索、削除
- ⑧スタック
- ⑨二分木 データの追加、検索
- ⑩二分木 データの削除
- ⑪キュー
- ⑫バブルソート
- ⑬クイックソート
- ⑭ヒープソート
- ⑮マージソート

■サブタイトル

データベースの基本から設計、運用まで

■講義概要

データベースは様々な情報処理システムに必須の要素である。本講義では、データベースシステムに関して、基本的な概念から設計、プログラミング、運用論までを扱う。具体的には、最も基本的で普及しているリレーショナルデータベースを主な対象とするが、オブジェクト指向データベースやマルチメディアデータベースなど、最近の技術についても触れる。

■到達目標

データベースの基本概念と利用方法を理解し、簡単なデータベースシステムが設計できるようになる。

■講義方法

主として講義形式で行い、内容の理解度をチェックするために、適宜小テストや演習課題を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

事前に講義資料をダウンロードし、読んでおくこと。毎回配布する資料や小テストについて復習しておくこと。

■成績評価の方法

小テスト (20%)
レポート (10%)
定期試験 (70%)

■テキスト

特になし

■参考文献

増永良文 『データベース入門』 サイエンス社 1,900円
永田武 『データベースの基礎』 コロナ社 2,400円

■講義計画

- ①ガイダンス (授業の概要、データベースとは)
- ②リレーショナルデータベースモデル
- ③リレーショナル代数とデータ操作
- ④SQL 1 : 単純質問
- ⑤SQL 2 : 結合質問
- ⑥データベース設計、実体関連図
- ⑦正規化
- ⑧データベース設計 (実践)
- ⑨データベース管理システム
- ⑩トランザクション
- ⑪プログラムからのアクセス
- ⑫XMLデータベース
- ⑬オブジェクト指向データベース
- ⑭マルチメディアデータベース
- ⑮まとめ

デジタル信号処理

【担当】 藤田 和弘
【開講】 後期 木3

■サブタイトル

MIT OpenCourseWareを用いた「信号とシステム」に関する授業

■講義概要

デジタル信号処理は、情報通信技術の分野における基礎的な技術であり、電子情報通信以外の分野でも用いられる幅広い応用をもつ学問分野である。

この講義では、「信号とシステム」の基礎理論および信号処理とその応用について議論する。基礎理論である信号のフーリエ級数表現と線形時不変システムに重点をおいた上で、信号処理において重要なサンプリング定理、離散フーリエ変換について詳しく議論する。

■到達目標

画像処理などの信号処理の基礎的な理論に関する知識を習得し、簡単な信号処理のプログラムが理解できるようになる。周期的信号のフーリエ級数表現を求めることができる。連続時間フーリエ変換、離散時間フーリエ変換の計算ができる。サンプリング定理を理解し、信号に対して適切なサンプリング周波数を求めることができる。

■講義方法

MIT OpenCourseWareを中心に授業を行い、適宜小テストを行う。2回程度レポートを提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業前に、e-Learning System上にアップロードしたテキストを印刷し予習しておくこと。
また、毎授業後、e-Learning System上の小テストを受験すること。

■成績評価の方法

小テスト (10%)
レポート (20%)
定期試験 (70%)

■テキスト

MIT OpenCourseWareを利用して授業を行います。

■参考文献

A.V.Openheim 『Signals & Systems』 Prentice Hall

■オフィスアワー・教員への連絡方法

基本的には、水曜日3限目ですが、出張や会議の場合もあります。情報メディアセンター Course Management System (Moodle) で、質問などが行えます。

■講義計画

- ①ガイダンス (授業の概要、履修の仕方、Course Management System (Moodle) の使い方、予習・復習)
Lecture Note # 1 イントロダクション
- ②Lecture Note # 2 システムの特性と例
- ③Lecture Note # 3 離散時間線形時不変システム
- ④Lecture Note # 4 連続時間線形時不変システム
- ⑤Lecture Note # 5 連続時間フーリエ級数
- ⑥Lecture Note # 6 連続時間フーリエ級数の特性、離散時間フーリエ級数
- ⑦Lecture Note # 7 フーリエ級数と線形時不変システム
- ⑧Lecture Note # 8 連続時間フーリエ変換
- ⑨Lecture Note # 9 連続時間フーリエ変換のたたみ込み特性、離散時間フーリエ変換
- ⑩Lecture Note # 10 離散時間フーリエ変換の特性と例 (1)
- ⑪Lecture Note # 11 離散時間フーリエ変換の特性と例 (2)
- ⑫Lecture Note # 12 時間周波数特性
- ⑬Lecture Note # 13 サンプリング
- ⑭Lecture Note # 14 連続信号の離散時間処理
- ⑮総括、レポートおよび小テストの解答

■講義概要

三年次までに習得した知識や能力を基礎として、特定の研究テーマについて研究を行なう。特別研究に取り組むことによって、課題を自主的に設定する能力、課題を解決するための解決策を考案する能力、研究成果を社会に発信する能力を養う。研究成果を特別研究論文としてまとめ、さらに口頭発表会において発表する必要がある。研究は、担当教員による個別指導の下で行なう。担当教員（配属先研究室）の決定方法については、研究室配属説明会において説明がある。

■到達目標

問題解決能力、計画的実行力、論文作成能力、プレゼンテーション能力を習得すること

■講義方法

担当教員ごとに異なる

■授業時間外における予・復習等の指示

担当教員から適宜指示する

■成績評価の方法

特別研究論文の内容、口頭発表会での発表内容、研究テーマに対する日常の取り組み態度などから総合的に判断する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

特別研究は、そのテーマ設定から調査・企画・検討・論文化・発表にいたるまでのひととおりを通年で行うものである。従って、後半であわてゐることの無いよう、計画的かつ主体的に研究を進めることが求められる。

■講義計画

- ①調査・企画・計画具体化・初期検討
- ②本格検討・開発・実験
- ③討論・整理・発表

認知科学と人工知能

■サブタイトル

人間と人工システムの比較

■講義概要

人工知能には、人間の知能を機械で実現しようとする工学的な立場と人間の知能のメカニズムを解明しようとする科学的な立場がある。前者が狭義の人工知能であり、後者は認知科学と呼ばれる。これらの範囲は基礎から応用まで多岐にわたるが、講義では特に重要な事項に限定する。まず、認知過程の基礎とそのモデル化について解説し、人間の記憶や学習、ニューラルネットワーク、知識表現、問題解決、探索、推論などについて述べるとともに、脳神経系や心のモデルなどについて触れ、最後にエキスパートシステムやロボットなどの応用分野にも言及する。

■到達目標

認知科学や人工知能についての基礎的な知識が得られるだけでなく、人間と計算機を比較しながら、それらの特徴について理解が深められる。

■講義方法

原則としてパソコンによる提示と板書にそって講義を進める。

■系統的履修

なし

■授業時間外における予・復習等の指示

講義ノートは本授業のサイトで公開しているので、PDFを各自ダウンロードして予習・復習に活用すること。なお、講義ノートはプリントアウトして授業に持参すること。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

定期試験（100点満点）の成績により評価するが、期末までにレポートを提出することを定期試験の受験の条件とする。詳細については、授業において説明する。

■テキスト

使用しない

■参考文献

安西 祐一郎 『心と脳——認知科学入門（岩波新書）』 岩波書店 903円

その他の参考書などについては、授業の中で随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

単に授業に出てノートを取るだけでなく、自分でよく考えながら講義を聴くようにしてほしい。なお、Webページ（<http://milan.elec.ryukoku.ac.jp/~kobori/resume.html>）で、講義ノートや関連情報を公開しているので、そちらも参考にしてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

電子情報学科の教員の週間予定については、学科のWebサイトで参照することができます。スケジュールを確認して、1号館4階の研究室を訪問してください。

■講義計画

- ①認知科学と人工知能について
- ②知覚と運動
- ③記憶と学習
- ④ニューラルネットワーク
- ⑤知識表現
- ⑥問題解決と探索
- ⑦推論
- ⑧演習問題解説 1
- ⑨脳と神経系
- ⑩心のモデル
- ⑪エキスパートシステム
- ⑫ロボット
- ⑬インタフェース
- ⑭演習問題解説 2
- ⑮質疑応答

ネットワーク構成論

【担当】 岡田 至弘

【開講】 後期 火2

■サブタイトル

ネットワークの基礎からインターネット・Webテクノロジーまで

■講義概要

通信の基本要素（遅延、帯域、信頼性と誤り制御）の理解から情報ネットワークまでの拡張を基本プロトコル階層の学習を通してすすめ、具体的なネットワーク構成の例（インターネット）からネットワーク構成の実際を学んでいく。ここでは、通信の基礎概念・用語・技術の羅列ではなく、データ伝送から情報通信までの概念を系統的に学習していく。一般的なOSI基本参照モデルなどのプロトコルレベルの概念紹介は行わず、TCP/IPやUDPなどの実体のあるプロトコルの理解からネットワーク構成の普遍性を理解することに重点を置く。

■到達目標

情報通信の概念整理と新たなネットワーク技術・サービスへの対応・理解

■講義方法

教科書、配布資料（プリント）、毎回のプレゼンテーション、Web教材を用いる。

■系統的履修

インターネットリテラシー、計算機基礎実習、ソフトウェア構成論

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に配布される資料を用い、予習・復習を毎週行い、講義中に指示されたWebページ、文献、問題の読了を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）
レポート（10%） 1 ないし 2 回の課題呈示に対応したレポート提出

定期試験（60%）

不定期の小テストと、定期試験の評価およびレポート課題含めた総合評価を行う。

■テキスト

岡田史郎 『インターネットプロトコル』 オーム社 2,800円

■参考文献

村上優子著 『ネットワーク概論』 サイエンス社 1,500円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義日（火曜日）の 12:40～15:00

■講義計画

- ① マルチメディア通信を指向するネットワーク構成概略
- ② レイヤー、プロトコルおよびサービス概念
- ③ インターネットのアーキテクチャ（物理層）
- ④ インターネットのアーキテクチャ（データリンク制御）
- ⑤ インターネットのアーキテクチャ（ネットワーク層）
- ⑥ インターネットのアーキテクチャ（アドレス体系）
- ⑦ インターネットのアーキテクチャ（トランスポート層）
- ⑧ インターネットのアプリケーション（ストリーミング、QOS制御）
- ⑨ セキュリティ
- ⑩ ネットワーク管理
- ⑪ 分散コンピューティング1: NOS
- ⑫ 分散コンピューティング2: JAVA
- ⑬ ネットワーク化マルチメディアシステム
- ⑭ 大規模ネットワークシステム事例
- ⑮ 大学ネットワークシステム

ネットワークシステム・演習

【担当】 岡田 至弘、芝 公仁

【開講】 前期 火4・火5

■サブタイトル

TCP/IPネットワークプログラミング演習と分散処理システムの構築

■講義概要

TCP/IPの演習からパケット交換方式による通信（CO型、CL型）の理解を通して、実際的なネットワークプログラムを体得し、情報ネットワークを支える基礎技術の理解を深める。具体的には、Linux下でのネットワークシステムを用い、TCP/IPプロトコルスタックの活用を行う。

■到達目標

TCP/IPを用いた分散システム設計の基本となるネットワークプログラミングと具体的なネットワーク応用システムの設計までを体得する。

■講義方法

ネットワークに関する講義と演習を行う。演習では、課題の実施とレポートの作成を行う。

■系統的履修

Linuxの基本操作、Cプログラミング基礎の習得、ネットワーク構成論

■授業時間外における予・復習等の指示

各授業で、復習事項と予習事項を指示する。

■成績評価の方法

平常点（50%）
レポート（50%）
毎回出席することを前提とし、平常点とレポートを総合して評価する。

■テキスト

岡田史郎 『インターネットプロトコル』 オーム社 2,800円

■参考文献

D.COMER 他 『TCP/IPによるネットワーク構築 クライアントサーバプログラミング』 共立出版 6,000円

J. Michael 他 『TCP/IPソケットプログラミングC言語編』 オーム社 1,890円

村山公保 『基礎からわかるTCP/IPネットワーク実験プログラミング』 オーム社 2,520円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

演習終了後

■講義計画

- ① 演習準備 コンパイル
- ② プロトコルスタック
- ③ プロトコルスタック
- ④ プロトコルスタック
- ⑤ プロトコルスタック
- ⑥ ソケットプログラミング
- ⑦ ソケットプログラミング
- ⑧ ソケットプログラミング
- ⑨ ソケットプログラミング
- ⑩ 応用プログラミング、Linuxネットワーク設定
- ⑪ 応用プログラミング、Linuxネットワーク設定
- ⑫ 応用プログラミング、Linuxネットワーク設定
- ⑬ 応用プログラミング、Linuxネットワーク設定
- ⑭ 応用プログラミング、Linuxネットワーク設定
- ⑮ 応用プログラミング、レポート作成

■講義概要

情報メディア関係科目を学ぶ上で最低限必要なコンピュータの基礎を主にハードウェア面から学ぶ。前半では、コンピュータの歴史、データ表現、論理演算および回路、データ構造とアルゴリズム等の基礎的な事項を学ぶ。後半では、コンピュータシステムのハードウェア、ソフトウェア、システム構成、ネットワークなどについて、身近なパソコンと対比しながら学ぶ。

■到達目標

コンピュータのハードウェアの基礎知識の習得

■講義方法

テキストと適宜プリントを用いて講義する。また、必要に応じて、演習を実施する。

■系統的履修

物理学序論

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で課する復習課題や、予習課題を必ずすること。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

福嶋宏訓 『基本情報技術者集中ゼミ〔午前編〕』 日本経済新聞出版社 1,700円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①コンピュータの歴史
- ②コンピュータ科学基礎 (1) (データ表現)
- ③コンピュータ科学基礎 (2) (論理演算)
- ④コンピュータ科学基礎 (3) (論理回路)
- ⑤コンピュータ科学基礎 (4) (演算回路)
- ⑥データ構造とアルゴリズム
- ⑦パソコンの中身を解剖する
- ⑧コンピュータシステム (1) (アーキテクチャ)
- ⑨コンピュータシステム (2) (ハードウェア)
- ⑩コンピュータシステム (3) (基本ソフトウェア)
- ⑪コンピュータシステム (4) (応用ソフトウェア)
- ⑫コンピュータシステム (5) (システムの構成)
- ⑬コンピュータシステム (6) (性能評価)
- ⑭コンピュータシステム (7) (ネットワーク)
- ⑮まとめ

■講義概要

微分の概念・積分の概念を理解し、それらをうまく使える能力を身につけることは、情報メディア学科で学んでいく上で必須である。

高校では1変数関数のみ取り扱ってきたが、情報学に関するさまざまな概念の習得・応用のためには、多変数関数を自由に取り扱うことができる数学的な素養を必要とする。基本となる概念をしっかり身につければ、自然に臨機応変の応用能力が身に付く。

この講義では、1変数関数の微分の知識の確認を簡潔に行った後、多変数関数の微分・積分を、基本から分かりやすく講義していく。

■到達目標

微分・積分の概念を原理から理解し、自由に道具として使っていける能力が身に付く。これにより、情報学の専門の教科書が読めるようになる。偏微分、全微分、合成関数の微分公式、変数変換による微分の変換公式、テーラー展開、極大・極小、重積分、オイラーの公式、定係数の線形微分方程式の解法にかかわる概念を修得し、活用できる能力を身につける。

■講義方法

適当な例題を解きながら、基本的な考え方分かり易く説明する。理解を確認するために、演習の始めに毎回小テストを行う。

■系統的履修

数学序論(必ず受講しておくこと。高校の単なる復習ではなく、大学での新たな事項も出てくる。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりとすること。

■成績評価の方法

小テスト(30%) 適宜、実施する。

レポート(30%) 適宜、課す。

定期試験(40%)

■テキスト

川野日郎・薩摩順吉・四ツ谷晶二(共著)『理工系の数理微分積分+微分方程式』 裳華房 2,835円

教科書の方法に加えて、ラプラス変換を用いた定係数の線形微分方程式の解法や、フーリエ級数の話を説明をする。積分等の演習問題も、これにつながるような問題を解いてもらう。したがって、教科書に書いていないことについては、適宜、プリントを配布する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

レポート、小テストで理解状況と出席をチェックする。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

・オフィスアワーは講義の際に、お知らせします。

・緊急の場合等は shoji@math.ryukoku.ac.jp にメールを下さい。日時を調整します。

■講義計画

① 1変数関数の微分の要約

複素数・複素平面、オイラーの公式

② 微分方程式への応用

③ 偏微分、全微分、高階偏導関数

④ 2変数関数の合成関数の微分
陰関数の微分

⑤ Taylor 展開

2変数関数の極大・極小

⑥ 条件付極値

⑦ 積分の基本概念

重積分

⑧ 極座標と座標変換

極座標への変数変換

⑨ 微積分のまとめ

⑩ ラプラス変換の定義と公式集

⑪ ラプラス変換による微分方程式の解法

⑫ ラプラス変換のさまざまな応用

⑬ フーリエ級数

⑭ フーリエ級数の具体例

⑮ まとめ

物理学概論

【担当】 中西 徹
【開講】 後期 金3

■サブタイトル

理工学部基礎としての物理学

■講義概要

我々が日常経験する様々な物理現象について、それがどのような理論をもとに起こっているのかを見ていく。情報メディア分野に必要な物理学の基礎を講義する。
広い物理現象の中で、その中に共通する物理学の重要な基本的考え方や概念を学ぶ。
力学から始め、理解度を見極めながら可能な限り体系的に学習していく。
諸条件が整えば、数回は実験・演習を行う。

■到達目標

理工学部卒業のための最低限理解すべき項目に絞る。
情報の伝達や日々の生活に欠かすことのできない諸現象についての物理学的な理解と知識を深める。

■講義方法

講義形式

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストによる予習、および復習。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 毎回の講義時における課題提出を評価する。
定期試験 (70%)

■テキスト

廣岡 秀明 『大学新入生のための物理入門』 共立出版
2,100円

■参考文献

原康夫著 『物理学通論Ⅰ』 学術図書出版社 2,100円
原康夫著 『物理学通論Ⅱ』 学術図書出版社 2,100円

■講義計画

- ①我々のまわりで起こる物理現象と物理学
- ②力学Ⅰ - つりあい・モーメント・圧力
- ③力学Ⅱ - 運動の法則
- ④力学Ⅲ - 等速度運動・加速度運動
- ⑤力学Ⅳ - 仕事とエネルギー
- ⑥力学Ⅴ - 運動量
- ⑦熱と温度
- ⑧熱力学
- ⑨波動Ⅰ - 反射・屈折・回折
- ⑩波動Ⅱ - 音波と光波
- ⑪電場
- ⑫電流と磁場 (諸条件が整えば演習)
- ⑬直流回路 (諸条件が整えば演習)
- ⑭交流回路 (諸条件が整えば演習)
- ⑮まとめ

物理学序論

【担当】 吉村 輝夫
【開講】 前期 木2

■サブタイトル

高等学校で「物理」を未履修の学生が、物理の基礎を学習する講座

■講義概要

物理学は自然科学の基礎・基本となる重要な学問で、理工学部の学生には必須である。高等学校で物理未履修の学生にも、後期以降に学習する物理関連や情報技術関連の科目に対応できるように、専門分野に関係の深い分野・内容を精選し、短期間で集中して学習する。
講義では、高等学校で学ぶ物理の基本的な考え方を学習し、演習を通じて理解を確かにする。

■到達目標

物理的な事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的なものの見方や考え方ができる力をつける。

■講義方法

講義と演習。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業終了時に、別途指示する。

■成績評価の方法

平常点 (50%)
定期試験 (50%)
物理の基本的な概念や原理は、全ての分野を学んで理解することができ、科学的な見方や考え方が構築されるため、欠席しないこと。

■テキスト

担当講師が作成するプリント

■参考文献

高等学校の物理の教科書、市販の基礎レベルの参考書

■履修上の注意・担当者からの一言

高等学校で物理を履修した学生は、特に受講する必要がない。
物理学序論は他学科にも設置されているが、内容は学科によって異なることもある。

■講義計画

- ①概論、物理量の単位、力
- ②力と運動、万有引力
- ③仕事とエネルギー
- ④等速円運動と単振動
- ⑤波と振動
- ⑥波の性質1
- ⑦波の性質2
- ⑧静電気と電界
- ⑨電流と電気抵抗
- ⑩コンデンサ
- ⑪直流回路
- ⑫電流と磁界
- ⑬電磁誘導とローレンツ力
- ⑭交流の発生と交流回路
- ⑮原子核、まとめ

■サブタイトル

演習で身に付く「自分の考えをうまく伝える方法」

■講義概要

「人前で堂々と話したい」「自分の考えを自信を持って伝えたい」と、感じていませんか。この授業は、「知る」⇒「演習」⇒「身につく」流れを大切に、様々な演習を通じて「自分の考えをうまく伝える方法」が身に付くことを目標とします。人前で話すことが苦手な人も演習を重ねることで緊張に慣れ、話すことが楽しくなることを目指します。プレゼンテーションスキルを高めることは、就職活動でも社会人としても重要視されます。社会で求められるプレゼンテーションスキルとは何かを考え、対話や傾聴により信頼関係を構築するコミュニケーション能力などを磨きます。さらに、コミュニケーションゲームやワークなどを通して自身の強み弱みを認識し、自分を語るための理解を深めます。

■到達目標

1. 人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーションスキルを高めるためのノウハウを学び、身につける。
2. 就職活動の際、自信を持って自己をアピールできる対話力を高める。
3. ワーク、ゲーム、トレーニング、ディスカッションなどの様々な演習を通じてコミュニケーション能力を高め、「対話力」や「傾聴力」を体得する。

■講義方法

- ・毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「聞く」「話す」を実践する。
- ・テーマの内容によって、ペアやグループでの演習を行う。
- ・演習ごとに振り返りを行い、自己目標への達成レベルを確認する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだプレゼンテーションスキルのさらなる向上のために、日常でも活用できる部分を取り入れ実践する。

■成績評価の方法

授業の中で各自が発表する「論文」や「演習」などにより決定する

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の積み重ねがプレゼンテーションスキル向上のポイントになります。授業中の演習には自ら積極的に取り組むことで、気づきや学びが深まります。

■講義計画

- ①プレゼンテーションスキルの自己成長をイメージし、目標設定をする。アイスブレイクワークを通じて、視覚・聴覚の効果を認識し、コミュニケーションの重要性を理解する。
- ②相手に印象づける自己表現の仕方を考える。声、表情、姿勢の効果を理解し、ただ「話す」のではなく「伝える」ことを意識することで、自己表現をする楽しさを体得する。
- ③コミュニケーションゲームを通じて、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を考える。同時に、チーム内における自身の強み弱みを発見する。
- ④自身の人生を振り返り、自己分析を深める。過去の体験に基づく現在の価値観を認識することで、新たな自己発見につなげ、自分を語る素材を見つける。
- ⑤ブレンストリーミングを通じて発言力を高め、傾聴力を身に付ける。さらに、「なりたい自分像」を明確にし、未来の自分について自信を持って伝える説得力を体得する。
- ⑥プレゼンテーションスキルのパーソナルチェックを通じて、普段の自分の話し方の強みや改善点を確認する。これまでの授業で体得した点と今後の目標設定を再認識する。
- ⑦聞き手の印象に残る話し方のノウハウを学ぶ。短時間で分かりやすい伝え方や具体性と熱意が伝わる表現力を体得する。
- ⑧想定外の質問にも対応できるアドリブで答える対応力を身に付ける。質問に対し、分かりやすく伝える方法や、自身のイメージを言語化し、臨場感が伝わる話し方を実践する。
- ⑨面接におけるグループディスカッションの評価ポイントを理解する。相手を納得させる話し方のテクニックや共感表現を学ぶ。また、チームワークとは何かを考え、集団における自身の特性を確認する。
- ⑩コンセンサスを得られる対話力を学ぶ。面接を想定したコミュニケーションゲームを通じて自己の役割を認識し、行動することでコンセンサスを得る手法を学ぶ。「集団」と「チーム」の違いを知り、期待される成果を出す。
- ⑪面接を想定したディベートの評価ポイントを理解する。与えられたテーマでグループ別にディベート（討論）を交わし、相手の意見に反論するときの伝え方を実践することで効果的な説得の仕方を学ぶ。
- ⑫集団面接を想定し、面接の評価ポイントを理解する。社会人に求められるマナーやコミュニケーションを学び、主体的に行動できるスキルを身につける。
- ⑬個人面接をシミュレーションし、質疑応答を実践する。掘り下げた質疑応答を繰り返すことで話し手のアドリブ力を高める。さらに、どのような緊張の状況でも自信を持って答える力を身につける。
- ⑭これまでに学んだプレゼンテーションスキルをおさらいし、発表する。この授業で学んだこと、身に付いたことを整理し、発表する。
- ⑮これまでに体得したスキルを活かし、「自分」についてプレゼンテーションをする。自身が設定した目標を振り返り、成長と今後のステップアップを考える。

■サブタイトル

演習で身に付く「自分の考えをうまく伝える方法」

■講義概要

「人前で堂々と話したい」「自分の考えを自信を持って伝えたい」と、感じていませんか。この授業は、「知る」⇒「演習」⇒「身につく」流れを大切に、様々な演習を通じて「自分の考えをうまく伝える方法」が身に付くことを目標とします。人前で話すことが苦手な人も演習を重ねることで緊張に慣れ、話すことが楽しくなることを目指します。プレゼンテーションスキルを高めることは、就職活動でも社会人としても重要視されます。社会で求められるプレゼンテーションスキルとは何かを考え、対話や傾聴により信頼関係を構築するコミュニケーション能力などを磨きます。さらに、コミュニケーションゲームやワークなどを通して自身の強み弱みを認識し、自分を語るための理解を深めます。

■到達目標

1. 人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーションスキルを高めるためのノウハウを学び、身につける。
2. 就職活動の際、自信を持って自己をアピールできる対話力を高める。
3. ワーク、ゲーム、トレーニング、ディスカッションなどの様々な演習を通じてコミュニケーション能力を高め、「対話力」や「傾聴力」を体得する。

■講義方法

- ・毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「聞く」「話す」を実践する。
- ・テーマの内容によって、ペアやグループでの演習を行う。
- ・演習ごとに振り返りを行い、自己目標への達成レベルを確認する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだプレゼンテーションスキルのさらなる向上のために、日常でも活用できる部分を取り入れ実践する。

■成績評価の方法

授業の中で各自が発表する「論文」や「演習」などにより決定する

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の積み重ねがプレゼンテーションスキル向上のポイントになります。授業中の演習には自ら積極的に取り組むことで、気づきや学びが深まります。

■講義計画

- ①プレゼンテーションスキルの自己成長をイメージし、目標設定をする。アイスブレイクワークを通じて、視覚・聴覚の効果を認識し、コミュニケーションの重要性を理解する。
- ②相手に印象づける自己表現の仕方を考える。声、表情、姿勢の効果を理解し、ただ「話す」のではなく「伝える」ことを意識することで、自己表現をする楽しさを体得する。
- ③コミュニケーションゲームを通じて、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を考える。同時に、チーム内における自身の強み弱みを発見する。
- ④自身の人生を振り返り、自己分析を深める。過去の体験に基づく現在の価値観を認識することで、新たな自己発見につなげ、自分を語る素材を見つける。
- ⑤ブレインストーミングを通じて発言力を高め、傾聴力を身に付ける。さらに、「なりたい自分像」を明確にし、未来の自分について自信を持って伝える説得力を体得する。
- ⑥プレゼンテーションスキルのパーソナルチェックを通じて、普段の自分の話し方の強みや改善点を確認する。これまでの授業で体得した点と今後の目標設定を再認識する。
- ⑦聞き手の印象に残る話し方のノウハウを学ぶ。短時間で分かりやすい伝え方や具体性と熱意が伝わる表現力を体得する。
- ⑧想定外の質問にも対応できるアドリブで答える対応力を身に付ける。質問に対し、分かりやすく伝える方法や、自身のイメージを言語化し、臨場感が伝わる話し方を実践する。
- ⑨面接におけるグループディスカッションの評価ポイントを理解する。相手を納得させる話し方のテクニックや共感表現を学ぶ。また、チームワークとは何かを考え、集団における自身の特性を確認する。
- ⑩コンセンサスを得られる対話力を学ぶ。面接を想定したコミュニケーションゲームを通じて自己の役割を認識し、行動することでコンセンサスを取得する手法を学ぶ。「集団」と「チーム」の違いを知り、期待される成果を出す。
- ⑪面接を想定したディベートの評価ポイントを理解する。与えられたテーマでグループ別にディベート（討論）を交わし、相手の意見に反論するときの伝え方を実践することで効果的な説得の仕方を学ぶ。
- ⑫集団面接を想定し、面接の評価ポイントを理解する。社会人に求められるマナーやコミュニケーションを学び、主体的に行動できるスキルを身につける。
- ⑬個人面接をシミュレーションし、質疑応答を実践する。掘り下げた質疑応答を繰り返すことで話し手のアドリブ力を高める。さらに、どのような緊張の状況でも自信を持って答える力を身につける。
- ⑭これまでに学んだプレゼンテーションスキルをおさらいし、発表する。この授業で学んだこと、身に付いたことを整理し、発表する。
- ⑮これまでに体得したスキルを活かし、「自分」についてプレゼンテーションをする。自身が設定した目標を振り返り、成長と今後のステップアップを考える。

プログラミング基礎

【担当】吉見 毅彦

【開講】後期 月4

■講義概要

この科目は、プログラミングの基礎を、C言語を用いて学習することを目的とする。演算・データ型・制御構造・関数などの、C言語の基本的な機能について解説する。C言語は実用的な言語であり、C言語によるプログラミング能力を身につけることは、将来コンピュータと専門的に関わっていく理工学系の学生にとって必要不可欠である。本科目は「計算機基礎実習Ⅱ」の後半部分と連携しており、「計算機基礎実習Ⅱ」で実際のプログラミングを行なうことによって、ここで解説した基本的な機能についての理解を深める。

■到達目標

プログラミングの基本的な考え方を理解すること。C言語によるプログラミング能力を習得すること。

■講義方法

授業は、スライドと配布資料を用いて進める。毎回演習問題を出題する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの当該部分を読み、疑問点を認識して講義に臨みなさい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

内田智史『C言語によるプログラミング 基礎編第2版』オーム社

■参考文献

B.W. Kernihan, D.M. Ritchie 『プログラミング言語C第2版』共立出版

■講義計画

- ①アルゴリズムとプログラム
- ②四則演算と入出力
- ③基本的なデータ型
- ④条件分岐構造（1）：if文
- ⑤条件分岐構造（2）：switch文
- ⑥繰り返し構造（1）：for文
- ⑦繰り返し構造（2）：while文
- ⑧配列
- ⑨ポインタ
- ⑩文字列操作
- ⑪関数（1）：引数、戻り値
- ⑫関数（2）：ポインタ引数、再帰的関数
- ⑬構造体（1）：構造体タグ、メンバ
- ⑭構造体（2）：構造体の配列、構造体へのポインタ、構造体の設計
- ⑮まとめ

学
科
固
有

プログラミング言語論

【担当】吉見 毅彦

【開講】前期 月3

■講義概要

これまでに学習した手続き型言語やオブジェクト指向型言語とは様々な点で異なるプログラミング言語を習得することを目的として、論理型プログラミング言語Prologを取り上げ、その基本的な考え方（データ構造、構文、意味）とプログラミングの方法について解説する。さらに、その背景となっている述語論理について概説する。Prologは、単純で強力なプログラミング言語であり、人工知能やデータベース、エキスパートシステムなどの研究開発用の道具として広く使われている。最近ではインターネットビジネスなどにおいて、高度な知的処理の必要性からも注目されており、重要なプログラミング言語の一つである。

■到達目標

論理型プログラミング言語の基本的な考え方を理解すること。論理型プログラミング言語によるプログラミング能力を習得すること。Prologの基礎となっている述語論理に関する理解を深めること。

■講義方法

授業は、スライドと配布資料を用いて進める。毎回演習問題を出題する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの当該部分を読み、疑問点を認識して講義に臨みなさい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

Bratko著、安部憲広訳 『Prologへの入門』 近代科学社

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①概観
- ②Prologプログラムの構文
- ③Prologプログラムの意味
- ④リスト
- ⑤オペレータと算術演算
- ⑥複合項の利用
- ⑦バックトラック
- ⑧バックトラックの制御
- ⑨入出力
- ⑩組み込み述語
- ⑪プログラミングスタイルと技術
- ⑫Prologによる構文解析（1）：文脈自由文法による文法記述
- ⑬Prologによる構文解析（2）：DCGへの変換
- ⑭述語論理とホーン節
- ⑮まとめ

プログラミング入門

【担当】 渡邊 靖彦

【開講】 前期 月4

■講義概要

本科目の目的は、コンピュータとプログラムの基本概念（コンピュータの仕組みとプログラムが実行される仕組み）を身につけることである。

本講義の内容は以下のとおりである。

1. プログラミングの概説
 - － 計算機プログラミングの必要性和意義
2. コンピュータとプログラムの基本概念
 - － コンピュータのハードウェア構成
 - － コンピュータでプログラムが実行されるしくみ
 - － データ型のコンピュータ内部での表現
 - － if文などの簡単な制御構造
 - － 数値計算と関数の学習
 - － プログラミングの方法

■到達目標

コンピュータとプログラムの基本概念
（コンピュータの仕組みとプログラムが実行される仕組み）

■講義方法

教科書および配布した資料にもとづいて講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書などを読み、授業で何を学習するかを頭の中に入れておきましょう。

演習問題を解いてみると授業がより効果的になります。

■成績評価の方法

レポート（10%）

定期試験（90%）

レポートおよび期末試験を総合的に評価する。

■テキスト

Alan W.Bierman 著、和田英一監訳 『やさしいコンピュータ科学』 アスキー出版局 4,660円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ① 計算機プログラミングの必要性和意義
- ② データの読み取りと記憶
- ③ 決定木のプログラミング
- ④ データ型の計算機内部での表現
- ⑤ if文などの簡単な制御構造
- ⑥ 単純な数値計算
- ⑦ 関数の学習
- ⑧ アルゴリズムとプログラムの設計
- ⑨ サブルーチン
- ⑩ 「ハノイの塔」の問題解決
- ⑪ プログラムのライフサイクル
- ⑫ 電気回路とトランジスタ
- ⑬ 超大規模集積回路
- ⑭ マシンアーキテクチャ
- ⑮ まとめ

マルチメディアシステム

【担当】 片岡 章俊、外村 佳伸、藤田 和弘

【開講】 前期 木2

■サブタイトル

要素技術からシステムまで

■講義概要

音声や画像をはじめとするさまざまな情報が統合され、機能するマルチメディアシステムは、今や情報サービスに欠かせない重要な技術である。本講義では、まず基本となるデジタル信号処理からメディア毎の処理技術を押さえた後、マルチメディアシステム化に欠かせないハンドリング技術、インタフェース技術、コンテンツ関連技術、さらに最近のスマート化技術など、マルチメディアシステムに関する基礎から応用まで幅広い視野をカバーする。

■到達目標

- ・ 音と画像を中心にマルチメディアの基本的な処理技術を理解している
- ・ マルチメディアシステムの構成について説明できる
- ・ マルチメディアシステム化に必要な要素技術について説明できる
- ・ 最近のマルチメディアシステム関連の動向とその概要を把握している

■講義方法

主として講義方式（内容に応じて、プリント、パワーポイントを用いる）。

適宜、小テストの実施、レポートの提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に適宜指示する

■成績評価の方法

小テスト（30%）授業中に適宜実施

定期試験（70%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

本講義で、情報関係の技術者がマルチメディアシステムに関して基本的に知っておくべきことを学んで、視野の広い技術者になってもらいたい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

コンタクトは授業直後に

■講義計画

- ① ガイダンス、マルチメディアシステム概論
- ② 信号処理基礎
- ③ 静止画像・動画像処理
- ④ 静止画像・動画像符号化技術
- ⑤ 画像特徴抽出・認識
- ⑥ 音声・音響信号処理
- ⑦ 音声符号化技術
- ⑧ 音声認識、合成
- ⑨ コミュニケーションシステム
- ⑩ マルチメディアデータ、メタデータ、データベース
- ⑪ マルチメディア入出力技術
- ⑫ ユーザインタフェースと情報デザイン
- ⑬ コンテンツ技術
- ⑭ インテリジェントシステム
- ⑮ まとめ

メディア工学演習

【担当】 岡田 至弘、藤田 和弘、渡邊 靖彦
【開講】 前期 木4・木5

■講義概要

メディア工学を学ぶ上で必要となる、画像・映像・音響・言語などのメディアについての基礎知識と処理技術を修得することを目的として演習を行う。本演習では、与えられた問題を単に解く能力ではなく、問題解決を行うための問題分析能力および解決能力を、プログラミング、信号測定、機器の組み立てなどを通して修得する。また、問題解決のための手順や結果を報告書にまとめた上で発表を行うことにより、「文書作成能力」および「プレゼンテーション能力」を高めていく。

■到達目標

問題分析能力および解決能力、文書作成能力およびプレゼンテーション能力を身に付ける。4年次に取り組むことになる卒業研究や卒業後の就職先で求められている能力を総合的に高める。

■講義方法

各自に与えられた課題を定められた時間内に完成させる。課題は複数用意されている。それぞれの課題完成後には、プレゼンテーションを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

課題に対応した、基礎概念・アルゴリズムについて十分な予習を行うこと。

■成績評価の方法

平常点 (50%)
レポート (30%)
その他 (20%)
課題達成度、報告書の内容、プレゼンテーションの内容を総合的に判断する。

■テキスト

電子データもしくはプリント配布

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①演習課題1
- ②演習課題1
- ③演習課題1
- ④演習課題1
- ⑤全体プレゼンテーション
- ⑥演習課題2
- ⑦演習課題2
- ⑧演習課題2
- ⑨演習課題2
- ⑩演習課題3
- ⑪演習課題3
- ⑫演習課題3
- ⑬演習課題3
- ⑭演習課題4
- ⑮プレゼンテーション

メディア構成論

【担当】 藤田 和弘
【開講】 前期 月1

■サブタイトル

画像処理と認識

■講義概要

メディアとして、画像は重要なものの一つであり、その画像を扱う学問分野として、画像工学がある。画像工学では、不鮮明な画像を鮮明化したり、エッジつまり物体の輪郭線を抽出して、その後、その物体を認識するなど、非常に広い範囲の内容を扱う。

この講義では、画像工学の中心的内容である画像処理と認識を主なテーマとし、一般的な画像処理だけでなく、画像情報の圧縮、2値画像処理、画像の特徴抽出、画像認識などの幅広い領域の基本的な内容について、議論する。

■到達目標

将来、マルチメディア処理を学ぶ上での基本となる知識を習得し、簡単な画像処理のプログラムが理解できるようになる。

■講義方法

テキストを中心に授業を行い、内容の理解度をチェックするために、適宜小テストを行う。
また、課題レポートを2回程度提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業前に、テキストの指示する部分を予習するとともに、毎授業後は、復習としてe-Learning System上の小テストを受験すること。

■成績評価の方法

小テスト (10%)
レポート (20%)
定期試験 (70%)

■テキスト

田村秀行 『コンピュータ画像処理』 オーム社 3,900円

■参考文献

R.C.Gonzalez 『Digital Image Processing Third Edition』
Prentice Hall

■オフィスアワー・教員への連絡方法

基本的には、水曜日3限目ですが、出張や会議の場合もあります。
情報メディアセンターのCourse Management System (Moodle)で、質問などをすることも可能です。

■講義計画

- ①ガイダンス（授業の概要、履修の仕方、Course Management System (Moodle) の利用の仕方、予習・復習）画像処理の紹介
- ②2.1 画像データの扱い、2.2 ヒストグラム
- ③2.3 画像処理の形態、2.4 周波数領域での処理 (1)
- ④2.4 周波数領域での処理 (2)
- ⑤2.5 直交変換、2.6 画像の表現とデータ構造
- ⑥2.7 色彩情報の取扱い、2.8 画像情報の表示
- ⑦4.1 強調・復元・再構成、4.2 コントラスト強調
- ⑧4.3 鮮鋭化、4.4 平滑化と雑音除去、4.5 画像復元
- ⑨4.6 画像の補正、5.2 画像の2値化処理、5.3 連結性と距離
- ⑩5.4 解析と変換、5.6 形状の特徴と表現
- ⑪6.2 エッジ抽出、6.3 線の抽出
- ⑫6.4 領域分割、6.5 テクスチャ解析、8.2 位置検出、8.3 照合による認識
- ⑬8.5 統計的パターン認識
- ⑭3 画像情報の圧縮
- ⑮総括

メディア処理論

【担当】 渡邊 靖彦

【開講】 後期 火4

■講義概要

本科目は、デジタル化されたメディアデータの中から必要な情報を取り出すための解析手法を身につけることを目的とする。

また、linux環境の利用を前提とした課題学習を行う。

講義の前半では、人間にとって情報とはなにか、どのような種類の情報があるのかについて述べ、情報はいろいろな深さで解釈され意味づけされるものであることを説明する。

そして、データと情報の区別、情報と知識の区別を明らかにする。

講義の後半では、音声や画像といったメディアデータを対象に、メディア処理の方法について学び、周波数領域の処理を行うプログラムを作成することを目標とする。

なお、メディア工学演習の履修を予定している場合は、本科目の履修を強くすすめる。

■到達目標

メディアデータの解析

■講義方法

教科書および配布資料によりすすめる。

講義内容の理解をふかめるため、linux 環境の利用を前提とした課題学習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書などを読み、授業で何を学習するかを頭の中に入れておきましょう。

演習問題を解いてみると授業がより効果的になります。

■成績評価の方法

レポート (50%)

定期試験 (50%)

レポート、期末試験を総合的に評価する。

■テキスト

長尾真 『マルチメディア情報学の基礎』 岩波書店 3,400円

井上誠 『C言語で学ぶ実践画像処理』 オーム社

■参考文献

Steve Oualline、望月 康司、谷口 功 『C実践プログラミング』 オライリー・ジャパン

カーニハン、リッチー著、石田 晴久訳 『プログラミング言語C ANSI規格準拠』 共立出版

■講義計画

- ①人間にとっての情報
- ②人間にとっての情報の諸形態
- ③情報と知識
- ④情報・知識の利用
- ⑤画像データ・音響データ
- ⑥画像の回転
- ⑦画像の合成
- ⑧画像の輪郭線抽出
- ⑨周波数領域への変換
- ⑩離散フーリエ変換
- ⑪画像の2次元フーリエ変換
- ⑫フィルタ処理
- ⑬情報と記号論
- ⑭情報メディア間の相互変換
- ⑮知識の体系化、まとめ

メディアデザイン

【担当】 曾我 麻佐子

【開講】 前期 金3

■サブタイトル

メディア処理の基礎

■講義概要

情報メディアの基礎として、メディアの種類、メディアが伝える情報、ネットワークによるコミュニケーションやコミュニティなどについて議論する。また、現在実際に行われているメディア処理技術（文字、音声、画像等）の概要や先端技術の事例を紹介する。

■到達目標

メディアについて理解し、メディア処理技術の基礎を習得する。

■講義方法

テキストを中心に講義を行い、内容の理解度をチェックするために、適宜小テストや小レポートを行う。講義終盤で、レポート課題発表会を実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習として、授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

小テスト (10%)

レポート (70%)

■テキスト

特になし

■参考文献

矢島敬士 『メディアコミュニケーション論』 コロナ社 2,205円

■講義計画

- ①ガイダンス（授業の概要、メディアデザイン総論）
- ②メディアの種類と分類
- ③社会とメディアの変遷
- ④メディアが伝える情報、メディアリテラシー
- ⑤ネットワークコミュニケーション
- ⑥通信メディアと放送メディア
- ⑦メディアアート
- ⑧メディア処理技術（文字）
- ⑨メディア処理技術（画像、映像）
- ⑩メディア処理技術（音声、音楽）
- ⑪メディア処理技術（ネットワーク、携帯端末）
- ⑫メディア処理技術（インタフェース）
- ⑬応用、先端技術
- ⑭課題発表
- ⑮まとめ

■講義概要

人間による情報伝達において「メディア」は必要不可欠な媒体である。本講義ではメディアを媒体とした視覚・聴覚による情報伝達系「情報メディア系」に関する基礎理論の習得を目指す。本講義では特に1次元信号である音メディアを対象とし、その物理的性質と表現法、さらに分析法について概説し、簡単な演習を通してそれらを習得する。また、音メディアに関する感覚系について述べ、人間と音の様々な関係について学ぶ。音響メディア系に興味を持つ学生だけでなく情報メディア系全般に興味を持つ学生は、本講義を通してメディアに関する多くの知見を得ることができる。

■到達目標

計算機でのデジタルメディアの取り扱い技術の習得を目指して、基礎となる1次元信号の基本的性質や信号解析法と、それに対する人の受容メカニズムについて理解する。

■講義方法

講義、プリント配布、プロジェクタ使用、一部実演付。

■系統的履修

基礎的なプログラミング能力に関する講義。音に対する物理的・心理的側面について考察するため、学際的な勉学姿勢が求められる。

■授業時間外における予・復習等の指示

高等学校での物理学、電気回路、解析学の基本的な概念を復習しておくこと。必要に応じてフリーソフト（PureData）を用いた演習を実施するため、自宅で復習ができる柔軟な計算機環境を持つことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点（20%）
小テスト（80%）

提出物を含む平常点で20点、中盤と終盤の合計2回の小テストで80点、合計100点を満点とする。

■テキスト

岩宮眞一郎 『よくわかる最新音響の基本と仕組み』 秀和システム 1,575円

■参考文献

日本音響学会 『音響用語辞典』 コロナ社 10,000円
中村健太郎 『音のしくみ』 ナツメ社 1,300円
B.C.J.ムーア著、大串監訳 『聴覚心理学概論』 誠信書房 4,725円

■履修上の注意・担当者からの一言

受身的に表面的に覚えこむのではなく、基礎的な概念と実感を関連付けて、自ら理解し体得すること。

■講義計画

- ①音の仕組み
- ②聴覚系の仕組み
- ③音の基本特性
- ④音の高さ
- ⑤音色の知覚（1）音色の定義、音色因子
- ⑥音色の知覚（2）協和性、シャープネス、変動感とラフネス
- ⑦空間音響
- ⑧小テスト1
- ⑨オーディオ
- ⑩サンプリング
- ⑪エイリアシング、量子化
- ⑫音の複素表現
- ⑬音のスペクトル
- ⑭音信号の解析
- ⑮小テスト2

教職課程科目

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
カ	介護等体験	大西 俊弘／山中 健一／脇田 博文	通年	集中	177
	学校カウンセリング論	石川 眞理子	前期	水 4	178
	学校教育社会学	池田 曜子	後期	水 3	179
キ	教育の方法と技術	神月 紀輔	前期	木 1	179
	教育課程論	大西 俊弘	後期	土 2	180
	教育実習指導Ⅰ	大西 俊弘／山中 健一／脇田 博文	前期	月 3	180
	教育実習指導Ⅱ A	大西 俊弘／山中 健一／脇田 博文	通年	集中	181
	教育実習指導Ⅱ B	大西 俊弘／山中 健一／脇田 博文	通年	集中	181
	教育社会学	森 繁男	通年	月 3	182
	教育社会学Ⅰ	森 繁男	前期	月 3	183
	教育社会学Ⅱ	森 繁男	後期	月 3	183
	教職実践演習（中・高）	各教員 （大西 俊弘／山中 健一／脇田 博文）	後期	月 3・4、 火 1・2、 水 4、金 4	184
	教職論	山中 健一	前期	土 2	185
シ	情報科教育法	松原 伸一	通年	水 1	186
	情報科教育法Ⅰ	松原 伸一	前期	水 1	187
	情報科教育法Ⅱ	松原 伸一	後期	水 1	187
	人権教育論／同和教育論	岸 衛	前期	水 4	188
セ	生徒指導論	脇田 博文	後期	金 1	188
ト	道德教育指導法	牧崎 幸夫	後期	土 1	189
	特別活動論	脇田 博文	前期	金 1	190

■サブタイトル

心豊かな教師を目指して～「介護等体験」への参加～

■講義概要

子ども達に「豊かな心」を育むことが今日の教育の大きな課題となっている。そのためには、まず教師自らが「豊かな心」をもつ存在でなければならない。障害者や高齢者などに対する介護、介助、これらの人々との交流が、人間の尊厳を自覚させ、相手の立場や心に思いを馳せる「豊かな心」を育む貴重な経験となるのである。

国では教育職員免許法の特例等に関する法律（平成10年4月1日施行）により、小・中学校の教員免許状を取得しようとする者に「介護等体験」への参加を義務づけている。これを基に本学では、特別支援学校および社会福祉施設で行う「介護等体験」とともに、その事前・事後に大学で必要な指導を行い、それらを総合して教職関係科目に位置づけている。

■到達目標

教師に必要な「豊かな心」を育む。

■講義方法

- ・1年次の10月からガイダンスが始まるので掲示には注意しておくこと。1年次に2回の説明会と講演会を行い、2年次には説明会及び事務手続きを行い、6月より随時体験に入る。
- ・2年次生以上の履修についても1年次生と同様。

■授業時間外における予・復習等の指示

指示されたことを確実に遵守し、龍谷大学生としての自覚をもって体験を行うこと。

■成績評価の方法

- 平常点（50%）事前・事後指導及び体験への参加状況、意欲・態度を評価する。
- その他（50%）提出された記録簿、レポートの内容、学校・施設からの報告書等を総合的に評価する。

上記の尺度・割合を目安として総合して単位認定する。ただし、下記の履修上の注意にもあるように、説明会・講演会の欠席、提出物の遅れ、体験の無断欠席や遅刻等、教職への適性を著しく欠く場合には単位を認定しない。

■テキスト

講義で適宜配布する。

■参考文献

講義で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

- ①説明会や講演会には必ず出席すること。無断欠席の場合は受講資格を失う。公欠等でやむなく欠席する場合は事前に相談・届出をし、指示を受けること。
- ②教育実習の先修要件であるので、3年次までに履修すること。
- ③書類などの提出日は厳守すること。
- ④進路変更などにより受講を途中で辞退する者は教職課程教室に「辞退届」を提出すること。
- ⑤「体験」への無届け欠席や遅刻は絶対に許されない。
- ⑥「体験」には真摯な態度で臨むこと。

■講義計画

- ①介護等体験説明会①－ガイダンス及び登録
- ②介護等体験説明会②－介護等体験の意義と課題
- ③介護等体験講演会1－障害児教育諸学校
- ④介護等体験説明会③及び事務手続き
- ⑤介護等体験講演会2－福祉施設
- ⑥介護等体験説明会④－福祉施設への参加手続き
- ⑦介護等体験説明会⑤－特別支援学校への参加手続き
- ⑧介護等体験への参加
 1. 障害児教育諸学校 2日間
 2. 社会福祉施設 5日間
- ⑨介護等体験を振り返って－記録簿等の書類提出

■サブタイトル

教育現場で活かすカウンセリングを学ぶ

■講義概要

教育現場では不登校、いじめ、校内暴力、学級崩壊などの心理・社会的諸問題が多発している。

このような問題の指導や解決のためには、教師自身も心理カウンセリングの資質が必要となってくる。

本講義では、学校現場におけるカウンセリングの基礎を学び、心理カウンセリング的な基本的態度と、具体的な対応について理解を深めていくこととする。

■到達目標

教育活動における心理カウンセリング的な基礎知識を習得し、問題を抱えた児童・生徒への援助方法を習得する。

■講義方法

講義+演習形式で行う。必要に応じて、資料・プリントを配布、視聴覚教材を用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業では小テストを5回実施するので、毎回授業の復習をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 平常点 (出席+演習) 取り組みを重視する

小テスト (30%) 小テストを5回実施する

レポート (20%) 最終講義で発表

その他 (10%) ミニレポート (2回)

主体的な授業態度を重視する。

■テキスト

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献

馬場謙一・松本京介 (編) 『スクールカウンセリングの基礎と経験』 日本評論社

管佐和子・木之下隆夫 (編) 『学校現場に役立つ臨床心理学』 日本評論社

松原達哉 (編) 『教師のためのカウンセリング技術』 教育開発研究所

関連文献は講義中に適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

本講義では座席指定制を導入。

初講時の出席により座席を決定しますので、受講希望者は初講の参加が重要となります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メール連絡とします。

miv26045@fc.ritsumeai.ac.jp

■講義計画

①オリエンテーション

②学校カウンセリング基本的理解 (1)
問題のある児童・生徒の早期発見・観察法

③学校カウンセリング基本的理解 (2)
問題のある児童・生徒の早期発見・診断・効果の測定のための心理テスト

④学校カウンセリング基本的理解 (3)
教師のための予防的・開発的グループカウンセリング技術

⑤学校カウンセリング基本的理解 (4)
個別面接による来談者中心カウンセリングの技術

⑥学校カウンセリング基本的理解 (5)
人間関係づくりのための集団カウンセリング

⑦学校カウンセリング基本的理解 (6)
社会生活能力を育てる訓練法

⑧学校カウンセリング基本的理解 (7)
進路指導のためのキャリアカウンセリング

⑨学校カウンセリングの基本的理解 (8)
無気力・無意欲の児童・生徒のための生活分析的カウンセリング

⑩学校カウンセリング応用 (1)
不登校・ひきこもりへの対応

⑪学校カウンセリング応用 (2)
いじめへの対応

⑫学校カウンセリング応用 (3)
学級崩壊への対応

⑬学校カウンセリング応用 (4)
暴力・非行への対応

⑭学校カウンセリング応用 (5)
スクールカウンセラーと連携した指導

⑮ミニ施行カウンセリング演習
まとめ

■講義概要

教育社会学の代表的な理論を、その歴史と近年の研究動向を踏まえながら解説する。
特に、教育社会学の理論と学校組織、教育環境との関連に焦点を絞り、どのようにして、これからの社会における新しい教育のあり方、学校のあり方を多面的に考えていく。

■到達目標

講義内で取り上げる事象を身近なものとしてとらえ、批判的な思考力を養うことによって、その他の事象に関しても自ら理解を深められるようになることを目指す。

■講義方法

講義ごとに配布するレジュメや資料を利用し、講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

教育社会学に関する基礎的な概念・知識に関して、授業後復習し理解することが望ましい。
授業で取り扱った内容に関連した時事問題に関心を持ち、積極的に授業において自ら紹介できるようになることを推奨する。

■成績評価の方法

レポート（30%）毎授業終了時に提出してもらう小レポート
定期試験（70%）学期末の筆記試験

■テキスト

講義ごとにレジュメや資料を配布します。

■参考文献

講義内において適宜紹介します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業前後の時間またはy-ikeda@cc.nara-wu.ac.jpまで連絡してください。

■講義計画

- ①イントロダクション
日本の教育界の現状
- ②いじめ
- ③不登校
- ④子どもの居場所
- ⑤教師生徒関係
- ⑥教師の多忙化
- ⑦カリキュラムと学力①
- ⑧カリキュラムと学力②
- ⑨学ぶことの意味
- ⑩選抜と進路選択①
- ⑪選抜と進路選択②
- ⑫階層と努力①
- ⑬階層と努力②
- ⑭これからの学校の可能性①
- ⑮これからの学校の可能性②

■講義概要

講義は前半と後半で大きく2つにわけられる。
前半は、生徒が「主体的に学ぶ」ことを意図した授業設計を実践的に行う。
後半は、教育の情報化に伴うデジタル技術について概観したのち、教育現場における情報機器の活用を授業でどのように取り入れるかについて、実践的に考える。
情報機器に関する最新の情報を適宜講義の中で紹介し、また、情報機器を扱う上で重要な情報モラルについても考える時間をとりたいと考えている。

■到達目標

教育実践において、次のことができるようになることを目標に置く
・生徒の主体的な学びをデザインできる。
・生徒の効果的な情報機器の活用を支援できる。

■講義方法

講義とグループによる演習およびe-Learningをブレンドした形で行う予定である。
グループ編成は初回に行うので、できるだけ欠席のないように。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自が取得しようとする教員免許の指導法については復習しておきたい。
また、最新の教育事情や情報機器の取り扱いについても、新聞やマスコミなどで情報を得ておくとさらに学習を進めることができる。
メールやWebによりコメント収集やレポート提出を行うので基本操作の復習をしておきたい。

■成績評価の方法

平常点（30%）自己評価、相互評価、到達度評価シートなど
小テスト（30%）2～3回、知識理解について授業内でテストを行う。
レポート（40%）学校における理想の教育方法について、メールにより提出
5回以上の欠席は単位を認定しません。

■テキスト

特になし

■参考文献

西之園 晴夫 『学習ガイドブック教育の技術と方法―チームによる問題解決のために』 ミネルヴァ書房 1,890円
教員免許取得予定の校種・教科の学習指導要領解説は随時使用する。
その他、参考文献は適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

グループ学習が中心となるので、積極的な参加が望まれます。
できるだけ欠席をしないようがんばりましょう。
メールによりレポート等の提出をするので、PCの基本的操作を復習しておいてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

連絡先 norisuke@norisuke.net
メールで連絡をお願いします。

■講義計画

- ①ガイダンス、グループ分け
- ②教育とは、学習とは
- ③教育学
- ④主体的に学ぶとは
- ⑤主体的に学ぶための授業デザイン
- ⑥主体的な学び相互評価
- ⑦情報教育とは
- ⑧情報の科学的理解
- ⑨情報モラルと人権教育、生徒指導
- ⑩教育における情報機器の活用
- ⑪情報活用の実践力
- ⑫情報活用の実践力を意図した授業デザイン
- ⑬情報活用の実践力相互評価
- ⑭これからの機器活用
- ⑮まとめと自己評価

■講義概要

すべての教育活動には目的があり、その目的を遂行するには、綿密な計画が必要となる。学校における教育活動の計画（全体）が、教育課程であるといえる。本講義では、教育課程について生徒の視点ではなく、教師（指導者）の視点で捉えて解説する。具体的には、次のような内容に取り組む。

1. 中学校・高等学校における教育課程について、実例を通して概観する。
2. 学校現場と教育行政との関係を踏まえた上で、教育課程編成の手順について学ぶ。
3. 戦後の教育課題と関連させながら、学習指導要領の変遷について学ぶ。
4. 近年の学力観・評価観について解説し、教育課程編成における新しい取り組みと紹介する。
5. 学習指導要領の改訂と学力低下問題の関係について考察する。
6. 諸外国の教育制度・教育課程を参考にして、今後の日本の教育のあり方を考える。

■到達目標

学校現場における教育課程の重要性について認識し、様々な教育問題への興味・関心を深める。学校現場の状況及び国の政策について学ぶことにより、今後の教育が目指していくべき方向性について考える。

■講義方法

講義形式ではあるが、出来る限り学生参加型の授業としたい。また、視聴覚教材の活用も積極的に図りたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず確実に復習を行い、理解を確実なものとしてほしい。

■成績評価の方法

レポート（10%）レポート未提出の場合は、単位を認定しない。
定期試験（90%）基本事項を幅広く出題、記述式
レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。
授業への参加は必須要件であり、特別な事情なしに3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。

また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

田中耕治 他3名 『新しい時代の教育課程』 有斐閣アルマ 1,900円

中学校・高等学校の学習指導要領やその解説書が必要になる場合があるが、その都度指示する。

その他の参考文献については適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117号室）にて。

連絡方法：電子メールにて（メールアドレスは講義で連絡）

■講義計画

- ①序論（教育をめぐる社会の状況）
- ②戦前の教育制度・教育改革
- ③戦前の教育課程について
- ④戦後の教育改革と生活単元学習
- ⑤系統学習と戦後の学習指導要領の変遷
- ⑥学校教育に関する法体系と教育課程
- ⑦高等学校の各種制度と学習指導要領
- ⑧教育課程編成の実際
- ⑨高等学校における未履修問題
- ⑩学力低下問題と学習指導要領の関係
- ⑪国際的な学力調査の結果が教育課程に及ぼす影響
- ⑫観点別評価と生徒指導要録
- ⑬外国の教育課程
- ⑭教育改革の方向性と新学習指導要領
- ⑮新学習指導要領の実施に向けての課題

教育実習指導Ⅰ

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅱ（事前指導）

[担当] 大西 俊弘、山中 健一、脇田 博文
前期 月3

■サブタイトル

教育実習に向けて

■講義概要

教育実習は教員養成課程の総仕上げとしての位置付けを持つ。実習生にとっては生涯忘れ得ぬ感動を得る機会である。同時に、実習校及び実習校の生徒にとっても絶対に有意義なものでなければならない。

そのために、実習生は教師として必要な最低限の見識と能力を備えている必要がある。本学では教育実習の先修科目として「教育原論」「発達と教育（青年心理学）」「教科教育法」「人権論A」「人権論B」「介護等体験」を必修と定めている。この他にも、「教師論」「生徒指導論」「学校カウンセリング論」「メディア教育論」「教育制度論」等の教職科目と、できるだけ多くの「教科に関する科目」を実習前年までに修得している事が望ましい。

これら先修科目の基盤として、教師として必要な責任の自覚を促し、教育実習に関する実務の内容を教授するのが「教育実習指導Ⅰ」の目的である。

■到達目標

教壇に立つ心構えを身につける。

■講義方法

必要な資料を配布して説明する。

■系統的履修

教育実習指導ⅡAまたは教育実習指導ⅡB

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜指示を行う。

■成績評価の方法

平常点（30%）出席状況

レポート（60%）毎回の講義で提出を求めるレポートの内容

その他（10%）教職を目指す者にふさわしい意欲・態度等上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。

■テキスト

『教育実習の手引き』（龍大教職課程教室編）を配布する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

教育実習前は健康管理に十分気をつけること。

■講義計画

- ①はじめに（教育実習の意義）
- ②教育実習の準備と心得
- ③教員の服務
- ④教科指導
- ⑤教科外活動の指導
- ⑥最近の学校教育の現状と課題
- ⑦今後の教育改革の方向
- ⑧教育実習後の総括

教育実習指導Ⅱ A

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅲ A（教育実習）

[担当] 大西 俊弘、山中 健一、脇田 博文

通年 集中

■サブタイトル

教えられる立場から教える立場へ

■講義概要

「教育実習指導Ⅱ A」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など実に多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。

教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。

■到達目標

「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法

学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修

教育実習指導Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示

十分な教材研究を事前に行うこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）実習後の報告・事後指導

レポート（30%）実習記録・指導案・レポート

その他（60%）実習校の評価

上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告

は必ず実習終了後2週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。

■テキスト

特になし

■参考文献

教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）

■履修上の注意・担当者からの一言

- ・真摯な態度で参加すること。
- ・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画

- ①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
- ②事前打ち合わせ
- ③オリエンテーション
- ④教科指導
 1. 授業見学（多くは期間前半に実施）
 2. 授業実施（多くは期間後半に実施）
 3. 研究授業と批評会
- ⑤特別活動の指導
 1. 学級（SHR、LHR）指導
中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
 2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
- ⑥その他の校務分掌業務について
- ⑦教育実習全体の反省
- ⑧教職に就くに当たっての心得など

教育実習指導Ⅱ B

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅲ B（教育実習）

[担当] 大西 俊弘、山中 健一、脇田 博文

通年 集中

■サブタイトル

教えられる立場から教える立場へ

■講義概要

「教育実習指導Ⅱ B」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など実に多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。

教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。

■到達目標

「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法

学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修

教育実習指導Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示

事前に十分な教材研究を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）実習後の報告・事後指導

レポート（30%）実習記録・指導案・レポート

その他（60%）実習校の評価

上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告

は必ず実習終了後2週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。

■テキスト

特になし

■参考文献

教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）

■履修上の注意・担当者からの一言

- ・真摯な態度で参加すること。
- ・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画

- ①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
- ②事前打ち合わせ
- ③オリエンテーション
- ④教科指導
 1. 授業見学（多くは期間前半に実施）
 2. 授業実施（多くは期間後半に実施）
 3. 研究授業と批評会
- ⑤特別活動の指導
 1. 学級（SHR、LHR）指導
中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
 2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
- ⑥その他の校務分掌業務について
- ⑦教育実習全体の反省
- ⑧教職に就くに当たっての心得など

■サブタイトル

（前期）教育社会学入門 （後期）教育現象の社会学的理解

■講義概要

教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。本授業は教育に対するこうしたアプローチから次のように展開してゆく。

まず前期では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。

続いて後期では、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。

■到達目標

「教育」というきわめて「価値的」な営みを「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握し、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。

■講義方法

前期では、主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。

後期では、上記の方法以外に、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。

■系統的履修

「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問や「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト

（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献

（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言

ミクロな「相互作用」とマクロな「社会構造」との関連の中で「教育現象の発生」を理解するような社会学的視点を養い、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②社会学的社会観と教育作用（1）
- ③社会学的社会観と教育作用（2）
- ④教育社会学の視点と方法（1）
- ⑤教育社会学の視点と方法（2）
- ⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（1）
- ⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（2）
- ⑧現代学校の理念と現実（1）
- ⑨現代学校の理念と現実（2）
- ⑩社会の変化と家族関係（1）
- ⑪社会の変化と家族関係（2）
- ⑫メディアと地域教育環境
- ⑬教育問題の発生と解釈（1）
- ⑭教育問題の発生と解釈（2）
- ⑮前期のまとめ
- ⑯教育学と社会学の接点（1）
- ⑰教育学と社会学の接点（2）
- ⑱家族・学校と教育の階層性（1）
- ⑲家族・学校と教育の階層性（2）
- ⑳文化的再生産と社会的相互作用（1）
- ㉑文化的再生産と社会的相互作用（2）
- ㉒ディスカッション（その1）
- ㉓ジェンダーと教育の諸現象（1）
- ㉔ジェンダーと教育の諸現象（2）
- ㉕メディアと青少年の文化問題（1）
- ㉖メディアと青少年の文化問題（2）
- ㉗ディスカッション（その2）
- ㉘教育社会学と教育実践
- ㉙教育社会学と教育改革
- ㉚後期のまとめ

教育社会学Ⅰ（2007年度以降入学生）

【担当】 森 繁男
前期 月3

■サブタイトル

教育社会学入門

■講義概要

教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。まず前期の本授業では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。

■到達目標

「教育」というきわめて「価値的」な営みを、「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握する態度を養いたい。

■講義方法

主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。

■系統的履修

「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト

（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献

（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言

日常の人と人とのコミュニケーション（相互作用）を注意深く観察し、人間関係や人間形成のあり方と社会の仕組み（社会構造）とをつないでいる「文化」を読み取るよう心がけていただきたい。（なお、本科目を「教職科目」として受講するつもり理工学部学生は、本科目よりも別途開講されている「学校教育社会学」を受講することが望ましい。）

■講義計画

- ① イントロダクション
- ② 社会学的社会観と教育作用（1）
- ③ 社会学的社会観と教育作用（2）
- ④ 教育社会学の視点と方法（1）
- ⑤ 教育社会学の視点と方法（2）
- ⑥ 社会化のとりえ方と社会学パラダイム（1）
- ⑦ 社会化のとりえ方と社会学パラダイム（2）
- ⑧ 現代学校の理念と現実（1）
- ⑨ 現代学校の理念と現実（2）
- ⑩ 社会の変化と家族関係（1）
- ⑪ 社会の変化と家族関係（2）
- ⑫ メディアと地域教育環境
- ⑬ 教育問題の発生と解釈（1）
- ⑭ 教育問題の発生と解釈（2）
- ⑮ 前期のまとめ

教育社会学Ⅱ（2007年度以降入学生）

【担当】 森 繁男
後期 月3

■サブタイトル

教育現象の社会学的理解

■講義概要

本授業では、前期の「教育学社会学Ⅰ」に引き続いて、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。

■到達目標

社会学的視点と方法から、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。

■講義方法

「レクチャー」をプリントやビデオで補いつつ、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。

■系統的履修

「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。さらに前期の「教育社会学Ⅰ」を先修していることが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト

（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献

（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言

様々な「教育現象」を社会学的にとらえ、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。

■講義計画

- ① 教育学と社会学の接点（1）
- ② 教育学と社会学の接点（2）
- ③ 家族・学校と教育の階層性（1）
- ④ 家族・学校と教育の階層性（2）
- ⑤ 文化的再生産と社会的相互作用（1）
- ⑥ 文化的再生産と社会的相互作用（2）
- ⑦ ディスカッション（その1）
- ⑧ ジェンダーと教育の諸現象（1）
- ⑨ ジェンダーと教育の諸現象（2）
- ⑩ メディアと青少年の文化問題（1）
- ⑪ メディアと青少年の文化問題（2）
- ⑫ ディスカッション（その2）
- ⑬ 教育社会学と教育実践
- ⑭ 教育社会学と教育改革
- ⑮ 後期のまとめ

■サブタイトル

4年間の総仕上げとして教職への適性を省察する

■講義概要

本授業は教職課程科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認することを目的とする。この意味で、全学年を通じた総仕上げとしての位置付けを持つ。

テーマとしては、本科目の趣旨を踏まえ、教員として求められる①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科内容等の指導力に関する4つの事項を中心に展開する。

【注意事項】先修要件等

ア 教育実習指導ⅡA・ⅡBの先修要件（教育原論等）を満たしている者

イ 4年次前期までの履修カルテの入力を済ませている者

ウ 教育実習指導ⅡA・ⅡBが不合格の場合は、本授業の単位も不認定となる。

■到達目標

将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活を円滑にスタートできるようになる。

■講義方法

授業は、講義概要で示した4つの事項に関する講義・研究協議の他に、より実践場面を想定した課題に基づいて、学生自らがグループ討議、ロールプレイング、発表等を行い、自らの教員としての資質能力を確認するようにする。また、これ以外にも講演会等によって、教職に対する自覚・省察を深める。

【注意事項】授業の一環として、9月下旬に全体会を開催し、オリエンテーション、講演等を行うので必ず参加すること。日程等の掲示に注意すること。

■系統的履修

※「履修カルテ」をWeb上で必ず記入すること。（未記入者は評価対象外とする。）

■授業時間外における予・復習等の指示

『教職実践演習ノート』を使用する。毎回出される課題をその都度適切にこなすこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）授業への参加度・意欲等 ※3分の1以上の欠席者は単位不認定とする。

その他（70%）毎回だされる課題等 ※下記の自由記載参照
上記の評価基準を原則にして総合的に評価を行う。併せて教職科目の修得状況、ボランティア等の学外活動及び本授業を通して、講義概要で示した4つの事項について教職の適性を4段階（ABCD）で評価する。

■テキスト

『教職実践演習ノート』（龍谷大学教職課程編）を配布する。
4月配布の『教育実践研究』（龍谷大学教職課程編）も参考にすること。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

ア 講座の決定については予備登録を実施する。4月当初の履修登録に関する教職課程の指示に十分注意すること。

イ 意欲的に参加すること。就職活動やアルバイト等の個人的な理由による欠席は認めない。

■講義計画

①授業の趣旨・計画・評価及び諸注意

②教職の意義及び教員の役割

③子どもの変化と理解

④協議及びまとめ、今後のスケジュールに関する諸注意等

⑤教育実習を振り返って

⑥テーマ1：教職の意義や教員の役割、職務内容等

⑦テーマ2：子どもの変化と理解、子どもに対する責任等

⑧テーマ3：社会性や対人関係能力

⑨テーマ4：保護者・地域への対応

⑩テーマ5：教科指導力の向上①

⑪テーマ5：教科指導力の向上②

⑫テーマ6：生徒指導力の向上①

⑬テーマ6：生徒指導力の向上②

⑭テーマ7：学級経営力の向上

⑮まとめ：自己評価、アンケート等

■サブタイトル

これからの教員に求められる資質能力とは何か。

■講義概要

教員に求められる資質能力とは何か。まず教員は豊かな教養をもち、高い専門的知識・技能、教員としての使命感、教育的愛情等のいつの時代にも求められる資質能力を有することが必要である。さらに、これからの教員には、社会変化の激しい時代にあって、子どもたちに「生きる力」を育むためにも、幅広い視野、課題解決能力、対人関係能力、変化への対応能力等の実践的指導力を併せてもつことが期待されている。本講義では、今日の教員が直面する教育課題や職務内容など、教職に関する全体像を理解するとともに、教育改革が進む中、これからの時代に期待される教師像について考察していく。

■到達目標

教員に求められる資質能力について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法

講義の他、学生参加型授業を取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

必要に応じて、小テストを実施するので復習をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
小テスト (10%) 必要に応じて実施する。
レポート (10%) 必要に応じて実施する。
定期試験 (50%)
上記の割合を原則として、総合的に評価する。

■テキスト

講義の中で適宜プリントを配布する。

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として、意欲的に受講すること。

■講義計画

- ①教職の意義
- ②教育法規
- ③教員養成
- ④任用と服務
- ⑤勤務条件
- ⑥資質向上と研修
- ⑦学校組織
- ⑧学校経営・学級経営
- ⑨教育課程編成・学習指導
- ⑩生徒指導・進路指導
- ⑪教育課題
- ⑫職務の実際と連携
- ⑬家庭・地域等との連携
- ⑭教育改革
- ⑮教職への道

■講義概要

前期では、情報教育の在り方について論じ、教科「情報」の新設や改訂の経緯と趣旨について述べる。次に、情報教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置付けを明確にし、教科「情報」の目標及び科目編成やその指導法などを取り上げ、情報科教育に関わる方法論を中心に講義する。

また、後期では、教科「情報」の授業内容について考察する。特に、その展開については、問題解決を考慮した内容展開、実習の有効的活用、情報手段の活用、理解定着・自己学習力育成の実習について考察し、情報科教育に関わる内容論を中心に講義する。

■到達目標

前期では、下記の通りとする。

1. 教科「情報」の新設及び改訂の意義について理解を深める。
2. 情報教育の歴史的経緯について理解を深める。
3. 情報教育の在り方とその目標について理解を深める。
4. 情報科教育に関わる方法論について理解を深める。

また、後期では、下記の通りである。

1. 教科「情報」の内容について、理論的側面を中心に理解を深める。
2. 教科「情報」の内容について、実践的側面を中心に理解を深める。

■講義方法

基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法

平常点（30％）毎授業の平常点（小演習、小テストを含む）レポート（20％）授業の展開に合わせて、レポートを課す。
定期試験（50％）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト

松原伸一 『情報学教育の新しいステージ』 開隆堂 2,300円

■参考文献

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説情報編』 開隆堂 210円

■履修上の注意・担当者からの一言

レポートは、電子レポートとする。

電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画

- ①ガイダンスおよび教科教育について
- ②教科「情報」の概要
- ③情報教育の歴史的経緯（1）～教科「情報」の新設まで
- ④情報教育の歴史的経緯（2）～教科「情報」の改訂
- ⑤情報教育の在り方と目標
- ⑥小学校における情報教育
- ⑦中学校における情報教育
- ⑧教科「情報」新設の趣旨と意義
- ⑨共通教科「情報」の目標と科目構成
- ⑩専門教科「情報」の目標と科目構成
- ⑪評価と基準（規準）
- ⑫学習評価
- ⑬授業改善
- ⑭年間指導計画
- ⑮まとめ（前半）
- ⑯後半のガイダンス
- ⑰授業内容研究1 a：データと情報（理論）
- ⑱授業内容研究1 b：データと情報（実践）
- ⑲授業内容研究2 a：アナログとデジタル（理論）
- ⑳授業内容研究2 b：アナログとデジタル（実践）
- ㉑授業内容研究3 a：リアルとバーチャル（理論）
- ㉒授業内容研究3 b：リアルとバーチャル（実践）
- ㉓中間まとめと中間レポートの課題提示と考察
- ㉔授業内容研究4 a：メディア（理論）第5章
- ㉕授業内容研究4 b：メディア（実践）
- ㉖授業内容研究5 a：生活への影響（理論）
- ㉗授業内容研究5 b：生活への影響
- ㉘総合実践研究1
- ㉙総合実践研究2
- ㉚まとめ

情報科教育法Ⅰ（2010年度以降入学生）

【担当】 松原 伸一
前期 水1

■講義概要

情報教育の在り方について論じ、教科「情報」の新設や改訂の経緯と趣旨について述べる。次に、情報教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置付けを明確にし、教科「情報」の目標及び科目編成やその指導法などを取り上げ、情報科教育に関わる方法論を中心に講義する。

■到達目標

1. 教科「情報」の新設及び改訂の意義について理解を深める。
2. 情報教育の歴史的経緯について理解を深める。
3. 情報教育の在り方とその目標について理解を深める。
4. 情報科教育に関わる方法論について理解を深める。

■講義方法

基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法

平常点（30％）毎授業の平常点（小演習、小テストを含む）
レポート（20％）授業の展開に合わせて、レポートを課す。
定期試験（50％）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト

松原伸一 『情報学教育の新しいステージ』 開隆堂 2,300円

■参考文献

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説情報編』 開隆堂 210円

■履修上の注意・担当者からの一言

レポートは、電子レポートとする。
電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画

- ①ガイダンスおよび教科教育について
- ②教科「情報」の概要
- ③情報教育の歴史的経緯（1）～教科「情報」の新設まで
- ④情報教育の歴史的経緯（2）～教科「情報」の改訂
- ⑤情報教育の在り方と目標
- ⑥小学校における情報教育
- ⑦中学校における情報教育
- ⑧教科「情報」新設の趣旨と意義
- ⑨共通教科「情報」の目標と科目構成
- ⑩専門教科「情報」の目標と科目構成
- ⑪評価と基準（規準）
- ⑫学習評価
- ⑬授業改善
- ⑭年間指導計画
- ⑮まとめ

情報科教育法Ⅱ（2010年度以降入学生）

【担当】 松原 伸一
後期 水1

■講義概要

教科「情報」の授業内容について考察する。特に、その展開については、問題解決を考慮した内容展開、実習の有効的活用、情報手段の活用、理解定着・自己学習力育成の実習について考察し、情報科教育に関わる内容論を中心に講義する。

■到達目標

1. 教科「情報」の内容について、理論的側面を中心に理解を深める。
2. 教科「情報」の内容について、実践的側面を中心に理解を深める。

■講義方法

基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法

平常点（30％）毎授業の平常点（小演習、小テストを含む）
レポート（20％）授業の展開に合わせて、レポートを課す。
定期試験（50％）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト

松原伸一 『情報学教育の新しいステージ』 開隆堂 2,300円

■参考文献

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説情報編』 開隆堂 210円

■履修上の注意・担当者からの一言

レポートは、電子レポートとする。
電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画

- ①ガイダンスおよび教科教育について
- ②授業内容研究1 a：データと情報（理論）
- ③授業内容研究1 b：データと情報（実践）
- ④授業内容研究2 a：アナログとデジタル（理論）
- ⑤授業内容研究2 b：アナログとデジタル（実践）
- ⑥授業内容研究3 a：リアルとバーチャル（理論）
- ⑦授業内容研究3 b：リアルとバーチャル（実践）
- ⑧中間まとめと中間レポートの課題提示と考察
- ⑨授業内容研究4 a：メディア（理論）
- ⑩授業内容研究4 b：メディア（実践）
- ⑪授業内容研究5 a：生活への影響（理論）
- ⑫授業内容研究5 b：生活への影響
- ⑬総合実践研究1
- ⑭総合実践研究2
- ⑮まとめ

■サブタイトル

「今」を問う・「自分」を問う

■講義概要

差別は人と人との関係の中で起こる。だから日常の自分と他人の関係の仕方を見つめることから始めたい。
差別問題、人権問題は、いい古された言葉を語った時点で、自分で考えることをやめてしまう。「自分の言葉で何が語れるか」を最終の課題にしたいと考えている。

■到達目標

「今」を見る目が養われる
「自分」と「他人」との関係やあり方が見えてくる

■講義方法

基本的には講義形式で進めるが、可能な限り問答・会話を中心に進める。
人権学習についての「教案」を作り、実際に授業の一部をやってみよう。
自分の言葉で「語る」人権問題のスピーチをする。

■系統的履修

人権論 A・B（岸）

■授業時間外における予・復習等の指示

自分の課題・テーマを設定して、事前に資料その他をそろえて、教案を提出する。

■成績評価の方法

平常点（15%）出席点・コミュニケーション・カード提出
レポート（35%）各テーマのまとめ・教案の提出
定期試験（50%）全体を踏まえて提出

■テキスト

岸 衛著『自分・差別・世間第2版』解放研究所しが 700円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②「青い目・茶色い目」
- ③Black is beautiful
- ④自分を見つめる
- ⑤部落差別問題とは何か
- ⑥部落の何を差別するのか
- ⑦「世間」とは何か
私たちは何を気にしているのか？
- ⑧日本と朝鮮の出会い・歴史
- ⑨明治以降の日本と朝鮮
- ⑩障害者差別問題を考える視点
- ⑪日本の「女性と男性」の歴史
性差別とは何か
- ⑫大学の中の性差別・セクシャルハラスメントを語る・性差別を感じる時
- ⑬「いじめ」を考える
- ⑭「いじめ」を考える
- ⑮アイデンティティと差別

生徒指導論

【担当】 脇田 博文
後期 金1

■サブタイトル

学校教育における生徒指導の意義と役割

■講義概要

急速な社会変化の中で旧来の倫理観・価値観が大きく崩れ、家庭や学校の教育力は低下している中で、生徒指導の重要性とその対応のあり方については認識を新たにすることがある。
最近の学校現場で起こっているいじめ、不登校、学級崩壊等の問題は生徒指導上の喫緊課題であるが、単に表面的な目に見える現象だけに注目し、問題行動を起こす生徒への治療・矯正や防止対策として生徒指導を捉えてはならない。生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格の発達への支援、将来の自己実現に向けてのガイダンスという積極的な教育機能として位置づけられるべきである。
本講義では、まず生徒指導の本質的な意義や役割を明確にした上で、様々な問題例を通してその原因・背景・対処について実証的な考察を加え、さらにガイダンス機能の充実のための進路指導について触れる。そして教員には個人あるいは組織の一員としてどのような資質や能力や役割が求められているか理解したい。

■到達目標

教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法

講義の他、討論・発表等の参加型授業をできるかぎり取り入れる。

■系統的履修

「発達と教育」などの発達・教育心理学関係の科目

■授業時間外における予・復習等の指示

課題には主体的に取り組むこと。また紹介された参考文献等をよく読み、知識を深めるとともに、批判的な思考力を養うこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）授業への参加、意欲・態度等を評価する。
レポート（10%）毎回出される小課題の達成度を評価する。
定期試験（60%）学習内容の理解、教職への適性を試験で評価する。

上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画

- ①はじめに
- ②学校及び青少年の現状と課題 1
- ③学校及び青少年の現状と課題 2
- ④生徒指導の意義と役割 1
- ⑤生徒指導の意義と役割 2
- ⑥生徒指導の意義と役割 3
- ⑦生徒理解 1
- ⑧生徒理解 2
- ⑨生徒理解 3
- ⑩問題行動・学級（授業）崩壊 1
- ⑪問題行動・学級（授業）崩壊 2
- ⑫いじめ・不登校 1
- ⑬いじめ・不登校 2
- ⑭進路指導のあり方
- ⑮まとめ

■サブタイトル

道徳の時間の授業力を磨く

■講義概要

道徳教育の「要」の時間である「道徳の時間」の実践的指導力を身に付けるため、道徳の時間の指導案作成、模擬授業等を行いながら具体的な研究・考察を行う。
適宜、小中学校教員又は研究者による講演を行う。

■到達目標

学習指導要領に示された道徳教育の目標、内容等について理解し、指導計画や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的指導力の基礎を身に付ける。

■講義方法

中学校学習指導要領解説「道徳編」（平成20年9月）を活用し、道徳教育の目標、内容等について理解するとともに、読みもの資料をもとに指導案の作成、模擬授業を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義において、小中学校で行われる道徳教育研究会をはじめ、京阪神地区で毎月行われている「横山利弘先生を囲む道徳教育研究会」や「宇治市道徳教育研究会」等の開催について紹介するので、可能な限り参加し、学校現場の状況を把握するとともに、自らの実践的指導力の向上を図ること。

■成績評価の方法

平常点（20％）平常点（授業への参加態度等）
小テスト（20％）学習指導要領の内容、2回実施
定期試験（60％）提示された読みもの資料による学習指導案の作成

■テキスト

文部科学省 『中学校学習指導要領解説「道徳編」（平成20年9月）』 日本文教出版 139円

■参考文献

横山利弘 『道徳教育とは何だろう』 暁教育図書 2,500円
横山利弘 『道徳教育、画餅からの脱却』 暁教育図書 2,500円
文部科学省 『中学校道徳読み物資料集』 文部科学省 600円
日本道徳教育学会近畿支部 『道徳読み物資料集』 日本道徳教育学会近畿支部 400円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

木曜日2～4講時、金曜日1～4講時
TEL 075-343-3486
E-mail:makizaki@let.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①道徳教育の意義
－なぜ、今、道徳教育なのか－
- ②道徳教育の変遷
－学習指導要領における道徳教育はどのよう改訂されてきたのか－
- ③道徳教育の目標と内容
－道徳教育の目標や内容はどのように示されているのか－
- ④道徳の時間の学習指導案（1）
－ヤマのある授業を行うための指導案作成は、どのような手順によるのか－
- ⑤道徳の時間の学習指導案（2）
－資料はどのように読むのか－
- ⑥道徳の時間の学習指導案（3）
－生徒の多様な意見を引き出す中心発問はどのように作るのか－
- ⑦道徳の時間の学習指導案（4）
－中心発問につなぐ基本発問はどのように作るのか－
- ⑧道徳の時間の授業（1）
－自主性や自律性を育てる授業をどう作るのか－
- ⑨道徳の時間の授業（2）
－思いやりを育てる授業をどう作るのか－
- ⑩道徳の時間の授業（3）
－生命の尊さを考える授業をどう作るのか－
- ⑪道徳の時間の授業（4）
－人間の弱さを克服する力を育てる授業をどう作るのか－
- ⑫道徳の時間の授業（5）
－規範意識を育てる授業をどう作るのか－
- ⑬道徳の時間の授業（6）
－集団や社会との関わりについて考える授業をどう作るのか－
- ⑭学校のエデュケーション全体を通じて行う道徳教育
－道徳教育の全体計画、指導計画はどのように作成するのか－
- ⑮まとめ
－生徒の多様な意見を引き出す道徳の授業はどのように作るのか－

■サブタイトル

もう一つのエデュケーション－学校教育における特別活動の役割

■講義概要

学校での様々な教育活動の意義は、生徒一人ひとりが個性の伸張を図るとともに、集団や社会の一員としての自覚を深め、協力してより良い生活を築こうとする態度を身につけることにある。この意味で、学校が知識や技術の習得のためだけに合目的に機能を単一化し、その本来的な多機能性（特に人間形成）を失い、居心地のよい場所でなくなりつつある現状を見ると、もう一つのエデュケーションである特別活動の意義は見直されるべきである。特別活動は、生徒の自主的、集団的な活動の時間であり、まさに「生きる力」を養う場として、各学校・教員が創造的にいろいろな実践や工夫を行う余地が多く残されている。

本講義では、特別活動のエデュケーション上の位置づけ、その教育的意義と内容、具体的な展開と工夫などについて考察しながら、学校教育における特別活動の基本的な役割について理解を深め、ひいてはこれからの時代に期待される教師のあり方について明らかにしたい。

■到達目標

教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法

講義の他、討論・発表等の参加型授業を導入する。

■授業時間外における予・復習等の指示

随時出される課題には主体的に取り組むこと。

■成績評価の方法

平常点（40％）授業への参加、意欲・態度等を評価する。
小テスト（20％）授業中に出される課題の達成度を評価する。

レポート（40％）学期末の課題の達成度を評価する。

上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜講義中に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画

- ①特別活動の意義と特性 1
- ②特別活動の意義と特性 2
- ③特別活動の意義と特性 3
- ④望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 1
- ⑤望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 2
- ⑥望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 3
- ⑦教育課程としての特別活動
- ⑧学級活動の意義と運営
- ⑨学校行事の意義と実施上の工夫・配慮事項
- ⑩特別活動の指導計画と工夫 1
- ⑪特別活動の指導計画と工夫 2
- ⑫特別活動の指導計画と工夫 3
- ⑬特別活動の指導計画と工夫 4
- ⑭特別活動と特色ある学校づくり・総合的な学習の時間
- ⑮まとめ

本願寺派教師資格課程科目

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
シ	宗教学概論	古賀 和則	通年	月 5	193
	宗門法規	林 春男	前期	集中	194
	真宗学概論	中平 了悟	通年	月 4	194
	真宗史	仲尾 孝誠	通年	土 1	195
ニ	日本仏教史	下間 一頼	通年	火 4	195
フ	仏教学概論	道元 徹心	通年	水 3	196

■サブタイトル

宗教学は宗教をどのように見てきたか

■講義概要

広義の宗教学は、宗教を研究対象とする学問であり、神（宗）学、宗教哲学、宗教史、科学的宗教学の領域があります。また、教義の宗教学では宗教史と科学的宗教学があります。この講義では、まず、広義の宗教学の概要をたどり、続いて狭義の宗教学を取り上げ、主要な研究テーマを絞ります。

■到達目標

宗教研究の概要の理解。

■講義方法

講義形式ですが、前後期に各1回程度の討論会（シンポジウム）を行います。

■系統的履修

「現代社会と宗教」「生活の中の宗教」「心と身体と宗教」「哲学」「社会学」「心理学」「文化人類学」

■授業時間外における予・復習等の指示

ほぼ毎回レポート候補の課題を示すので、準備に取りかかっておく。

■成績評価の方法

平常点（20%）前期、後期各1回以上のミニシンポ参加。
&準備
レポート（80%）前期まとめレポート（40点）、後期まとめレポート（40点）

■テキスト

特になし

■参考文献

上田・柳川編 『宗教学のすすめ』 筑摩書房
石田・藺田編 『宗教学を学ぶ人のために』 世界思想社
井上・月本・星野編 『宗教学を学ぶ』 有斐閣
脇本著 『宗教学入門』 講談社
武・宮庄・高田編 『宗教学の現在』 三和書房
細谷・藤田編 『新しい教養のすすめ 宗教学』 昭和堂

■履修上の注意・担当者からの一言

宗教学には広い範囲があります。それは、対象の宗教が多種多様であることもありますが、また、学ぶ立場の多様性もあります。この講義では、主として、宗教を広くとらえ、科学的に分析しようとする立場にたちます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

e-mail: koga@soc.ryukoku.ac.jpでアポイントを取ることに。

■講義計画

- ①ブリーフィング 宗教学の成立：成立の背景と分野
- ②宗教の規定
- ③科学と宗教
- ④宗教史Ⅰ
- ⑤ミニシンポ「スピリチュアル パワー」
- ⑥宗教史Ⅱ
- ⑦宗教史Ⅲ
- ⑧宗教現象学Ⅰ
- ⑨宗教現象学Ⅱ
- ⑩宗教社会学Ⅰ
- ⑪宗教社会学Ⅱ
- ⑫宗教社会学Ⅲ①
- ⑬宗教社会学Ⅲ②
- ⑭宗教社会学Ⅳ
- ⑮宗教社会学Ⅴ
- ⑯宗教心理学Ⅰ
- ⑰宗教心理学Ⅱ
- ⑱宗教心理学Ⅲ
- ⑲宗教心理学Ⅳ
- ⑳宗教心理学Ⅴ
- ㉑ミニシンポ「現代人の宗教意識」
- ㉒宗教生理学
- ㉓宗教人類学Ⅰ
- ㉔宗教人類学Ⅱ
- ㉕宗教人類学Ⅲ
- ㉖宗教地理学
- ㉗宗教民俗学Ⅰ
- ㉘宗教民俗学Ⅱ
- ㉙宗教民俗学Ⅲ
- ㉚まとめ

■サブタイトル

浄土真宗本願寺派（宗門）の諸規則について

■講義概要

本講義は、浄土真宗本願寺派教師の資格取得に必要な単位として開設されているのであるが、近年の傾向として、必ずしも寺院関係者に限定されることなく、幅広く受講される状況にある。このため、浄土真宗本願寺派（西本願寺）という宗教団体は、どのような目的を持っているのか、また、どのような組織で、どのような活動を展開しているのかなどの点を中心に講義することとする。

■到達目標

浄土真宗本願寺派教師の資格取得によって、寺院住職、布教師就任の途が開かれる。そのため、より重要な責務を全うするために必要な宗門法規の内容理解を深める。

■講義方法

所定のテキストを中心に講義を進めるが、必要に応じて関係資料をプリントで配布することとする。

本講義では、その内容が宗門の諸規則という事からも、特殊な用語が多く用いられているので早く慣れていただきたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間後に、講義内容の復習を行うこと。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

法制部編『浄土真宗本願寺派 宗門基本法規集』本願寺出版社

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①浄土真宗本願寺派（以下、宗門という。）の基本法規について
- ②宗門の組織について①
- ③宗門の組織について②
- ④宗門の諸法規の体系について
- ⑤本山（本願寺）の組織について①
- ⑥本山（本願寺）の組織について②
- ⑦本山以外の寺院の規則などについて
- ⑧宗門の法規と宗教法人法との関係について
- ⑨宗教法人法
- ⑩信教の自由と政教分離の原則について
- ⑪宗教法人法施行以前の宗教関係通達等（明治・大正・昭和初期）
- ⑫宗教法人法施行以前の宗教関係法規について（宗教団税法）
- ⑬宗教法人法施行以前の宗教関係法規について（宗教法人令）
- ⑭宗門基本法規のまとめ
- ⑮確認テスト

真宗学概論

■講義概要

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想の体系的な理解を目的に講義を行う。

「真宗学」の中心は、親鸞聖人によって明らかにされた思想・教義としての「浄土真宗」にある。どのような視点に立とうとも、「真宗学」という名称を用いる以上、親鸞聖人の思想や立場が前提とされる。

釈尊によって説かれた經典、およびインド・中国・日本の諸師（高僧）による經典の解釈を、親鸞聖人はどのように受容したのか。また、親鸞聖人によって説き示された（教えとしての）「浄土真宗」は今に至るまで、どのように理解・解釈されて来たのか。一年間の講義を通して、その概略について講義をしたい。

本講義は、入門的な内容を講義する予定である。しかし、一般的な意味で「簡単」ではないと思う。受講者の主体的な学びの態度がなければ、成立しないことを念頭に置いて受講して欲しい。

■到達目標

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想を体系的に理解できるようになることを目的とする。

■講義方法

講義形式。板書とレジュメを中心に講義を行う。尚、テキストは必ず持参すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に小テストを実施するので、各自自主的な復習をすること。また、課題等については講義時に指示する。

■成績評価の方法

平常点（10%）出席は当然。受講態度などから総合的な判断する

レポート（30%）期末のレポートを予定している。
定期試験（60%）期末のテストを予定している。
規定数以上の出席は、評価の前提。規定に満たない場合は、単位は認定されない。

■テキスト

『浄土真宗聖典註釈版（第二版）』 本願寺出版社
村上速水 『親鸞教義とその背景』 永田文昌堂
その他、講義時に指示する。

■参考文献

講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

◆本講義は「本願寺派教師資格」に関する講義です。講義内容・方針もそれに見合ったものとなるように努めるので、受講者も了承の上受講してください。

◆「真宗学」の理解には、主体的に問い、学ぶことが必要です。知識は大切なものに近づく手がかりになるかも知れませんが、絶対的な条件ではありません。受講者の主体的な学びが必須です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義時に連絡方法などについては説明する。また必要があれば、講義前後に相談してください。

■講義計画

- | | |
|----------|-------------------------|
| 1 回目 | オリエンテーション 講義概略・評価方法等の説明 |
| 2～3 回目 | 仏教とはなにか |
| 4～5 回目 | 浄土真宗とはなにか |
| 6～11 回目 | 親鸞聖人の生涯 |
| 12～18 回目 | 親鸞聖人の思想 |
| 19～29 回目 | 親鸞聖人の思想の背景（三経七祖） |
| 30 回目 | 総括 その他 |

■サブタイトル

浄土真宗の成立と変容の歴史

■講義概要

親鸞が開いた浄土真宗の教団は、今日、御同朋御同行のみ教えに生きる者の同朋教団であると公称されている。では御同朋御同行のみ教えとは、いかなる教えなのか。それは、どのようにして開顕され、また他の諸宗派とどのように違っていったのか。さらには、親鸞の開いた教団がその後、国家および民衆との関係においてどのように展開していったのか。

浄土真宗の成立と変容の歴史について学び、親鸞における信心の社会性の意義と今日的実践課題を共に明らかにしていきたい。

■到達目標

浄土真宗の歴史の全容。日本における宗教と国家、宗教と人権に関する基礎的な知識。

■講義方法

テキストを中心に講義するが、視聴覚教材も活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内で指示する

■成績評価の方法

平常点 (50%)

レポート (10%)

定期試験 (40%)

■テキスト

福岡光超・堀大慈 『真宗史（中央仏教学院テキスト）』（本願寺出版社）

柏原祐泉 『仏教と部落差別その歴史と今日（人権ブックレット9）』 解放出版社

■参考文献

財・同和教育振興会 『差別・被差別からの解放本願寺教団と部落差別（増補版）』 本願寺同朋センター

他は講義の際適宜紹介する

■講義計画

①浄土真宗の教勢

②日本の仏教宗派

③日本への仏教伝来

④日本への仏教伝来

⑤日本仏教の差別体質

⑥日本仏教の差別体質

⑦法然とその教団

⑧法然とその教団

⑨親鸞とその教団

⑩親鸞とその教団

⑪親鸞とその教団

⑫大谷廟堂と本願寺

⑬大谷廟堂と本願寺

⑭蓮如と本願寺教団

⑮蓮如と本願寺教団

⑯一向一揆

⑰一向一揆

⑱近世本願寺教団の形成

⑲近世本願寺教団の形成

⑳近世本願寺教団の形成

㉑近世教学と信仰

㉒近世教学と信仰

㉓維新政治と真宗

㉔維新政治と真宗

㉕維新政治と真宗

㉖近代天皇制国家と教団

㉗近代天皇制国家と教団

㉘近代天皇制国家と教団

㉙戦後における真宗の動向 - 部落問題・靖国問題

㉚まとめ

日本仏教史

■講義概要

外来思想であった仏教がどのように受容・展開し、日本社会の中に定着してきたのか。現代人の宗教観・倫理観はどのような過程をへて形成されてきたのか。

本講義では日本仏教のあり方を歴史学の方法を用いて考察し、日本における仏教受容を検証していく。

■到達目標

高等学校では政治の流れを中心に歴史を学んできた。

ここでは仏教を方法的視座にすることで、今までと異なる日本歴史像を提示できると考えている。

■講義方法

講義形式で授業を行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (10%)

レポート (10%)

定期試験 (80%)

■テキスト

特になし

■参考文献

二葉憲香・他 『歴史のなかの親鸞』 永田文昌堂 2,400円

その他、講義中に紹介する。

■講義計画

1～3回目 これから学ぶ仏教

4～6回目 仏教伝来

7～15回目 古代の仏教①

16～20回目 古代の仏教②

21～25回目 中世の仏教

26～27回目 近世の仏教

28～29回目 近代の仏教

30回目 日本仏教の課題

■講義概要

仏教の教理について、歴史的展開をふまえながら体系的に講義する。

テキストに用いて講義する。先ず仏教が「真理の宗教」とされる理由を説明し、仏教が説く縁起の思想について講義する。そして、大乘仏教が興起し、中国仏教・日本仏教へと展開する過程で仏教が宗派仏教として広まった内容を解説する。特に天台教義・浄土教義については詳しく講義したい。また、現代社会における仏教思想の持つ意義についても考察を試みたい。

■到達目標

本願寺派教師資格科目の一つとして、要求される知識を身につける。

■講義方法

基本的にテキストに用いて板書しながら講義し、視聴覚教材を随時織り交ぜて説明する。また、必要に応じてプリントを配布する。

■系統的履修

必修の「仏教の思想」A・Bを履修済みであること。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に紹介した参考文献を読む。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席状況と受講態度

定期試験 (50%)

■テキスト

芹川 博通他 『仏教思想へのいざない』 北樹出版 2,200円

■参考文献

講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養ってほしい。

■講義計画

1 回目	イントロダクション
2 回目	仏教とは何か
3～4 回目	仏教の根本原理
5～6 回目	縁起の思想 (1)
7～8 回目	縁起の思想 (2)
9 回目	大乘仏教の起こり
10～11 回目	大乘仏教の思想 (1)
12～13 回目	大乘仏教の思想 (2)
14 回目	大乘経典
15～16 回目	中国仏教の思想 (1)
17 回目	中国仏教の思想 (2)
18 回目	日本仏教の特徴 (聖徳太子)
19～21 回目	日本仏教の特徴 (奈良仏教)
22～25 回目	日本仏教の特徴 (平安仏教)
26～28 回目	日本仏教の特徴 (鎌倉仏教)
29 回目	現代社会と仏教
30 回目	まとめ

博物館学芸員課程科目

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
キ	教育学概論	村田 幸代	前期（前半）	月 5	199
シ	視聴覚教育メディア論	曾我 麻佐子	後期（前半）	火 5	199
	生涯学習概論	ヤマンラール水野 美奈子	後期（前半）	水 5	200
	生涯学習概論	八木 隆明	前期	土 4	200
ハ	博物館概論	浦西 勉	前期	土 3	201
	博物館教育論	烏賀陽 梨沙	前期	火 5	202
	博物館経営論	福山 泰子	前期（前半）	火 5	203
	博物館経営論	石川 知彦	前期	火 5	203
	博物館資料論	北村 高／福山 泰子／ 遊磨 正秀	後期	土 3	204
	博物館資料保存論	北村 高／福山 泰子／ 横田 岳人	後期	土 4	204
	博物館実習	遊磨 正秀／横田 岳人	通年	土 5	205
	博物館情報論	曾我 麻佐子	後期（後半）	火 5	205
	博物館情報・メディア論	曾我 麻佐子	後期	火 5	206
	博物館展示論	松岡 久美子	後期	金 5	206

■講義概要

「教育学概論」では、子どもを対象とした教育学の視点から学校以外の教育の場としての博物館・美術館の教育的な可能性と役割を考える。

本講義では、教育現象を説明する基本的な概念や理論を整理した上、教育の目的・内容・方法など教育の基礎的・基本的な知識を提供する。さらに、今日の教育的課題や博物館および美術館で現在取り組まれている教育プログラムを取り上げ、博物館・美術館の教育的意義を再考する。

■到達目標

1. 教育の基礎的・基本的な概念や理論を理解する。
2. 今日の教育的課題と学校以外の教育の場（博物館・美術館）の教育的可能性や役割を考える。

■講義方法

- ・多様な教育方法を体験する機会を設ける
- ・クラスでのディスカッションなどの機会を設ける
- ・実地見学の機会を設ける

■系統的履修

生涯学習概論

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示

■成績評価の方法

その他（100%）出席とレポート（提出物）などの平常点と、小テストの総合評価

出席重視（授業内の発表やワークへの参加）

■テキスト

講義時に指示

■参考文献

講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言

- ・授業の進み具合により、講義内容を変更することがある。
- ・校外授業（実地見学）あり〈重要〉
- ・各自のフィールドワークを奨励する。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②「教育の目的」の変遷と多様化
- ③学校教育と博物館教育
- ④教育の方法と技術（実践事例①）
- ⑤教育の方法と技術（実践事例②）
- ⑥教育の評価
- ⑦まとめ・小テスト

視聴覚教育メディア論（2011年度以前入学生）

■サブタイトル

PowerPointを用いたプレゼンテーション作成

■講義概要

Microsoft PowerPointを用いてプレゼンテーションするための方法を概説する。受講生は各自でプレゼンテーションの素材となる資料を収集し、講義中にプレゼンテーションを作成する。最終講義日に一人ずつ発表する。

■到達目標

PowerPointを用いて、写真、図表、アニメーション効果などを取り入れたプレゼンテーションができるようになる。

■講義方法

情報処理実習室での作業を中心とする。
素材となる資料の収集は各自で講義時間外に行う。

■系統的履修

博物館情報論（曾我・後期後半・火5）

■授業時間外における予・復習等の指示

テーマ選定後、素材となる資料の収集を各自行っておくこと。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席
その他（60%）プレゼンテーション
最終講義日に発表できなかった者は不合格とする。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

プレゼンテーションに用いる素材（写真など）は各自で取材して集めます。熱意をもって発表できるテーマを選んでください。

■講義計画

- ①オリエンテーション・テーマ設定
- ②資料収集と文書作成
- ③PowerPoint の使い方1（基礎）
- ④PowerPoint の使い方2（画像）
- ⑤PowerPoint の使い方3（アニメーション）
- ⑥プレゼンテーションのコツ
- ⑦プレゼンテーション

生涯学習概論（2011年度以前入学生）

【担当】 ヤマンラール水野 美奈子

【開講】 後期（前半） 水5

■サブタイトル

生涯学習概論

■講義概要

生涯学習とは何か、人々が生涯にわたって学習する意味などについて説明を行い、一人ひとりが自己の生涯学習への取り組みについての理解を深めるための学習を行う。また博物館や美術館と生涯学習の関わりを考察する。

■到達目標

1. 生涯学習の基礎的・基本的な概念や理論を理解する。
2. 博物館や美術館が担う生涯学習について知識を得る。

■講義方法

基本的には講義形式で行う。

■系統的履修

学芸員課程関係科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席及び小テストで計算する
定期試験（60%）講義中の配布資料、ノート等のみ持ち込み可。

■テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

授業で示す。

■講義計画

- ①生涯学習を学ぶ意義、学習方法の説明
- ②学習の概念と生涯学習
- ③生涯学習の概念
- ④生涯学習の歴史と将来の展望
- ⑤博物館と生涯学習
- ⑥美術館と生涯学習（1）
- ⑦美術館と生涯学習（2）

生涯学習概論（2012年度以降入学生）

【担当】 八木 隆明

【開講】 前期 土4

■サブタイトル

地域社会をつくる生涯学習・社会教育

■講義概要

1965年ユネスコのポール・ラングランが生涯教育の理念を提唱して以来、世界各国で生涯教育についての関心が高まり自国の教育制度改革の手法として生涯教育政策が取り組まれてきた。

わが国では、学校教育以外の教育として社会教育が長く取り組まれてきたが、生涯学習政策を進める中でこれまでの学校教育や社会教育のあり方を見直し、生涯学習社会の中での学校教育・社会教育のあり方が検討されてきた。

この授業では、これからの社会での生涯学習（生涯教育）とは何か、ユネスコの生涯教育理念とは、人々が生涯にわたって学習する意味、国や自治体が進める生涯学習振興策、民間教育事業者やNPOが進める生涯学習事業など、そしてその生涯学習を進める中核的な役割を果たす社会教育について、社会教育の意義や役割そして社会教育施設（公民館・図書館・博物館ほか）が住民の学習活動を支援するためにこれまでから取り組んできた活動とこれから果たすべき役割、社会教育指導者などについて説明を行い、わが国における生涯学習についての理解を深めるための学習を行う。

■講義方法

講義形式を主として進めるが、DVD利用や社会教育施設でボランティア活動をしている人を招き体験を聞くなども入れる。また授業に入る前に、社会教育・生涯学習に関連する直近の情報（新聞記事）を紹介して、社会教育・生涯学習活動が身近なものであることの理解を深めるようにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

日頃から社会教育や生涯学習に関する新聞記事を収集し、地域の中でどのような学習活動がされているかを把握するとともに、社会教育施設にも積極的に訪問しどのような教育活動がされているかを調査研究し、授業内容とリンクしながら学習が進められるように努めること。

■成績評価の方法

平常点（30%）受講態度を評価する。
小テスト（30%）社会教育施設・生涯学習施設訪問調査報告書や指示した資料の提出状況とその内容を評価する
レポート（40%）レポート提出を課し、その内容を評価する。

■テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

国生壽・八木隆明・吉富啓一郎編著 『新時代の社会教育と生涯学習』 学文社 2,400円
国生壽・吉富啓一郎編著 『社会教育と現代的課題の学習』 あいり出版 2,500円
上杉孝實著 『生涯学習・社会教育の歴史的展開』 松籟社 2,400円
その他、講義の進行に応じて紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

「社会教育」「生涯学習」という新しい概念を学ぶため、毎回出席をし、体系的にとらえられるように努めること。

■講義計画

- ①オリエンテーション 生涯教育・社会教育・生涯学習
- ②生涯教育論・生涯学習論の提唱と展開～ユネスコ・OECD・日本～
- ③生涯学習体系への移行（家庭教育・学校教育・社会教育の役割）
- ④国・地方公共団体が進める生涯学習（関連）振興策について
- ⑤生涯学習を進めるための法律（社会教育法・図書館法・博物館法・生涯学習振興法など）について
- ⑥生涯学習行政の中核としての社会教育行政について
- ⑦世界の生涯教育・生涯学習について
- ⑧生涯学習・社会教育の学習内容と学習方法（学習相談）について
- ⑨住民の学習を支援する生涯学習・社会教育施設 1 ～公民館～
- ⑩住民の学習を支援する生涯学習・社会教育施設 2 ～図書館～
- ⑪住民の学習を支援する生涯学習・社会教育施設 3 ～博物館～
- ⑫社会教育施設（美術館）におけるボランティア活動
- ⑬民間教育事業者が進める生涯学習事業について
- ⑭大学が取り組む生涯学習事業（大学公開講座など）について
- ⑮生涯学習社会の構築（学習支援体制の確立・学習成果の評価と活用）について まとめ

■サブタイトル

博物館の社会的役割と資料（文化財）の基礎研究

■講義概要

博物館の存立する根拠は「博物館法」によるところが多いが、このことをふまえて次のことを学ぶ。①博物館の歴史、②博物館の形態、③博物館の組織、④博物館の建物、⑤博物館の機能（研究機関、教育機関、保存機関）、⑥学芸員の仕事、⑦博物館と社会との関係などを講義して学芸員の基礎的知識の習得を目指す。また、資料（文化財）に関する基本的な様々な考え方を紹介し資料について思弁的な態度を涵養することを目指す。

■講義方法

講義

龍谷ミュージアムを活用する。

■系統的履修

文化財科学・文化財実習・文化財概論・博物館各論・の他古文文献・古典籍・古文書学・美術史・考古学・民俗学など

■授業時間外における予・復習等の指示

龍谷ミュージアムの他、各地の博物館の見学を数多くするとよい。

■成績評価の方法

平常点（30%）

小テスト（10%）博物館見学

定期試験（60%）筆記

■テキスト

コピー

■参考文献

水嶋英治訳 『博物館への招待』 白水社 951円

その都度文献は紹介する

■オフィスアワー・教員への連絡方法

火曜日 3 講時 4 講時と金曜日 4 講時

■講義計画

- ①博物館法・各地の博物館について
- ②日本の博物館の歴史
- ③世界の博物館・ユネスコ
- ④多様な博物館とその組織
- ⑤博物館学芸員の仕事内容と役割（1）
- ⑥博物館学芸員の仕事内容と役割（2）
- ⑦博物館学芸員の仕事内容と役割（3）
- ⑧展示から見た博物館と生涯学習
- ⑨博物館の講座
- ⑩博物館資料の整理・保存・修復
- ⑪国立博物館について
- ⑫地域の博物館の郷土博物館
- ⑬美術館・文学館・自然博物館
- ⑭市民・行政・大学・博物館協会
- ⑮学芸員の学ぶべきこととは

■サブタイトル

Museum Education

■講義概要

今日、社会の国際化、高度情報化、それにともなう人々の学習欲求の多様化・高度化に対応するため、博物館は従来の機能に加え、社会教育機関としてさらに積極的な役割を果たすことが期待されている。今後、教育的機能はより中核的な機能として位置付けられ、博物館教育-教育普及活動-はますます重要となっていく。学芸員は今、新たな資力と見識が必要とされている。

本講義では、博物館の「教育的使命」の重要性を認識し、博物館教育の基本的な理念と意義を概観する。次いで博物館における学習の特性、関連する諸学習理論を理解し、目的や対象にあった教育活動の具体的方法の基礎を学ぶ。また、日本や欧米の具体例を参考に、実践への応用・展開を考察する。教育普及活動を通し、博物館は社会のニーズにいかに応えることができるのか-双方向性あるコミュニケーション-のあり方を考える。

大学博物館（龍谷ミュージアム）の広義の教育的役割についても考察する。

（シラバスの内容：無断転載・転用を禁止します）

■講義方法

講義（パワーポイントなど視聴覚メディア使用）

■系統的履修

博物館概論、アート・マネジメント（国際文化学部）

■授業時間外における予・復習等の指示

- ・レジュメやテキストなどで予習・復習しておくこと
- ・個人のフィールドワークとして、博物館や美術館を訪問することを奨励する。

（例：展覧会鑑賞、講演会やワークショップなどの教育プログラムへの参加等）

■成績評価の方法

平常点（10%）出席

小テスト（10%）講義内容の理解度

レポート（20%）

定期試験（60%）筆記試験

平常点、中間レポート、小テスト、定期試験の総合評価とする。出席は重要。小テストとして授業内容に関したテストを3～4回行う。課題にそったレポートを提出（講義時に詳細指示）。総合評価であるが、定期試験は重要なポイントとなる。

■テキスト

講義時に別途指示。テキストと主にレジュメ使用。

■参考文献

大堀哲 他 『博物館展示・教育論』 樹村房

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 『新時代の博物館学』 芙蓉書房

神野善治 他 『ミュージアムと生涯学習』 武蔵野美術大学

その他、講義時に別途指示（和書・洋書ともに）

■履修上の注意・担当者からの一言

- ・講義計画の細部と進度で、受講者の理解度などにより、講義計画を変更することがある。
（受講生の人数・状況によっては、授業運営方法を変更することがある。）
- ・出席重要。新しい学問なので授業に出席し学んでいくことが大切である。
- ・講義は厳しいので、学習意欲のある熱心な授業参加を望みます。

■講義計画

イントロダクション

1. 博物館教育の意義と理念
 - ・博物館教育の目的・意義Ⅰ
 - ・博物館の存在意義（理念）と教育的使命
 - ・博物館教育の目的・意義Ⅱ
 - ・博物館教育とは：理念・定義
 - ・プログラム・活動の概観
 - ・博物館教育の目的・意義Ⅲ：博物館教育の源流
 - a.日本の博物館教育の成立と欧米との比較
 - b.大学博物館の意義
2. 博物館の教育普及活動の方針と評価
3. 博物館の利用と学び
 - ・龍谷ミュージアムと博物館教育の実際
 - ・博物館での学びの特性Ⅰ：学習理論 ～博物館全般～
 - ・博物館で学びの特性Ⅱ：学習理論 ～美術館 他～
4. 博物館教育の実際（形態と手法）
 - ・博物館教育活動の手法Ⅰ：展示（展示方法）、自己学習教材
 - ・博物館教育活動の手法Ⅱ：子ども・ファミリー
 - ・博物館教育活動の手法Ⅲ：学校連携
～博物館が学校教育と連携する意義～
 - ・博物館教育活動の手法Ⅳ：地域連携、地域共存
 - ・博物館教育活動の手法Ⅴ：その他：青少年、障害者とその家族
 - ・博物館教育活動の企画と実施の流れ：具体的手順とフォーマット
5. まとめ：博物館教育の今後の課題と展望：ミュージアム・リテラシーの育成、ネットワークの構築、大学博物館の教育的役割の可能性

博物館経営論（2011年度以前入学生）

【担当】 福山 泰子
【開講】 前期（前半） 火5

■講義概要

近年、博物館は生涯教育施設として社会における重要性を認識されるだけでなく、カフェやレストラン、ショップを備えたアミューズメントの場としても幅広い年齢層の利用者が訪れるところとなった。一方で、昨今の経済不況による国や地方自治体の財政難は、予算削減など博物館経営それ自体に大きな影響を与えている。一般に非営利組織が殆どの博物館において、経営とは何か、国や地方自治体の制度の違い、また公益法人のケースなどを概観し、ミュージアムマーケティングに基づく経営、またその経営に対する評価システムについて学ぶ。また、博物館施設の運営組織や設備管理体制を実際の事例を交えて学び、利用者をめぐる情報や教育、サービスのあり方を考える。以上のように、多角的に博物館経営の実際を取り上げ、今後の博物館経営がどうあるべきかを検討する。

■到達目標

非営利組織の博物館における経営とは何か、その方法からマーケティング、経営評価を学び、博物館の組織や広報、財政、管理運営、利用者にむけた多様なサービスに関する基本的な知識を獲得する。

■講義方法

各回、資料を配布する。また実地見学も予定している。

■授業時間外における予・復習等の指示

日頃から博物館や美術館等へ足をなるべく運び、興味や問題意識をもつようにしてください。

■成績評価の方法

平常点（60%）

レポート（40%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

実習の都合などで講義内容を変更する事がある。
参考文献は各回に応じて提示する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

初回、授業時に指示する。

■講義計画

- ①博物館経営とは何か？—社会における博物館の位置—
- ②ミュージアム・マーケティングと経営
- ③博物館の行財政制度
- ④博物館の運営組織と設備管理体制
- ⑤利用者をめぐる博物館の取り組み
- ⑥地域における博物館の意義
- ⑦博物館経営の実際とこれから

博物館経営論（2012年度以降入学生）

【担当】 石川 知彦
【開講】 前期 火5

■サブタイトル

博物館施設の理念と管理・運営

■講義概要

博物館施設が一般市民にとって身近な存在となっている現在、それぞれの施設が存立するための理念はどのようにして定められているのか、そしてその理念に基づいて、具体的にどのように管理・運営されているのかを学ぶ。そのために、博物館施設の経営のあり方、運営組織、管理体制、運営予算を学び、その上で実際に龍谷ミュージアムではどのように管理・運営がなされているかを知る。限られた予算の中で、学芸員は日々の業務をこなし、展覧会計画を立て、予算執行を行っているのかを知り、また入館者へのサービス、展覧会の増収に向けてどのように努力すべきかを考えてもらう。また一方で、博物館施設と地域の連携、大学間の横の繋がり、施設間のネットワークの構築についても学ぶ。

■講義方法

パワースポットを併用しながらの講義。また現地見学を織り込む。

■授業時間外における予・復習等の指示

龍谷ミュージアムはもとより、多くの博物館施設を見学すること。

■成績評価の方法

平常点（40%）

レポート（20%）

定期試験（40%）

最終の講義の時間に試験を行う。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

実習や現地見学の都合などで、講義内容を変更することがある。

■講義計画

- ①博物館経営とは何か？
- ②博物館施設の理念と存立意義
- ③博物館の運営組織
- ④博物館施設の設備と管理体制
- ⑤現地見学
- ⑥博物館施設の運営予算
- ⑦博物館施設の展覧会予算
- ⑧特別展の企画・立案
- ⑨観覧者へのサービスと増収努力
- ⑩現地見学
- ⑪博物館施設とメディア
- ⑫博物館施設と地域社会
- ⑬博物館施設のネットワーク
- ⑭博物館施設と友の会、ボランティア、学会
- ⑮試験

■サブタイトル

博物館で取り扱う資料について

■講義概要

3名の講師によるチェーンレクチャーであるので、人文系資料や自然系資料に関して何があるのかを講義する。さらに、龍谷ミュージアムでの講義も実施する。

■講義方法

3名の講師が、5時間づつ担当して、講義する。

■系統的履修

博物館学概論などに関連する講義である。学芸員課程では必修となる。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習が必要である。

■成績評価の方法

その他（100％）3名の講師の協議により決定する。

■テキスト

プリント配布などで実施する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

博物館学芸員課程の必修講義であるので、欠席は許されない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義終了時に受け付ける。

■講義計画

- ①博物館で扱う資料とは
- ②軸物、巻物、
- ③書物（写本）
- ④印刷
- ⑤理工系一次資料
- ⑥理工系二次資料
- ⑦生きた資料
- ⑧理工系資料の収集と法規制
- ⑨日本画と西洋画
- ⑩額と軸
- ⑪日本および欧米における文化財資料の収集
- ⑫文化財資料の材質・技法および員数
- ⑬資料展示における光と照明
- ⑭文化財資料にみられる生物被害－保存修復－
- ⑮災害と対策
- ⑯博物館資料の展示の実例

博物館資料保存論（2012年度以降入学生）

■サブタイトル

博物館資料の保存にむけた取り組み

■講義概要

博物館資料保存論では、わが国における文化財資料の保存に関する歴史をはじめとして、状態調査や修理修復、梱包や輸送といった資料の保全、次に資料の保存環境に関連する事象－劣化要因となる温湿度、光、振動、衝撃などによる物理的な要因、大気汚染や室内汚染などの空気汚染がもたらす化学的な要因、さらにカビや害虫による生物的要因に対する対策－、地震や火災、津波などを被った被災文化財に対する活動、エコミュージアムなどの環境保護につながる博物館の取り組みをそれぞれ取り上げながら、博物館における資料保存の意義を学ぶ。

■講義方法

文学部、理工学部、国際文化学部属する教員3人によるチェーンレクチャーで、基本的に講義形式で実施（各回、資料配布）。

■系統的履修

博物館学概論などに関連する講義である。学芸員課程では必修となる。

■授業時間外における予・復習等の指示

日頃から博物館・美術館を訪れ、作品展示や室内環境に興味をもち、見学することを心がけましょう。

■成績評価の方法

その他（100％）3名の講師の協議により決定する。

■テキスト

特になし

■参考文献

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 『文化財の保存環境』 中央公論美術出版 1,900円
石崎 武志 『博物館資料保存論』 講談社 2,200円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

別途、授業内に指示する。

■講義計画

- ①博物館資料保存論イントロダクション
- ②文化財保護の歴史－何が残り何が失われたか－
- ③文化財の失われる要因
- ④文化財レスキュー－
- ⑤文化財の現状－龍谷大学では－
- ⑥博物館資料の収蔵と保管－ゾーニングと環境－
- ⑦博物館資料の調査分析－保存科学の視点から－
- ⑧博物館資料の修復保存1 紙媒体
- ⑨博物館資料の修復保存2 仏像彫刻
- ⑩博物館資料の修復保存3 工芸
- ⑪IPM（総合的有害生物管理）
- ⑫生物系資料の修復保存－被災生物標本の救出－
- ⑬動植物水族園での生体保存および栽培飼育
- ⑭エコミュージアムに関わる生態系－景観の保全－
- ⑮龍谷ミュージアムにおける実例

博物館実習

【担当】遊磨 正秀、横田 岳人

【開講】通年 土5

■講義概要

博物館活動は、博物館資料とともに、それを整理および取り扱う技術や展示技術などの多様な活用技術があって、初めて確立される。その目的は博物館だけではなく、博物館を活用する利用者の立場のものでなくてはならない。そのためには、博物館の中心である学芸員には、保存技術や学習プログラム、そして情報処理などの現代博物館の課題である先進的な技術の習得が求められている。このような多種多様な博物館業務や博物館運営について学習し、博物館学芸員として視野を広げるとともに、必要な知識を学ぶ。なお、夏期休暇中などに、学外の博物館等において実地研修を受けることが必要。

■到達目標

博物館活動の事例や課題にふれながら、実際に資料の取扱いや資料カード作り、そして展示技術などを習得する。これにより、必要な理念や基礎的な技術の習得を図ることで、社会に対応できる学芸員の養成に資することを目標とする。

■講義方法

予備登録が必要（受講申込と選考を行うので別途掲示の指示に従うこと）。履修登録資格（履修要項参照）がある。

夏期休暇中などに、実地研修（学外博物館など）が必須。

実習だけでなく、博物館施設などでの学外見学もできるかぎり行う。

※実習費1万円と学外見学の交通費・宿泊費は基本的に自己負担。

■授業時間外における予・復習等の指示

博物館の手法を応用した、あるいはそれに応用できることがらに広く眼を向ける努力を重ねること

■成績評価の方法

平常点（80%）

レポート（20%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②博物館の機能
- ③博物館の実務
- ④自然史資料の展示と活用（植物）
- ⑤自然史資料の展示と活用（動物）
- ⑥自然史資料の展示と活用（化石）
- ⑦自然史資料の取り扱い（分類）
- ⑧自然史資料の取り扱い（同定）
- ⑨自然史資料の取り扱い（乾燥標本）
- ⑩自然史資料の取り扱い（液浸標本）
- ⑪収蔵方法の見学実習
- ⑫展示方法の見学実習
- ⑬実地研修事前指導
- ⑭後期報告会ガイダンス
- ⑮実習中間報告会
- ⑯展示企画
- ⑰展示デザイン
- ⑱展示計画の策定：大項目
- ⑲展示計画の策定：展示細目
- ⑳展示計画の策定：展示導線
- ㉑模型製作の実務見学
- ㉒ジオラマ製作の実務見学
- ㉓博物館のワークショップ・観察会：事例紹介
- ㉔博物館のワークショップ・観察会：企画
- ㉕博物館のワークショップ・観察会：広報
- ㉖博物館のワークショップ・観察会：資料
- ㉗報告書の企画立案
- ㉘報告書の編集
- ㉙報告書の作成
- ㉚実習最終報告会

博物館情報論（2011年度以前入学生）

【担当】曾我 麻佐子

【開講】後期（後半）火5

■サブタイトル

博物館とWebサイト（ホームページ）

■講義概要

インターネットが日常的な情報源の中心を占めるようになり、博物館にとってWebサイト（ホームページ）による情報発信が重要となっている。本科目では、博物館のWebサイトの現状をふまえ、Webサイト作成の基礎を概説する。受講生は各自で簡単なWebサイトを作成し、最終講義日に発表する。

■到達目標

Webサイトの構造を理解し、簡単なWebサイトを自作できるようになる。

■講義方法

情報処理実習室での作業を中心とする。

素材となる資料の収集は各自で講義時間外に行う。

■系統的履修

視聴覚教育メディア論（曾我・後期前半・火5）

■授業時間外における予・復習等の指示

ダウンロード可能な資料を用意するので、授業時間内での理解が難しい人は予習してくること。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席

その他（60%）発表

最終講義日に発表できなかった者は不合格とする。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Webサイト作成に用いる素材（写真など）は各自で取材して集めます。熱意をもって発表できるテーマを選んでください。

■講義計画

- ①オリエンテーション・博物館のWebサイト・テーマ設定
- ②Webサイトの構造
- ③Webサイト作成1（リンク）
- ④Webサイト作成2（画像）
- ⑤Webサイト作成3（スタイルシート）
- ⑥Webサイト作成4（アップロード）
- ⑦自作Webサイトの発表

博物館情報・メディア論（2012年度以降入学生）

【担当】 曾我 麻佐子

【開講】 後期 火5

■サブタイトル

博物館における情報の発信と活用

■講義概要

博物館における情報・メディアの意義、情報・メディアの理論、知的財産などについて説明を行い、博物館における情報の発信と活用の方法について理解を深めるための学習を行う。

■講義方法

博物館に関するテーマについて、各自素材収集および資料作成を行い、情報・メディアを活用したプレゼンテーションを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

テーマ選定後、素材となる資料の収集を各自行っておくこと。

■成績評価の方法

平常点（40%）受講態度

その他（60%）プレゼンテーション

最終講義日までに発表できなかった者は不合格とする。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

プレゼンテーションに用いる素材（写真など）は各自で取材して集めます。熱意をもって発表できるテーマを選んでください。

■講義計画

- ①博物館における情報・メディアの意義①
－情報の意義（視聴覚メディアの理論と歴史）－
- ②博物館における情報・メディアの意義②
－メディアとしての博物館（視聴覚メディアの発展と博物館）－
- ③博物館における情報・メディアの意義③
－ICT社会の中の博物館（情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化等）、情報教育の意義と重要性－
- ④博物館情報・メディアの理論①
－博物館活動の情報化（沿革、調査研究活動、展示・教育活動等）－
- ⑤博物館情報・メディアの理論②
－資料のドキュメンテーションとデータベース化－
- ⑥博物館情報・メディアの理論③
－デジタルアーカイブの現状と課題－
- ⑦博物館情報・メディアの理論④
－映像理論、博物館メディアの役割と学習活用－
- ⑧博物館における情報発信①
－情報管理と情報公開－テーマ設定
- ⑨博物館における情報発信②
－情報機器の活用（情報端末、新たなメディア経験等）－
- ⑩博物館における情報発信③－インターネットの活用－
- ⑪博物館と知的財産①－知的財産権（著作権等）－
- ⑫博物館と知的財産②－個人情報（肖像権等）－
- ⑬博物館と知的財産③－権利処理の方法－
- ⑭プレゼンテーション
- ⑮まとめ

博物館展示論（2012年度以降入学生）

【担当】 松岡 久美子

【開講】 後期 金5

■サブタイトル

博物館における展示の役割と意義

■講義概要

- 1) 博物館活動全体の中での展示の役割や意義、展示の歴史など、博物館展示に関わる基礎知識を得る。
- 2) 展示を構成する諸要素のうち、展示室や展示ケース、展示資材といったハード面について学ぶ。
- 3) 実際に展示を企画立案し催行するまでの業務の流れを知る。
- 4) 展覧会を契機とする活動の広がりを紹介し、博物館展示の可能性について考える。

■講義方法

パワーポイントを利用した講義。また必要に応じて現地見学を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

龍谷ミュージアムをはじめ、多くの博物館施設を見学すること。

■成績評価の方法

平常点（30%）

レポート（40%）

定期試験（30%）

試験は、講義最終回に実施。

■テキスト

龍谷ミュージアムをはじめとする各種博物館施設の展示図録に目を通しておくこと。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

現地見学等の都合により、講義内容や順序を変更する場合があります。

■講義計画

- ①展示とは何か
- ②展示の歴史
- ③館の使命と展示
- ④収集・調査研究と展示
- ⑤保存と展示
- ⑥展示空間の設計と展示資材 1
- ⑦展示空間の設計と展示資材 2
- ⑧展示空間の設計と展示資材 3
- ⑨展覧会ができるまで 1
- ⑩展覧会ができるまで 2
- ⑪展覧会ができるまで 3
- ⑫現地見学
- ⑬展覧会その後
- ⑭展示を核とする活動のひろがり
- ⑮試験